



USER'S MANUAL

eXgateシリーズ マルチユース ワイヤレス VPNルータ

BRC-W14V

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

USER'S MANUAL

eXgateシリーズ マルチユース ワイヤレス VPNルータ

BRC-W14V

使用前に必ずお読みください

■本書の目的

本製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本書は、本製品を正しくお使いいただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、大切に保管していただきますようお願いいたします。

■ご注意

- ・ 本製品の故障・誤作動・不具合・通信不良、停電・落雷などの外的要因、第三者による妨害行為などの要因によって、通信機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- ・ 通信内容や保持情報の漏洩、改竄、破壊などによる経済的・精神的損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- ・ 本製品は、一般家庭や小規模事業所におけるブロードバンド環境下での利用を前提としています。物理的・論理的に規模の大きなネットワークや、一般的ではない環境または目的で本製品を使用した場合、正常に動作しない可能性があります。
- ・ 本製品パッケージ等に記載されている性能値（スループット）は、当社試験環境下での参考測定値であり、お客様環境下での性能を保証するものではありません。また、バージョンアップ等により予告無く性能が上下することがあります。
- ・ ハードウェア、ソフトウェア、外観に関しては、将来予告なく変更されることがあります。
- ・ 本製品内部のソフトウェア（ファームウェア）更新ファイル公開を通じた修正や機能追加は、お客様サービスの一環として随時提供しているものです。内容や提供時期に関する保証は一切ありません。
- ・ 一般的に、インターネットなどの公衆網の利用に際しては、通信事業者との契約が必要になります。
- ・ 通信事業者によっては公衆網に接続可能な端末台数を制限、あるいは台数に応じた料金を設定している場合があります。通信事業者との契約内容をご確認ください。
- ・ 輸送費、設定、調整、設置工事などは、お客様負担となります。
- ・ 本製品は日本国内仕様であるため、別途定める保証規定は日本国内でのみ有効です。

■著作権等

- ・ 本書に関する著作権は、プラネックスコミュニケーションズ株式会社へ独占的に帰属します。プラネックスコミュニケーションズ株式会社が事前に承諾している場合を除き、形態及び手段を問わず、本書の記載内容の一部、または全部を転載または複製することを禁じます。
- ・ 本書の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、本書の記述に誤りや欠落があった場合もプラネックスコミュニケーションズ株式会社はいかなる責任も負わないものとします。
- ・ 本書の記述に関する、不明な点や誤りなどお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
- ・ 本書および記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

●マニュアル内の表記について

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。本マニュアルにおける記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

●記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

User's Manual Version 1.0 No.PMN-03-11-YT-BRC-W14V

本製品を安全にご利用いただくために

本製品のご利用に際して、以下の警告および注意をご覧ください必ず守りください。これらの事項が守られないとき、「感電」「火災」「故障」などが発生する場合があります。

これによって本製品を利用される方が負傷されたり死亡につながる恐れがあります。また、万一「発火」「発煙」「溶解」などが発生した場合には速やかに本製品の利用を中止し、弊社サポートセンターへ連絡するようお願いいたします。

警告

■ 無線機器に関して

・心臓ペースメーカーや補聴器などの医療機器を使用されている近くで本製品をご利用にならないでください。

列車内など、人と人が近接する可能性のある場所では、本製品をコンピュータから取り外すか、無線LAN機能を無効にしてください。

これは心臓ペースメーカーや補聴器などの医療機器を使用されている方と近接することで、万一にでもそれらの機器に影響を与えることを防ぐためです。

・医療機関内でのご利用は各医療機関の案内および指示にしたがってください。

医療機関内では、本製品をコンピュータから取り外すか、無線LAN機能を無効にしてください。これは万一にでも各種医療機器へ影響を与えて事故の原因となる恐れを防ぐためです。本製品の電波出力は規定に沿ったもので、各医療機器への影響は少ないですが、前述の心臓ペースメーカーなどへの影響の可能性もあるため、ご利用に関しては各医療機関の案内および指示にしたがってください。詳しくは各医療機関へお問い合わせください。

・交通機関内でのご利用は各交通機関の案内および指示にしたがってください。

交通機関内では、本製品をコンピュータから取り外すか、無線LAN機能を無効にしてください。これは各種交通機関の制御装置や機器などに影響を与える恐れを防ぐためです。特に各航空会社については、航空機の飛行状況などによって、機内での電子機器や無線機器の利用を禁止しています。航空機の装置などへ影響を与えて事故の原因となる恐れがあるため、本製品は機内でのご利用にならないでください。詳しくは各交通機関へお問い合わせください。

・電子レンジの近くで本製品をご利用にならないでください。

電子レンジを使用するとき、電磁波の影響によって無線通信が妨害される恐れがあります。このため電子レンジの近くで本製品をご利用にならないでください。これは電磁妨害によって本製品の通信が途絶えたり速度が遅くなったりなどの動作が不安定になるのを防ぐためです。

■ 設置及び保管に関して

- ・動作環境範囲外で本製品をご利用にならないください。
範囲外の温度や湿度の環境でご利用になることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・直射日光の当たる場所や暖房器具の近くで本製品をご利用にならないください。
本製品が加熱することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・温度変化の激しい場所でご利用にならないください。
動作範囲内の温度であっても温度変化が激しい場所でご利用することで、結露などが原因で感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・本製品の近くに液体が入った容器を置かないください。
本製品に液体がこぼれることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・コンピュータの取り付け口に異物などが混入しているときは取り除いてください。
コンピュータの取り付け口に異物が混入した状態で本製品を取り付けることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・本製品を分解、改造しないでください。
本製品を分解または改造することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。また改造は法律で禁止されています。

■ 電波に関して

- ・本製品の無線LANの周波数帯は、医療機器、電子レンジなどの産業・科学機器や工場の生産ラインなどで使用される移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局と重複しているため、電波の干渉による無線通信の障害が発生する恐れがあります。本製品のご利用の前に、干渉範囲内に移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・万一、本製品使用中に移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局に対して電波の干渉が発生したときは、速やかに周波数を変更するか使用を中止してください。
- ・その他、本製品から移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局に対して電波干渉など何かお困りのことが発生したときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

2.4 DSOF 4

■ 取り扱いに関して

- ・高温に注意してください。
本製品の使用中は高温になっている恐れがあります。不用意に触ると火傷の恐れがあります。
- ・湿気やほこりの多いところに保管しないでください。
湿気やほこりの多いところに保管することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・本製品を重ねて設置しないでください。
本製品を重ねて設置することで製品が加熱し、感電、火災などの発生、または本製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用にならないでください。
振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用になることで、本製品の落下、誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・静電気に注意してください。
本製品は精密機器です。静電気の影響によって、製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。本製品を取り付ける際は、コネクタや取り付け部分を触れないなどの注意をしてください。
- ・落下や衝撃に注意してください。
本製品に落下や衝撃を与えることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

■ その他

- ・本製品は日本国内でご利用ください。
本製品は日本の国内法のもとで利用可能な製品です。海外での利用はできません。また、本製品ご利用の際は各地域の法令や政令などによって利用の禁止や制限がなされていないかご確認してください。
- ・ご利用のコンピュータのデータのバックアップを取得してください。
本製品のご利用にかかわらず、コンピュータのデータのバックアップを定期的に取り付けてください。万一不測の事態が発生し不用意なデータの消失や復旧が不可能な状態に陥ったとき回避策になります。なお、本製品のご利用に際しデータ消失などの障害が発生しても、弊社では保証いたしかねることをあらかじめご了承ください。

-
- ※ Microsoft®、Windows は、米国Microsoft® Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - ※ Windows® の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating Systemです。
 - ※ Windows® XPは、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system およびMicrosoft® Windows® XP Professional operating system の略です。
 - ※ Windows® Meは、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。
 - ※ Windows® Meは、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system の略です。
 - ※ Windows® 98は、Microsoft® Windows® 98 operating system の略です。
 - ※ Netscape®、Netscape Navigator® およびNetscape® Communicator は、米国Netscape® Communications Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - ※ Macintosh®、Mac®、Mac OS® は、米国Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
また、Mac OS® 9.0、9.1、9.2をMac OS® 9.xと、Mac OS® 8.5、8.6をMac OS® 8.xと、表記しています。
 - ※ Adobe® Acrobat® Reader™ は、Adobe® Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - ※ JavaScript® は、米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
 - ※ Yahoo!®、Yahoo!® BBは米国Yahoo!® Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - ※ その他、本文中での記載の会社名および商品名およびロゴは各社の商標または登録商標です。
 - ※ 付属品のCD-ROM は日本語版OS 以外の動作保証はしていません。
 - ※ 付属品のCD-ROM はソフトウェアのバックアップとして保有する場合に限り、複製することができます。また、ソフトウェアについてのいかなる変更も禁止とし、それに起因する障害について当社は一切の責任を負いません。

目次

本製品を安全にご利用いただくために	3
-------------------	---

第1章 はじめに

1. 概要	9
2. 特長	10
3. 梱包内容の確認	14
4. 各部の名称	15
5. 対応機器	18
6. 設定の初期化	19

第2章 ハードウェアの接続

1. 設置場所について	21
2. 設置する	22
3. ADSLモデム/Bフレッツ用回線終端装置/ケーブルモデムとの接続	24
4. パソコンとの接続	26
5. 電源の接続	27

第3章 パソコンの設定

1. パソコンのネットワーク設定を行う	30
Windows® XP の場合	30
Windows® 2000の場合	32
Windows® Me/98SE/98の場合	34
Mac OS® Xの場合	37
Mac OS® 9.x/8.xの場合	38
2. 本製品とパソコンとの接続を確認する	39
Windows® XP の場合	39
Windows® 2000の場合	41
Windows® Me/98SE/98の場合	42
Mac OS® Xの場合	44
Mac OS® 9.x/8.xの場合	45

第4章 インターネットへの接続

1. インターネット接続方法の確認	47
2. PPPoE接続で設定する場合	51
3. PPPoE接続でIPアドレスを固定で設定する場合	57
4. PPPoE接続の削除	60
5. PPPoE以外の自動取得で設定する場合	62
6. PPPoE以外でIPアドレスを固定で設定する場合	67
7. PPPoE接続でマルチセッション接続を設定する場合	69
8. Unnumbered接続を設定する場合	77
9. PPPoE接続でUnnumbered接続を設定する場合	79
10. PPPoE以外の接続でUnnumbered接続を設定する場合	82
11. パソコンのIPアドレス設定	84

付録A ネットワークQ&A

1. ブロードバンドルータの色々な「？」について	87
2. 設定画面	90
3. インターネットにアクセスできない	96
4. その他 よくあるお問い合わせについて	104

付録B 設置環境への注意

付録C 仕様

ユーザー登録について

弊社へのお問い合わせ

質問表

保証規定

保証書

はじめに

1 概要

本製品はADSL、FTTHおよびCATV(ケーブルTV)接続を使った高速インターネット接続に対応し、ハードウェアVPN機能を搭載したマルチユースVPNルータです。CPUにはインテル®社製高性能ネットワークプロセッサIXP422-266MHzを採用し、従来のルータに比べ格段に速い処理能力を有しています。

また、IEEE802.11g準拠の無線LAN機能を有しており、既存の有線ネットワークを利用した無線LANをシームレスに構築することが可能です。

堅牢なセキュリティを保つ為のVPNゲートウェイ、USBストレージを接続しNAS(Network Attached Storage)を構築、専用USBカメラを利用した簡単リアルタイム映像配信等の多彩なネットワーク構築が可能です。

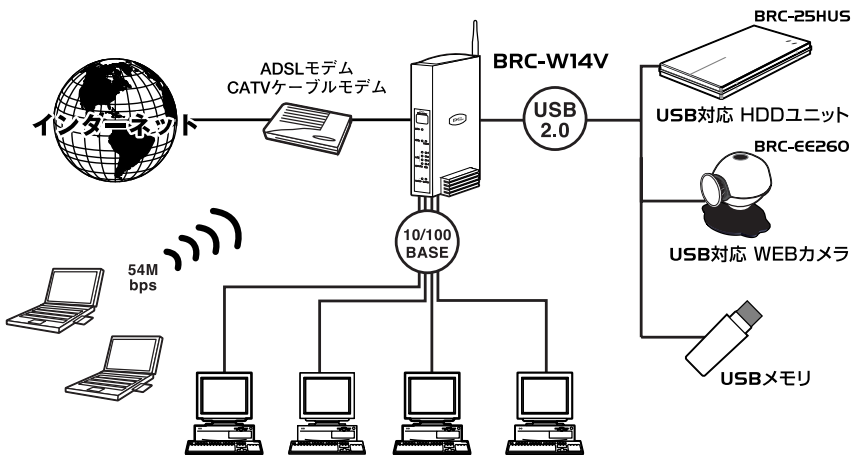


図1-1 接続図



注意

プロバイダによっては本製品のようなルータの使用や複数のコンピュータからのアクセスを制限している場合もあります。プロバイダとの契約内容についてご確認ください。

2 特長

●IXP422-266MHz搭載

インテル®社製高性能ネットワークプロセッサIXP422-266MHzによる高速ルーティング。

●ハードウェアVPN機能

IPSec、PPTPサーバ機能、PPTPクライアント機能に対応し、IPSec（3DES）使用時には約42Mbpsの高速VPNを実現します。

●USBポート内蔵

専用USBカメラやUSBストレージに対応し、多彩な拡張性を誇ります。

●PPPoEクライアント機能

Bフレッツ、フレッツADSLに対応し、インターネット接続時にフレッツ接続ツール等を使用せずに簡単にインターネットに接続できます。

●PPPoEマルチセッション機能

複数のプロバイダを接続先として登録し、同時に接続することができます。また、複数の接続先を登録した場合、デフォルトゲートウェイの変更や接続先の優先順位を変更することができます。本製品の最大セッション数は4になります。

●Unnumbered（複数グローバルIPアドレス）機能

ISP事業者提供の複数グローバルIPアドレスサービスに対応し、本製品のLAN側にグローバルアドレスのホストとプライベートアドレスのホストを共存させることができます。

また、特別な設定無しでプライベートアドレスのホストからグローバルアドレスのホストへ通信を行うことができます。

●PPPoE以外の接続

本製品はPPPoE以外のサービスに対応しています。PPPoE以外の自動取得、固定IPアドレス、Unnumberedを設定することができます。

●LAN側IPアドレス設定

本製品のLAN側IPアドレスは192.168.1.1になります。お使いのLAN環境に合わせてLAN側のIPアドレスを変更することができます。

●NAPT機能

複数のプライベートアドレスを1つのグローバルアドレスに変換します。この機能によりLAN側に複数のパソコンがある場合でも、簡単にインターネットに接続できます。

また、NAPT機能を無効にすることで、ローカルルータとして動作させることもできます。

●DHCPサーバ機能

LAN側のパソコンやネットワーク機器に動的にIPアドレスを割り当てることができます。

また、割り当てるIPアドレスの範囲、割り当て時間を自由に設定でき、特定の機器にだけ常に同じIPアドレスが割り当てられるよう設定することもできます。

●簡易DNSサーバ機能

LAN側のパソコンやネットワーク機器のホスト名とIPアドレスを管理します。

●ルーティング機能

本製品と他のネットワーク機器のルーティング情報を静的に設定できるほか、RIPv1/RIPv2に対応したダイナミックルーティングを使用し、動的に経路情報を設定することができます。

●UPnP

Universal Plug and Play Internet Gateway Device v1.0に準拠し、Windows® Messenger Ver5.0やMSN® Messenger Ver4.8などのUPnPアプリケーションを簡単に利用することができます。

●SPI（ステートフル・パケット・インスペクション）機能

LAN側から送信したデータのセッションログを保存し、WAN側から送信されたデータと照らし合わせ矛盾がある場合はそのパケットを遮断し、不正なパケットや攻撃を防ぎます。

●セキュリティレベル機能

本製品は、簡単にセキュリティ機能を設定するための3段階のレベルを用意しています。必要に応じて設定をカスタマイズでき、LANからインターネット、インターネットからLANへのセキュリティを柔軟に設定することができます。

●パケットフィルタリング機能

本製品のパケットフィルタリング機能は、本製品が受信したパケット、送信したパケットに対して、予め設定してあるルールに従って、パケットの通過、遮断を行います。

フィルタリングルールは各インターフェイスごとにIPアドレス、ポート番号、プロトコルが可能で、作成したフィルタリングルールはユーザ定義サービスとして保存が可能です。

●リモートアクセス機能

本製品はセキュリティを保つために、WAN側からの設定画面のアクセスは制限されています。遠隔地から本製品の設定を変更する場合は、リモートアクセス機能を利用することで、WAN側から設定画面にアクセスができ、本製品の保守、管理を行うことができます。

また、オプション機能使用時に必要になるポートの開放を、リモートアクセス機能の設定欄から簡単に行うことができます。

●URLフィルタ

LAN側のパソコンから観覧を禁止したいWEBサイトを登録することで、特定のWEBサイトへのアクセスを制限することができます。

●セキュリティログ機能

本製品は、LAN側からインターネット、インターネットからLAN側、設定画面へのアクセスのログを、許可した接続、拒否した接続ごとに保存することができます。

保存したログ内容は、セキュリティ設定画面から簡単に確認することができます。

●E-Mail通知機能

本製品に通知先のE-Mailを登録することで、セキュリティやシステムにイベントが発生した時に自動的に通知することができます。

●Syslog機能

本製品はセキュリティ情報、システム情報を予め設定してあるSyslogサーバにログ情報を送信することができます。

●ローカルサーバ機能

WAN側からアクセスがあった時に、予め設定してあるLAN側の特定のパソコンへパケットを転送することで、LAN側に設定してあるサーバやサービスをWAN

側に公開することができます。

●バーチャルコンピュータ

バーチャルコンピュータ機能を使用すると、LAN側にある1台のパソコンをWAN側に公開することができます。ローカルサーバ機能で、設定するためのポート情報が分からない場合、1台のパソコンに全てのサービスを設定しWAN側に公開したい場合などに利用できます。

●ダイナミックDNS機能

本製品は「www.dyndns.org」「www.dp-21.net」のダイナミックDNSサービスに対応しています。ダイナミックDNSの設定を行うことで、WAN側のIPアドレスをダイナミックDNSサーバに一定間隔で通知します。これにより、回線切断や再接続でWAN側のIPアドレスが変わってしまった場合でも、固定のホスト名が利用できます。

●オプション機能

本製品の別売りUSBカメラを利用した映像配信や、USBストレージを利用したNAS機能を利用することができます。

●無線LAN機能

IEEE802.11g準拠の無線LAN機能を利用できます。

セキュリティは64/128bit WEP、MACアドレスフィルタリング機能を有し、SSIDを隠す機能により、第三者からの無断アクセスを防ぎます。

3 梱包内容の確認

パッケージに以下の付属品が含まれていることを確認してください。

- BRC-W14V本体
- 専用ACアダプタ
- 縦置き用スタンド
- UTPストレートLANケーブル（1m）
- ショートコード
- ユーザーズマニュアル（本書・保証書付き）
- 詳細マニュアル（CD-ROM）

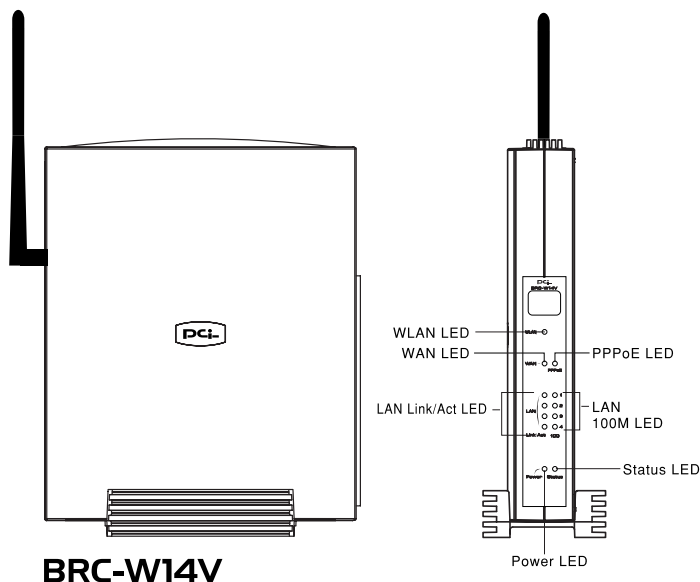
付属品が足りないときは、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

4 各部の名称

1

はじめに

■本体前面



BRC-W14V

図1-2 BRC-W14V本体前面

【LED表示】

Power LED	黄 緑	点滅 点灯	起動準備中です。 正常に起動してる状態です。
Status LED	緑	点灯 消灯	電源が投入されています。 電源が切れています。
LAN 100 LED	緑	点灯 消灯	LANポートが100Mで確立しています。 LANポートが10Mで確立しています。
Link/Act LED	緑	点灯 点滅	LANポートでの接続が確立されています。 LANポートでデータを送受信しています。
WAN LED	緑	消灯 点灯 点滅	LANポートでの接続が確立されていません。 WANポートでの接続が確立されています。 WANポートでデータを送受信しています。
PPPoE LED	緑	消灯 点灯 消灯	WANポートでの接続が確立されていません。 WANポートでPPPoE接続が確立されていま WANポートでPPPoE接続が確立されていません。
WLAN	緑	消灯 点滅	無線LAN機能が無効です。 無線LAN機能が有効です。

■ 本体背面

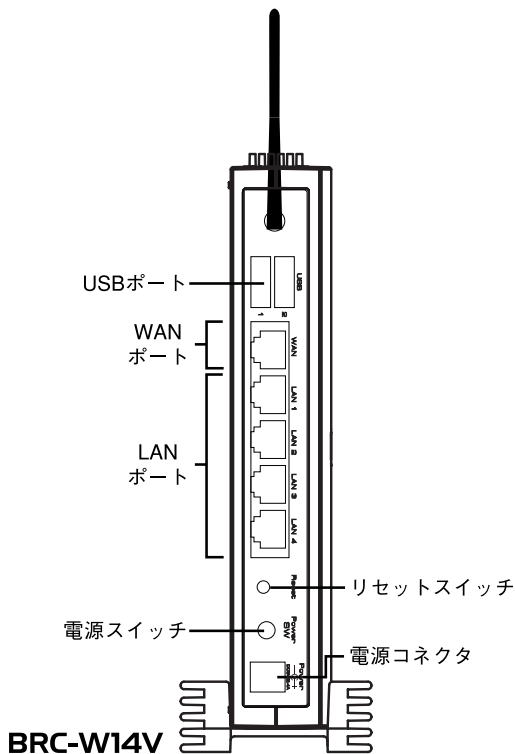


図1-3 BRC-W14V本体背面

■ 本体裏面

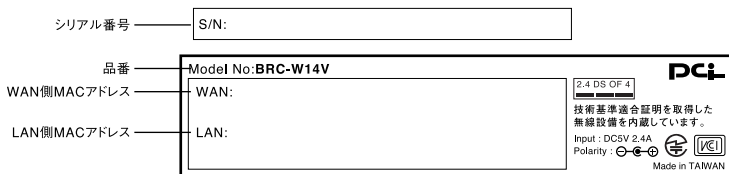


図1-4 BRC-W14V本体裏面

品番	Model No	本製品の型番です。
シリアル番号	S/N	本製品のシリアル番号です。
LAN側MACアドレス	LAN	本製品のLAN側のMACアドレスです。
WAN側MACアドレス	WAN	本製品のWAN側のMACアドレスです。

■対応パソコン

- Windows® 98/98SE/Me/2000/XPを搭載し、Ethernet（RJ-45）ポートを装備したパソコン
- MacOS® 8.x/9.x/Xを搭載し、Ethernet（RJ-45）ポートを装備したパソコン

■ネットワーク機器

本製品では以下のネットワーク機器が必要になります。

- ツイストペアケーブル（本製品に接続するコンピュータの台数分）

■WEB設定画面について

本製品はWEBブラウザで設定を行います。

パソコンに以下のWEBブラウザがインストールされている必要があります。

また、WEBブラウザでJavaScript®が使用できるかどうか、設定を確認してください。

- Windows®の場合は、Microsoft® Internet Explorer5.0以上またはNetScape Navigator® 6.0以上
- MacOS®の場合は、Microsoft® Internet Explorer5.0以上またはNetScape Navigator® 6.0以上

6 設定の初期化

IPアドレスやパスワードを忘れてしまった時や、間違った設定をしてしまい設定画面にアクセスできなくなったときは、本製品の設定を初期化することで購入時の状態に戻すことができます。



注意

- 設定の初期化を行うと、それまで設定されていた値は全て消去され購入時の状態に戻りますのでご注意ください。
- 初期化を実行する前に予め本製品に接続しているケーブルをポートから外しておくことを推奨します。
- 初期化が完了するまで、本製品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。

■本製品の初期化手順

1. 本製品の電源アダプタを抜きます。
2. 本製品のリセットスイッチを押しながら、電源アダプタを差し込みます。
3. StatusLEDが点滅し終わるまでリセットスイッチを押し続けてください。
4. StatusLEDが点滅し終わったら初期化は完了です。

ハードウェアの接続

本

章では、本製品とADSL/ケーブルモデム等、パソコンとの接続手順について説明します

1 設置場所について

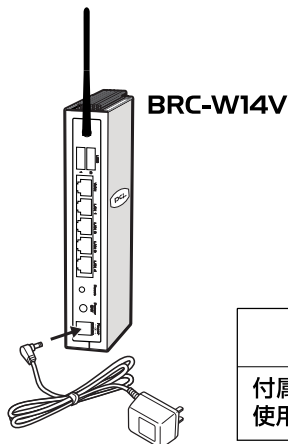
本製品を設置する際には必ず以下の点をお守りください。

- 湿気の多い場所には設置しないでください。
- チリやほこりの多い場所には設置しないでください。
- 直射日光の当たる場所や温度の高い場所には設置しないでください
- 内部に熱がこもる原因となりますので、周囲にはなるべく空間を空けてください

2 設置する

■電源アダプタのコネクタを差し込む

本製品の電源アダプタ接続端子に電源アダプタのコンセントを差し込んでください。
電源アダプタは、まだ電源コンセントに差し込まないでください。

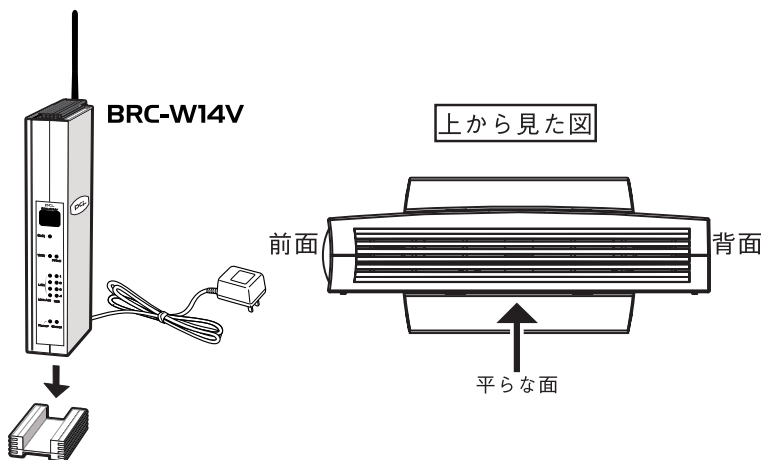


⚠ 注意

付属の電源アダプタ以外は
使用しないでください。

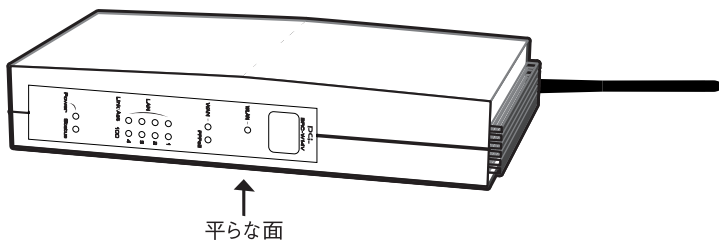
■縦置きする

本製品は、デスクトップ上などの平らな場所に設置して使用してください。
本体を付属の縦置き用スタンドに図のようにセットしてください。



■横置きする

図のように本体の平らな面が下になるように設置してください。



3

ADSLモデム/Bフレッツ用回線終端装置/
ケーブルモデムとの接続

2

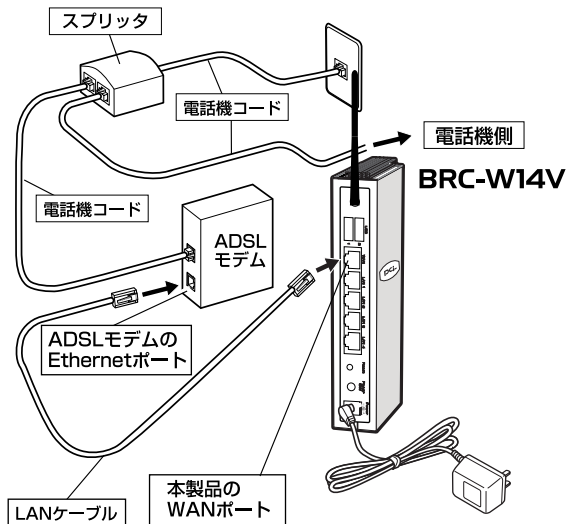
ハードウェアの接続

■接続前の準備

- ADSLモデム/Bフレッツ用回線終端装置/ケーブルモデムの電源は切ってください。電源スイッチがないタイプはコンセントからACアダプタを抜いてください。
- 本製品付属のツイストペアケーブルをご用意ください。

■ADSLモデムとの接続

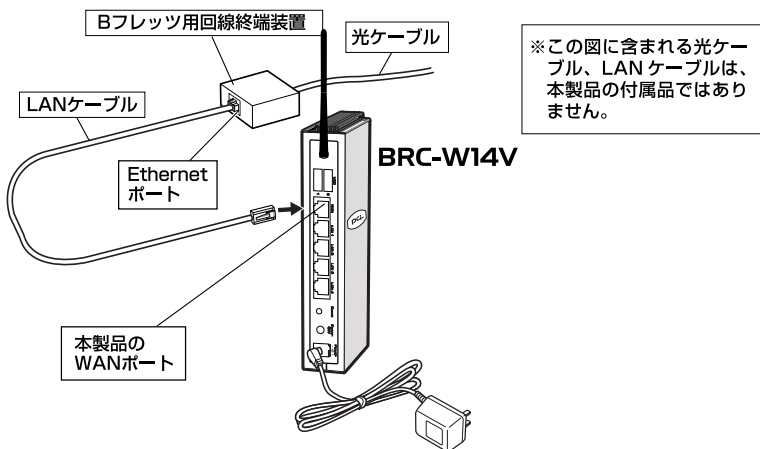
本製品のWANポートと、ADSLモデムのEthernetポートを、LANケーブルでつなぎます。



※この図に含まれる電話機コード、LANケーブルは、本製品の付属品ではありません。

■Bフレッツ用回線終端装置との接続

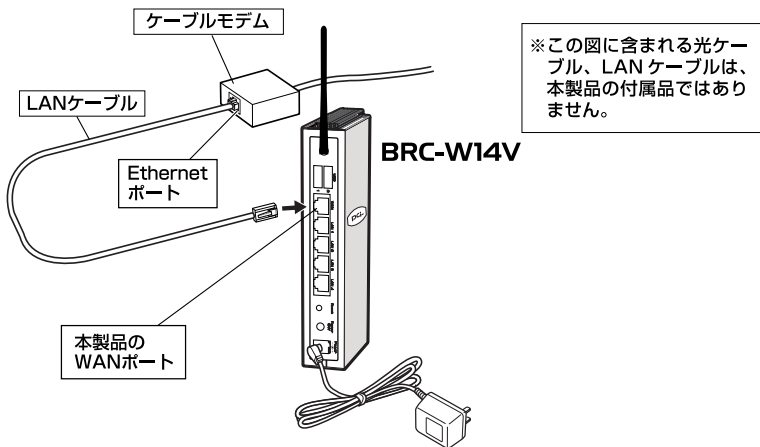
本製品のWANポートと、”Bフレッツ”用回線終端装置のEthernetポートを、LANケーブルでつなぎます。



Bフレッツ用回線終端装置との接続

■ケーブルモデムとの接続

本製品のWANポートと、”Bフレッツ”用回線終端装置のEthernetポートを、LANケーブルでつなぎます。



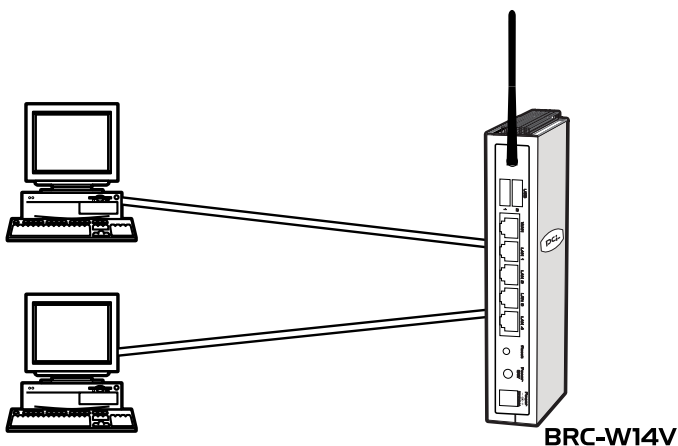
ケーブルモデムとの接続

4 パソコンとの接続

本製品のLAN側ポートは結線のタイプを自動認識するAuto MDI/MDI-Xに対応しています。

接続するパソコンの数だけツイストペアケーブルをご用意ください。

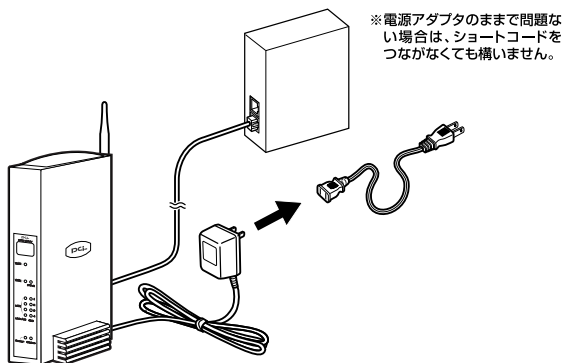
1. ツイストペアケーブルの一端を本製品のLAN側ポートに接続します。
2. ツイストペアケーブルのもう一端をコンピュータのRJ-45ポートに差し込みます。
このとき、ケーブルのコネクタがポートの奥までしっかりささってるか確認してください。



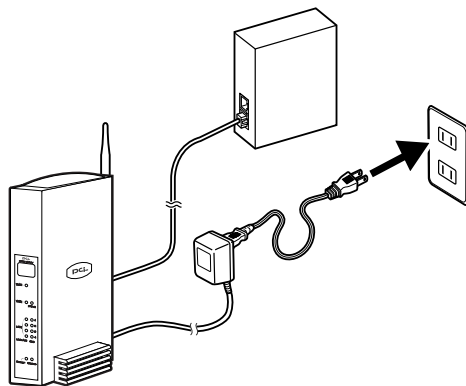
5 電源の接続

電源アダプタを電源コンセントに差し込んで、電源をONにします。その後正常に通信が行われているか、ランプを見て確認します。

1. 電源アダプタのままでは電源コンセントに差し込みにくい場合、電源アダプタに付属のショートコードをつなぎます。



2. 電源アダプタまたはショートコードを電源コンセントに差し込みます。



3. 電源がONになります。本製品前面のランプを確認します。

ランプ	状態
Powerランプ	点灯します。
Statusランプ	電源アダプタ（電源プラグ）を電源コンセントに差し込んだときにオレンジ色で点滅し、本製品の起動後は緑色で点灯します。
WANランプ	点灯します。

パソコンの設定

本

章では、インターネットに接続するために、パソコンのネットワーク設定を確認し必要に応じて設定を変更します。なお、本製品に接続する全てのパソコンでこの設定を行う必要があります。設定方法はOSによって異なります。お使いのOSに該当するページをお読みください。

3

パソコンの設定

■パソコンのネットワーク設定を行う

- Windows[®] XPの場合⇒[30ページ](#)
- Windows[®] 2000の場合⇒[32ページ](#)
- Windows[®] Me/98SE/98の場合⇒[34ページ](#)
- MacOS[®] Xの場合⇒[37ページ](#)
- MacOS[®] 9.X/8.Xの場合⇒[38ページ](#)

■本製品とパソコンの接続を確認する

- Windows[®] XPの場合⇒[39ページ](#)
- Windows[®] 2000の場合⇒[41ページ](#)
- Windows[®] Me/98SE/98の場合⇒[42ページ](#)
- MacOS[®] Xの場合⇒[44ページ](#)
- MacOS[®] 9.x/8.xの場合⇒[45ページ](#)

1 パソコンのネットワーク接続を行う

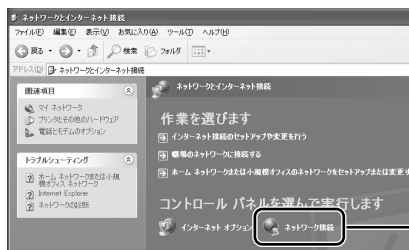
■Windows® XPの場合



注意

- この作業を行うには「コンピュータの管理者」または同等の権限を持つユーザでログオンする必要があります。
- 以下の操作手順および表示画面はWindows® XPの初期状態の場合です。Windows® XPの設定によっては異なる場合があります。

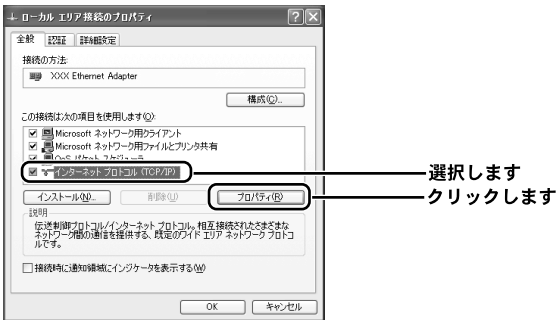
1. [スタート] - [コントロールパネル] を選択し、[ネットワークとインターネット接続] をクリックします。
2. [ネットワークとインターネット接続] の画面が表示されます。
[ネットワーク接続] をクリックします。



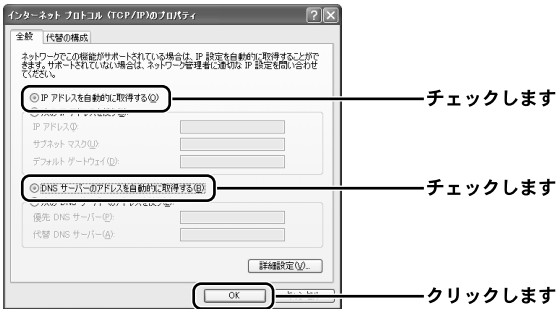
3. [ネットワーク接続] の画面が表示されます。
[ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



4. [ローカルエリア接続のプロパティ] の画面が表示されます。
[インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



5. [インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] の画面が表示されます。
[IPアドレスを自動的に取得する] と [DNSサーバのアドレスを自動的に取得する] にチェックします。[OK] ボタンをクリックします。



6. [ローカルエリア接続のプロパティ] の画面に戻ります。
[OK] ボタンをクリックします。



■ Windows® 2000の場合



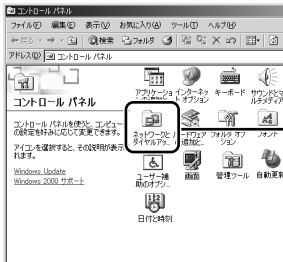
注意

この作業を行うには [Administrator] または同等の権限を持つユーザでログオンする必要があります。

3

パソコンの設定

1. [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] を選択します。
2. [コントロールパネル] の画面が表示されます。
[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。



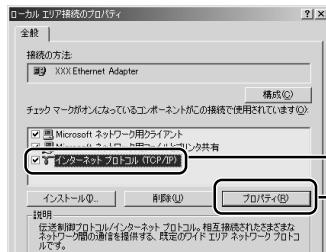
ダブルクリックします

3. [ネットワークとダイヤルアップ接続] の画面が表示されます。
[ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



右クリックします

4. [ローカルエリア接続のプロパティ] の画面が表示されます。
[インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

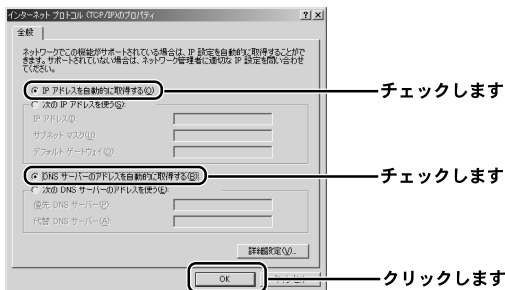


選択します

クリックします

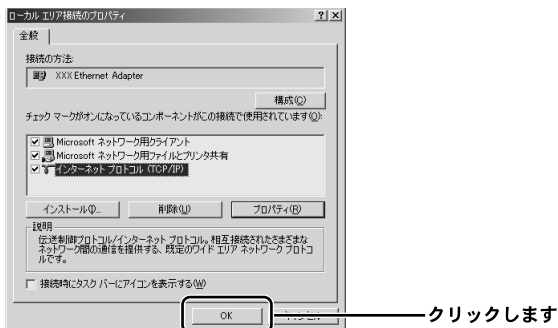
5. [インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] の画面が表示されます。

[IPアドレスを自動的に取得する] と [DNSサーバのアドレスを自動的に取得する] にチェックします。[OK] ボタンをクリックします。



6. [ローカルエリア接続のプロパティ] の画面に戻ります。

[OK] ボタンをクリックします。



■Windows® Me/98SE/98の場合

1. [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] を選択します。
2. [コントロールパネル] の画面が表示されます。
[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

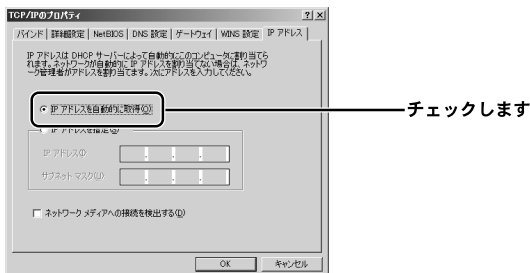


※Windows® Meで [ネットワーク] アイコンが表示されない場合は、コントロールパネル左側の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する] をクリックしてください。

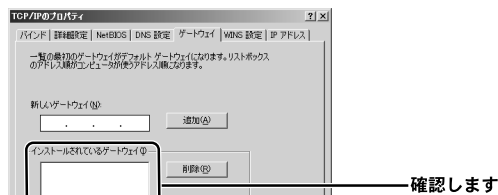
3. [ネットワーク] の画面が表示されます。
[現在のネットワークコンポーネント] 欄から [TCP/IP ->お使いのLANカード (またはLANボード)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



4. [TCP/IPのプロパティ] の画面が表示されます。
[IPアドレス] タブをクリックし、[IPアドレスを自動的に取得] をチェックします。



5. [ゲートウェイ] タブをクリックし、[インストールされているゲートウェイ] 欄に何も設定されていないのを確認します。



注意

IPアドレスが表示されている場合は、表示されている数字を選択し、右の [削除] ボタンをクリックします。

6. [DNS設定] タブをクリックし、[DNSを使わない] をチェックします。
[OK] ボタンをクリックします。



7. [ネットワーク] の画面に戻ります。

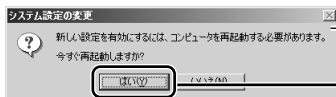
[OK] ボタンをクリックします。



[ネットワーク] ダイアログに戻ります。

クリックします

8. 再起動を要求するメッセージが表示されましたら、[はい] ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。



再起動を促すメッセージが表示されます。

クリックします

■Mac® OS Xの場合

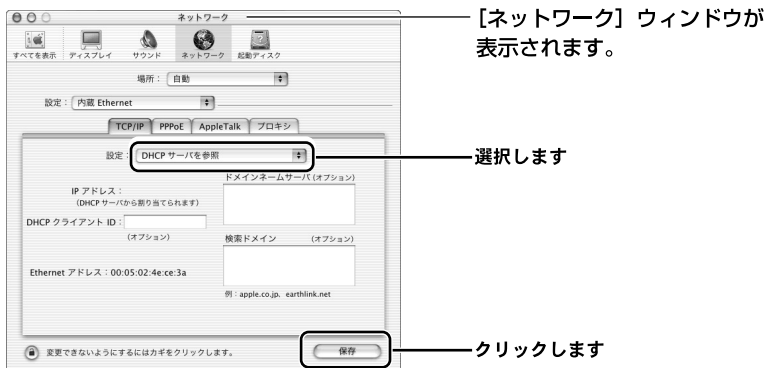
※表示される画面はMac® OSのバージョンによって異なります。

1. アップルメニューから [システム環境設定] を選択します。
2. [システム環境設定] の画面が表示されます。
[ネットワーク] アイコンをクリックします。



※ここに [ネットワーク] アイコンが表示されない場合は、[すべてを表示] アイコンをクリックします。

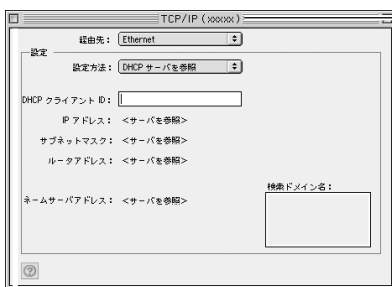
3. [ネットワーク] の画面が表示されます。
[設定] 欄から [(内蔵) Ethernet] を選択します。
4. [TCP/IP] タブをクリックし、[設定] 欄から [DHCPサーバを参照] を選択します。
[保存] ボタンをクリックします。



■ Mac® OS9.x/8.xの場合

※表示される画面はMac® OSのバージョンによって異なります。

1. アップルメニューから [コントロールパネル] - [TCP/IP] を選択します。
2. [TCP/IP] の画面が表示されます。
[経由先] 欄から [Ethernet] を選択し、[設定方法] 欄から [DHCPサーバを参照] を参照] を選択します。



[TCP/IP] ウィンドウが表示されます。

3. クローズボックスをクリックし、画面を閉じます。
確認ウィンドウが表示されたら、[保存] ボタンをクリックします。

2 本製品とパソコンとの接続を確認する

ここでは、パソコンに正しいIPアドレスが割り当てられているか確認します。

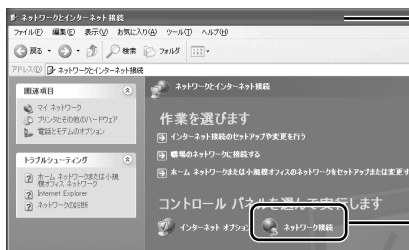


注意

- 本製品のDHCPサーバ機能は、初期状態で有効に設定されているため、パソコンにIPアドレスが自動的に割り当てられます。
- 本製品のLAN側IPアドレスは、初期状態では「192.168.1.1」に設定されています。

■Windows® XPの場合

1. [スタート] - [コントロールパネル] を選択し、[ネットワークとインターネット接続] をダブルクリックします。
2. [ネットワークとインターネット接続] の画面が表示されます。
[ネットワーク接続] をクリックします。

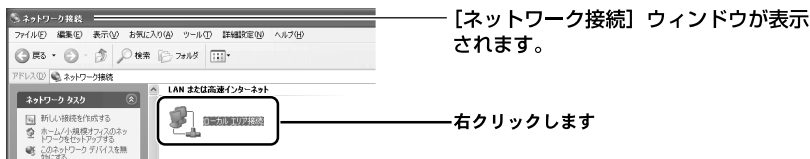


[ネットワークとインターネット接続] ウィンドが表示されます。

クリックします

3. [ネットワーク接続] の画面が表示されます。

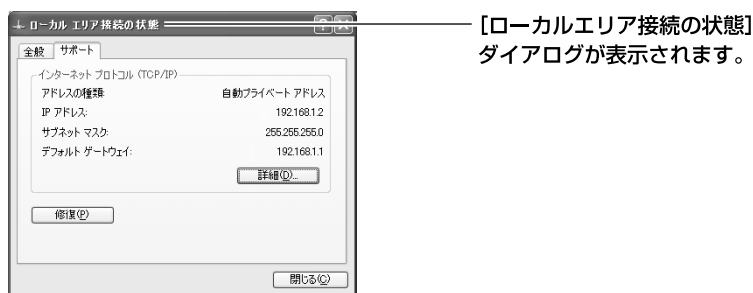
[ローカルエリア接続] を右クリックし、[状態] をクリックします。



4. [ローカルエリア接続の状態] の画面が表示されます。

[サポート] タブをクリックし、[IPアドレス] 欄を確認します。

IPアドレスが「192.168.1.x」になっていることを確認します。(xは1以外の任意の数字です)



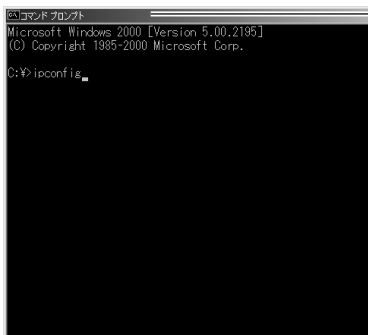
注意

別のIPアドレスが表示された場合は、[修復] ボタンをクリックしてください。

5. [閉じる] ボタンをクリックします。

■Windows® 2000の場合

1. [スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] を選択します。
2. [コマンドプロンプト] の画面が表示されます。
[C:¥>] に続けて、[ipconfig] と入力しキーボードの [Enter] キーを押します。



[コマンドプロンプト] の画面が表示されます。

3. 画面に [Ethernet adapter ローカル エリア接続:] の情報が表示されます。
[IP Address] の項目でIPアドレスが「192.168.1.x」になっていることを確認します。(xは1以外の任意の数字です)



同じ画面に、[Ethernet adapter ローカル エリア接続:] の情報が表示されます。



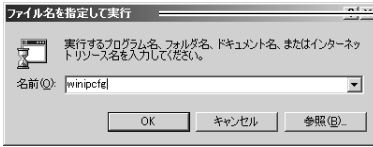
注意

別のIPアドレスが表示された場合は、[C:¥>] に続けて [ipconfig/renew] と入力し、[Enter] キーを押します。

4. コマンドプロンプトの画面を閉じます。

■Windows® Me/98SE/98の場合

1. [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
2. [ファイル名を指定して実行] の画面が表示されます。
[名前] 欄に [winipcfg] と入力し、[OK] ボタンをクリックします。



[ファイル名を指定して実行] ウィンドウが表示されます。

3. [IP設定] の画面が表示されます。
[アダプタ情報] 欄からお使いのLANカード/ボードを選択します。



[IP 設定] ウィンドウが表示されます。

4. IPアドレスが「192.168.1.x」になっていることを確認します。(xは1以外の任意の数字です)



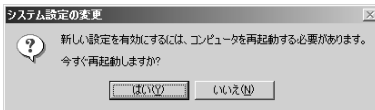
※別のIPアドレスが表示された場合は、
[解放] ボタンをクリックし、[書き換え] ボタンをクリックしてください。



注意

別のIPアドレスが表示された場合は、【解放】ボタンをクリックし、【書き換え】ボタンをクリックします。

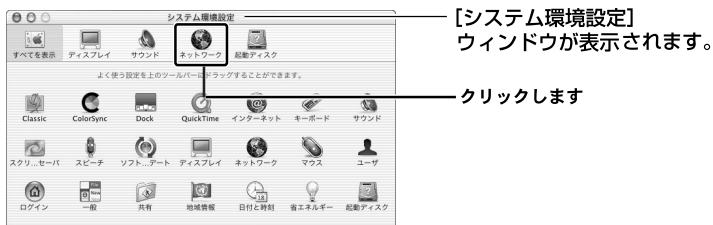
5. [OK] ボタンをクリックします。
6. 再起動を要求するメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックし再起動します。



■Mac® OS Xの場合

※表示される画面はMac® OSのバージョンによって異なります。

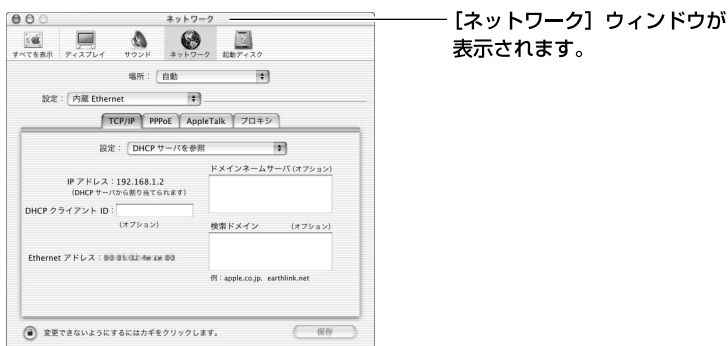
1. アップルメニューから [システム環境設定] を選択します。
2. [システム環境設定] 画面が表示されます。
[ネットワーク] アイコンをクリックします。



※ここに [ネットワーク] アイコンが表示されない場合は、[すべてを表示] アイコンをクリックします。

3. [ネットワーク] 画面が表示されます。

[設定] 欄から [(内蔵) Ethernet] を選択します。[TCP/IP] タブをクリックし、[IPアドレス] 欄に表示されてるIPアドレスが「192.168.1.x」になっていることを確認します。(xは1以外の任意の数字です)



※別のIPアドレスが表示された場合は、お使いのパソコンを再起動してください。
正しいIPアドレスが自動取得されます。

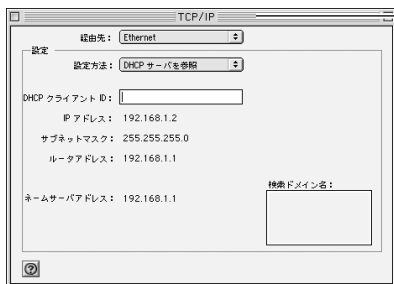
■Mac® OS 9.x/8.xの場合

※表示される画面はMac® OSのバージョンによって異なります。

1. アップルメニューから [コントロールパネル] - [TCP/IP] を選択します。

2. [TCP/IP] の画面が表示されます。

[経由先] 欄から [Ethernet] を選択し、[IPアドレス] 欄に表示されてるIPアドレスが「192.168.1.x」になっていることを確認します。(xは1以外の任意の数字です)



[TCP/IP] ウィンドウが表示されます。

※別のIPアドレスが表示された場合は、お使いのパソコンを再起動してください。
正しいIPアドレスが自動取得されます。

インターネットへの接続

本

製品の設定は、WEBブラウザから「設定ページ」を開いて行います。

初めてインターネットに接続するときは、設定ページの「簡単設定ウィザード」を使用します。

1

インターネット接続方法の確認

■簡単設定ウィザードを使う前にご確認ください

●"フレッツ・ADSL"または"Bフレッツ"による接続では、どちらの場合もPPPoEプロトコルを使います。そのため、簡単設定ウィザードでの操作方法は同じです。設定を開始する前に、以下の項目をチェックしてください。

●プロバイダから通知された情報はお手元にありますか？

設定には、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。

- ・接続ユーザ名
- ・接続パスワード
- ・DNSサーバのIPアドレス（プロバイダから通知された場合のみ）
- ・IPアドレス（固定IPアドレスの場合のみ）
- ・サブネットマスク（固定IPアドレスの場合のみ）
- ・デフォルトゲートウェイのIPアドレス（固定IPアドレスの場合のみ）

※プロバイダによって、上記の呼び方が異なる場合があります。

（例）接続ユーザ名 →ユーザID、アカウント、ユーザ名
ご不明な場合はプロバイダにお問い合わせください

●フレッツ接続ツールを起動していませんか？

設定を行うパソコンで「フレッツ接続ツール」が起動していないことを確認してください。起動しているときは、終了してください。

4

インターネットへの接続

●本製品は"フレッツ・ADSL"または"Bフレッツ"以外のDHCPを利用した接続にも対応しています。

●固定IPアドレスで接続する場合は、以下の情報が必要です。

- ・ IPアドレス
- ・ サブネットマスク
- ・ デフォルトゲートウェイのIPアドレス
- ・ DNSサーバのIPアドレス

4

インターネットへの接続

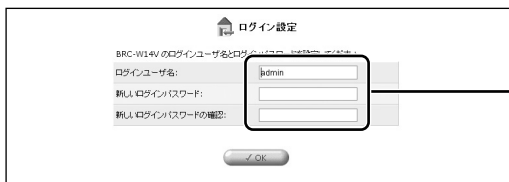
■設定ページを開く

ここでは、本製品の設定ページを開くための方法について説明します。

1. 本製品につないだパソコンでWEBブラウザを起動し、アドレスを入力する欄に「http://192.168.1.1/」または「http://brc-w14v.home/」と入力します。
2. 本製品の最初にログオンするための画面が表示されます。
[OK] ボタンをクリックします。



3. [ログイン設定] 画面が表示されます。
設定ページにログインするための、ログインユーザ名とログインパスワードを入力してください。



※2回目以降は [ログイン] 画面が表示されます。

【ログインユーザ名】

任意のログイン名を入力します。半角英数字を使用し、1～64文字の範囲で入力してください。

【新しいログインパスワード】

任意のパスワードを入力します。半角英数字を使用し、1～64文字の範囲で入力してください。入力したパスワードは「*」または「●」で表示されます。

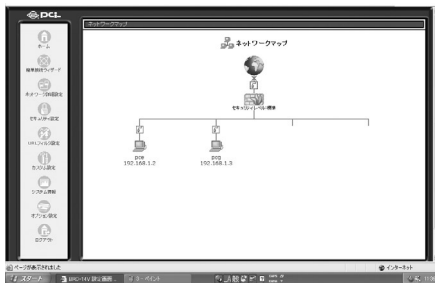
【新しいログインパスワードの確認】

確認のため再度パスワードを入力してください。

4. [OK] ボタンをクリックします。



5. 本製品の設定画面が表示されます。



■簡単設定ウィザードで設定する

ここでは、簡単設定ウィザードを使用して [PPPoE接続] または [PPPoE以外の接続] でインターネットに接続する方法について説明します。

本製品の簡単設定ウィザードを使用して以下の設定が可能です。

お使いの接続方法をご確認のうえ、該当するページをご参照ください。

- PPPoE接続で設定する場合
- PPPoE接続でIPアドレスを固定で設定する場合
- PPPoE以外の自動取得で設定する場合
- PPPoE以外でIPアドレスを固定で設定する場合

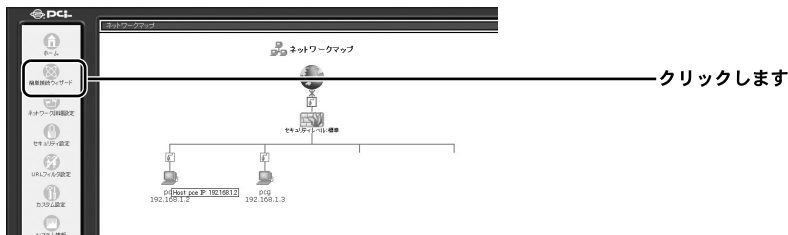
4

インターネットへの接続

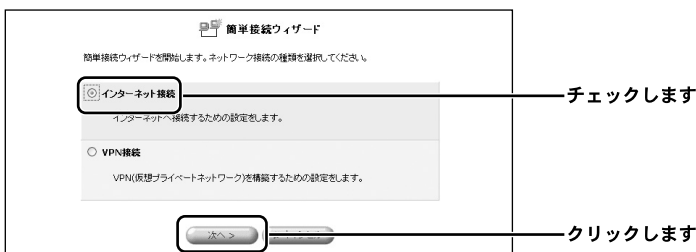
2 PPPoE接続で設定する場合

ここでは、PPPoE接続で設定する場合の方法について説明します。
事前にプロバイダから通知された情報をご用意ください。

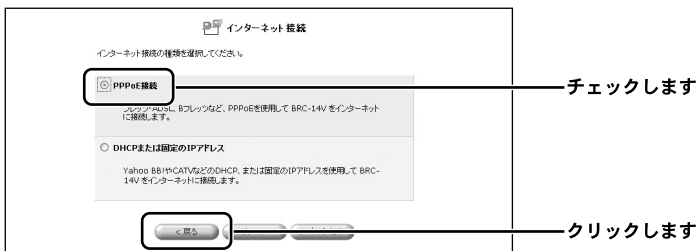
1. サイドバーから [簡単設定ウィザード] アイコンをクリックします。



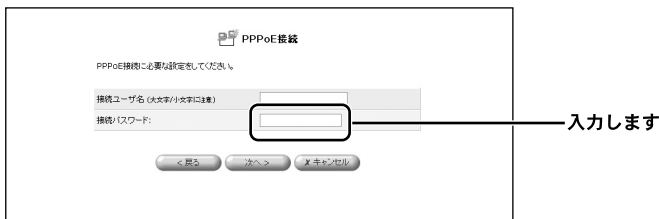
2. [簡単設定ウィザード] の画面が表示されます。
[インターネット接続] にチェックマークを付け、[次へ] ボタンをクリックします。



3. [インターネット接続] の画面が表示されます。
[PPPoE接続] にチェックマークを付け、[次へ] ボタンをクリックします。



4. [PPPoE接続] の画面が表示されます。
プロバイダから通知された情報をもとに、[接続ユーザ名] と [接続パスワード] を入力します。



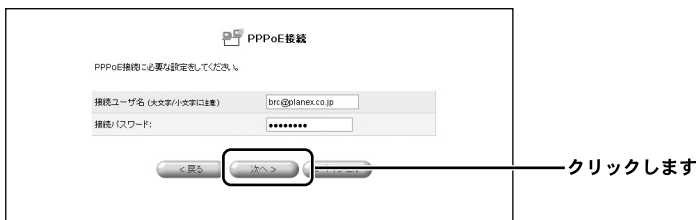
[接続ユーザ名]

プロバイダから指定された接続ユーザ名を、半角英数字で入力します。
「brc@planex.co.jp」のように、すべて入力してください。

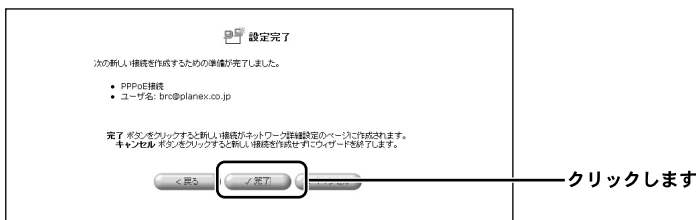
[接続パスワード]

プロバイダから指定された接続パスワードを、半角英数字で入力します。大文字、小文字を正しく入力してください。入力された接続パスワードは「*」または「●」で表示されます。

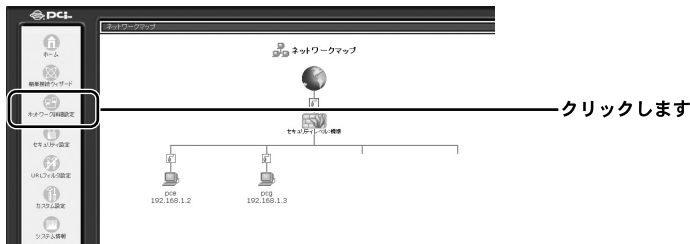
5. [次へ] ボタンをクリックします。



6. [設定完了] の画面が表示されます。
設定内容を確認して、[完了] ボタンをクリックします。



7. [ネットワークマップ] の画面が表示されます。
PPPoEによる接続の設定が作成されたことを確認します。サイドバーから
[ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



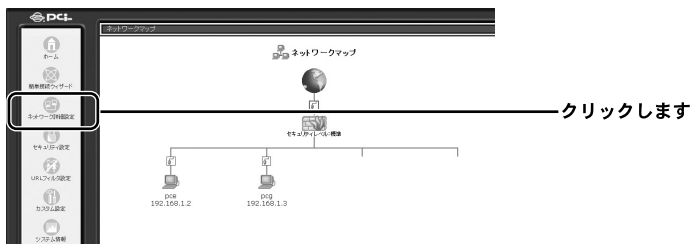
8. [ネットワーク詳細設定] の画面が表示されます。
[接続名] 欄に [WAN PPPoE] 接続が表示されてるのを確認します。



9. プロバイダからDNSサーバのIPアドレスが指定されてる場合は、DNSサーバの設定を行う必要があります。

※プロバイダからDNSサーバのIPアドレスが指定されていない場合は、次の操作(①～⑨)は不要です。

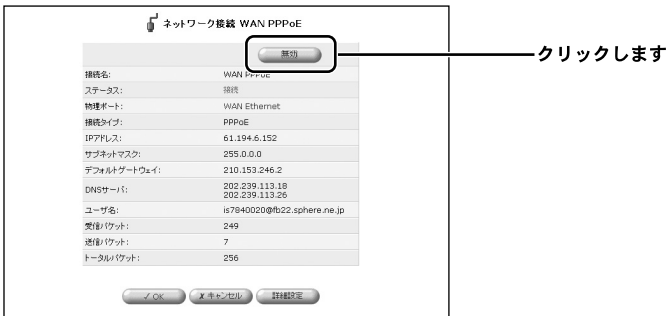
- ①サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



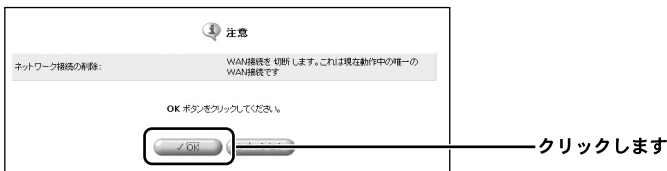
- ② [ネットワーク詳細設定] の画面が表示されます。
[WAN PPPoE] の修正ボタンをクリックします。



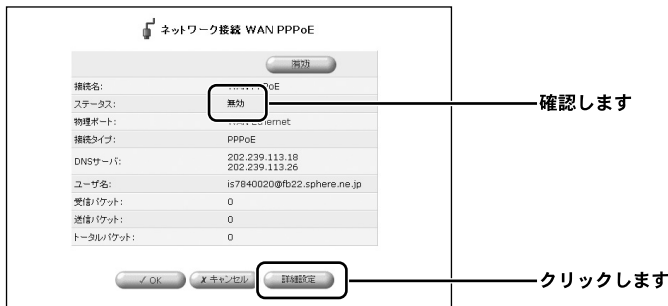
- ③ [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面が表示されます。
[無効] ボタンをクリックし、インターネットへの接続を切断します。



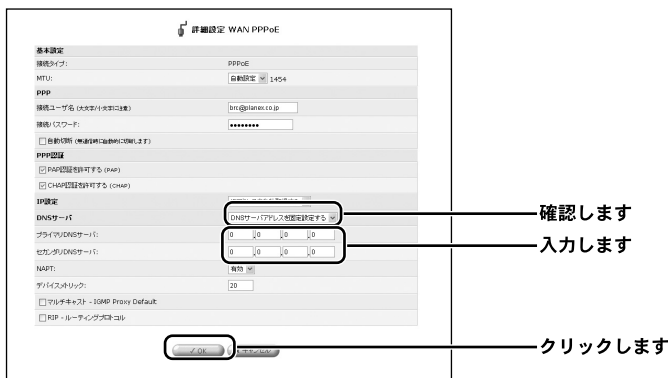
- ④ インターネットの接続を切断する確認の画面が表示されます。
[OK] ボタンをクリックします。



- ⑤ [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面に戻ります。
[ステータス] 欄が [無効] に切り替わったことを確認し、[詳細設定] ボタンをクリックします。

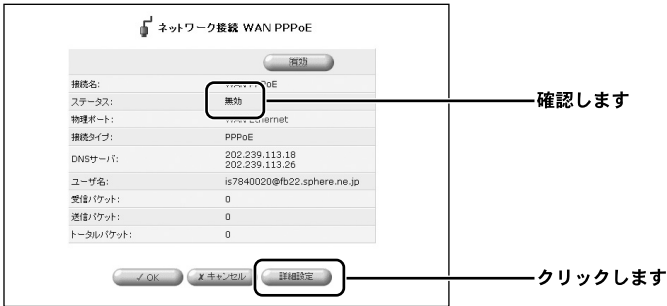


- ⑥ [詳細設定 WAN PPPoE] の画面が表示されます。
[DNSサーバ] 欄から [DNSサーバアドレスを固定設定する] を選択し、[プライマリDNSサーバ] と [セカンダリDNSサーバ] にプロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。[OK] ボタンをクリックします。

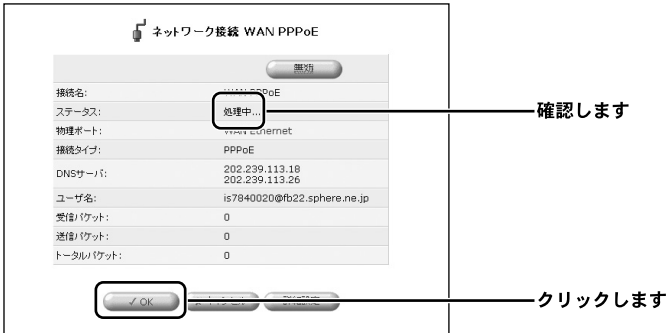


※プロバイダから指定されたDNSサーバアドレスが1つの場合は、[プライマリDNSサーバ] にのみ入力してください。

- ⑦ [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面に戻ります。
[有効] ボタンをクリックします。



- ⑧ [ステータス] 欄が [処理中] に切り替わったことを確認してください。
[OK] ボタンをクリックします。



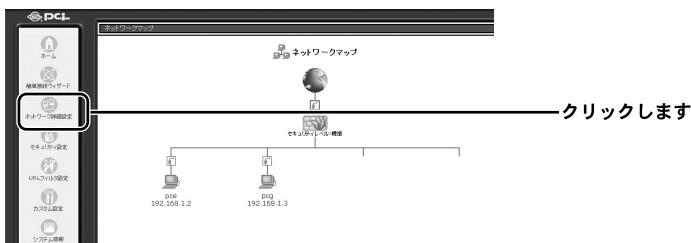
- ⑨ 以上で設定は終了です。

4

インターネットへの接続

3 PPPoE接続でIPアドレスを固定で設定する場合

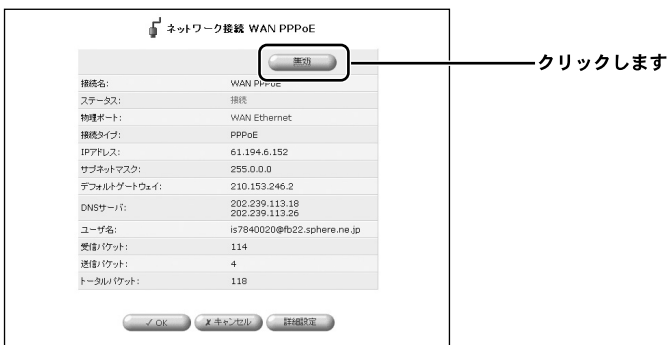
1. サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



2. [ネットワーク詳細設定] の画面が表示されます。
[接続名] 欄から [WAN PPPoE] の [修正] ボタンをクリックします。



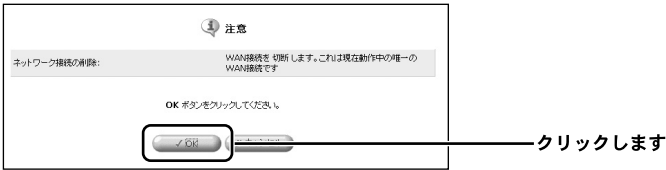
3. ネットワーク接続 [WAN PPPoE] の画面が表示されます。
[無効] ボタンをクリックし、インターネットへの接続を切断します。



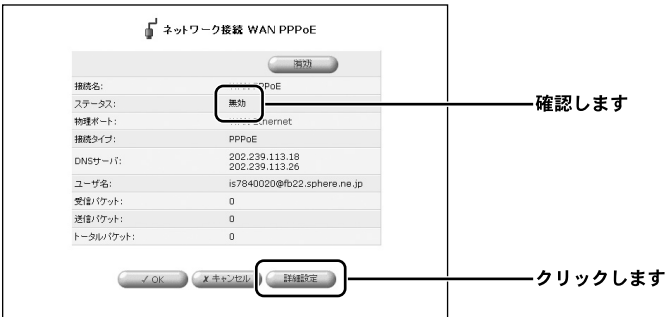
4

インターネットへの接続

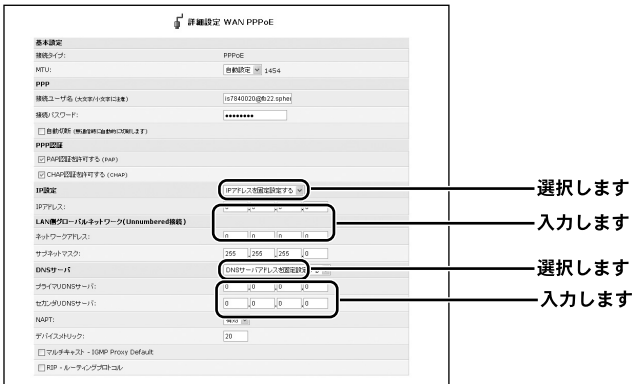
4. インターネットの接続を切断する確認の画面が表示されます。
[OK] ボタンをクリックします。



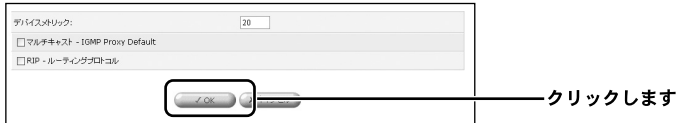
5. [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面に戻ります。
[ステータス] 欄が [無効] に切り替わったことを確認し、[詳細設定] ボタンをクリックします。



6. [詳細設定 WAN PPPoE] の画面が表示されます。
[IP設定] 欄から [IPアドレスを固定設定する] を選択し、プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。次に [DNSサーバ] 欄から [DNSサーバを固定設定する] を選択し、プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。



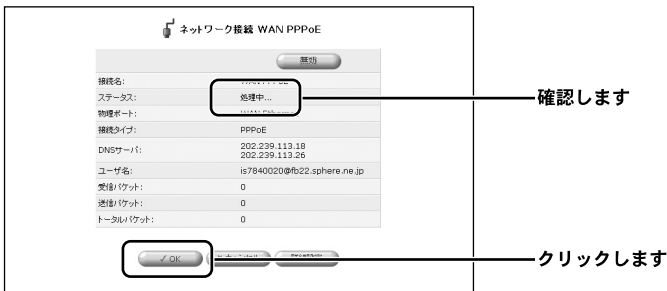
7. [OK] ボタンをクリックします。



8. [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面に戻ります。
[有効] ボタンをクリックします。



9. [ステータス] 欄が [処理中] に切り替わったことを確認してください。
[OK] ボタンをクリックします。

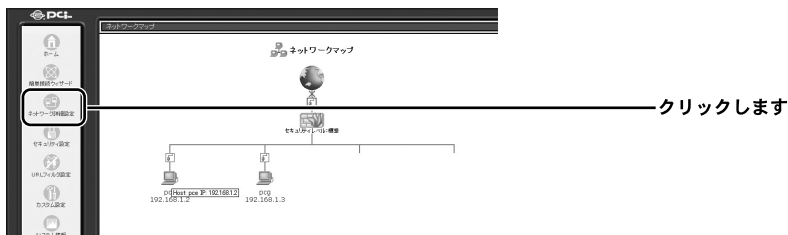


10. 以上で設定は終了です。

4 PPPoE接続の削除

ここでは、作成したPPPoE接続を削除する方法について説明します。

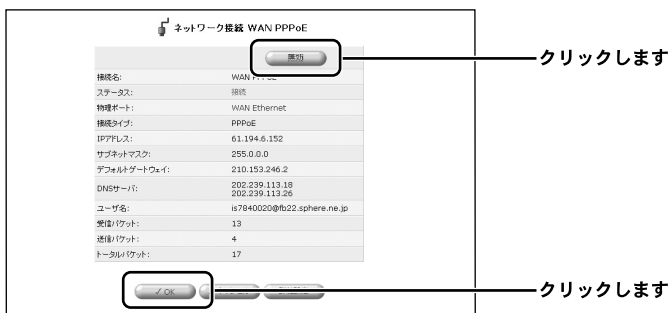
1. サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



2. [ネットワーク詳細設定] の画面が表示されます。
[接続名] 欄から削除するPPPoE接続の修正ボタンをクリックします。



3. [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面が表示されます。
回線が接続されてる場合は、[無効] ボタンをクリックし、回線をいったん切断します
[OK] ボタンをクリックします。



4. [ネットワーク詳細設定] の画面に戻ります。
[接続名] 欄から削除するPPPoE接続の削除ボタンをクリックします。



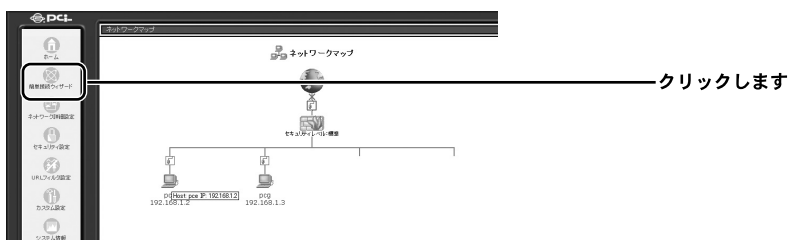
5. 以上でPPPoE接続の削除は終了です。

5 PPPoE以外の自動取得で設定する場合

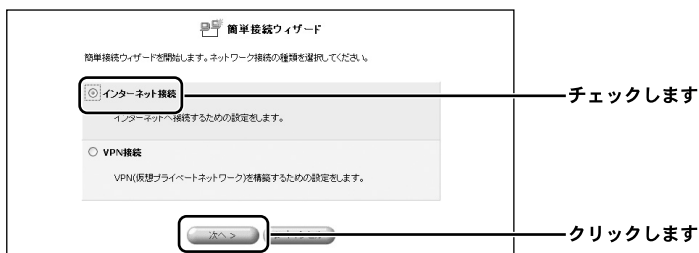
ここでは、PPPoE接続を使用しないで、IPアドレスを自動取得する場合の方法について説明します。

※PPPoE以外の接続サービスには、通常接続やDHCPによるIPアドレス自動取得、固定IPアドレスの設定などがあります。

1. サイドバーから [簡単設定ウィザード] アイコンをクリックします。



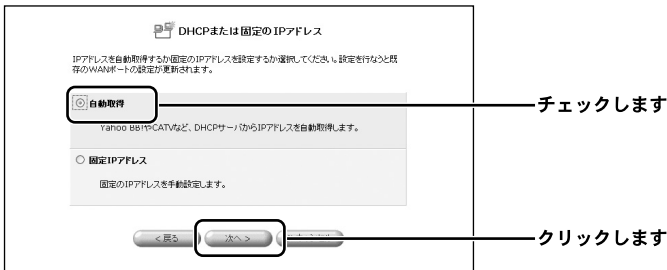
2. [簡単設定ウィザード] の画面が表示されます。
[インターネット接続] にチェックマークを付け、[次へ] ボタンをクリックします。



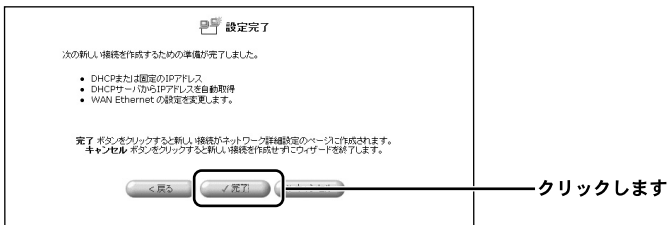
3. [インターネット接続] の画面が表示されます。
[DHCPまたは固定のIPアドレス] にチェックをつけ、[次へ] ボタンをクリックします。



4. [DHCPまたは固定のIPアドレス] の画面が表示されます。
[自動取得] にチェックをつけ、[次へ] ボタンをクリックします。



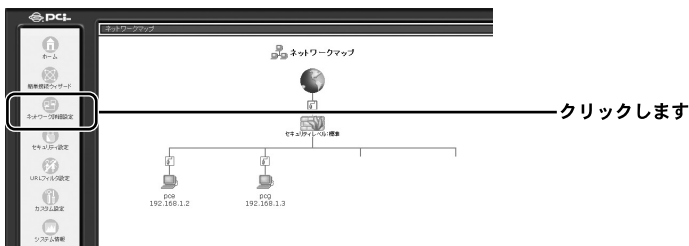
5. [設定完了] の画面が表示されます。
設定内容を確認して、[完了] ボタンをクリックします。
これで、プロバイダからIPアドレスを自動的に取得することができます。



6. プロバイダからDNSサーバのIPアドレスが指定されてる場合は、DNSサーバの設定を行う必要があります。

※プロバイダからDNSサーバのIPアドレスが指定されていない場合は、次の操作（①～⑨）は不要です。

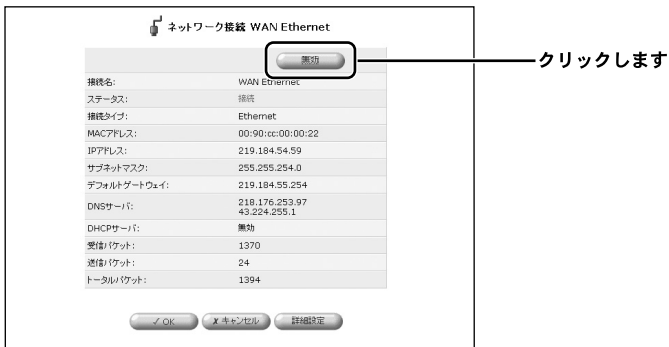
①サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



② [ネットワーク詳細設定] の画面が表示されます。
[WAN Ethernet] の [修正] ボタンをクリックします。



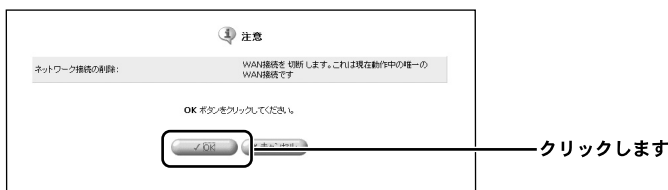
③ [ネットワーク接続 WAN Ethernet] の画面が表示されます。
[無効] ボタンをクリックし、インターネットへの接続を切断します。



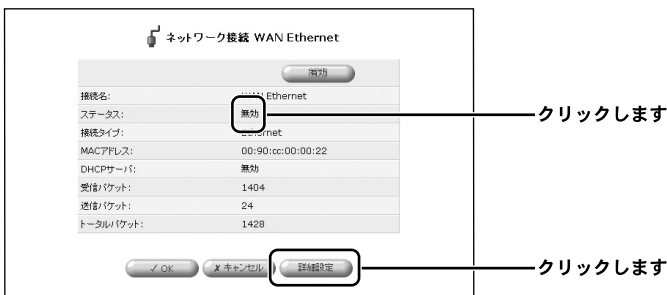
4

インターネットへの接続

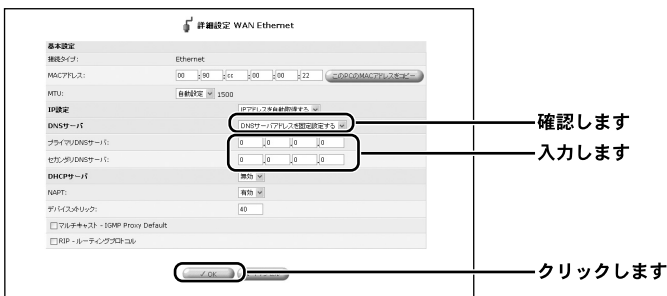
- ④ インターネットの接続を切断する確認の画面が表示されます。
[OK] ボタンをクリックします。



- ⑤ [ネットワーク接続 WAN Ethernet] の画面に戻ります。
[ステータス] 欄が [無効] に切り替わったことを確認し、[詳細設定] ボタンをクリックします。

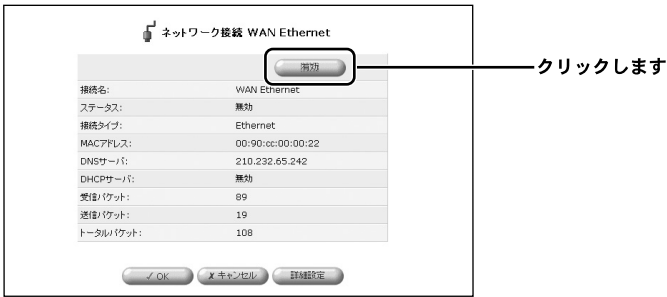


- ⑥ [詳細設定 WAN Ethernet] の画面が表示されます。
[DNSサーバ] 欄から [DNSサーバアドレスを固定設定する] を選択し、[プライマリDNSサーバ] と [セカンダリDNSサーバ] にプロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。[OK] ボタンをクリックします。

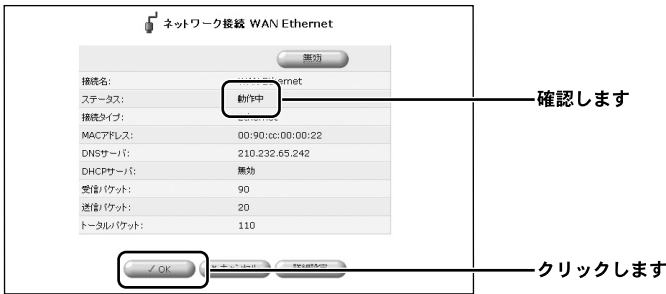


※ プロバイダから指定されたDNSサーバアドレスが1つの場合は、[プライマリDNSサーバ] にのみ入力してください。

- ⑦ [ネットワーク接続 WAN Ethernet] の画面に戻ります。
[有効] ボタンをクリックします。



- ⑧ [ステータス] 欄が [動作中] に切り替わったことを確認してください。
[OK] ボタンをクリックします。

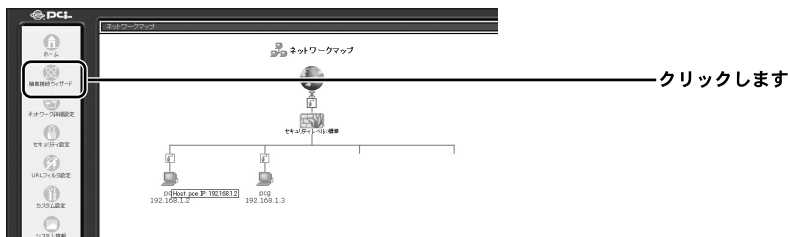


- ⑨ 以上で設定は終了です。

6 PPPoE以外でIPアドレスを固定で設定する場合

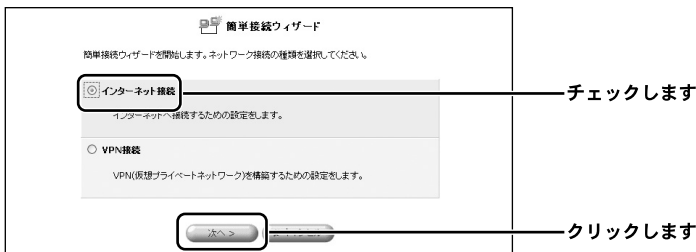
ここでは、PPPoE接続を使用しないで、IPアドレスを固定で設定する方法について説明します。

1. サイドバーから [簡単設定ウィザード] アイコンをクリックします。



2. [簡単設定ウィザード] の画面が表示されます。

[インターネット接続] にチェックマークを付け、[次へ] ボタンをクリックします。

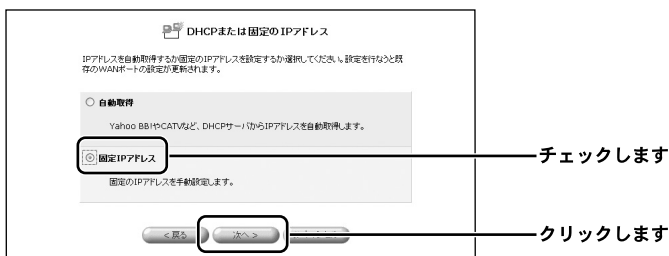


3. [インターネット接続] の画面が表示されます。

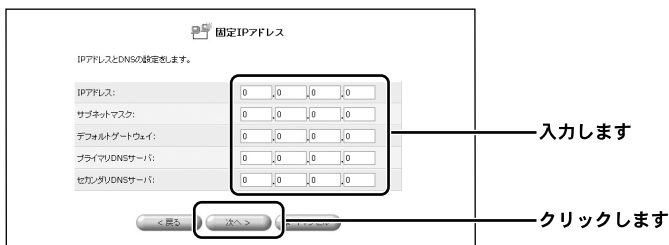
[DHCPまたは固定のIPアドレス] にチェックをつけ、[次へ] ボタンをクリックします。



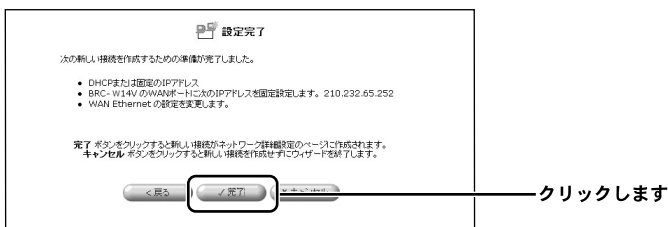
4. [DHCPまたは固定のIPアドレス] の画面が表示されます。
[固定IPアドレス] にチェックをつけ、[次へ] ボタンをクリックします。



5. [固定IPアドレス] の画面が表示されます。
プロバイダからの情報をもとにIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバのアドレスを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



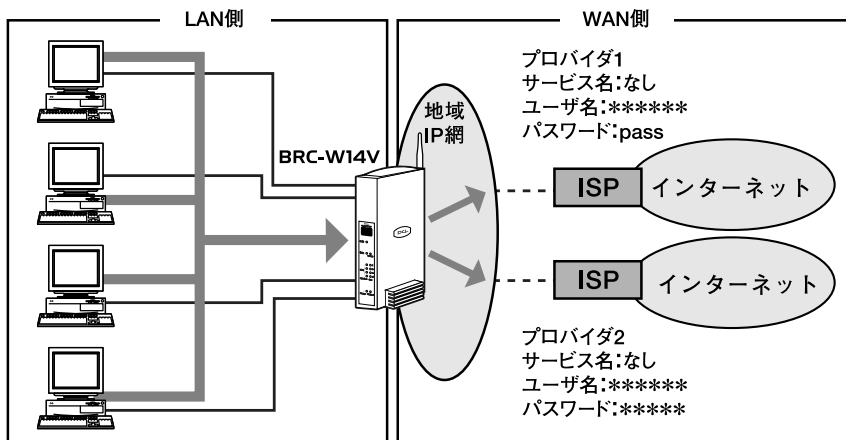
6. [設定完了] の画面が表示されます。
設定内容を確認して、[完了] ボタンをクリックします。



7. 以上で設定は完了です。

7 PPPoE接続でマルチセッション接続を設定する場合

本製品はPPPoEマルチセッションに対応しています。マルチセッション利用時は複数のプロバイダを登録し同時に接続することができ、最大4セッションの接続を同時に行うことができます。



また、複数の接続先を登録した場合は、デフォルトゲートウェイの変更や接続先の優先順位の変更を自由に行うことができます。

通常はPPPoE接続を作成した順に登録され優先順位が決まります。

接続名	優先順位	メトリック
WAN PPPoE	1	20
WAN PPPoE2	2	21
WAN PPPoE3	3	22
WAN PPPoE4	4	23



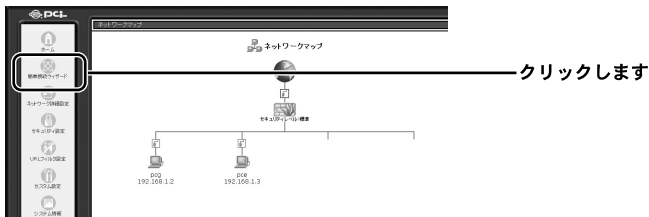
注意

- ・ 複数セッションへの接続機能は、複数のPPPoEセッションへの接続を同時に行えるサービス（マルチセッション）でのみご利用することができます。
- ・ マルチセッションがサポートされていないサービスの場合は、複数セッションへの同時接続機能はご利用できません。
- ・ Unnumbered接続とは異なります。
- ・ PPPoE接続以外の接続（DHCP接続など）ではこの機能はご利用できません。

●複数の接続先を登録する場合

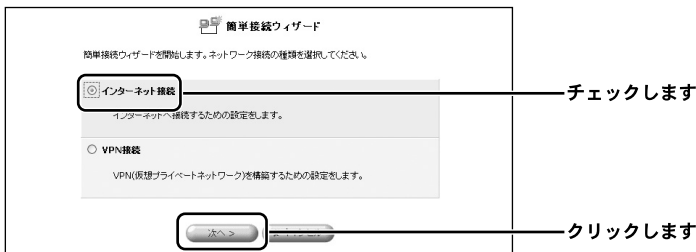
ここでは、1つ目のPPPoE接続が既に登録されていて、2つ目を追加登録する場合の方法について説明します。

1. サイドバーから [簡単設定ウィザード] アイコンをクリックします。



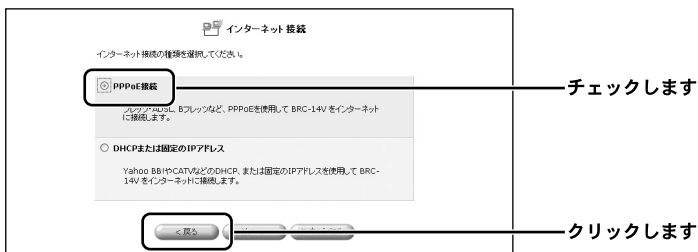
2. [簡単設定ウィザード] の画面が表示されます。

[インターネット接続] にチェックマークを付け、[次へ] ボタンをクリックします。



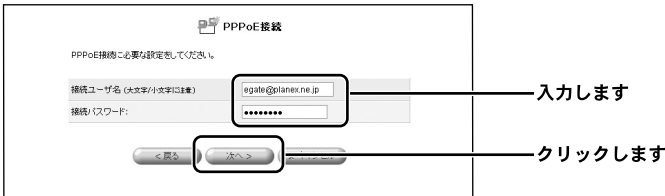
3. [インターネット接続] の画面が表示されます。

[PPPoE接続] にチェックマークを付け、[次へ] ボタンをクリックします。



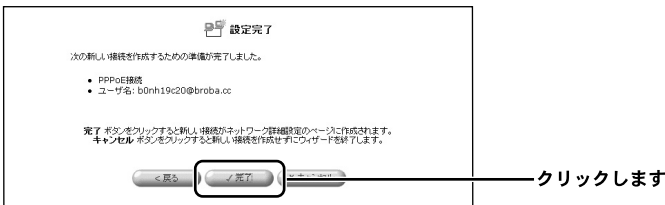
4. [PPPoE接続] の画面が表示されます。

2つ目のプロバイダから指定された接続ユーザ名、接続パスワードを入力します。
[次へ] ボタンをクリックします。

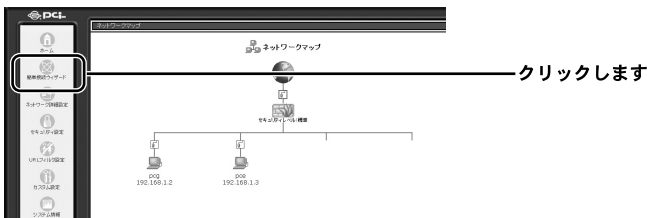


5. [設定完了] の画面が表示されます。

設定内容を確認して、[完了] ボタンをクリックします。



6. サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



7. [ネットワーク詳細設定] の画面が表示されます。

[接続名] 欄に2つ目の [WAN PPPoE2] が表示されているのを確認します。

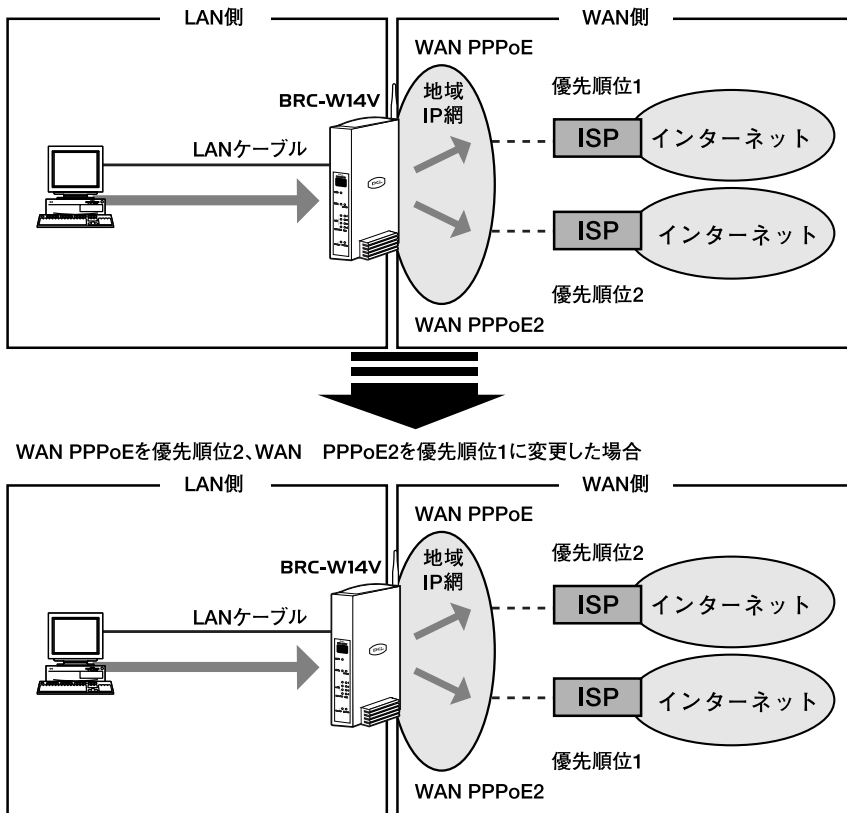


8. 以上で設定は終了です。

3つ目、4つ目のPPPoEの接続先を登録する場合は、同様の手順で設定してください。

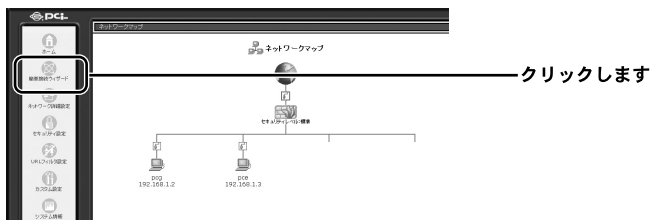
●接続先の優先順位を変更する場合

本製品で複数の接続先を登録した場合、登録した順に優先順位が設定されます。本製品はPPPoE接続を設定後、デフォルトゲートウェイの変更や優先順位を変更することができます。



WAN PPPoEを優先順位2、WAN PPPoE2を優先順位1に変更した場合

1. サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



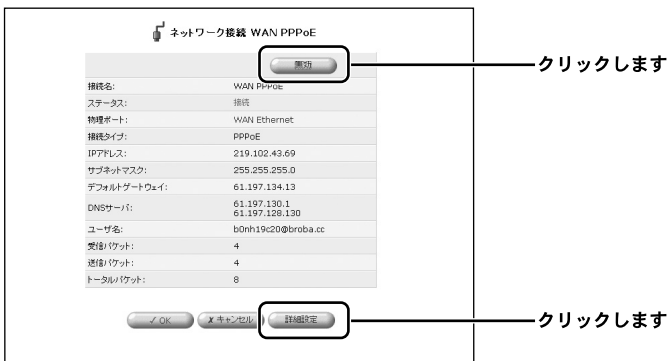
2. [ネットワーク詳細設定] の画面が表示されます。

[接続名] 欄から [WAN PPPoE] の [修正] ボタンをクリックします。



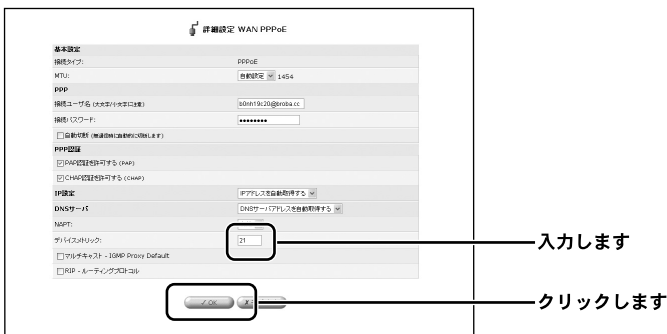
3. [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面が表示されます。

回線が接続されてる場合は、[無効] ボタンをクリックし、回線をいったん切断します。[詳細設定] ボタンをクリックします。



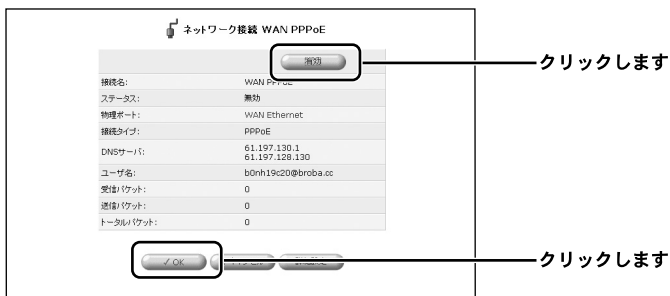
4. [詳細設定 WAN PPPoE] の画面が表示されます。

[デバイスメトリック] 欄に「21」を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



5. [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面に戻ります。[有効] ボタンをクリックし、[ステータス] 欄が [処理中] に切り替わったことを確認してください。

[OK] ボタンをクリックします。



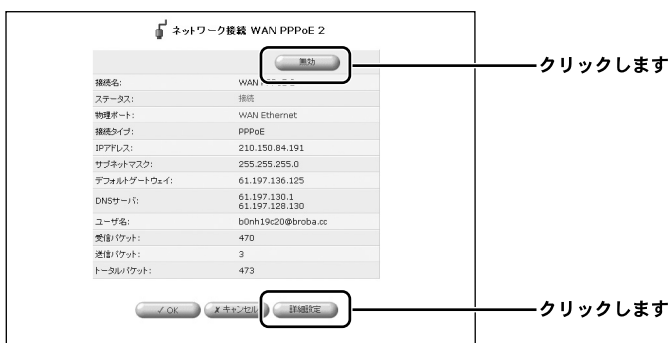
6. [ネットワーク詳細設定] の画面に戻ります。

[接続名] 欄から [WAN PPPoE2] の [修正] ボタンをクリックします。

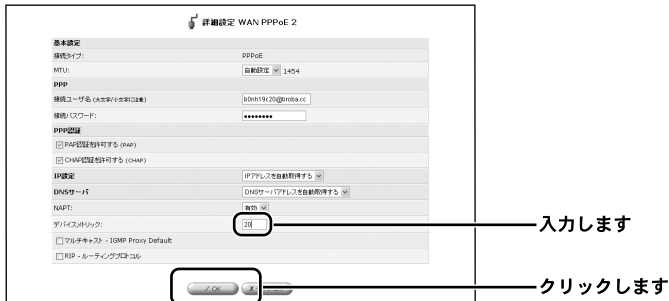


7. [ネットワーク接続 WAN PPPoE2] の画面が表示されます。

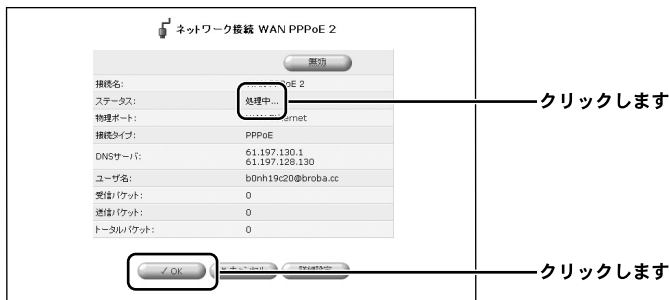
回線が接続されてる場合は、[無効] ボタンをクリックし、回線をいったん切断します。[詳細設定] ボタンをクリックします。



8. [詳細設定 WAN PPPoE2] の画面が表示されます。
 [デバイスメトリック] 欄に「20」を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

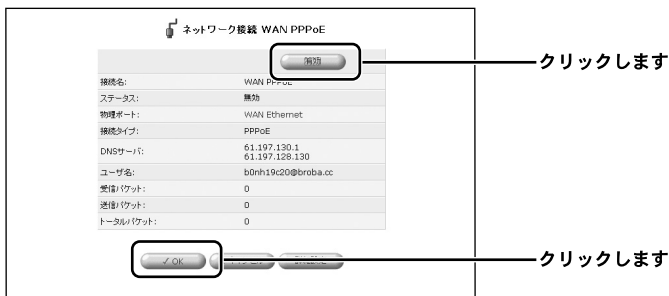


9. [ネットワーク接続 WAN PPPoE2] の画面に戻ります。
 [有効] ボタンをクリックし、[ステータス] 欄が [処理中] に切り替わったことを確認してください。[OK] ボタンをクリックします。



10. [接続名] 欄から [WAN PPPoE] を選択し、修正ボタンをクリックします。

- 11.** [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面が表示されます。
[有効] ボタンをクリックし、[ステータス] 欄が [処理中] に切り替わったことを確認してください。[OK] ボタンをクリックします。



- 12.** 本製品に設定されたWAN PPPoE2がデフォルトゲートウェイ、WAN PPPoEが優先順位 2 に変更され、インターネットに接続されました。
- 13.** 以上で設定は終了です。
3つ目、4つ目のPPPoEの優先順位を変更する場合は、同様の手順で設定してください。

4

インターネットへの接続

8 Unnumbered接続を設定する場合

本製品は複数の固定IPアドレスを利用するUnnumbered接続に対応しています。Unnumbered接続を利用することで、LAN側に設置したサーバ等をインターネットに公開することができます。また、LAN側にNAPTによるプライベートアドレスのホストとUnnumbered接続を利用したグローバルアドレスのホストを設定し同時に通信を行うこともできます

通常、プロバイダから複数のグローバルIPアドレスが割り当てられた場合、1つのサブネットとして連続したグローバルIPアドレスが割り当てられます。このうち、最初（ネットワークアドレス）と最後（ブロードキャストアドレス）はシステムで予約されており、ホスト（コンピュータやサーバ）には使用できません。

例）プロバイダから153.16.10.8～153.16.10.15の8個のグローバルIPアドレスが割り当てられた場合

153.16.10.8 ネットワークアドレス（使用不可）

153.16.10.9 デフォルトゲートウェイ

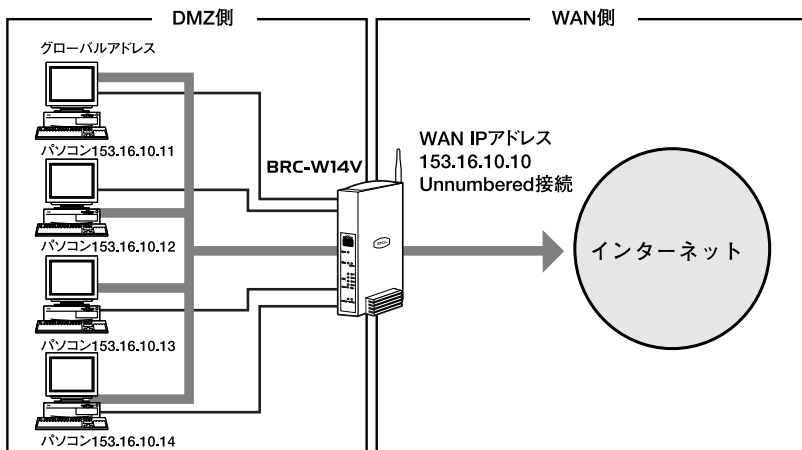
153.16.10.10 ルータ用（WANポートまたはWAN PPPoEポート用）

153.16.10.11

}

153.16.10.14 ホスト用

153.16.10.15 ブロードキャストアドレス（使用不可）



本製品でUnnumbered接続を設定する場合は、接続方法により異なります。
お使いの接続方法をご確認のうえ、該当するページをご参照ください。

● PPPoE接続でUnnumbered接続を利用する場合

→ 「PPPoE接続でUnnumbered接続を設定する場合」にお進みください。

● PPPoE以外の接続でUnnumbered接続を利用する場合

→ 「PPPoE以外の接続でUnnumbered接続を設定する場合」へお進みください。

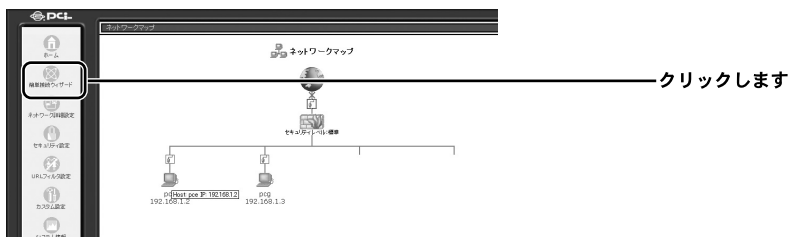
4

インターネットへの接続

9 PPPoE接続でUnnumbered接続を設定する場合

ここでは、PPPoE接続でUnnumbered接続を設定する方法について説明します。

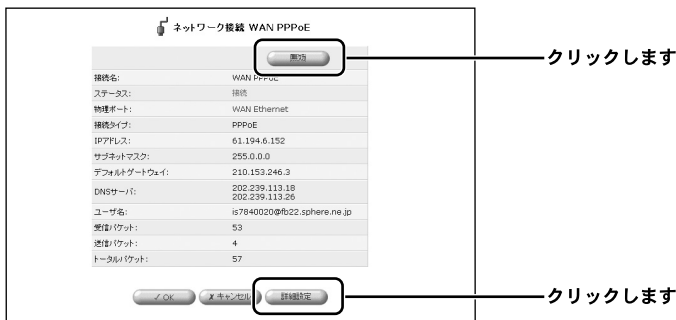
1. サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



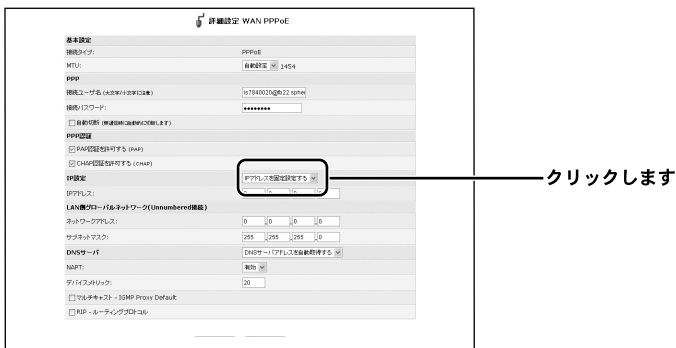
2. [ネットワーク詳細設定] の画面が表示されます。
すでに設定してある [WAN PPPoE] 接続の修正ボタンをクリックします。



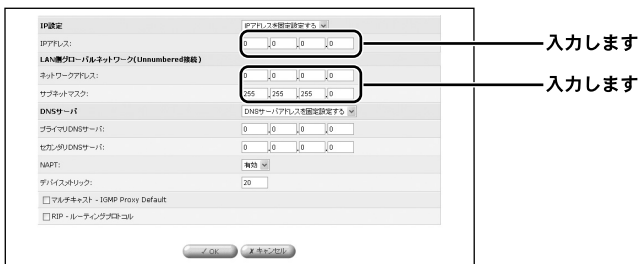
3. [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面が表示されます。
回線が接続されてる場合は、[無効] ボタンをクリックし、回線をいったん切断します。[詳細設定] ボタンをクリックします。



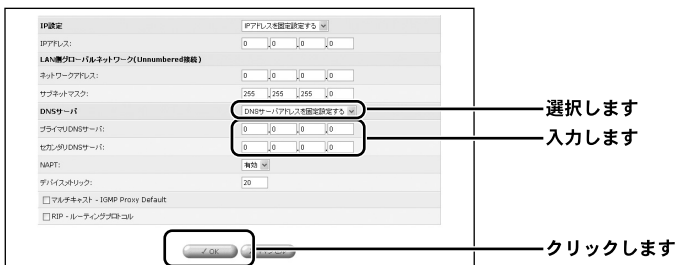
4. [詳細設定 WAN PPPoE] の画面が表示されます。
 [IP設定] 欄から [IPアドレスを固定設定する] を選択します。



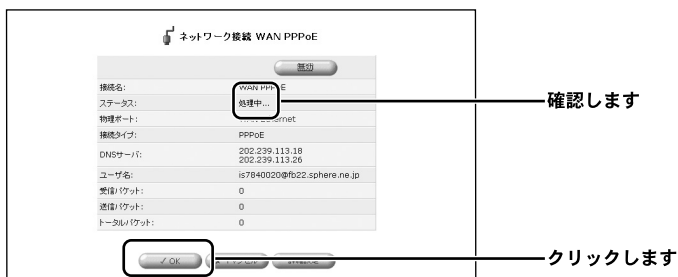
5. [IPアドレス] 欄にプロバイダからの情報をもとにIPアドレスを入力します。
 [LAN側グローバルネットワーク (Unnumbered接続)] 欄にプロバイダから割り当てられたネットワークアドレスとサブネットマスクを入力します。



6. [DNSサーバ] 欄から [DNSサーバを固定設定する] を選択し、プロバイダからの情報をもとにDNSサーバアドレスを入力します。[OK] ボタンをクリックします。



7. [ネットワーク接続 WAN PPPoE] の画面に戻ります。
[有効] ボタンをクリックし、[ステータス] 欄が [処理中] に切り替わったことを確認してください。[OK] ボタンをクリックします。

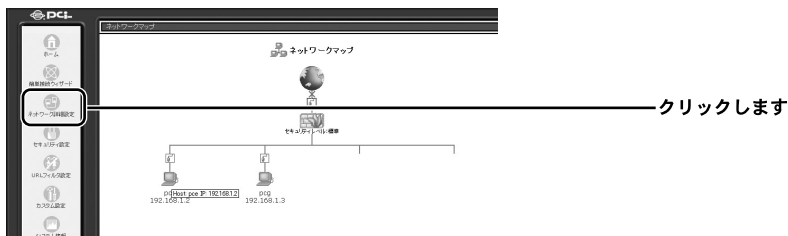


8. 以上でUnnumbered接続のWAN側の設定は終了です。
次にお使いのパソコンにグローバルIPアドレスを設定します。
「11 パソコンのIPアドレス設定」へお進みください。

10 PPPoE以外の接続でUnnumbered接続を設定する場合

ここでは、PPPoE以外の接続でUnnumbered接続を設定する場合の方法について説明します。

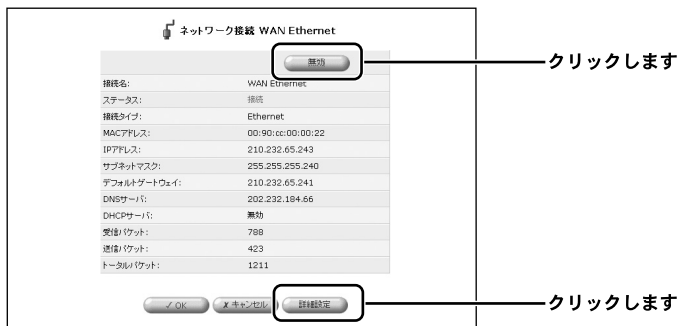
1. サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



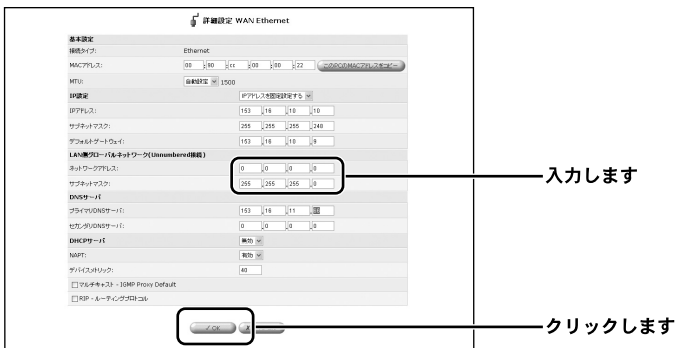
2. [ネットワーク詳細設定] の画面が表示されます。
[接続名] 欄から [WAN Ethernet] を選択し、修正ボタンをクリックします。



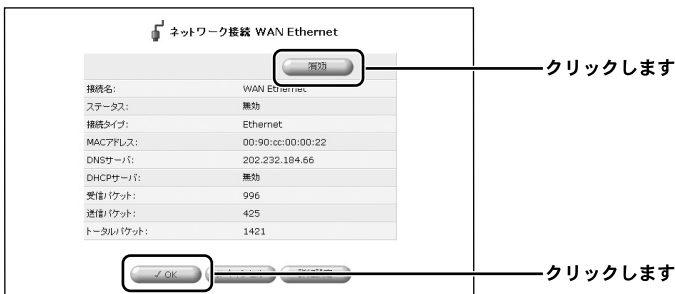
3. [ネットワーク接続 WAN Ethernet] の画面が表示されます。
回線が接続されてる場合は、[無効] ボタンをクリックし、回線をいったん切断します。[詳細設定] ボタンをクリックします。



4. [LAN側グローバルネットワーク (Unnumbered接続)] 欄にプロバイダから割り当てられたネットワークアドレスとサブネットマスクを入力します。
[OK] ボタンをクリックします。



5. [ネットワーク接続 WAN Ethernet] の画面に戻ります。
[有効] ボタンをクリックし、[ステータス] 欄が [処理] に切り替わったことを確認してください。[OK] ボタンをクリックします。

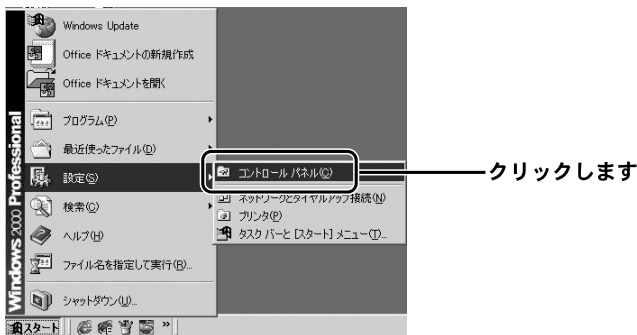


6. 以上でUnnumbered接続のWAN側の設定は終了です。
次にお使いのパソコンにグローバルIPアドレスを設定します。
「11.パソコンのIPアドレス設定」へお進みください。

9 パソコンのIPアドレス設定

ここでは、Windows® 2000を例にして、パソコンにグローバルIPアドレスを設定する方法について説明します。

1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル] をクリックします。



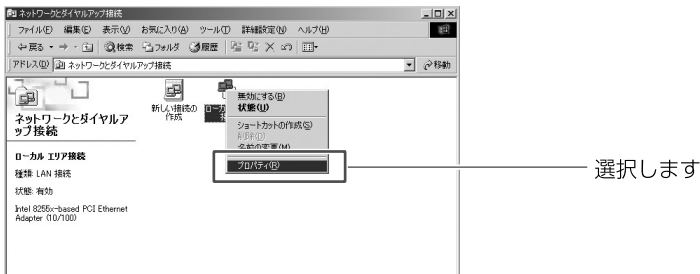
2. ネットワークとダイヤルアップ接続] をダブルクリックします。



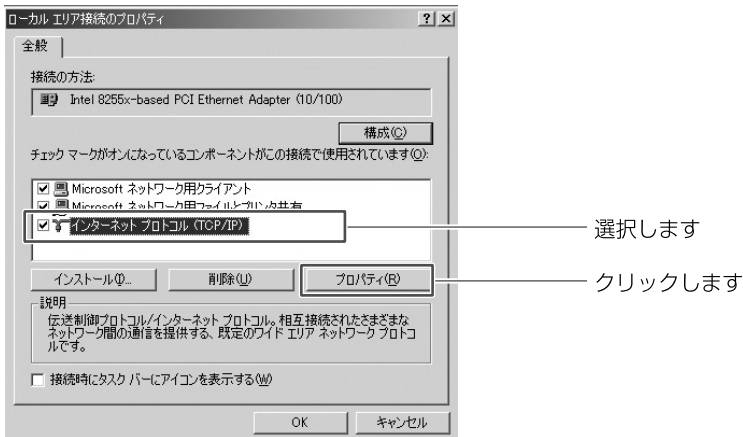
4

インターネットへの接続

3. [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択します。



4. [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

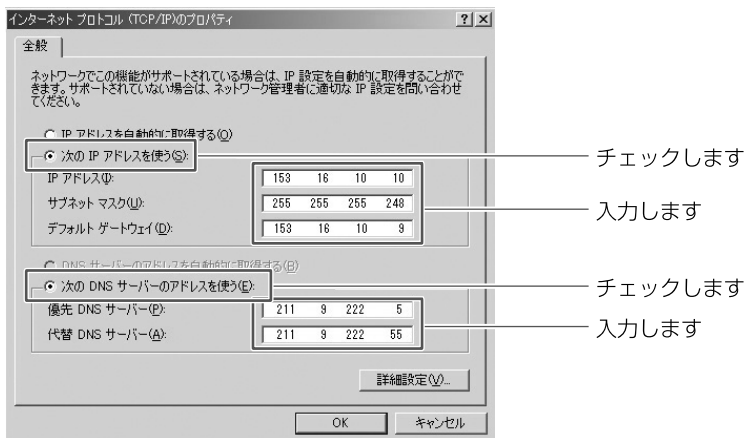


4

インターネットへの接続

5. [次のIPアドレスを使う]と[次のDNSサーバのアドレスを使う]にチェックを付けます。

プロバイダからの情報をもとに、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、優先DNSサーバ、代替DNSサーバを入力します。



※プロバイダからの設定資料にそって設定してください。

6. [OK] ボタンをクリックします。

7. 以上で設定は終了です。

ネットワークQ&A

1 ブロードバンドルータの色々な「？」について

インターネットの急速な普及により、ブロードバンドルータ（以下、BBルータ）を使用する場面が増えてきました。特に多く寄せられる、LAN全般や弊社製品を使用する際にぶつかる疑問点についていくつかまとめてみました。ネットワークはよく解らない…という方は是非ご一読ください。弊社製品に対する理解を深められることでしょう。

Q BBルータの設定は接続するコンピュータに対して全部で行うのですか？

A いいえ

複数台接続している環境であっても、いずれか1台のコンピュータからBBルータの設定を行うだけで完了します。

補足

設定作業を行った1台でBBルータを介してインターネットにアクセスできるようになっていれば、その時点でBBルータの設定は完了したことになります。他のコンピュータから同じように設定を行う必要はありません。

例えば、2台のコンピュータのうち、1台はインターネットにアクセスできるが、もう1台はアクセスできないという場合は、BBルータではなくコンピュータ側に問題があることが考えられます。

Q インターネットに接続できないのに、どうやって設定画面にアクセスするんですか？

A インターネットへの接続と関係なく、設定画面にアクセスできます。

設定画面はBBルータの中にあります。BBルータの中に設定用のホームページが存在しアクセスすることで、BBルータの設定を行っているのです。ですから、BBルータがインターネット（モデム）につながっていなくてもコンピュータは設定画面にアクセスすることができるのです。

Q 「ブラウザ」ってなんですか？

A インターネット上のホームページ等を見るためのソフトです。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープ」等が代表的なソフトになります。

補足

BBルータのマニュアルでは「インターネットエクスプローラ」の画面が使われているので「ネットスケープではどうやって設定するんですか？」という質問も寄せられますが、例えば「yahoo」のホームページが「インターネットエクスプローラ」でも「ネットスケープ」でも見ることができるよう、BBルータの設定画面も問題なく「ネットスケープ」で表示することができます。

Q IPアドレスってなんですか？

A TCP/IPプロトコルを使ったネットワークにおいて、コンピュータごとに割り当てられる個別の数字のことを言います。

数字がちょっと変わるだけでアクセスできなくなったりする厄介なイメージがあると思いますが、簡単に考えるなら「学校のクラスと出席番号」に置き換えて考えると判り易いかと思います。

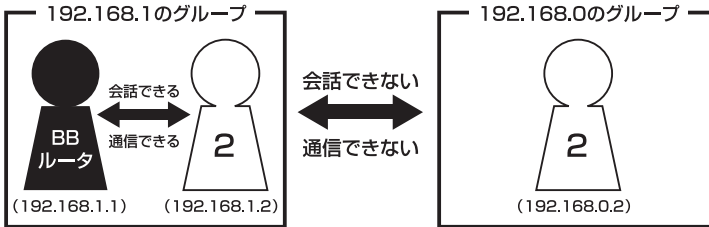
例えばA君とB君とC君がいて、A君とB君は「1-1」組でC君が「1-2」組の場合、A君とB君は同じ教室なのでいつでも話をすることができますが、C君は教室が別なのでA君達とは会えません。IPアドレスもほとんどそれと同じような理屈になっています。

実際のIPアドレスで例えるなら、BBルータのIPアドレスは出荷時には「192.168.1.1」というIPアドレスが設定されています。これは、BBルータ君は「192.168.1」組の出席番号「1」番という意味になります。このBBルータ君と話をするにはコンピュータも「192.168.1」組に入らないと教室が別になるので話ができません。

BBルータにアクセスするコンピュータのIPアドレスが「192.168.1.2」であれば「192.168.1」組の出席番号「2」番になるので、そのコンピュータはBBルータ君と話をすることができます。

もしコンピュータのIPアドレスが「192.168.0.2」だと、そのコンピュータは「192.168.0」組になるためBBルータ君とは教室が別になり、BBルータ君と話をすることができません。

つまり、BBルータにアクセスするにはコンピュータのIPアドレスが「192.168.1.**」という数字でなくてはならないのです。



上記の説明で「出席番号が同じになるとどうなるの?」という疑問を持った方もいると思います。

もし同じ出席番号の人が同じ教室に2人いたら混乱しますね? ネットワークもそれと同じで、IPアドレスは重複してはいけないようになっています。

同じ番号のコンピュータが存在した場合、「その番号を使っている人が他にいますよ」という内容の警告メッセージがコンピュータ上に表示されます。

ここまで読んでいただいた方はもうお判りだと思いますが、IPアドレス「AA.BB.CC.DD」の3つ目(CC)までがネットワークのグループを表していて、最後の数字(DD)がコンピュータごとに設定される個別の数字ということになります。

補足

厳密にはもっと色々なルールがあるのですが、BBルータの設定画面にアクセスするには少なくとも上記レベルのルールが判っていれば、トラブルに遭った時の対処や問題の切り分けに役立つかと思います。

2 設定画面

ここではBBルータの設定画面にうまくアクセスできない場合の主な確認点及び確認方法をまとめました。ご利用のコンピュータに該当する項目がないかチェックしてください。

Q 設定画面にアクセスできないのですが？

A LANランプ、IPアドレス、プロキシ、セキュリティソフトそれぞれの項目が正しく設定されていないとアクセスできません。もう一度設定を確認してみてください。

また、BBルータとの通信が正常に行われていない可能性もあります。これはpingというコマンドを使って確認することができます。

確認!

LANランプ

LANランプは点灯していますか？

コンピュータが接続されて正常に通信ができる状態になると「LINK」と言われるランプが点灯します。

BBルータには「LAN」「Link/Act」「LAN LINK」等の名称で呼ばれるランプがついていますので、そのランプが点灯しているか確認してください。（詳しくはマニュアル第1章 4の「各部の名称」をご覧ください）。

・点灯しない場合

ランプが点灯していない場合、BBルータとコンピュータは通信できる状態になっていませんので、設定画面にもアクセスできません。

いくつかの原因は考えられますが、まずはケーブルを交換してみてください。

正常にランプが点灯しているポートで使用中の、他のケーブルを使って接続してみてください。

ケーブル交換の後、正常にランプが点灯するようであれば、交換前に使用していたケーブルに問題がある（断線やクロスケーブルなど）ということになります。

IPアドレスが正しく取得できていますか？

アクセスできない場合は、取得しているIPアドレスを確認してください。BBルータには「192.168.1.1」というIPアドレスが出荷時に設定されており、BBルータにアクセスするにはコンピュータが「192.168.1.**」というIPアドレスを取得する必要があります(最後の「**」には任意の数字が入ります)。異なるIPアドレス(210.119.**.**等)を取得している場合はBBルータの設定画面にはアクセスできません。

・確認方法

主なOSでの確認方法は以下のようになりますので、取得しているIPアドレスの確認を行ってください。

Windows® 95/98/MEの場合：

1. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択、「名前」→「WINIPCFG」と入力→「OK」をクリックしてください。
2. 「IP設定」というウインドウが開きますので「アダプタアドレス」の上をご使用のLANカードに変更してください。
3. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください (**には任意の数字が入ります)。

Windows® 2000/XPの場合：

1. 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選択してください。
2. キーの入力待ちになりましたら「IPCONFIG」と入力し、Enterキーを押してください。
3. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください (**には任意の数字が入ります)。

Macintosh® の場合：

1. アップルメニューから「コントロールパネル」→「TCP/IP」を開いてください。
2. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください (**には任意の数字が入ります)。

・まったく違うIPアドレスを取得している場合（Windows® のみ）

確認したIPアドレスが「192.168.1.**」ではなく、まったく違うIPアドレスを取得している場合、以下の方法で取得しているIPアドレスを開放して、再度IPアドレスを取得しなおすことができます。

Windows® 95/98/MEの場合：

1. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択、「名前」→「WINIPCFG」と入力→「OK」をクリックしてください。
2. 「IP設定」というウインドウが開きますので「アダプタアドレス」の上をご使用のLANカードに変更→「すべて開放」ボタンをクリックしてください。
3. 「IPアドレス」が「0.0.0.0」になったのを確認してから「すべて書き換え」ボタンをクリックしてください。
4. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されていれば正しく取得できたこととなります（**には任意の数字が入ります）。

Windows® 2000/XPの場合：

1. 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選択してください。
2. キーの入力待ちになりましたら「IPCONFIG /RELEASE」と入力し、Enterキーを押してください。
3. 再度「IPCONFIG」と入力し、Enterキーを押してください。
4. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されていれば、正しく取得できたこととなります（**には任意の数字が入ります）。

BBルータと正常に通信していますか？

- ・ 接続確認方法（Windows® のみ）

BBルータと通信できているかどうかは「ping」というコマンドで確認することができます。

Windows® 95/98/98SEの場合：

1. 「スタート」→「プログラム」→「MS-DOSプロンプト」を選択、「MS-DOSプロンプト」のウィンドウが開きます。
2. ウィンドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。
3. 「Pinging 192.168.1.1 with」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。
「Reply from 192.168.1.1」というメッセージが返ってきていれば正常です。

Windows® MEの場合：

1. 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「MS-DOSプロンプト」を選択、「MS-DOSプロンプト」のウィンドウが開きます。
2. ウィンドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。
3. 「Pinging 192.168.1.1 with」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。「Reply from 192.168.1.1」というメッセージが返ってきていれば正常です。

Windows® 2000/XPの場合：

1. 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」を選択、「コマンドプロンプト」のウィンドウが開きます。
2. ウィンドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。
3. 「Pinging 192.168.1.1 with」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。「Reply from 192.168.1.1」というメッセージが返ってきていれば正常です。

・応答が「Request Timed Out」になる

「ping 192.168.1.1」と実行した時「Request Timed Out」と表示される場合は、IPアドレスが正しく取得できていないか、コンピュータのLANアダプタが正常に動作していない可能性が考えられます。

1. IPアドレスが正しく取得できているか確認してください。「IPアドレスが正しく取得できているか」に確認方法が記載されています。
2. LANアダプタが正常に動作しているか確認してください。確認方法はモデムに直接接続してインターネットにアクセスできれば正常です。



ブラウザのプロキシ (PROXY) 設定

不要な設定をしていませんか？

ブラウザのプロキシになんらかの設定が行われていると、アドレスに指定された所に接続する前に、プロキシで設定した所に接続しようとしてしまうため、設定画面にアクセスできない場合があります。その場合は以下のような手順でプロキシの設定を解除してください。

インターネットエクスプローラの場合 (5.0以降) :

1. メニューの「ツール」→「インターネットオプション」を選んでください。
2. 「接続」タブをクリック→「LANの設定」ボタンをクリックしてください。
3. 「自動設定」と「プロキシサーバ」のチェックボックスでチェックされている項目がありましたら、全ての項目のチェックを外してください。
4. 「OK」ボタンをクリック→「ローカルエリアネットワークの設定」ウインドウを閉じてください。
5. 再度「OK」ボタンをクリック→「インターネットオプション」ウインドウを閉じてください。
6. 一度インターネットエクスプローラを終了させてから再度起動し、再度BBルータの設定画面にアクセスできるか試してください。

ネットスケープの場合：

- 1.メニューの「編集」→「設定」を選択してください。
- 2.「詳細」→「プロキシ」を選択、「インターネットに直接接続する」をチェックしてください。
- 3.「OK」ボタンをクリック→ウインドウを閉じてください。
- 4.一度ネットスケープを終了させてから再度起動し、再度BBルータの設定画面にアクセスできるか試してください。

セキュリティ関連ソフトの影響

ウイルスバスターやノートンアンチウイルス等、最近のウイルスチェックソフトには簡易ファイアウォールという機能を搭載した物が増えています。

ファイアウォールはアクセス許可をしていないIPアドレスからのパケット(通信)を遮断したりする機能です。

有効になっていると稀にBBルータとの接続時にファイアウォール機能が働いて設定画面がうまく表示されない事や、設定内容を保存するとエラーになること等があります。

ウイルスチェックソフトやインターネットセキュリティソフトをご使用になられている場合は、それらのソフトを停止させてみてください。停止方法が判らない場合は、各ソフトウエアのマニュアルをご覧ください。

3 インターネットにアクセスできない

ここではBBルータの設定を行ってもインターネットへのアクセスができない場合の、主な確認点及び確認方法をまとめました。

接続方法別にまとめてありますので該当する項目がないかチェックしてください。設定画面にアクセスができない場合は、106ページ「設定画面にアクセスできないのですが?」をご覧ください。

共通項目 事前確認編

どの接続方法にも共通する、最初に確認すべき点です。

Q 設定画面ではすべて正しく設定できたのですが、なぜインターネットにアクセスできないのでしょうか？

A BBルータが正しく接続されていないと通信が行われないので、インターネットにはアクセスできません。以下を確認してください。



WANランプ

WANランプは点灯していますか？

BBルータとモデムを接続して正常に通信ができる状態になると、BBルータの「WAN」のランプが点灯します。

・点灯しない場合

「WAN」のランプが点灯しない場合は、モデムと正常に接続していないことを表しますので、その状態ではインターネットに接続することができません。

本製品は「auto-MDI/MDI-X」に対応しているため、ケーブルの種類（ストレート/クロス）の違いは関係なくなります。

ポートにケーブルのコネクタが正しく挿さっているか再度確認してください。

それでも、点灯しない場合は使用しているLANケーブルを変えてみる必要があります。

接続設定フレッツ編

ここではNTT提供のフレッツ・ADSL、Bフレッツ等のようなフレッツ接続ツールを利用してインターネットにアクセスする場合の、インターネット接続に関する主な確認点をまとめました。

接続ツール等を使わない場合は117ページ「接続設定ケーブルTV、Yahoo!BB編」をご覧ください。

Q インターネットへの接続や切断はどうするの？

A BBルータが回線の状態を検知し、自動的に接続・切断を行います。

NTT「フレッツ」を利用されているほとんどの方が、NTTのフレッツ接続ツールを使ってインターネットに接続し、アクセスをやめる時は切断処理をしていたと思いますが、「BBルータを使う場合はどうやって接続するの？」という疑問をもたれる方もいると思います。

BBルータ使用の場合、コンピュータがインターネットへ接続しようとする時、そのコンピュータはBBルータに接続のための信号を送信します。

BBルータはその信号を受信すると、回線が切断状態の時には自動的に接続を開始します。そして、一定時間インターネットへの接続が発生しない場合、自動的に切断を行うようになっています。

つまり、ユーザーは接続や切断を意識することなく、インターネットへアクセスできるのです。



注意

上記の動作は出荷時の設定で使用した場合になります。設定内容によっては上記のような動作にならない場合もありますのでご注意ください。

Q 今までフレッツ接続ツールを使っていたのですが、BBルータを設置した場合にインターネット接続する時の確認点はなんですか？

A ユーザID、パスワード、PPPoE設定・接続、接続ツールなどです。

ユーザID、パスワード

ユーザIDとパスワードに間違いはないですか？

フレッツ接続の場合、接続のためにユーザID（ログインID）とパスワード（ログインパスワード）をBBルータに設定しますが、その入力を間違えると正常に接続できません。

入力ミスは意外と多く、再度入力し直すと接続できることが度々ありますので、入力した内容に間違いがないか、今一度確認してください。

「1（いち）」⇔「l（エル）」、「0（ゼロ）」⇔「O（オー）」の間違いなど。

フレッツの場合は「@」以降の入力が必須です

フレッツ・ADSLやBフレッツの場合は、ユーザID（ログインID）やパスワード（ログインパスワード）の入力が必須です。

特に注意すべき点として、ユーザIDの設定ではご利用になるプロバイダごとに、ユーザIDの後ろに「@****.ne.jp」というような設定入力が必要です。

プロバイダからの接続資料にはユーザIDの表記で「@」以降の部分が記載されていない場合もあります。

その場合はNTTからのフレッツ接続資料の中に、プロバイダ別のドメイン名リストがありますので、そちらで「@」以降の表記をご確認ください。

PPPoE接続の結果を確認してください。

BBルータにより確認方法が異なってくるため詳細は割愛しますが、PPPoEの接続設定の後には接続確認が大抵の場合行われます。

「接続診断」という機能を持ったBBルータの場合は、その機能を使って接続結果が良好かどうかを確認してください。

設定の最後で自動的に接続し、その結果を画面上に表示するタイプのBBルータの場合、接続に成功したというメッセージが表示されるか確認してください。

・接続テストの結果、接続できなかったという場合

「PADI-TIMEOUT」や「サーバからの応答 NG」等になる時は、PPPoE設定の「ユーザID」の設定が正しくても接続できないことがあります。

その場合、モデム・BBルータ・コンピュータの電源をそれぞれ切り、電源を切ったままの状態です30～60分ほどそのままにしておいてください。

30～60分ほど経過しましたらモデム→BBルータ→コンピュータの順番に電源を入れてください。

フレッツ接続ツール

フレッツ接続ツールは使いません

BBルータを使用する場合は本編冒頭の「インターネットへの接続や切断はどうするの?」にも書きましたように、フレッツ接続ツールは使用しません。

もし現在、BBルータの設定後にフレッツ接続ツールを起動してインターネットへの接続をしている場合は、フレッツ接続ツールは使用せずにブラウザを起動して、インターネットに接続できるか確認してください。

正しく接続設定が行われていれば、フレッツ接続ツールを使用しないで接続できます。

・ PPPoE接続だけど接続ツールを使わない場合の設定は？

ADSL回線でPPPoE接続だが、モデムにコンピュータを接続してインターネットにアクセスする際、接続ツール等を使用しないという場合は、ご利用のモデムにBBルータ機能がついている可能性が考えられます。その場合は「PPPoE接続」ではありませんので、次項の「アッカやイー・アクセスをご利用の場合」を参考に設定を行ってください。

アッカやイー・アクセスをご利用の場合

アッカやイー・アクセスはADSL回線ですが、提供されているモデムにルータ機能がついています。複数のコンピュータで利用する場合は、ハブがあればアクセスできるため本来BBルータは必要ありません。

しかし、どうしてもBBルータを使用したいという場合は、BBルータのIPアドレスを変更することで利用可能になります。

BBルータのIPアドレスは本冊子の冒頭でも触れているように「192.168.1.1」になります。もし、ご利用のモデムも同じく「192.168.1.1」というIPアドレスを持っていて、しかも設定画面にアクセスした時にモデムの設定が行えるようだと、BBルータのWAN側とLAN側が同じようなアドレス（192.168.1.**）になってしまい、BBルータが混乱して正常な動作ができなくなります。

ハブではなくBBルータを使用したい場合はBBルータのLAN側のIPアドレスを、「192.168.2.**」等のようにWAN側のIPとは別のアドレスに変更すれば、接続できるようになります。

接続設定ケーブルTV、Yahoo!® BB編

Q ケーブルTVインターネットやYahoo!® BBを利用した場合に、インターネット接続する時の確認点はなんですか？

A IPアドレスの取得、ケーブルTVインターネットの場合はケーブルの接続方法にもご注意ください。

IPアドレスの取得

・ケーブルTVやYahoo!® BBをご利用の場合

ケーブルTVやYahoo!® BBを利用する場合は「通常接続（DHCP接続）」という方式で接続を行います。

各BBルータのマニュアルをご覧くださいと判るかと思いますが、この場合設定らしい設定はほとんど必要ありません。

インターネットに接続するには、BBルータがプロバイダからIPアドレスを取得しなければいけませんので、BBルータのWAN側ポートにIPアドレスが表示されているか確認してください。

確認方法はBBルータによって画面が異なりますので詳細は割愛しますが、「ステータス表示」や「アカウント管理」の画面で確認することができます。

ケーブルの接続

・WAN側ポートにIPアドレスが割り当てられない時

ケーブルTV等を利用したPPPoE以外のインターネット接続方法の場合、BBルータを接続する前まではコンピュータをモデムに接続して利用していることが多いと思います。

ケーブルをモデムから外してそのままBBルータに接続してしまうと、本来BBルータに割り当てられるはずのIPアドレスをコンピュータが持ったままになってしまい、BBルータがモデムからIPアドレスを正しく取得できないことがあります。

その場合はコンピュータを再度モデムに接続しなおしていただき、一度コンピュータを終了させる処理を行ってください。

モデム接続後にコンピュータを終了させれば、通常は取得したIPアドレスは開放されます。コンピュータの電源が切れたらモデムとBBルータを接続し、モデム→BBルータ→コンピュータの順番に電源を入れてください。

・それでも接続できない場合

モデムにコンピュータを接続した後、一旦終了させてからモデムとBBルータを接続し、電源を入れなおしてもインターネットに接続できない場合は、モデム・BBルータ・コンピュータの電源をそれぞれ切り、電源を切ったままの状態でも60分ほどそのままにしておいてください。

モデムを含めた全ての機器の電源を長時間切ることによって、プロバイダ側のサーバが記憶している情報が削除されて、初めて接続した時のような状態で接続することができます。60分ほど経過しましたらモデム→BBルータ→コンピュータの順番に電源を入れてください。

共通項目 最終確認編

どの接続方法にも共通する、最後に確認すべき点です。

Q 事前確認、接続設定と確認して問題がなかったのですが、それでもアクセスできません。ほかに確認点はありますか？

A コンピュータのIPアドレスが自動取得である事と、DNSサーバアドレスの設定を再確認してください。



自動取得

コンピュータのIPアドレスは自動取得になっていますか？

コンピュータのIPアドレスを手動で設定する場合、正しく設定されていないと設定画面にはアクセスできてもインターネットにアクセスできないことがあります。

手動設定の場合の注意点は次ページ「IPアドレスを手動で設定する場合の注意点とは？」を参照していただき、コンピュータのIPアドレスが正しく自動取得になっているか、マニュアルを再度確認してください。



DNSサーバアドレス

IPアドレスでホームページにアクセスしてみてください。

ブラウザのアドレスに「http://210.197.75.205」と入力してEnterキーを押していただき、弊社（プラネックス）のホームページが表示されるか確認してください。

「http://210.197.75.205」だとアクセスできて「http://www.planex.co.jp」だとアクセスできない場合は、DNSサーバアドレスが正しく設定できていない可能性が考えられます。次ページ「IPアドレスを手動で設定する場合の注意点とは？」を参考に設定を行ってください。

4 その他 よくあるお問い合わせについて

ここでは、多数寄せられる質問について、いくつかまとめてみました。

Q IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は？

A IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバアドレスが正しく設定されているか再確認してください。

IPアドレスの基本的なルールは冒頭の「IPアドレスってなんですか？」の中で触れていますが、設定画面にアクセスする場合に必要な最低限の説明だけなので、インターネットに接続する場合の設定については不十分になっています。手動でIPアドレスを設定する場合の注意点は以下のようになります。

IPアドレス：

IPアドレスの設定については104ページ「IPアドレスってなんですか？」をご覧ください。

サブネットマスク：

通常は「255.255.255.0」と指定してください。

デフォルトゲートウェイ：

(Mac® OSでは「ルータアドレス」と言います)

BBルータのIPアドレスが入ります。出荷時の設定は「192.168.1.1」になります。ここが正しく設定されていないとインターネットには接続できません。

DNSサーバアドレス：

(Mac® OSでは「ネームサーバアドレス」と言います)

ご利用になっているプロバイダのDNSサーバアドレスを入力してください。

BBルータによっては「デフォルトゲートウェイ」と同じIPアドレスで問題ない場合もありますが、判らない場合はプロバイダ指定のDNSサーバアドレスを設定するのが確実です。

ここが正しく設定されていないと「www.planex.co.jp」という名前(ドメイン名)でホームページにアクセスできなくなります。

Q BBルータに接続しているコンピュータ同士の通信ができません。

A pingを打って通信確認ができれば、BBルータの問題ではありません。OS側の設定の問題だと思われます。

インターネットへの接続は問題ないのに、コンピュータ同士のファイル共有等ができないという問い合わせも良く寄せられます。コンピュータ同士のLAN接続について、基本的にBBルータは関与しておりません。

BBルータの通信確認

コンピュータ同士が本当にアクセスできていないのか確認する方法として、106ページ「設定画面にアクセスできないのですが？」の中に、取得しているIPアドレスを確認する方法と、指定のIPアドレスにpingを打つ方法を紹介していますので、そちらを参考にそれぞれのコンピュータが取得しているIPアドレスを確認して、相手のコンピュータに対してpingを打ってみてください。

「Reply from・・・」が帰ってくればコンピュータ同士の接続は問題なくできていることとなりますので、ファイル共有等ができないのはBBルータの問題ではなくOS側の設定の問題ということになります。

OS側の要因

pingの結果が「Request timed out」だったり、pingが通っても接続できない場合に考えられる一つの要因として、ファイヤウォールソフトの存在が挙げられます。ウイルスチェックソフトやインターネットセキュリティのソフトには、簡易ファイヤウォール機能を有している物があります。

使用しているコンピュータにそれらのソフトをインストールしている場合、ファイヤウォールが有効になっていると、たとえ自宅の中の同じネットワーク上のコンピュータであっても、ファイヤウォールから見ると第三者がそのコンピュータにアクセスしているように映るため、アクセスされないように遮断してしまいます。

該当するようなソフトを利用されている場合は、それらのソフトを停止させた状態で再度pingコマンドを打ち、通信状態を確認してみてください。

停止させるとpingが通るような場合は、それらソフトのファイヤウォールに他のコンピュータのIPアドレスを設定し、信頼するコンピュータとして認識させることで、ファイヤウォールを有効にしながらファイル共有ができるようになります。

**Q コンピュータの電源をOFFにしたのに、BBルータのLANのランプが
いたままですが故障でしょうか？**

A 故障ではありません。「Wake On Lan」機能によるものです。

最近のLANアダプタには「Wake On Lan（以下WOL）」という、他のコンピュータから電源をON/OFF操作するための機能がついている物が多くなっています。

「WOL」に対応したLANアダプタでその機能が有効になっている場合、電源ONの信号を受信できるように待機状態になっている必要があるため、コンピュータ自体の電源はOFFになっていても、LANアダプタはBBルータのハブとLINKした（LANのランプが点灯した）状態になります。つまりBBルータ側ではどうすることもできません。

消えるようにするには「WOL」の機能をOFFにする必要がありますので、ご使用のLANアダプタのメーカーか、あるいは標準でコンピュータに搭載されているLANアダプタの場合はコンピュータメーカーに機能を無効にする手順をお問い合わせください。

設置環境への注意

ワイヤレスLANはケーブルの配線や工事等が必要ないため誰でも簡単に使用することが可能ですが設置場所または通信したい端末との間に以下の物質を使用した遮蔽物がある場合は、転送速度の低下あるいは通信出来ないなどの問題が生じます。安定した通信をおこなうには出来る限りこれらの環境要因を避けて設置してください。

環境要因	転送距離への影響 (*が多いほど、影響が大きいことを表します。)	具体例
空気	*	—
木材	**	木材の仕切り
石膏	**	仕切り壁
合成素材	**	ベニヤ板の仕切り
アスベスト	**	天井
ガラス	**	窓ガラス
水	***	湿った木材
煉瓦	***	煉瓦壁
大理石	****	石壁
セメント コンクリート	****	床、壁
防弾ガラス	****	哨舎
鉄	*****	鉄の仕切り 強化コンクリート壁

仕様

項目		説明
品名		マルチユース ワイヤレス VPN ルータ
型番		BRC-W14V
ネットワーク ポート構成	WAN側ポート	10/100BASE-TX自動認識ポート×1 (RJ-45コネクタ) IEEE802.3、IEEE802.3u、AutoMDI/MDI-X対応
	LAN側ポート	10/100BASE-TX自動認識ポート×4 (RJ-45コネクタ) IEEE802.3、IEEE802.3u、AutoMDI/MDI-X対応
無線	サポート規格	IEEE802.11b ARIB STD-T66 IEEE802.11g ARIB STD-T66
	周波数帯域	2.4～2.497GHz
	伝送方式	OFDM (直行周波数分割多重変調方式) DS-SS (直接拡散型スペクトラム拡散方式)
	チャンネル	1～13ch
	データ通信 速度	IEEE802.11b:11.5,5.2,1Mbps IEEE802.11g:54,48,36,24,18,12,9.6Mbps自動認識
	アンテナ方式	ダイポールアンテナ
USBポート		USB2.0 ×2 (タイプAコネクタ)、NAS・WEBカメラ対応
赤外線ポート		IrDA (サポート予定)
LED		Power (1)、Status (1)、Link/Act (4)、10/100M (4) WAN (1)、PPPoE (1)、WLAN (1)
操作部	スイッチ	リポートおよび設定初期化用スイッチ (1)
入力電源		電源アダプタ使用 AC 100-120 V 50 / 60 Hz
消費電力		最大9W
動作環境		周囲温度:0～40℃ 湿度 :35～80% (結露しないこと)
外形寸法		約32 (W) ×約180 (H) ×約150 (D) mm (アンテナ部除く本体のみ)
重量		約370g (本体のみ)
EMI		VCCI Class B

ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ユーザー登録を行って戴いたお客様の中から毎月抽選でプレゼントを差し上げております。

<http://www.planex.co.jp/user/>

弊社へのお問い合わせ

■弊社製品の追加購入

弊社製品のご購入は、販売店様またはPCIダイレクトまで。

ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。

〈PCIダイレクト〉

<http://direct.planex.co.jp/>

■製品に関するお問い合わせ

製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。

ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。

〈ご質問/お見積もりフォーム〉

<http://www.planex.co.jp/lan.shtml>

■技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ

製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。

〈お問い合わせフォーム〉

<http://www.planex.co.jp/support/techform/>

受付：24時間

〈電話〉

フリーダイヤル：0120-415977

受付：月～金曜日、10～12時、13～17時

* 祝祭日および弊社指定の休業日を除く

〈FAX〉

ファクス番号：03-5614-1018

受付：24時間

◇お問い合わせ前のごお願い

サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。

お客様のご協力をお願いいたします。

- ・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
- ・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名 (Windows XP/Meなど)
- ・ご利用のネットワークの環境 (回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など)
- ・ご質問内容 (現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されている場合はその詳細を書きとめてください)

■その他

その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。

プラネックスコミュニケーションズ

<http://www.planex.co.jp/>

質問表

技術的なご質問は、この2ページをコピーして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

ブラネックスコミュニケーションズ テクニカルサポート担当 行

FAX : 03-5614-1018

送信日 : _____

会社名			
部署名			
名前			
電 話		F A X	
E-MAIL			

製品名 Product name	マルチユース ワイヤレス VPNルータ
型番 Product No.	BRC-W14V
製造番号 Serial No.	

① ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

② ソフトウェア

ネットワーク OS	バージョン
OS	バージョン

保証規定

ブラネックスコミュニケーションズ(株)は、本製品についてご購入日より本保証書に記載の保証期間を設けております。

本製品付属の取扱説明書などに従った正常な使用状態の下で、万一保証期間内に故障・不具合が発生した場合、本保証規定に基づき無償修理・交換対応を行います。

ただし、次のような場合には保証期間内であっても有償修理となります。

1. 本保証書がない場合。
2. 本保証書に、ご購入日・お名前・ご購入代理店印の記入がない場合、または字句が改ざんされている場合。
3. 取扱上の誤り、または不当な改造や修理を原因とする故障及び損傷。
4. ご購入後の輸送・移動・落下による故障及び損傷。
5. 火災、地震、落雷、風水害、ガス害、塩害、異常電圧およびその他の天変地異など、外部に原因がある故障および損傷。
6. 他の機器との接続に起因する故障・損傷。

初期不良交換

保証期間発生日より1ヶ月以内の故障に関しては、初期不良交換サービスの対象となります。

お客様より初期不良である旨申告していただき、弊社がその申告現象を確認した場合に限り、初期不良品として新品と交換いたします。

ただし、検査の結果、動作環境や相性を起因とする不具合であった場合には、初期不良交換サービス対象とはなりません。また、当サービスをご利用頂くには、お買い上げ商品の全ての付属品が揃っていることが条件になります。

◎初期不良・修理依頼の手順(センドバック方式)

弊社では、センドバック(先に修理依頼品をお送りいただき、弊社より修理完了品をご返却する)方式による修理対応を行っております。

1. 本製品に故障・不具合が発生した場合、弊社サポートセンターまでご連絡ください。お送り先をご案内させていただきます。

ブラネックスコミュニケーションズ(株) サポートセンター

フリーダイヤル・0120-415977 FAX・03-5614-1018

Web・<http://www.planex.co.jp/support/repair/>

2. ご案内に従って、修理依頼品を弊社リペアセンターまでお送りください。
(誠に勝手ながら、リペアセンターへお送りいただく際の送料はお客様のご負担をお願いいたします。)
3. 当該初期不良・修理品の到着後、初期不良の場合は交換品、修理の場合は修理完了品をお送りいたします。

免責事項

- ・お客様及び第三者の故意または過失と認められる本製品の故障・不具合の発生につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品の使用及び不具合の発生によって、二次的に発生した損害(事業の中断及び事業利益の損失、記憶装置の内容の変化、消失等)につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品に装着することにより他の機器に生じた故障・損傷について、弊社では本製品以外についての修理費等は一切保証致しません。

保証書

●弊社の保証規定を必ずご覧下さい●

保証期間 Warranty	西暦 年 月 日 より 1年間
製品名 Product name	マルチユース ワイヤレス VPNルータ
型番 Product No.	BRC-W14V
製造番号 Serial No.	

フリガナ	
会社名	
部署名	
フリガナ	
お名前	
フリガナ	
ご住所	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 都 道 府 県
TEL	
FAX	
メールアドレス	

ご購入代理店名 所在地	
----------------	--

※本保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.

プラネックスコミュニケーションズ株式会社

機能詳細編

LAN側の設定	1
セキュリティの設定	45
LAN側パソコンサーバ公開設定	98
VPNの設定	126
オプション設定	157
保守・管理	166

LAN 側の設定

ここでは、主に本製品のLAN側の設定について解説します。

IP アドレスの設定

本製品のLAN側ポートのIPアドレスを確認・変更する方法を解説します。

! ご注意

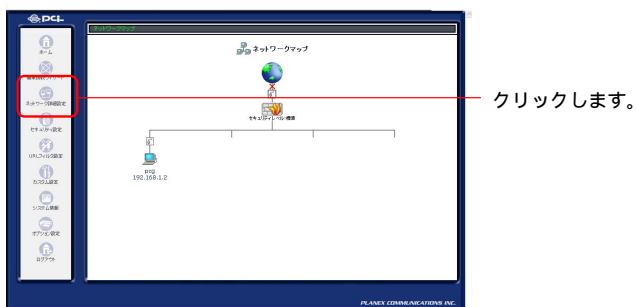
本製品のIPアドレスを変更する場合は、誤ったIPアドレスを設定することのないようご注意ください。誤ったIPアドレスを設定すると、インターネットに接続できなくなるなどのトラブルになることがあります。

LAN 側ポートの IP アドレスを確認・変更する

購入時の状態では、本製品の LAN 側ポートの IP アドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

すでに LAN が構築されている環境に本製品を導入した場合などで、本製品の LAN 側ポートの IP アドレスを変更する必要があるときは、次の手順で行います。

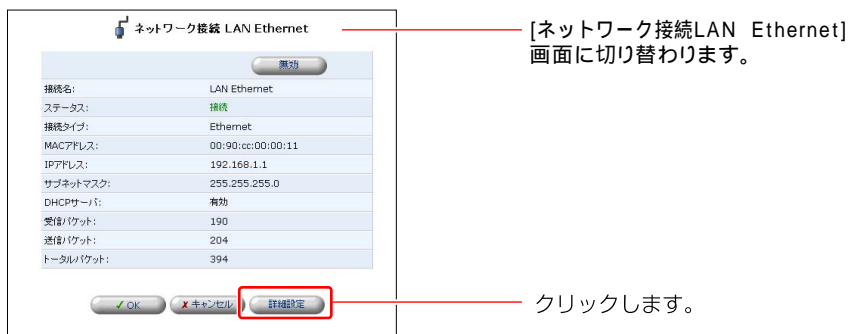
- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



- 2 [LAN Ethernet] の、修正ボタンをクリックします。



- 3 [詳細設定] ボタンをクリックします。



- 4 本製品のLAN側ポートのIPアドレスは「IP設定」欄に表示されます。IPアドレスを変更するときは、必要に応じて各項目を設定します。

詳細設定 LAN Ethernet	
詳細設定	Ethernet
MACアドレス	00 00 0e 00 00 01
MTU	自動設定 (0) 1500
IP設定	[IPアドレスを設定してください。]
IPアドレス	192 168 1 1
サブネットマスク	255 255 255 0
DHCPサーバ	無効 (0)
数値で指定するIPアドレス	192 168 1 1
数値で指定するサブネットマスク	192 168 1 254
サブネットマスク	255 255 255 0
WebサーバのIPアドレス	0 0 0 0
ポート番号	80
ポートタイプ	HTTP
ポート番号	80
プロキシサーバ	なし (0)
プロキシサーバ	なし (0)
プロキシサーバ	なし (0)
プロキシサーバ	なし (0)

[詳細設定 LAN Ethernet] 画面に切り替わります。

必要に応じて各項目を設定します。

- 5 画面の一番下にある [OK] ボタンをクリックし、[ネットワーク接続 LAN Ethernet] 画面に戻ります。

[OK] ボタンをクリックして [注意] 画面に切り替わる場合には、その内容をご確認の上、さらに [OK] ボタンをクリックして [ネットワーク接続 LAN Ethernet] 画面に戻ってください。

- 6 [OK] ボタンをクリックし、[ネットワーク詳細設定] 画面に戻ります。

WEBブラウザで本製品のIPアドレスを指定して設定ページにアクセスしていた場合、続いて別の設定を行いたいときは、変更後のIPアドレスでアクセスし直してください。

MEMO

LAN側のIPアドレスを変更したとき

LAN側のIPアドレスやサブネットマスクを変更したときは、変更後の内容に合わせて [DHCPサーバ] の設定も変更してください。

LAN内で起動しているパソコンがあるとき

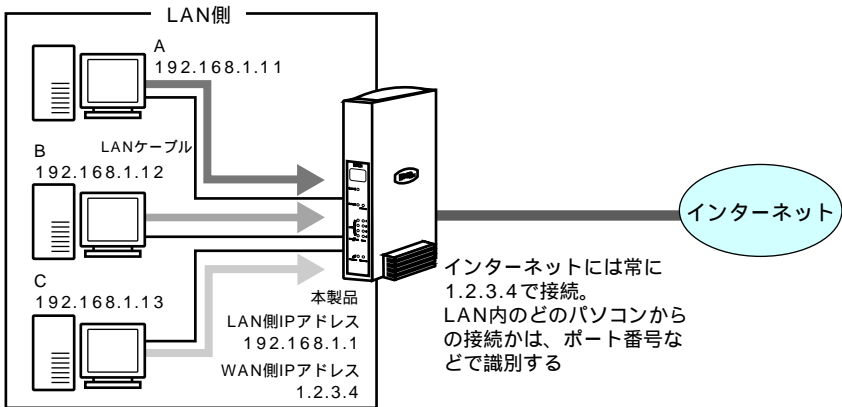
本製品のLAN側ポートのIPアドレスを変更するときに、LAN内で起動しているパソコンがある場合は、本製品のIPアドレスを変更した後でIPアドレスを再取得してください。

NAPT (IP マスカレード)

本製品では、ルーティングのモードとしてNAPTに対応しています。

複数のプライベートIPアドレスを1つのグローバルIPアドレスに変換する機能で、IP マスカレードとも呼ばれます。LAN側にプライベートIPアドレスを割り当てたパソコンが複数台あり、1つのグローバルIPアドレスでインターネットに接続する運用形態のときは、NAPTを使用します。

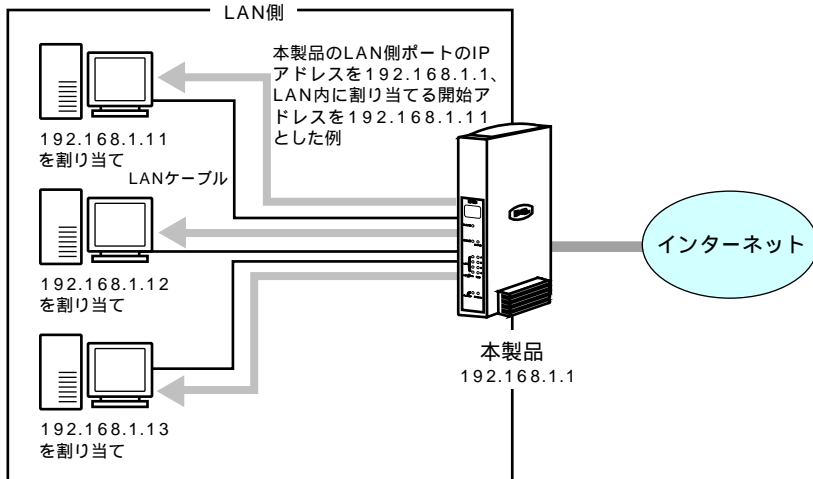
NAPTを使用した場合、LAN内で割り当てられている複数のプライベートIPアドレスが、インターネットへの接続時に1つのグローバルIPアドレスに変換されます。さらに、ポート番号も変換されます。インターネット側からは、常に1台のパソコンがインターネットに接続しているように見えます。



NAPT機能を利用するための設定は必要はありません。本製品の運用を開始すると、自動的にNAPT機能は有効になります。

DHCP サーバ設定

DHCP サーバ機能を利用すると、LAN 内のパソコンやネットワーク機器が LAN に接続されるたびに、他のどれとも重複しない IP アドレスを自動で割り当てることができます。



本製品の DHCP サーバ機能は、特定のパソコンに常に固定の IP アドレスを割り当てることもできます。

また固定の IP アドレスの割り当てと、動的な IP アドレスの割り当ての両方を設定することもできます。

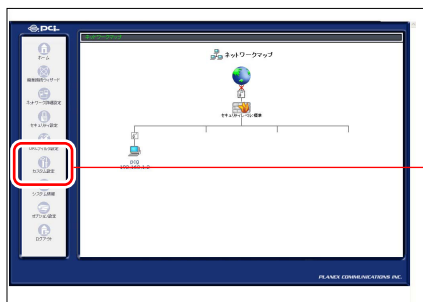
! ご注意

- ・ 本製品の DHCP サーバ機能はデフォルトで有効になっています。
- ・ DHCP サーバ機能を使用しないときは、LAN 側に接続されているパソコンすべてに、手動で IP アドレスを割り当ててください。
- ・ パソコンに手動で IP アドレスを設定した場合、そのパソコンのホスト名や IP アドレスを本製品で管理することはできません。

DHCP サーバの基本設定

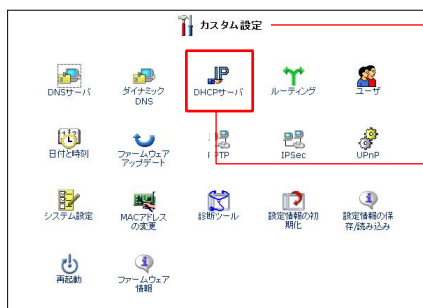
ここでは、DHCP サーバの基本的な設定について説明します

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

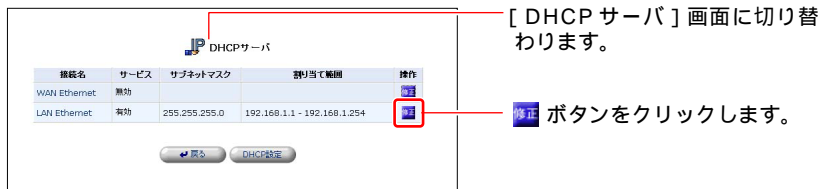
- 2 [DHCPサーバ]アイコンをクリックします。



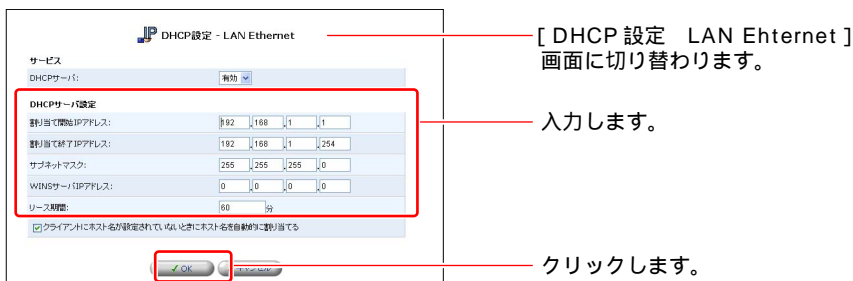
[カスタム設定]画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 現在の DHCP サーバのサブネット、IP アドレスの割り当て範囲が表示されます。設定を変更する場合は、修正ボタンをクリックします。



- 4 [DHCP 設定 LAN Ethernet]の画面が表示されます。割り当てる IP アドレスの範囲、サブネットマスク、リース期間を設定し、[OK]ボタンをクリックします。



[有効]

DHCP サーバ機能を有効にします。

[割り当て開始アドレス]

割り当てる IP アドレスの、開始アドレスを入力します。

[割り当て終了アドレス]

割り当てる IP アドレスの、終了アドレスを入力します。

[割り当てサブネットマスク]

割り当てるサブネットマスクを入力します。

[WINS サーバ]

WINS サーバを使用してる場合は、サーバアドレスを入力します。

[リース期間(分)]

割り当てる IP アドレスの有効期限を分単位で入力します。

[クライアントにホスト名が設定されていないときにホスト名を自動的に割り当てる]

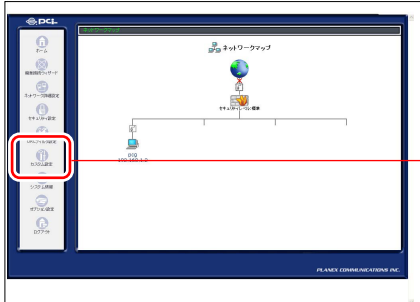
接続されているパソコンまたはネットワーク機器にホスト名が設定されていない場合自動的にホスト名が設定されます。

- 5 [OK]ボタンをクリックし、[DHCPサーバ]画面に戻ります。
- 6 以上で設定は終了です。

DHCP サーバから固定のIPアドレスを割り当てる

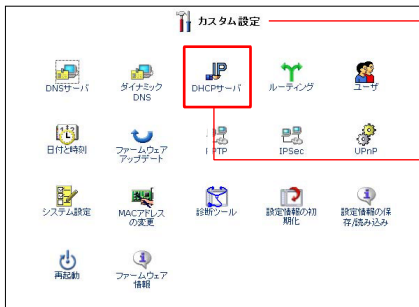
ここでは、特定のパソコンやネットワーク機器にDHCPサーバから常に固定のIPアドレスを割り当てる方法について説明します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [DHCPサーバ]アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 [DHCP 設定]ボタンをクリックします。

[DHCP サーバ] 画面に切り替わります。

接続名	サービス	サブネットワーク	割り当て範囲	操作
WAN Ethernet	有効			[設定]
LAN Ethernet	有効	255.255.255.0	192.168.1.1 - 192.168.1.254	[設定]

戻る DHCP設定

クリックします。

4 [固定 IP 割り当ての追加]欄から追加ボタンをクリックします。

[DHCP 設定] 画面に切り替わります。

ホスト名	IPアドレス	MACアドレス	タイプ	接続名	ステータス	リース期間	操作
PC1	192.168.1.2	00:50:56:14:aa:01	静的	LAN Ethernet	有効	43 分	[設定] [削除] [追加]
固定IP割り当ての追加							[追加]

戻る

追加 ボタンをクリックします。

5 追加したいパソコンやネットワーク機器のホスト名、IP アドレス、MAC アドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

入力します。

クリックします。

ホスト名:

IPアドレス:

MACアドレス:

OK キャンセル

[ホスト名]

パソコンまたはネットワーク機器のホスト名を入力します。半角英数字を使用し、1～63文字の範囲で入力してください。

[IPアドレス]

パソコンまたはネットワーク機器に割り当てるIPアドレスを入力します。

[MACアドレス]

IPアドレスを割り当てるパソコンまたはネットワーク機器のMACアドレスを入力します。

6 追加したホストが[DHCP設定]画面に表示されているのを確認します。



ホスト名	IPアドレス	MACアドレス	タイプ	接続名	ステータス	リース期間	操作
PC1	192.168.1.2	00:50:5F:14:ea:01	静的	LAN Ethernet	接続	30分	[ON] [OFF] [削除]
PC2	192.168.1.10	00:50:5F:14:ea:02	固定	LAN Ethernet	接続	60分	[ON] [OFF] [削除]
設定(登録)当ての 追加							[ON] [OFF] [削除]

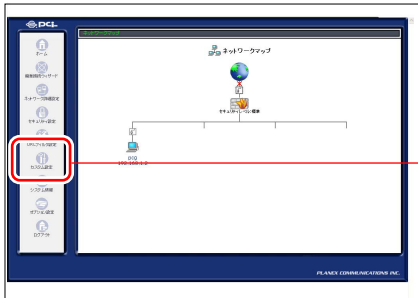
確認します。

7 以上で設定は終了です。

IP アドレスの修正

ここでは、既にDHCPサーバから自動的にIPアドレスが割り当てられているパソコンまたはネットワーク機器の設定を変更する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [DHCPサーバ]アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 [DHCP 設定]ボタンをクリックします。



[DHCP サーバ] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 設定を変更したいホストの修正ボタンをクリックします。



[DHCP 設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

5 [固定割り当て]にチェックを付け、[OK]ボタンをクリックします。



チェックします。

クリックします。

6 タイプが [固定割り当て] になっているのを確認し、ホストの修正ボタンをクリックします。



確認します。

修正 ボタンをクリックします。

- 7 IPアドレスを固定で割り当てたり、ホスト名、MACアドレスの修正を行うことができます。

DHCP設定

ホスト名: prg

IPアドレス: 192.168.1.2

MACアドレス: 00:50:bf:14:ea:01

固定IP割当て

OK キャンセル

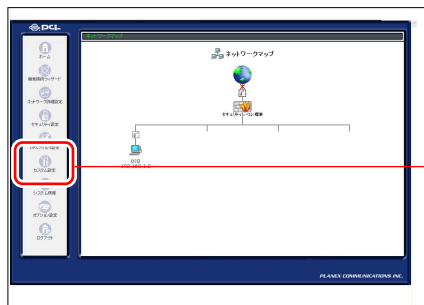
- 8 [OK]ボタンをクリックし、[DHCP設定]画面に戻ります。

- 9 以上で設定は終了です。

IP アドレスの削除

ここでは、登録済みの IP アドレスとホスト名の対応を削除する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]をクリックします。



クリックします。

- 2 [DHCPサーバ]をクリックします。



[カスタム設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 [DHCP 設定]ボタンをクリックします。

接続名	サービス	サブネットマスク	割り当て範囲	操作
WAN Ethernet	無効			設定
LAN Ethernet	有効	255.255.255.0	192.168.1.1 - 192.168.1.254	設定

戻る DHCP設定

[DHCP サーバ] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 削除したいホストの削除ボタンをクリックします。

ホスト名	IPアドレス	MACアドレス	タイプ	接続名	ステータス	リリース期間	操作
p09	192.168.1.2	00:50:5f:14:ea:01	静的	LAN Ethernet	接続	43分	削除

戻る 削除

[DHCP 設定] 画面に切り替わります。

削除 ボタンをクリックします。

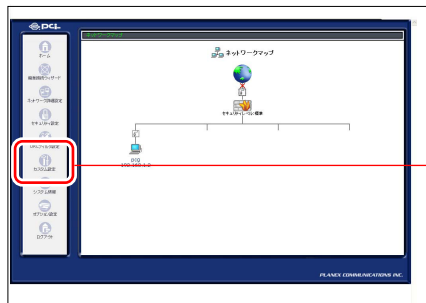
5 [戻る]ボタンをクリックし、[DHCP サーバ]画面に戻ります。

6 以上で設定は終了です。

DHCP サーバ機能の有効/無効を設定する

ここでは、DHCP サーバ機能の有効/無効を設定する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]をクリックします。



クリックします。

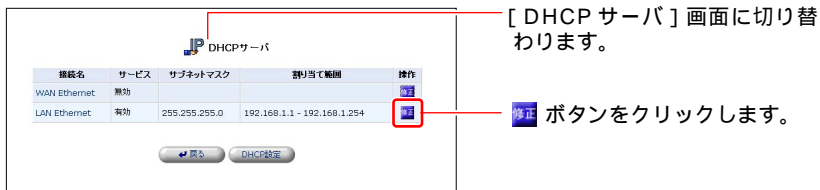
- 2 [DHCPサーバ]をクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 現在の DHCP サーバのサブネット、IP アドレスの割り当て範囲が表示されます。設定を変更する場合は、修正ボタンをクリックします。



- 4 [DHCP サーバ] 欄から [有効] または [無効] を選択します。



! ご注意

- ・ DHCP サーバ機能を無効にした場合は、本製品の LAN 側に接続されているパソコンまたはネットワーク機器に、手動で IP アドレスを設定してください。

- 5 [OK] ボタンをクリックし、[DHCP サーバ] 画面に戻ります。

[OK] ボタンをクリックして [注意] 画面に切り替わる場合には、その内容をご確認の上、さらに [OK] ボタンをクリックして [DHCP サーバ] 画面に戻ってください。

- 6 以上で設定は終了です。

DNS サーバ設定

本製品の DNS サーバは、LAN 内のパソコンやネットワーク機器のホスト名と IP アドレスの対応を管理しています。

DNS サーバは DHCP サーバと同じの対応表を参照しています。DHCP サーバの設定時にホスト名を登録しておく、他に特別な設定をせずに、ホスト名および対応する IP アドレスが DNS サーバで管理されます。

ご注意

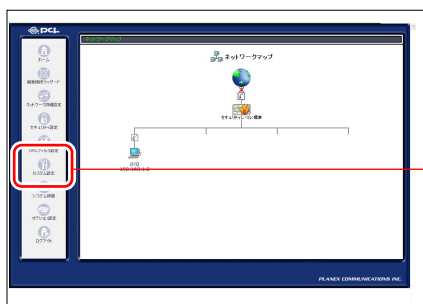
- ・ 本製品の DNS サーバは、LAN 内のドメイン名と IP アドレスの対応だけを管理しています。
- ・ インターネット上のドメイン名を指定した通信では、本製品の「プロキシ DNS」機能が使用されます。

DHCP サーバによるホスト名とIPアドレスの確認

本製品のDNSサーバはDHCPサーバと同じ対応表を参照しています。
DHCPサーバでホスト名とIPアドレスを登録した場合は、DNSサーバにも反映されます。

ここでは、DHCPサーバ機能で自動登録されたホスト名とIPアドレスを確認します

- 1 サイドバーから[カスタム設定]をクリックします。



クリックします。


- 2 [DHCPサーバ]をクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 [DHCP 設定]アイコンをクリックします。



[DHCP サーバ] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 DHCP サーバ機能により、本製品に登録されてるホスト名とそのIP アドレスが表示されます。




[DHCP 設定] 画面に切り替わります。

表示されます。

5 [戻る]ボタンをクリックし、[DHCPサーバ]画面に戻ります。

6 [戻る]ボタンをクリックし、[カスタム設定]画面に戻ります。


7 [DNS サーバ]アイコンをクリックします。





[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

8 本製品の DNS サーバに登録されてるホスト名と IP アドレスが表示されます。



The screenshot shows a web interface for DNS server management. At the top, there is a header with a server icon and the text "DNSサーバ". Below this is a table with three columns: "ホスト名" (Hostname), "IPアドレス" (IP Address), and "操作" (Action). The table contains one entry with the hostname "pcg" and IP address "192.168.1.2". Below the table is a button labeled "DNSエントリの追加" (Add DNS Entry) and a "戻る" (Back) button. Red lines point from the table and the "DNSサーバ" header to explanatory text on the right.

ホスト名	IPアドレス	操作
pcg	192.168.1.2	 

[DNS サーバ] 画面に切り替わります。

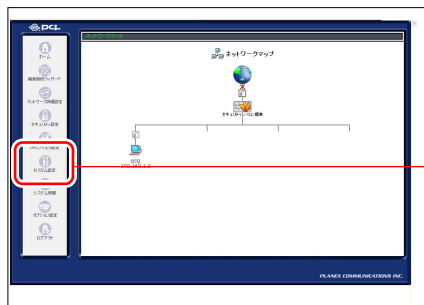
表示されます。

9 以上で確認は終了です。

ホスト名とIPアドレスを手動で登録する

DHCP サーバ機能を使用しない場合は手動でホスト名とIPアドレスを登録する必要があります。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。


- 2 [DNSサーバ]アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。


3 [DNS エントリの追加]から追加ボタンをクリックします。



[DNS サーバ] 画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

4 DNS サーバに登録するホスト名とIPアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



[DNS エントリ] 画面に切り替わります。

入力します。

クリックします。

5 以上で設定は終了です。

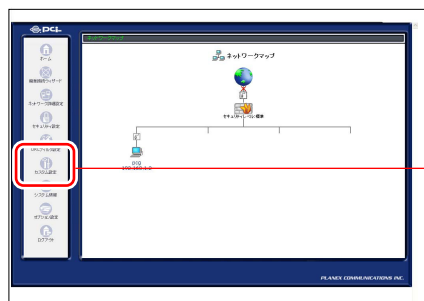
ホスト名とIPアドレスの修正

ホスト名やIPアドレスを変更したときは、DNSサーバに登録した情報も手動で変更する必要があります。

！ ご注意

- ・ DHCPサーバ機能を有効にしているときは、パソコンのホスト名は自動的にDNSサーバに反映されます。手動でホスト名を変更する必要はありません。

1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [DNSサーバ]アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 情報を修正したいホスト名の修正ボタンをクリックします

DNSサーバ		
ホスト名	IPアドレス	操作
pcg	192.168.1.2	修正 削除
user1	192.168.1.100	修正 削除

DNSエントリの追加

戻る

[DNS サーバ] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

4 ホスト名とIPアドレスを修正し、[OK]ボタンをクリックします。

DNSエントリ

ホスト名: user1

IPアドレス: 192.168.1.100

OK

[DNS エントリ] 画面に切り替わります。

修正します。

クリックします。

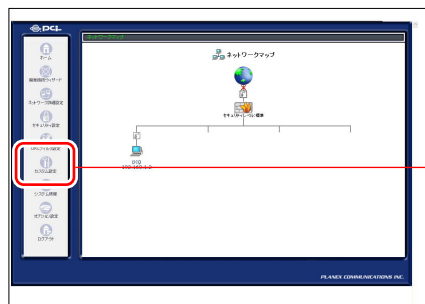
DHCP サーバにより IP アドレスを割り当てられたホストについては、ホスト名のみ修正が可能です。

5 以上で設定は終了です。

ホスト名とIPアドレスの削除

登録されているホスト名とIPアドレスの削除を行います。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [DNSサーバ]アイコンをクリックします。



[カスタム設定]画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 情報を削除したいホスト名の削除ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



[DNSサーバ]画面に切り替わります。

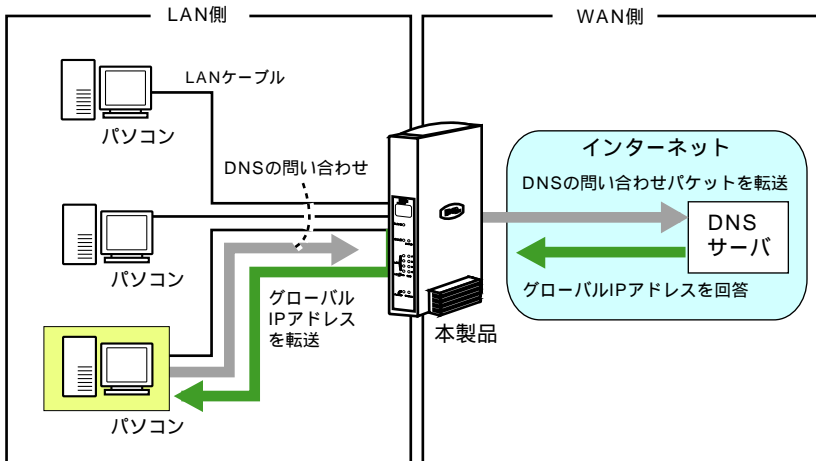
削除ボタンをクリックします。

クリックします。

- 4 以上で設定は終了です。

プロキシ DNS

本製品には「プロキシ DNS」機能が搭載されています。プロキシ DNS とは、LAN 側の各パソコンからインターネット上のドメイン名を指定した接続（DNS の問い合わせ）があった場合に、それをインターネット上の DNS サーバにフォーワーディングして、対応する IP アドレスを各パソコンに回答する機能です。LAN 側のパソコンからは、インターネット上の DNS サーバに代理で問い合わせていることはわからず、単に、本製品がインターネット上のドメインと各 IP アドレスの対応を管理する DNS サーバとして動作しているように見えます。



WAN 側で複数セッションを接続している時には、LAN 側のパソコンから DNS の問い合わせがあった場合、本製品のプロキシ DNS 機能は、全てのセッション上の DNS サーバに問い合わせのパケットを送信します。この場合、返答のあった DNS サーバのセッションを使用して通信を行います。2 つ以上のセッションの DNS サーバから返答があった場合は、先に返答があった方のセッションを使用します。

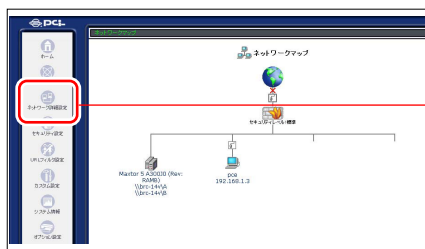
ルーティング設定

本製品は、ダイナミックルーティングのプロトコルとしてRIP、RIP Version2に対応しています。また、スタティックルーティングにも対応しています。

ダイナミックルーティングの設定

ここでは、ダイナミックルーティングを設定し、動的に経路情報を登録する方法について説明します。本製品のダイナミックルーティングを設定する場合は、ダイナミックルーティングを有効にするインターフェイスを設定し、本製品のダイナミックルーティング機能を有効にします。

- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [接続名] 欄からダイナミックルーティングを有効にするインターフェイスの修正ボタンをクリックします。



[DHCP サーバ] 画面に切り替わり
ます。

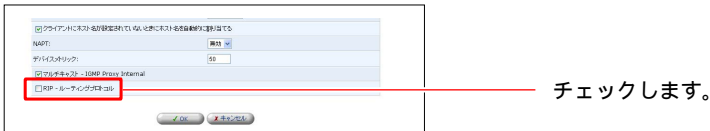
修正 ボタンをクリックします。

- 3 ここでは例として [LAN Ethernet] を選択します。他のインターフェイスを選択し場合は同様の手順でお進めください。

4 [ネットワーク接続 LAN Ethernet]画面が表示されます。[詳細設定] ボタンをクリックします。



5 [デバイスメトリック] 欄から [RIP-ルーティングプロトコル] にチェックをつけます。



6 RIPの送受信設定を行います。[RIP受信設定] 欄から本製品が受信するRIPの種類を選択します。[RIP送信設定] 欄から本製品から送信するRIPの種類を選択します。



RIP受信設定	
なし	RIP機能を無効にします。
RIPv1	RIPv1による、ルート情報の受信を行います。
RIPv2	RIPv2による、ルート情報の受信を行います。
RIPv1/2	RIPv1/2による、ルート情報の受信を行います。
RIP送信設定	
なし	RIP機能を無効にします。
RIPv1	RIPv1による、ルート情報の送信を行います。
RIPv2・ブロードキャスト	RIPv2による、ルート情報の送信を行います。
RIPv2・マルチキャスト	RIPv2による、ルート情報の送信を行います。

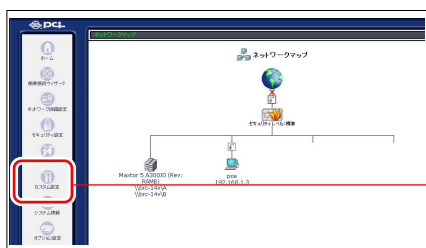
- 7 [OK] ボタンをクリックします。[注意] 画面が表示される場合は、内容を確認したうえで [OK] ボタンをクリックします。



クリックします。

- 8 [ネットワーク接続 LAN Ethernet]画面に戻ります。

- 9 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 10 [ルーティング] アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

11 [ルーティングプロトコル] 欄から [RIP-ルーティングプロトコル] にチェックがついてるか確認します。



[ルーティング] 画面に切り替わります。

追加されます。

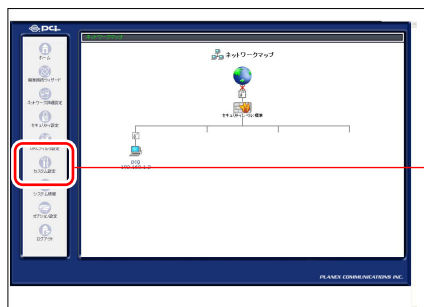
12 [OK] ボタンをクリックします。

13 以上で設定は終了です。

スタティックルーティングの経路情報を追加する

ここでは、経路情報を手動で設定する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [ルーティング]アイコンをクリックします。



[カスタム設定]画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 [ルートの追加]から[追加]ボタンをクリックします。



[ルーティング]画面に切り替わります。

追加ボタンをクリックします。

4 経路情報を追加するデバイスを選択し、経路情報を入力します。

ルーティング設定

接続名: LAN Ethernet

送信先: 192.168.1.0

ネットマスク: 255.255.255.0

ゲートウェイ: 192.168.1.100

メトリック: 2

OK キャンセル

[ルーティング設定] 画面に切り替わります。

選択します。

[接続名]

スタティックルーティングを設定する転送先のインタフェースを [LAN Ethernet] [WAN Ethernet] [WAN PPPoE] 等から選択します。

[送信先]

パケットの送信先となるネットワークアドレスを入力します。

[ネットマスク]

パケットの送信先のネットマスクを入力します。

[ゲートウェイ]

宛先のネットワークに到達するための、最初のゲートウェイのアドレスを入力します。

[メトリック]

宛先のネットワークに到達するまでのホップカウント（経由するゲートウェイの数）を入力します。

5 [OK]ボタンをクリックします。[ルーティングプロトコル]欄に設定したルーティング情報が追加されます。

ルーティング

接続名	送信先	ゲートウェイ	ネットマスク	メトリック	ステータス	操作
LAN Ethernet	192.168.1.0	192.168.1.100	255.255.255.0	2	適用済み	削除

ルーティングプロトコル

ルーティングプロトコル

OK キャンセル

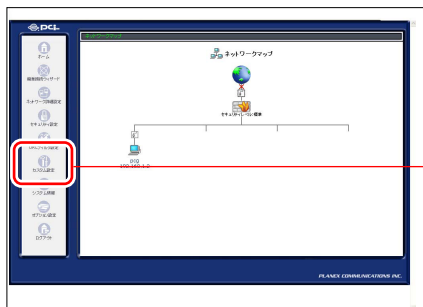
チェックします。

6 以上で設定は終了です。

スタティックルーティングの経路情報を修正する

ここでは、既に設定したスタティックルーティングの経路情報を修正する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックする。



クリックします。

- 2 [ルーティング]アイコンをクリックする。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 修正したい経路情報の[修正]ボタンをクリックします。



[ルーティング]画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

4 経路情報を修正し、[OK]ボタンをクリックします。



[ルーティング設定]画面に切り替わります。

修正します。

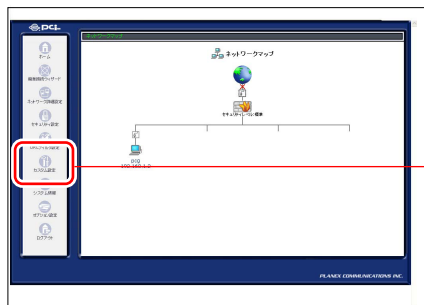
クリックします。

5 以上で設定は終了です。

スタティックルーティングの経路情報を削除する

ここでは、登録したスタティックルーティングを削除する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックする。



クリックします。

- 2 [ルーティング]アイコンをクリックする。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 削除したい経路情報の[削除]ボタンをクリックします。

[ルーティング]画面に切り替わります。

削除 ボタンをクリックします。

経路名	送信先	ゲートウェイ	ネットマスク	メトリック	ステータス	操作
LAN Ethernet	192.168.10.0	192.168.1.100	255.255.255.0	2	適用しました	削除

ルーティングテーブル

ルーティング

ルーティングテーブル コール

RIP - ルーティングプロトコル

マルチキャスト

OK キャンセル

4 [OK]ボタンをクリックします。

5 以上で設定は終了です。

UPnP 設定

Universal Plug and Play (UPnP : ユニバーサルプラグアンドプレイ) は、ネットワークに接続するだけで、ネットワーク上の機器同士で簡単に通信できるようにする規格です。本製品は、UPnP に対応しており、次の機能を使用できます。

購入時の設定で UPnP が ON になっているため、特別な設定をする必要がありません。

- UPnP に対応している OS (Windows[®] XP と Windows[®] Me) から、本製品を検出できます。
- UPnP に対応している OS (Windows[®] XP と Windows[®] Me) から本製品の状態を確認したり、設定を一部変更できます。
- 本製品に接続されている LAN 内のパソコンから、Windows[®] Messenger や MSN[®] Messenger など、UPnP に対応しているアプリケーションを使用することができます。

なお、Windows[®] 98、Windows[®] 2000 および Macintosh[®] は UPnP に対応していません。したがって、UPnP の機能を使用することはできません。

パソコンの UPnP の設定を確認する

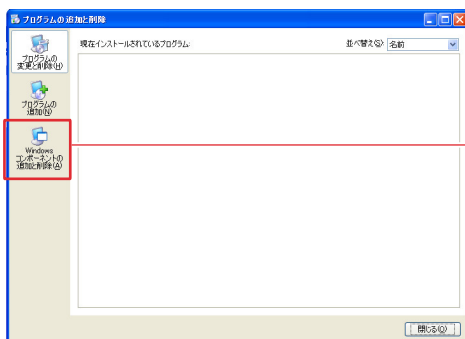
お使いのパソコンが、UPnPが使用できる状態になっているか確認してください。

Windows[®] XP の場合

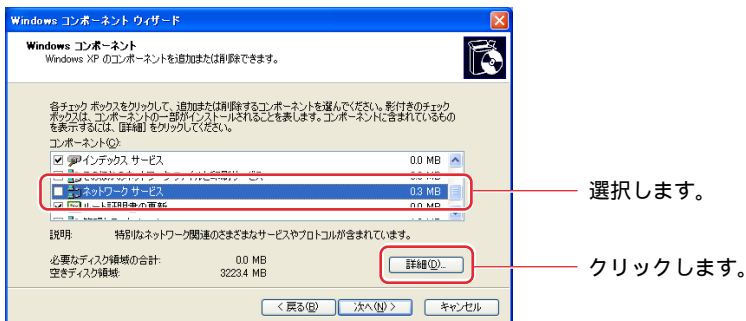
- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。



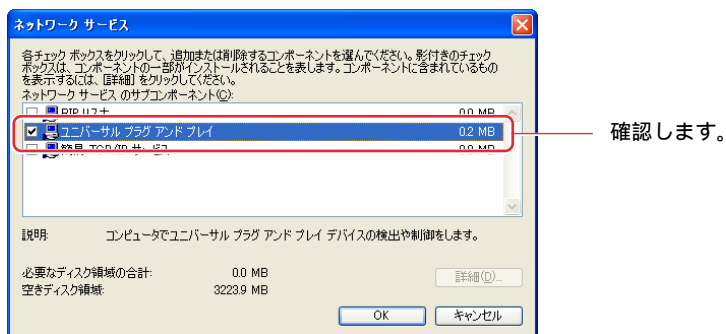
- 2 [プログラムの追加と削除] ボタンをクリックし、画面左側にある [Windows コンポーネントの追加と削除] ボタンをクリックします。



- 3 [コンポーネント] 欄から [ネットワークサービス] を選択し、[詳細] ボタンをクリックします。



- 4 ネットワークサービスの詳細が表示されますので、[ユニバーサルプラグアンドプレイ] の状態を確認します。



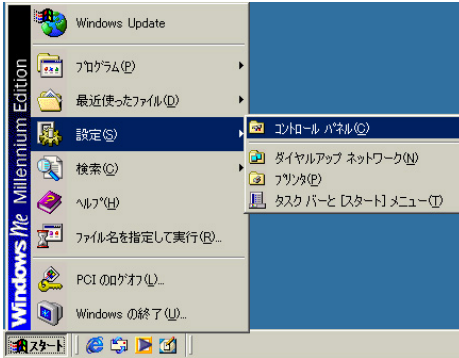
[ユニバーサルプラグアンドプレイ] がチェックされているときは、パソコンが UPnP の機能が有効になっています。ダイアログを閉じてください。

チェックされていないときは、[ユニバーサルプラグアンドプレイ] が無効になっています。チェックを付け、[OK] ボタンをクリックします。画面の指示に従って、インストールを続けてください。

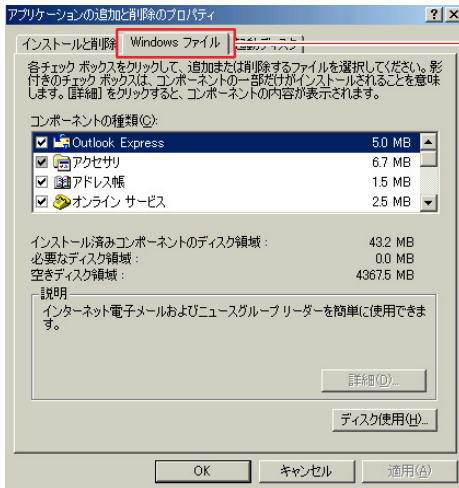
- 5 以上で設定は終了です。

Windows® Me の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] [コントロールパネル] の順にクリックします。

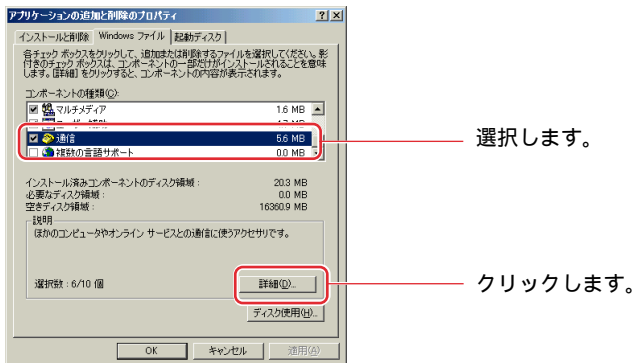


- 2 [アプリケーションの追加と削除] ボタンをクリックします。[アプリケーションの追加と削除] ダイアログが表示されたら、[Windows ファイル] タブをクリックします。

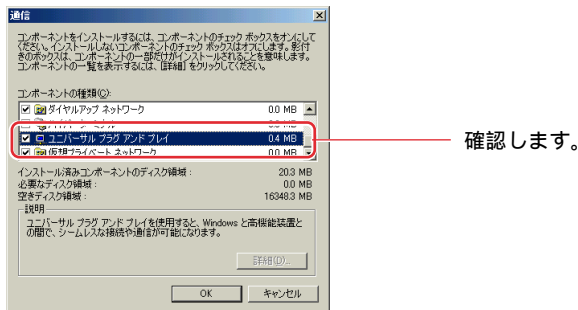


クリックします。

- 3 [コンポーネントの種類] 欄から [通信] を選択し、[詳細] ボタンをクリックします。



- 4 通信の詳細が表示されますので、[ユニバーサルプラグアンドプレイ]の状態を確認します。

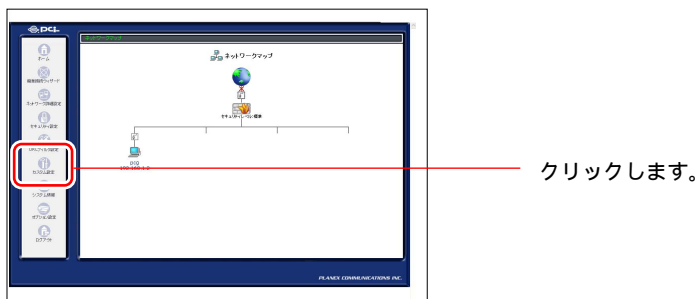


- 5 [ユニバーサルプラグアンドプレイ] がチェックされているときは、パソコンが UPnP の機能が有効になっています。ダイアログを閉じてください。チェックされていないときは、[ユニバーサルプラグアンドプレイ] が無効になっています。チェックを付け、[OK] ボタンをクリックします。画面の指示に従ってインストールを続けてください。
- 6 以上で設定は終了です。

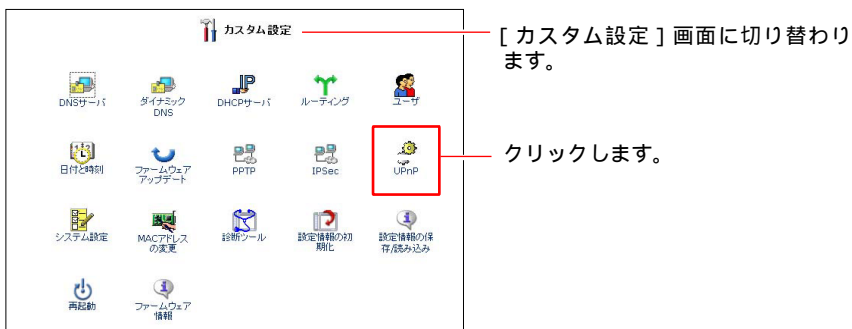
本製品の UPnP 機能を OFF にする

本製品で UPnP 機能を使用しないときは、次のように操作します。

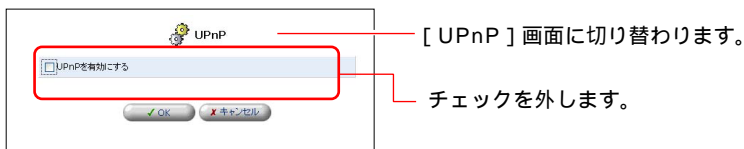
- 1 サイドバーの [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [UPnP] アイコンをクリックします。



- 3 UPnPの機能を OFF にするときは、チェックボックスのチェックを外します。



- 4 [OK] ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了です。

セキュリティの設定

セキュリティ機能

インターネットに接続すると、LAN内のパソコンがインターネットからの攻撃を受けたり、不正なアクセスをされたりするという危険があります。そのため、LANを保護する十分なセキュリティ対策を行うことが、快適にインターネットを使う上で重要なポイントとなります。

本製品では、インターネットへの常時接続を行う上でのセキュリティ対策として次の機能を搭載しています。

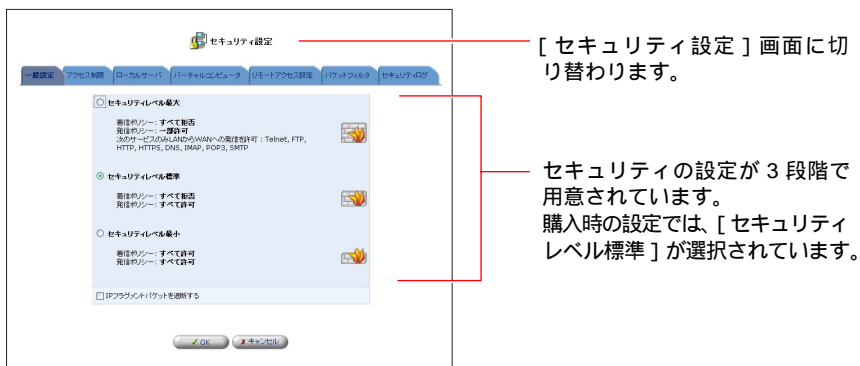
NAPT (IP マスカレ ード)	プロバイダから取得したグローバルIPアドレスを、LAN内のプライベートIPアドレスに変換する機能により、インターネット側からLAN内のパソコンを特定できず、アクセスすることができません。このため、外部からの不正アクセスが困難になります。
ステートフル・パケット・インスペクション	ファイアウォール方式として、ステートフル・パケット・インスペクション方式を採用しています。通信セッションごとにパケットの整合性を確認し、必要なポートだけを開くようにします。通信が終了すると利用したポートを遮断します。 さらに、インターネット側からのDoS (Denial of Services) 攻撃パターンを識別し、不正なアクセスを遮断することが可能です。
ALG (Application Level Gateway)	アプリケーションレベルでパケットの通過・遮断を判断します。
パケットフィルタリング	インターネットから送られてきたパケットを検査して通過させるかどうかを判断する機能です。どのような条件でパケットを通過させるか、遮断するかをプロトコル/ポートごとに任意に設定できます。
バーチャルコンピュータ	LAN内の1台のパソコンをバーチャルコンピュータホストとすると、WAN側からの全ての接続要求がバーチャルコンピュータホストに転送されるようになります。
ID・パスワードによるユーザ認証	本製品の設定を変更するには、ログインIDとパスワードが必要です。

セキュリティレベル設定

ここでは、本製品の基本的なセキュリティレベルの設定を行います。
セキュリティ対策を考える時は、実際のデータのやり取りの流れに合わせて「LANからインターネットへの通信」と「インターネットからLANへの通信」のそれぞれに対してルールを考える必要があります。
一般的には、LANからインターネットにはアクセスできるようにし、インターネットからLANにはアクセスを拒否するように設定します。

本製品のセキュリティ機能には3段階のレベルがあらかじめ用意されています。
さらに、用途に応じて設定をカスタマイズすることができます。

1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



2 必要に応じて、レベルを変更します。

セキュリティレベル	インターネット側からの接続要求	LAN内のパソコンからの接続要求
最大	拒否 インターネット側からLANにアクセスできません。ただし、[ローカルサーバ]と[リモートアクセス]画面で設定したサービスは使用できます。	制限あり LAN内のパソコンで、WEBサービス、e-mailなどのよく使うインターネットのサービスのみ使用できます。
標準	拒否 インターネット側からLANにアクセスできません。ただし、[ローカルサーバ]と[リモートアクセス]画面で設定したサービスは使用できます。	制限なし LAN内のパソコンで、すべてのインターネットのサービスが使用できます。
最小	制限なし インターネットからLANへのアクセスをすべて許可します。	制限なし LAN内のパソコンで、すべてのインターネットのサービスが使用できます。

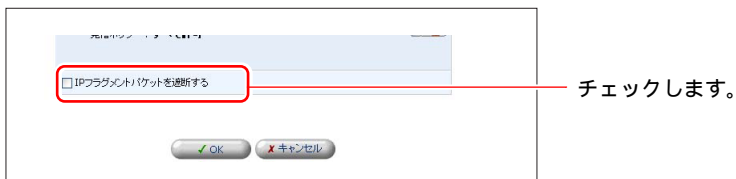
[セキュリティレベル最大]を選択しているとき、LAN側のパソコンから使用できるインターネットのサービスは次のとおりです。

Telnet、FTP、HTTP、HTTPS、DNS、IMAP、POP3、SMTP

ご注意

[セキュリティレベル最小]を選択すると、セキュリティ機能が一切適用されなくなりますので、必要な場合にのみ設定してください。

3 [IPフラグメントパケットを遮断する]をチェックします。



フラグメント化されたデータパケットを利用した攻撃を防ぐことができます。

IPSecを利用する仮想プライベートネットワークやUDPをベースにしたサービスによっては、IPフラグメントを利用するものがあります。このようなサービスを利用するときは、チェックを外してください。

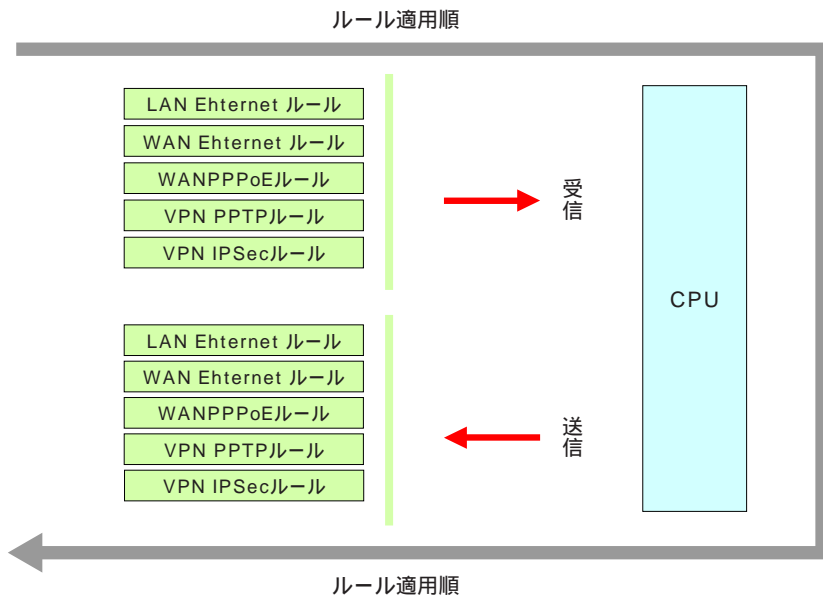
4 [OK]ボタンをチェックします。

選択したセキュリティレベルに変更されます。

パケットフィルタリング設定

本製品のパケットフィルタの機能は、本製品が受信したパケット、送信するパケットに対してあらかじめ設定してあるフィルタルールを適用します。

フィルタルールには、[LAN Ethernet ルール]、[WAN Ethernet ルール]、[WAN PPPoEルール]等があります。

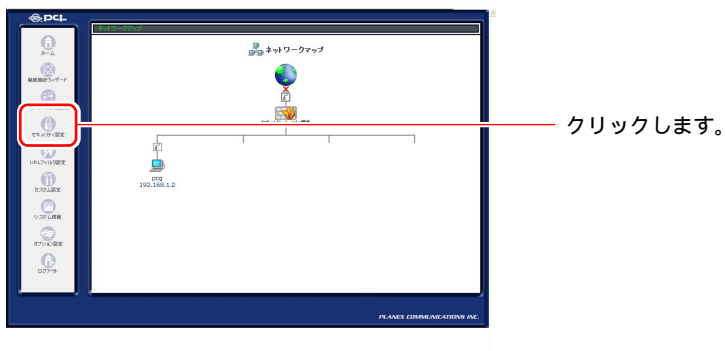


パケットフィルタの設定

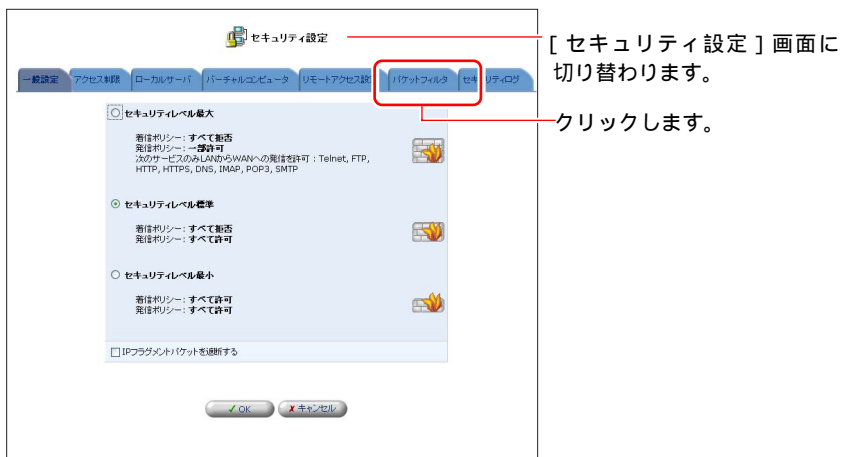
ここでは、本製品にパケットフィルタを設定する方法について説明します。

パケットフィルタの新規設定

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [パケットフィルタ]タブをクリックします。



3 [セキュリティ設定]画面が表示されます。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

4 [受信パケット]欄、または[送信パケット]欄からルールを作成するインタフェースをクリックします。

ここでは、例として[WAN PPPoEルール]を選択します。他のインタフェースを選択した場合は同様の手順で設定してください。



例として選択します。

本製品で設定できるルール一覧

[LAN Ehternet ルール]

LANのポートに対して適用されるルールになります。

[WAN Ehternet ルール]

WANのポートに対して適用されるルールになります。

[WAN PPPoE ルール]

WAN PPPoEのポートに対して適用されるルールになります。


[VPN PPTP ルール]

VPN PPTPの接続に対して適用されるルールになります。

[VPN IPSec ルール]

VPN IPSecの接続に対して適用されるルールになります。


- 5 [設定 WAN PPPoE ルール]画面が表示されます。
[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



[設定 WAN PPPoE ルール]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

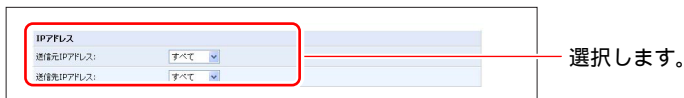
- 6 [フィルタルールの追加]画面が表示されます。



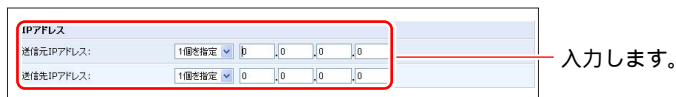
[フィルタルールの追加] 画面に切り替わります。

7 [IPアドレス]欄から送信元IPアドレス、送信先IPアドレスを入力します。

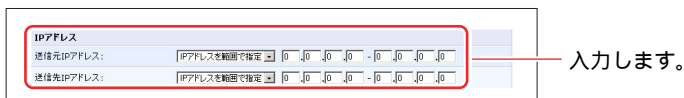
[すべて]を選択した場合は、全てのIPアドレスが対象になります。



[1個を指定]を選択した場合は、指定したIPアドレスが対象になります。



[範囲指定]を選択した場合は、指定したIPアドレスの範囲が対象になります。



8 [動作]欄からフィルタの動作を選択します。



[破棄する]

パケットを破棄します。

[転送する(セッション)]

このルールに合致するパケットと、このパケットに関わるセッションのパケットを通します。

[転送する(パケット)]

このルールに合致するパケットのみを通します。

- 9 [サービス名]欄に本製品に既に登録されているサービスやアプリケーションが表示されます。フィルタルールの対象となるサービスにチェックをつけます。

サービス名	プロトコル / ポート
ユーザ定義サービス	
デフォルト定義サービス	
<input type="checkbox"/> All Traffic	プロトコルすべて
<input type="checkbox"/> DNS - Domain Name Server	TCP 53 -> 53 1024-65535 -> 53 UDP 53 -> 53 1024-65535 -> 53
<input type="checkbox"/> FTP - File Transfer	TCP すべて -> 21
<input type="checkbox"/> HTTP - Web Server	TCP すべて -> 80
<input type="checkbox"/> HTTP - Secondary Web Server	TCP すべて -> 8080
<input type="checkbox"/> HTTPS - Secured Web Server	TCP すべて -> 443
<input type="checkbox"/> HTTPS - Secondary Secured Web Server	TCP すべて -> 8443
<input type="checkbox"/> TFTP - File Transfer	UDP 1024-65535 -> 69
<input type="checkbox"/> IMAP - Messaging Server	TCP すべて -> 143
<input type="checkbox"/> NNTP - News Server	TCP すべて -> 119
<input type="checkbox"/> Ping - ICMP Echo Request	ICMP Echo Request
<input type="checkbox"/> POP3 - Incoming Mail	TCP すべて -> 110
<input type="checkbox"/> SNMP - Simple Network Management Protocol	UDP すべて -> 161
<input type="checkbox"/> SMTP - Outgoing Mail	TCP すべて -> 25
<input type="checkbox"/> TELNET - Remote Connection	TCP すべて -> 23
<input type="checkbox"/> TELNET - Secondary Remote Connection	TCP すべて -> 8023
<input type="checkbox"/> TELNETSSL - Secure Remote Connection over SSL	TCP すべて -> 992

チェックします。

- 10 [OK]ボタンをクリックします。



クリックします。

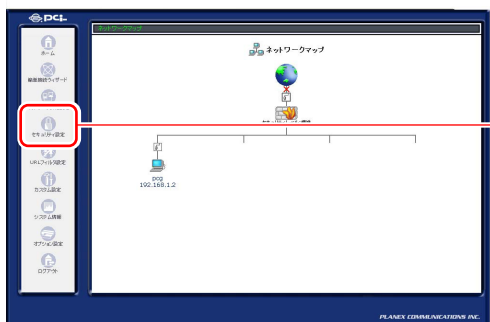
[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

- 11 複数のフィルタルールを作成する場合は、3 ~ 10の手順を繰り返します。

- 12 以上で設定は終了です。

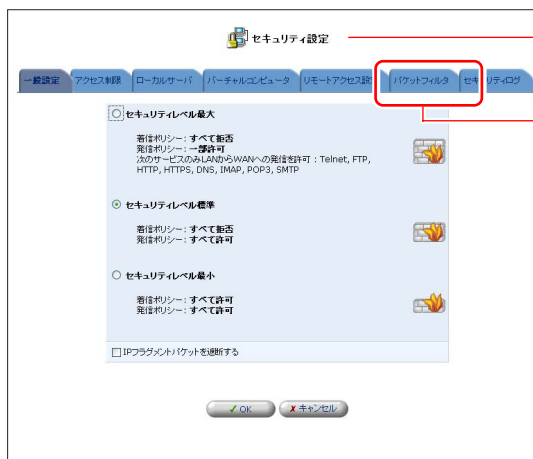
パケットフィルタの修正

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [パケットフィルタ]タブをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 設定を変更したいインターフェースの修正ボタンをクリックします。



[セキュリティ設定] 画面に切り替わります。

4 [設定 WAN PPPoE ルール]の画面が表示されますので、[操作]欄から修正ボタンをクリックします。



[設定 WAN PPPoE ルール] 画面に切り替わります。

修正ボタンをクリックします。

- 5 [フィルタールの編集]画面が表示されますので、必要な項目の修正を行い[OK]ボタンをクリックします。



フィルタールの編集

IPアドレス

送信元IPアドレス: すべて

送信先IPアドレス: すべて

動作

承認する

転送する

このルールに合致するパケットと、このパケットに関わるセッションのパケットをすべて転送します。セッションはSPI(Stateful Packet Inspection)により管理します。

転送する(パケット)

このルールに合致するパケットのみを転送します。SPI(Stateful Packet Inspection)によるセッションの管理は行いません。

ログ設定

このルールに合致したパケットをログに記録する

[フィルタールの編集] 画面に切り替わります。

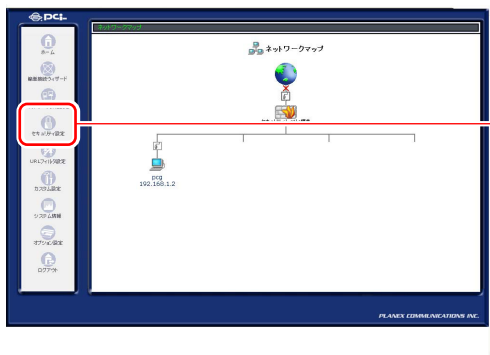
修正します。

[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

- 6 以上で修正は終了です。

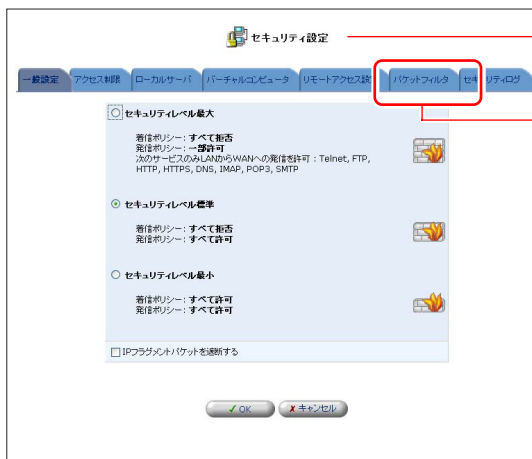
パケットフィルタの削除

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

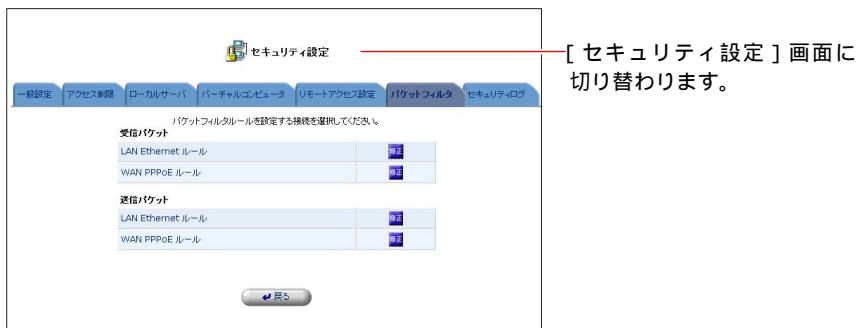
- 2 [パケットフィルタ]タブをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 設定を削除したいインタフェースの修正ボタンをクリックします。



4 [設定 WAN PPPoE ルール]の画面が表示されます。[操作]欄から削除ボタンをクリックします。

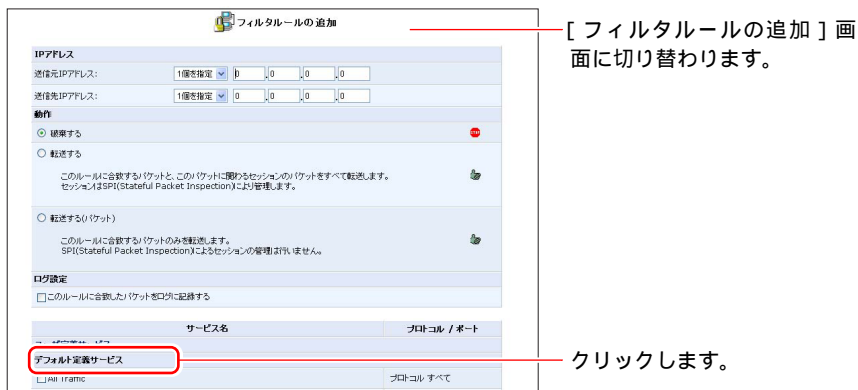


5 以上で削除は終了です。

新規にサービスを作成する場合

ここでは、本製品にあらかじめ登録されていないサービスを設定する方法について説明します。

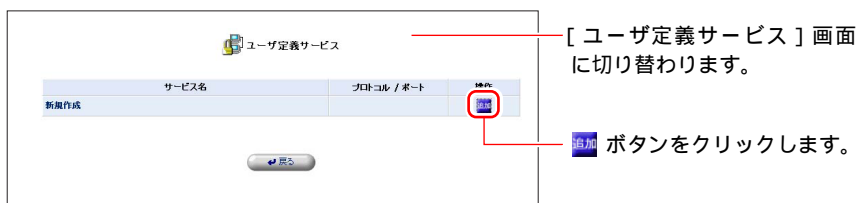
- 1 [フィルタルールの追加]画面から、[ユーザ定義サービス]をクリックします。



[フィルタルールの追加]画面に切り替わります。

クリックします。

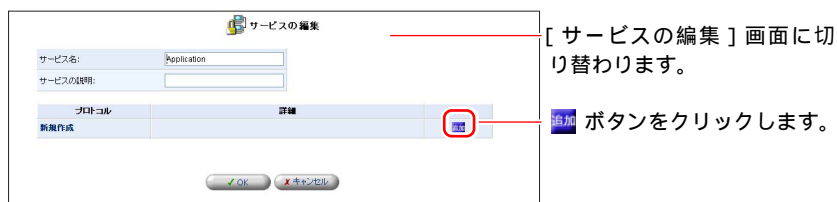
- 2 [ユーザ定義サービス]画面が表示されます。[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



[ユーザ定義サービス]画面に切り替わります。

追加ボタンをクリックします。

- 3 [サービスの編集]画面が表示されます。[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。

追加ボタンをクリックします。

4 [プロトコル]欄から使用するプロトコルを選択します。



[プロトコル]

対象にするプロトコルをTCP、UDP、ICMP、GRE、ESP、AH、その他から選択します。

[発信元ポート/送信先ポート]

サービスやアプリケーションの発信元ポート/送信先ポート番号を入力します。

すべて 全てのポートを指定します。
1個を指定 1つのポート番号を指定します。
範囲指定 ポート番号の範囲を指定します。

[ICMPメッセージ]

対象にするICMPメッセージを選択します。

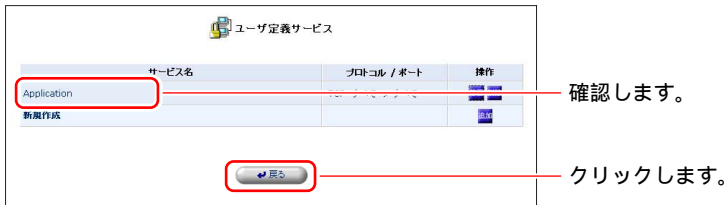
5 [OK]ボタンをクリックします。

6 追加ボタンをクリックすることで、複数のポートを指定することもできます。



7 全ての設定が終了しましたら [サービス名]に任意の名前を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

- 8 [ユーザ定義サービス] の画面に戻ります。[サービス名] 欄に作成したユーザ定義サービスが表示されるのを確認します。
[戻る] ボタンをクリックします。



- 9 新規に作成したサービスが[ユーザ定義サービス]欄に表示されます。



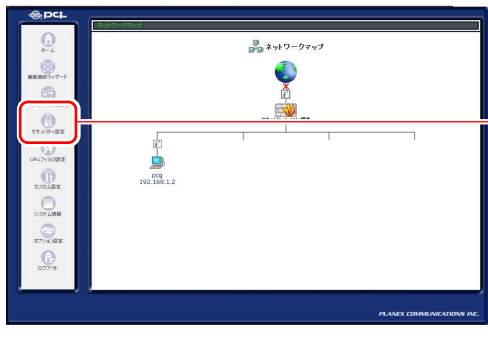
- 10 以上で設定は終了です。

フィルタルールの例

ここでは、パケットフィルタの例としてNetBIOS 関連で使われてるポート 137 ~ 139 のLAN から WAN への通信を遮断する方法について説明します。Windows® のLAN で使われてる NetBIOS のパケットにより、予期せぬインターネットへの通信が発生する場合があります。NetBIOS 関連で使われてるポート 137 ~ 139 を遮断することで、予期せぬ通信を防ぎます。

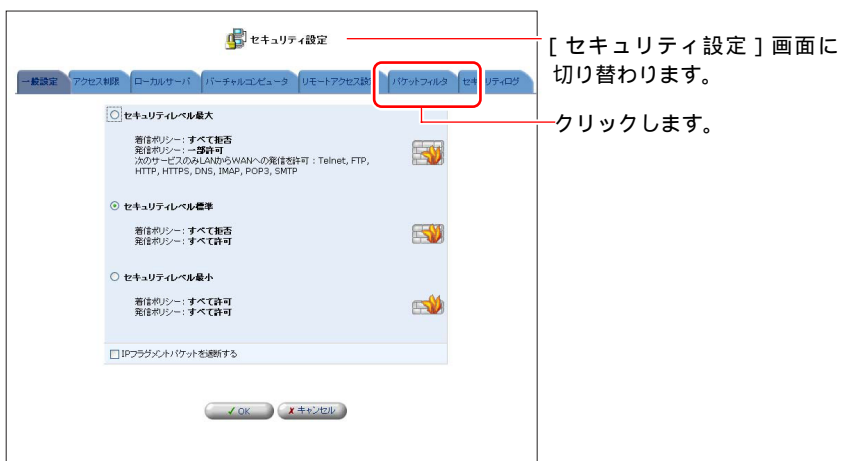
方向	動作	プロトコル	送信元 IP アドレス	送信先 IP アドレス	送信元ポート	送信元 IP アドレス
LAN Ehternet 受信	破棄	TCP/UDP	すべて	すべて	すべて	137 ~ 139
送信 WAN Ehternet	破棄	TCP/UDP	すべて	すべて	すべて	137 ~ 139

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



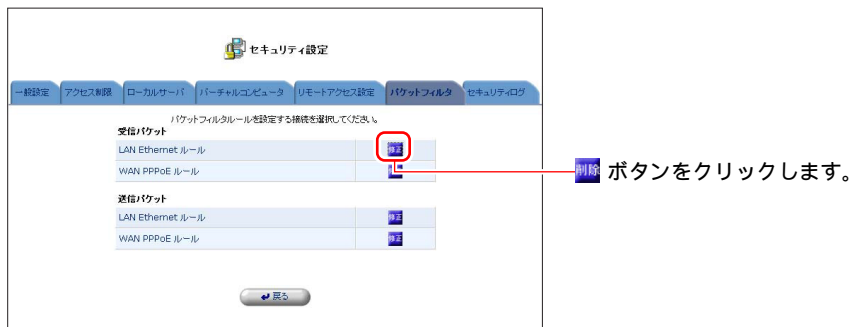
クリックします。

2 [パケットフィルタ]タブをクリックします。



3 LAN側からWAN側へのNetBIOSの packets を遮断するルールを作成します。

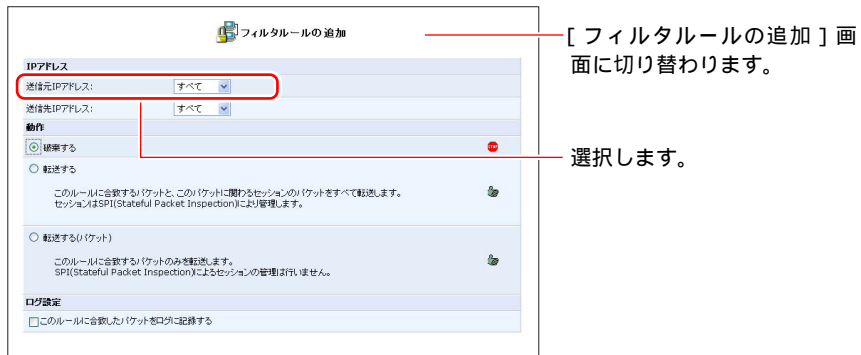
[受信パケット]欄から[LAN Ethernetルール]の修正ボタンをクリックします。



4 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



5 送信元 IP アドレスに[すべて]、送信先 IP アドレスに[すべて]を選択します。



6 [動作]欄から[破棄する]にチェックを付けます。



7 [ユーザ定義サービス]をクリックします。

[フィルタルールの追加] 画面に切り替わります。

クリックします。

8 [ユーザ定義サービス]画面が表示されます。[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

追加 ボタンをクリックします。

9 [サービスの編集]の画面が表示されます。[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

追加 ボタンをクリックします。

10 プロトコルから[TCP]を選択します。送信元ポートに[すべて]、送信先ポートに[範囲指定]を選択し、ポート番号に 137 ~ 139 を入力します。



11 [OK]ボタンをクリックします。

12 同様にUDPポートも遮断しますので、追加ボタンをクリックします。



13 プロトコルから[UDP]を選択します。送信元ポートに[すべて]、送信先ポートに[範囲指定]を選択し、ポート番号に 137 ~ 139 を入力します。



14 [OK]ボタンをクリックします。

15 [サービスの編集] 画面が表示されますので、サービス名に登録する名前を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

サービスの編集

サービス名: NetBIOS

サービスの説明:

プロトコル	詳細	操作
TCP	すべて -> 137-139	削除 編集
UDP	すべて -> 137-139	削除 編集

新規作成

OK

16 [ユーザ定義サービス] 画面に戻ります。[サービス名] 欄に作成したユーザ定義サービスが表示されるのを確認します。[戻る] ボタンをクリックします。

ユーザ定義サービス

サービス名	プロトコル / ポート	操作
NetBIOS	TCP すべて -> 137-139 UDP すべて -> 137-139	削除 編集

新規作成

戻る

17 [ユーザ定義サービス]欄に作成したサービスが表示されますので、チェックを付け[OK]ボタンをクリックします。

フィルタールールの追加

IPアドレス

送信元IPアドレス: すべて

送信先IPアドレス: すべて

動作

遮断する

転送する

このルールに含める(パケットと、このパケットに関わるセッションの)パケットをすべて転送します。
セッションはSPI(Stateful Packet Inspection)により管理します。

転送する(パケット)

このルールに含める(パケットのみを)転送します。
SPI(Stateful Packet Inspection)によるセッションの管理は行いません。

ログ設定

このルールに含めたパケットをログに記録する

ユーザ定義サービス	サービス名	プロトコル / ポート
<input checked="" type="checkbox"/>	NetBIOS	TCP すべて -> 137-139 UDP すべて -> 137-139

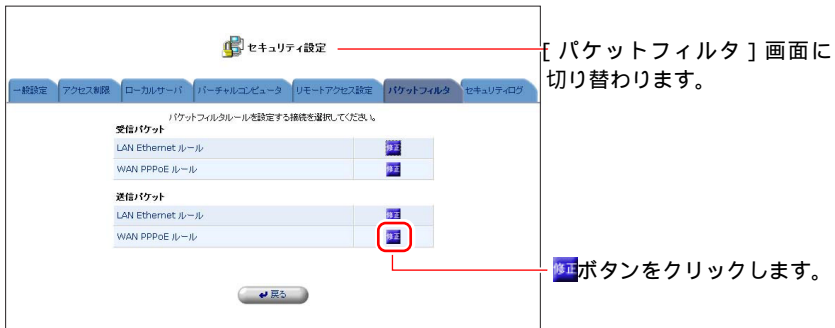
[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

18 [OK]ボタンをクリックし、[パケットフィルタ]の画面に戻ります。



19 [OK]ボタンをクリックします。

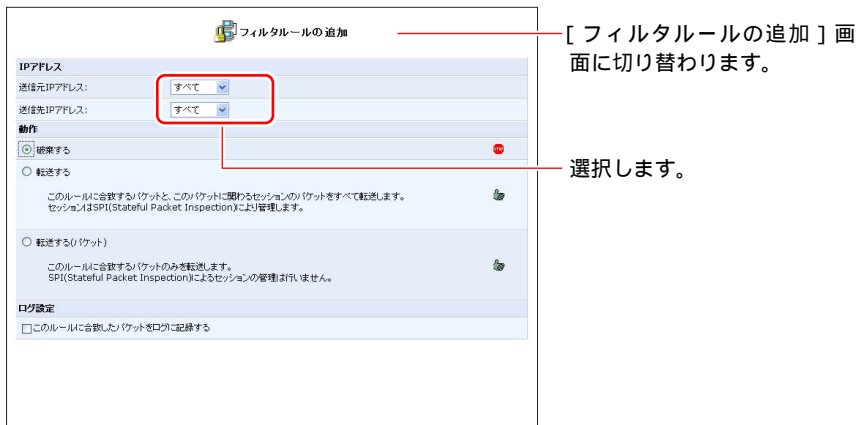
20 次に送信パケットの設定を行います。
[送信パケット]欄から[WAN PPPoE ルール]の修正ボタンをクリックします。



21 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



22 送信元 IP アドレスに[すべて]、送信先 IP アドレスに[すべて]を選択します。



23 [動作]欄から[破棄する]にチェックを付けます。



2 2 [ユーザ定義サービス]欄に先ほど作成したサービスが表示されますので、チェックを付け、[OK]ボタンをクリックします。

[フィルタのルール追加] 画面に切り替わります。

ユーザ定義サービス	サービス名	プロトコル / ポート
<input checked="" type="checkbox"/>	NetBIOS	TCP すべて -> 137-139 UDP すべて -> 137-139

チェックします。

[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

2 3 [OK]ボタンをクリックし、[パケットフィルタ]の画面に戻ります。

[設定 WAN PPPoE ルール] 画面に切り替わります。

ルール ID	送信元IPアドレス	送信先IPアドレス	サービス名	動作	操作
<input checked="" type="checkbox"/>	すべて	すべて	NetBIOS	🚫 結果する	🗑️ 削除

クリックします。

2 4 以上で設定は終了です。

リモートアクセス設定

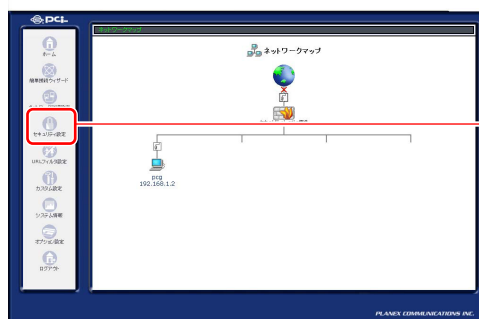
リモートアクセス機能を使うことで、インターネット側から本製品にアクセスし、各種設定を行うことができます。
デフォルト設定では、LANを保護するためにリモートアクセスを許可していません。

ご注意

不正アクセスにより本製品の設定を変更されないよう、通常はリモートアクセスを無効に設定しておき、必要な場合のみ許可するようにしてください。
本製品に設定されたリモートアクセス機能は、ローカルサーバ、バーチャルコンピュータより優先されます。

リモートアクセスの設定

- 1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

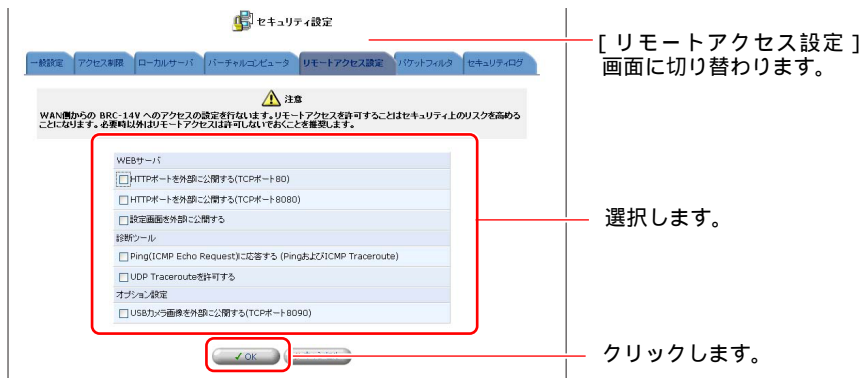
- 2 [リモートアクセス設定] タブをクリックします。



[セキュリティ設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 WAN 側からのアクセスに関する設定を行います。



WEB 設定画面	HTTP ポートを外部に公開する	本製品の HTTP ポートを外部に公開する場合に選択します。
	HTTP ポートを外部に公開する (TCPポート8080)	本製品の HTTP ポートを TCP8080 ポートで外部に公開する場合に選択します。
	設定画面を外部に公開する	本製品の設定画面を外部に公開する場合に選択します。
診断ツール	Ping に応答する	Ping コマンドに返答する場合は選択します。
	UDP を許可	traceroute コマンドなどで、UDP 上のルート確認をする場合は選択します。
オプション 設定		USB カメラから画面を外部に公開する場合に選択します。

ご注意

- Windows® から Traceroute コマンドを使用して、ルートの追跡を行う場合は [Ping に応答する] をチェックしてください。
- 設定画面を WAN 側から見るには、以下の URL を指定してアクセスします。
設定画面用アドレス：http:// (WAN 側アドレス) /setting/

4 [OK] ボタンをクリックします。

5 以上で設定は終了です。

URL フィルタ設定

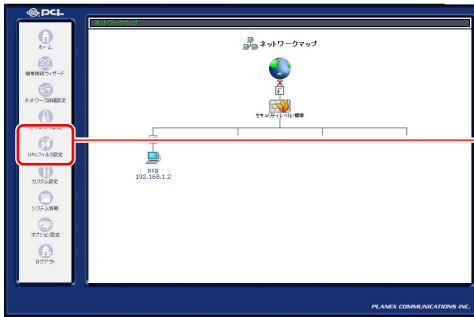
URL フィルタ機能を使うことで、LAN 側のパソコンから特定のWEBサイトを閲覧できないように設定できます。

例えば、公序良俗に反するようなWEBサイトをあらかじめ本製品に設定しておくことで、LAN 側のパソコンからそのサイトの閲覧を禁止することができます。

URL フィルタの設定

URL フィルタの新規作成

- 1 サイドバーから [URL フィルタ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

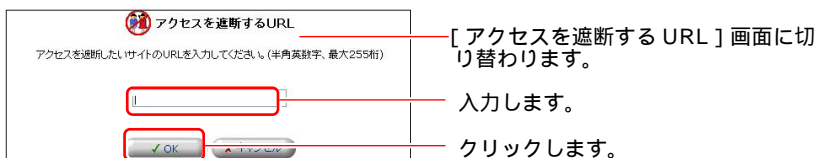
- 2 [新規作成] 欄から追加ボタンをクリックします。



[URL フィルタ設定] 画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

- 3 閲覧を禁止したいWEBサイトのURLまたはIPアドレスを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



- 4 [WEBサイトのURL] の一覧に設定したWEBサイトが追加されます。



- 5 URL が追加されると、追加されたURLがインターネット上に存在するかどうか自動的にチェックします。この間、[ステータス] 欄には [Resolving] と表示されます。[表示の更新] ボタンをクリックして、入力されたURLが適切なものか確認します。



- 6 入力された URL に対して、インターネット上に存在することが確認できると[IP アドレス]欄に IP アドレスが表示され[ステータス]欄は[Resolved] に変わります。また、インターネット上に存在を確認できなかった場合は、[ステータス]欄に[Error]と表示されます。

WebサイトのURL	IPアドレス	ステータス	操作
<input checked="" type="checkbox"/> www.planex.co.jp	210.197.75.205	Resolved	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

新規作成

IPアドレスの更新 ボタンをクリックするとURLのIPアドレスを更新します
ボタンをクリックすると、表示データを更新します。

- 7 [OK] ボタンをクリックすると、設定が有効になります。

- 8 以上で設定は終了です。

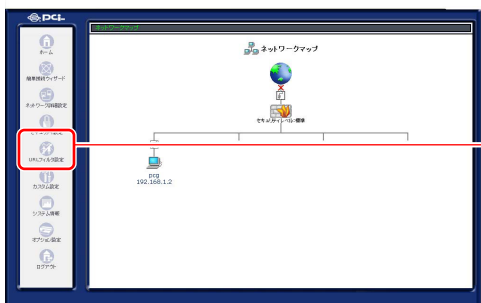
MEMO

ステータスに [Error] が表示される場合

WEB ブラウザを起動し設定した URL を入力し、WEB ブラウザに表示されるか確認してください。正しく表示されたときは、本製品に設定した URL が間違っている可能性があります。

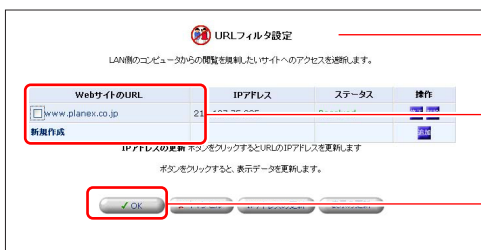
URL フィルタの有効/無効の切替

- 1 サイドバーから [URL フィルタ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [WEB サイトの URL] 欄から URL フィルタを無効にしたいWEBサイトのチェックを外し、[OK] ボタンをクリックします。

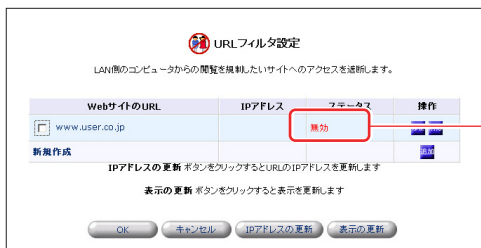


[URL フィルタ設定] 画面に切り替わります。

チェックを外します。

クリックします。

- 3 [ステータス] 表示が Resolved から無効に替わります。再度、URL フィルタを有効にする場合はチェックを付けます。

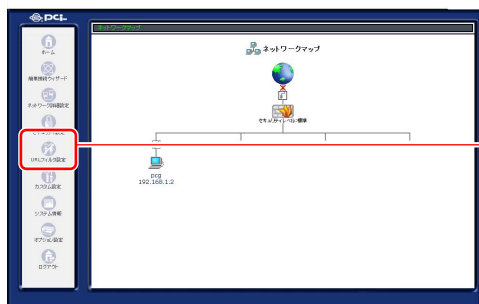


確認します。

- 4 以上で設定は終了です。

URL フィルタの修正

- 1 サイドバーから [URL フィルタ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 設定を変更したいWEBサイトのURLの修正ボタンをクリックします。



[URL フィルタ設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

- 3 [アクセスを遮断する URL] の画面が表示されましたら、新しいURLまたはIPアドレスを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



[アクセスを遮断する URL] 画面に切り替わります。

確認します。

4 [WEBサイトのURL]の一覧に変更したWEBサイトが表示されます。

URLフィルタ設定

LAN側のコンピュータからの閲覧も規制したいサイトへのアクセスを遮断します。

WebサイトのURL	IPアドレス	ステータス	操作
<input type="checkbox"/> www.planex.com.tw		Download	削除 更新

追加IPアドレス

IPアドレスの更新 ボタンをクリックするとURLのIPアドレスを更新します
ボタンをクリックすると、表示データを更新します。

OK キャンセル IPアドレスの更新 表示の更新

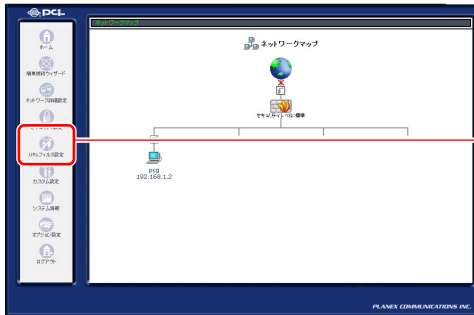
[URL フィルタ設定] 画面に切り替わります。

確認します。

5 以上で設定は終了です。

URL フィルタの削除

- 1 サイドバーから [URL フィルタ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 設定を削除したいWEBサイトのURLの削除ボタンをクリックします。



削除 ボタンをクリックします。

- 3 [OK] ボタンをクリックします。
- 4 以上で設定は終了です。

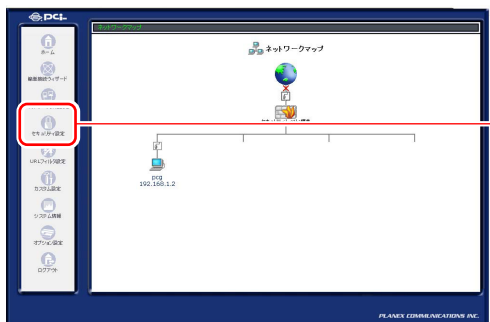
ログの管理

ここでは、LAN側のパソコンからインターネットへの接続やインターネット側からLANへの接続、設定ページへのアクセスなどのログ情報を設定します。

セキュリティログの確認

ログを見る

- 1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [セキュリティログ]タブをクリックします。

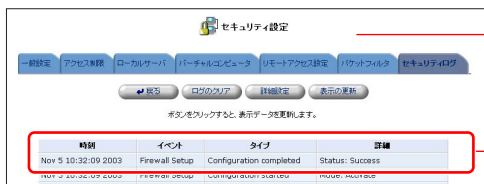


The screenshot shows the 'セキュリティ設定' (Security Settings) page. The 'セキュリティログ' (Security Log) tab is highlighted with a red box. A red line points from this box to the text '[セキュリティ設定]画面に切り替わります。' (Switch to the Security Settings screen). Another red line points from the 'セキュリティログ' tab to the text 'クリックします。' (Click).

[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 [セキュリティログ]画面が表示されます。現在のセキュリティに関するログが確認できます。



The screenshot shows the 'セキュリティログ' (Security Log) page. A red box highlights the log entry table. A red line points from this box to the text '表示されます。' (Is displayed).

[セキュリティログ]画面に切り替わります。

表示されます。

時刻	イベント	タイプ	詳細
Nov 5 10:32:09 2003	Firewall Setup	Configuration completed	Status: Success
Nov 5 10:32:09 2003	Firewall Setup	Configuration started	rcoutd: successful

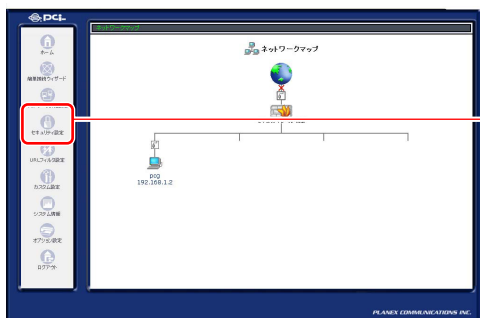
ログの見方 (例)

イベント	種類	説明
Inbound/ Outbound Traffic	Connection accepted	接続要求がファイアウォールのセキュリティポリシーに適合していた場合に表示されます。
	Accepted - Host probed	ファイアウォールのセキュリティポリシーに適合したTCP接続要求があったが、インターネット側のホストが信頼できるかどうか分からない場合に表示されます。この場合、インターネット側のホストに認証が試みられます。 インターネット側からの接続要求に対してのみ表示されます。
	Accepted - Host trusted	認証を試みていたホストから応答があった場合に表示されます。 インターネット側からの接続要求に対してのみ表示されます。
	Accepted - Internal traffic	すべてのパケットがLAN側のホスト同士の間で自由に行き来できる場合に表示されます。
	Connection Refused- Policy violation	接続要求がファイアウォールのセキュリティポリシーに違反している場合に表示されます。
	Blocked - IP Fragment	ファイアウォールですべてのIPフラグメントをブロックする設定を行った場合で、IPフラグメントがブロックされたときに表示されます。エラーはブロックされたフラグメントごとに表示されます。
	Blocked - IP Source Routes	IPヘッダに始点経路制御オプションが設定されていることが原因で、パケットがブロックされたときに表示されます。
Firewall Setup	Blocked - State-table error	ファイアウォールによってステートテーブル (LAN側のパソコンやネットワーク機器間のセッション状態に関する情報) が調査または操作されている間に、エラーがあった場合に表示されます。パケットはブロックされます。
	Aborting configuration	ファイアウォールに関する設定がキャンセルされたときに表示されます。
	Configuration completed	ファイアウォールに関する設定が完了したときに表示されます。

WBM Login	Authentication Success	設定ページへのログインが成功したときに表示されます。
	Authentication Failure	設定ページへのログインが失敗したときに表示されます。
System Up/Down	The system is going DOWN for reboot	本製品を再起動するために終了したときに表示されます。
	The system is UP!	本製品が起動したときに表示されます。

ログのクリア

- 1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

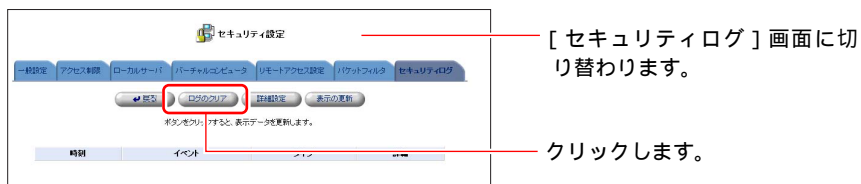
- 2 [セキュリティログ] タブをクリックします。



[セキュリティ設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 [ログのクリア] ボタンをクリックすると、画面に表示されてるログが消去されます。



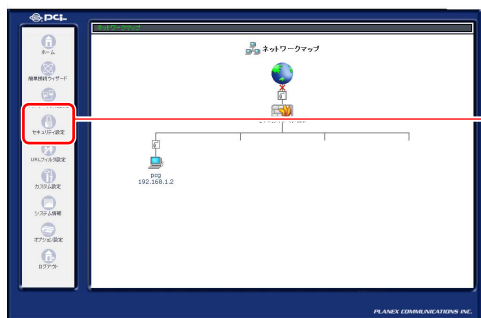
- 4 [戻る] ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了します。

ログの詳細設定

ここでは、ログの保存に関する設定について説明します。

- 1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [セキュリティログ] タブをクリックします。



[セキュリティ設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

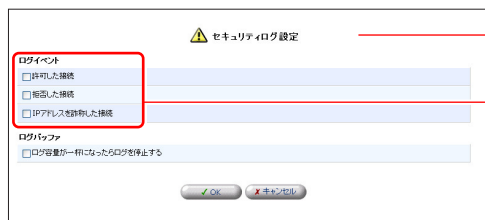
3 [詳細設定] ボタンをクリックします。



[セキュリティログ] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 [ログイベント] 欄から保存するログ内容を選択します。



[セキュリティログ設定] 画面に切り替わります。

選択します。

[許可した接続]

LAN 側からインターネットへの接続、インターネット側から LAN への接続のうちファイアウォールの通過を許可されたものがログに保存されます。

[拒否した接続]

LAN 側からインターネットへの接続、インターネット側から LAN への接続のうちファイアウォールの通過を拒否されたものがログに保存されます。

[IP アドレスを詐称した接続]

LAN 側からインターネットへの接続、インターネット側から LAN への接続のうち送信元 IP アドレスを詐称してファイアウォールの通過を拒否されたものがログに保存されます。

5 [ログバッファ] 欄からログ容量が一杯になったときの設定を選択します。



[ログ容量が一杯になったらログを停止する]

ログを保存するメモリが一杯になったときにログの保存を停止する場合は、チェックします。

ログを保存するメモリが一杯になったとき古いログを消去し、続けてログを保存する時はチェックを外します。

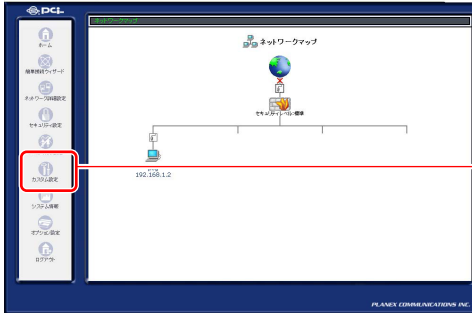
6 [OK] ボタンをクリックします。

7 以上で設定は終了します。

E-Mail 通知機能の設定

本製品は、システムや回線、ファイアウォールに何かしらの異常が発生した場合電子メールで管理者に通知することができます。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [ユーザ] アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 E-mail通知機能を設定するユーザの修正ボタンをクリックします。

フルネーム	ユーザ名	権限	操作
Administrator	admin	管理者権限 ファイルサーバからのファイルの読み込み ファイルサーバへのファイルの書き込み	修正
ユーザの追加			追加

戻る

[ユーザ]画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

4 [E-mailアドレス]欄に、送信先のMailアドレスを入力します。

ユーザ設定

一般設定

フルネーム: administrator

ユーザ名 (大文字/小文字に注意): admin

新しいパスワード:

新しいパスワードの確認:

権限:

- 管理者権限
- PPTPリモートアクセス
- ファイルサーバからのファイルの読み込み
- ファイルサーバへのファイルの書き込み
- USBカメラ

E-Mail通知設定

SMTPメールサーバの設定

E-Mailアドレス: [Red Box]

システム通知レベル: なし

セキュリティ通知レベル: なし

OK キャンセル

[ユーザ設定]画面に切り替わります。

入力します。

- 5 [システム通知レベル] 欄から通知する内容を選択します。
システム通知は、システム情報に関するメッセージを送信します。

The screenshot shows the 'User Settings' (ユーザ設定) window. Under the 'E-Mail Notification' (E-Mail通知設定) section, the 'System Notification Level' (システム通知レベル) dropdown menu is open. The 'Warning' (警告) option is selected and highlighted with a red box. A red arrow points from the text '入力します。' to this box. Other options visible are 'None' (なし) and 'Information' (情報). The 'Security Notification Level' (セキュリティ通知レベル) dropdown is also visible below it.

入力します。

[エラー]

本製品が正しく動作していないなどの、致命的なエラーが発生した際にメッセージを送信します。

[警告]

注意を要するエラーが発生した際にメッセージを送信します。
警告を選択した場合は、エラーレベルのメッセージも送信されます。

[情報]

ユーザが本製品を利用したときに表示されるメッセージが送信されます。
情報を選択した場合は、エラーレベル、警告レベルのメッセージも送信されます。

- 6 [セキュリティ通知レベル] 欄から通知する内容を選択します。
セキュリティ通知は、セキュリティログに表示されるメッセージを送信します。



[エラー]

重大なセキュリティイベントが発生した際に、メッセージを送信します。

[警告]

注意を要するセキュリティイベントが発生した際にメッセージを送信します。
警告を選択した場合は、エラーレベルのメッセージも送信されます。

[情報]

ユーザが本製品を利用したときに表示されるメッセージが送信されます。
情報を選択した場合は、エラーレベル、警告レベルのメッセージも送信されます。

- 7 本製品からメールを送信するための、SMTP メールサーバの設定をします。
[SMTPメールサーバの設定] をクリックします。



- 8 [SMTPメールサーバ]欄にメールサーバのアドレスを入力します。
[送信元メールアドレス]欄に送信元のメールアドレスを入力します。



SMTPメールサーバ

SMTPメールサーバ:

送信元メールアドレス:

入力します。

OK キャンセル

- 9 [OK] ボタンをクリックし、[ユーザ設定]画面に戻ります。

- 10 [OK] ボタンをクリックします。

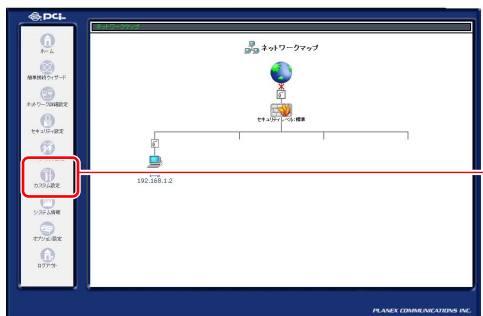
- 11 以上で設定は終了です。

Syslog の設定

本製品には、システムや回線、ファイアウォールに何かしらの異常が発生した場合 Syslog サーバにログを送信することができます。

ここでは、ログを Syslog サーバに送信するための設定を説明します。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [システム設定] アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 [システム通知レベル] 欄から通知する内容を選択し、[システム通知 Syslog サーバアドレス] に syslog サーバのアドレスを入力します。



[システムリモートログ設定] 画面に切り替わります。

入力します。

[エラー]

システムに関する重大なメッセージを送信します。


[警告]

システムに関する注意を要するメッセージを送信します。
警告を選択した場合は、エラーレベルのメッセージも送信されます。

[情報]

ユーザが本製品を利用したときに表示されるメッセージが送信されます。
情報を選択した場合は、エラーレベル、警告レベルのメッセージも送信されます。

- 4 [セキュリティ通知レベル] 欄から通知する内容を選択し、[セキュリティ通知 syslog サーバアドレス] に Syslog サーバのアドレスを入力します。セキュリティ通知は、セキュリティログに表示されるメッセージを送信します。



[セキュリティリモートログ設定] 画面に切り替わります。

入力します。

[エラー]

重大なセキュリティイベントに関するメッセージを送信します。

[警告]

注意を要するセキュリティイベントに関するメッセージを送信します。
警告を選択した場合は、エラーレベルのメッセージも送信されます。

[情報]

ユーザが本製品を利用したときに表示されるメッセージが送信されます。
情報を選択した場合は、エラーレベル、警告レベルのメッセージも送信されます。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。

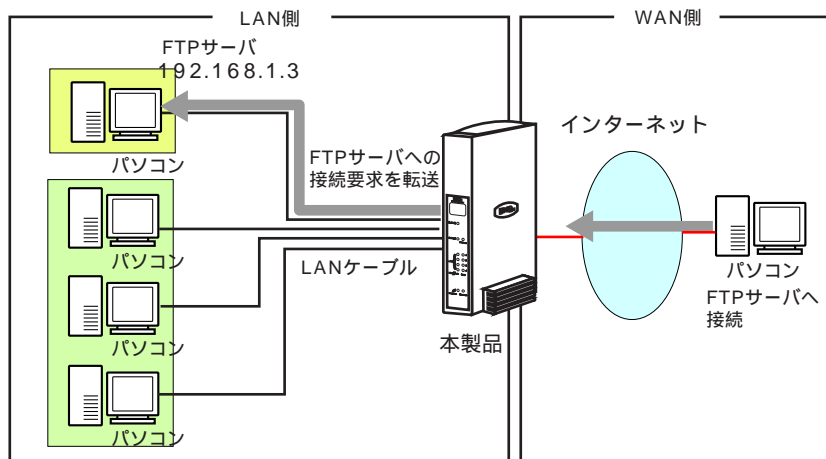
- 6 以上で設定は終了です。

LAN側パソコンサーバ公開設定

ここでは、LAN側に設定したパソコンを公開するときに必要な設定について説明します。

ローカルサーバ設定

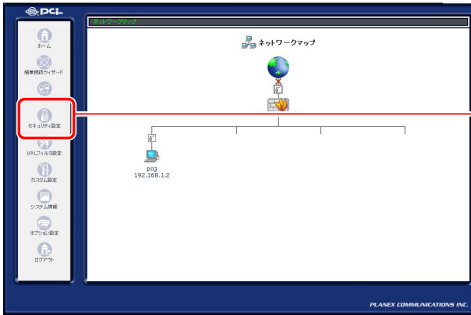
LAN側のサーバをインターネットに公開するときや、オンラインゲームやチャットなどのソフトウェアを使うときはローカルサーバ機能の設定を行います。本製品には、あらかじめインターネットで使われるサービスやアプリケーションが登録されており、簡単に設定することができます。



ローカルサーバの設定

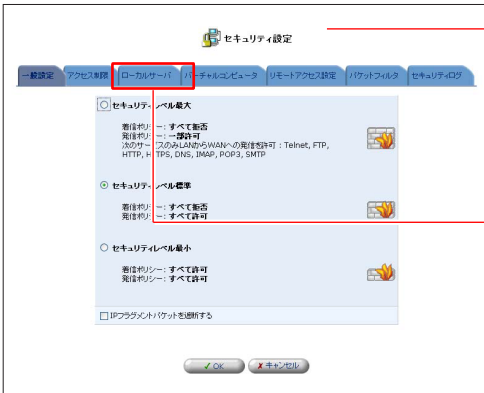
ここでは、ローカルサーバの詳細な設定を行います。

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [ローカルサーバ]タブをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

4 [ローカルサーバの追加]画面が表示されます。 [ローカルホスト]欄にローカルサーバを設定するパソコンのIPアドレスを入力します。

[ローカルサーバの追加]画面に切り替わります。

入力します。

- 5 [デフォルト定義サービス]欄に本製品に既に登録されているサービスやアプリケーションが表示されます。インターネットに公開するサービスや、使用するアプリケーションを選択し、チェックします。

サービス名	プロトコル / ポート
ユーザ定義サービス	
デフォルト定義サービス	
<input type="checkbox"/> All Traffic	プロトコル: すべて
<input type="checkbox"/> DNS - Domain Name Server	TCP 53 → 53 UDP 53 → 53 1024-65535 → 53
<input type="checkbox"/> FTP - File Transfer	TCP すべて → 21
<input type="checkbox"/> HTTP - Web Server	TCP すべて → 80
<input type="checkbox"/> HTTP - Secondary Web Server	TCP すべて → 8080
<input type="checkbox"/> HTTPS - Secured Web Server	TCP すべて → 443
<input type="checkbox"/> HTTPS - Secondary Secured Web Server	TCP すべて → 8443
<input type="checkbox"/> FTP - File Transfer	UDP 1024-65535 → 69
<input type="checkbox"/> IMAP - Messaging Server	TCP すべて → 143
<input type="checkbox"/> NNTP - News Server	TCP すべて → 119
<input type="checkbox"/> Ping - ICMP Echo Request	ICMP Echo Request
<input type="checkbox"/> POP3 - Incoming Mail	TCP すべて → 110
<input type="checkbox"/> SNMP - Simple Network Management Protocol	UDP すべて → 161
<input type="checkbox"/> SMTP - Outgoing Mail	TCP すべて → 25
<input type="checkbox"/> TELNET - Remote Connection	TCP すべて → 23

チェックします。

- 6 [OK]ボタンをクリックします。

<input type="checkbox"/> HTTP - Web Server	TCP すべて → 80
<input type="checkbox"/> HTTP - Secondary Web Server	TCP すべて → 8080
<input type="checkbox"/> HTTPS - Secured Web Server	TCP すべて → 443
<input type="checkbox"/> HTTPS - Secondary Secured Web Server	TCP すべて → 8443
<input type="checkbox"/> FTP - File Transfer	UDP 1024-65535 → 69
<input type="checkbox"/> IMAP - Messaging Server	TCP すべて → 143
<input type="checkbox"/> NNTP - News Server	TCP すべて → 119
<input type="checkbox"/> Ping - ICMP Echo Request	ICMP Echo Request
<input type="checkbox"/> POP3 - Incoming Mail	TCP すべて → 110
<input type="checkbox"/> SNMP - Simple Network Management Protocol	UDP すべて → 161
<input type="checkbox"/> SMTP - Outgoing Mail	TCP すべて → 25
<input type="checkbox"/> TELNET - Remote Connection	TCP すべて → 23
<input type="checkbox"/> TELNET - Secondary Remote Connection	TCP すべて → 8023
<input type="checkbox"/> TELNETSSL - Secure Remote Connection over SSL	TCP すべて → 992

クリックします。

[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

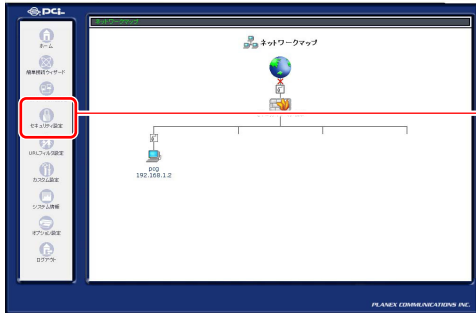
- 7 以上で設定は終了です。

新規に作成したサービスでローカルサーバを設定する場合

ユーザ定義サービスの新規作成

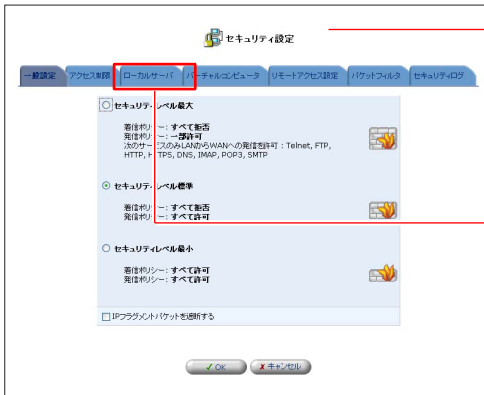
ここでは、本製品にあらかじめ登録されていないサービスを設定し、ローカルサーバを利用する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [ローカルサーバ]タブをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



[ローカルサーバ]画面に切り替わります。


追加 ボタンをクリックします。

4 新規サービスを登録します。 [ユーザ定義サービス]をクリックします。



クリックします。


5 [ユーザ定義サービス]画面が表示されます。 [新規作成]欄から[追加]ボタンをクリックします。



[ユーザ定義サービス]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

6 [サービスの編集]画面が表示されます。 [新規作成]欄から[追加]ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

6 [プロトコル]欄から使用するプロトコルを選択し、ポート番号を入力します。

[プロトコル]

対象にするプロトコルをTCP、UDP、ICMP、GRE、ESP、AH、その他から選択します。その他を選択したときは、対象にするプロトコル番号を直接指定してください。

[発信元ポート/送信先ポート]

サービスやアプリケーションのポート番号を入力します。

すべて 全てのポートを指定します。

1個を指定 1つのポート番号を指定します。

範囲指定 ポート番号の範囲を指定します。

[ICMPメッセージ]

対象にするICMPメッセージを選択します。

7 [OK]ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に戻ります。

クリックします。

8 追加ボタンをクリックすることで、複数のポートを指定することもできます。

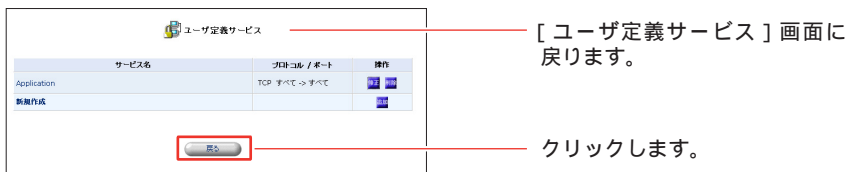


入力します。

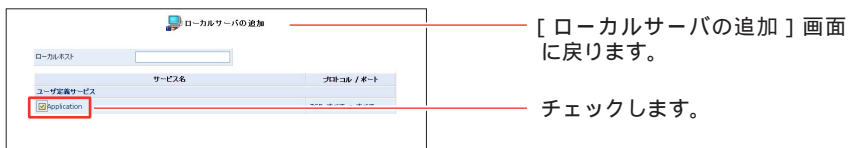
追加 ボタンをクリックします。

9 全ての設定が終了しましたら、[サービス名]欄に任意の名前を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

- 10 [ユーザ定義サービス]の画面に戻ります。
[サービス名]欄に作成したユーザ定義サービスが表示されているのを確認し
ます。[戻る]ボタンをクリックします。



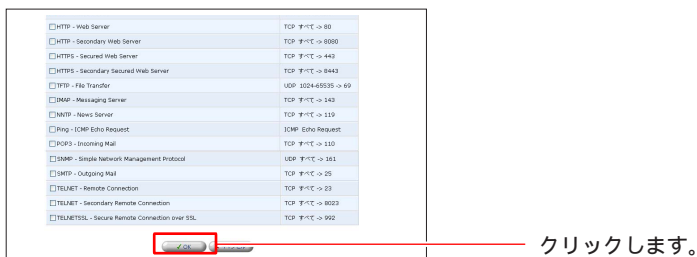
- 11 [ローカルサーバの追加]の画面に戻ります。
[ユーザ定義サービス]欄に作成したユーザ定義サービスが表示されてるの
を確認し、チェックします。



- 12 ローカルサーバ機能を使用するパソコンの設定を行います。
[ローカルホスト]欄にローカルサーバ機能を使用するパソコンのIPアドレ
スを入力します。



- 13 [OK]ボタンをクリックします。



[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示させてください。

14 [ローカルサーバ]の画面に戻ります。ローカルサーバで使用するサービスとパソコンのIPアドレスが表示されます。



[ローカルサーバ]画面に戻ります。

表示されます。

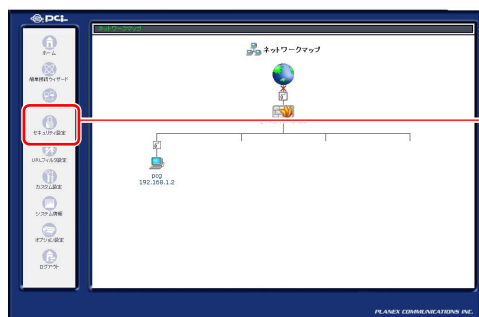
15 [OK]ボタンをクリックします。

16 以上で設定は終了です。

ユーザ定義サービスの修正

ここでは、既に作成したユーザ定義サービスを修正する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [ローカルサーバ]タブをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 設定を変更するパソコンの修正ボタンをクリックします。



[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

- 4 [ローカルサーバの編集]画面が表示されます。
[ユーザー定義サービス]をクリックします。



[ローカルサーバの編集]画面に切り替わります。
クリックします。

- 5 [ユーザー定義サービス]の画面が表示されます。設定を変更したいサービスの修正ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。
修正 ボタンをクリックします。

- 6 [サービスの編集]の画面が表示されます。設定を変更したいプロトコルの修正ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。
修正 ボタンをクリックします。

- 7 [サービスの編集]の画面が表示されます。設定を変更したい項目を修正し、[OK]ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。
修正します。
クリックします。

8 [OK]ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。

クリックします。

9 [ユーザ定義サービス]画面に戻ります。 [戻る]ボタンをクリックします。



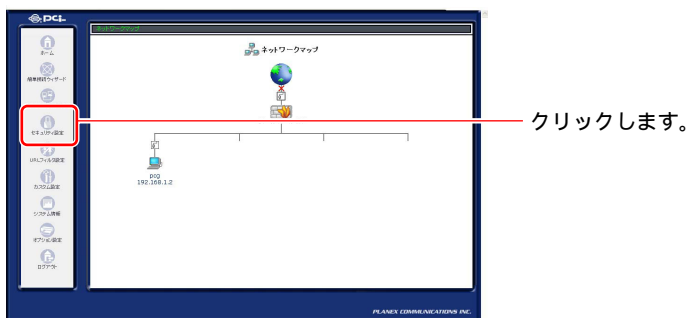
[サービスの編集]画面に切り替わります。

クリックします。

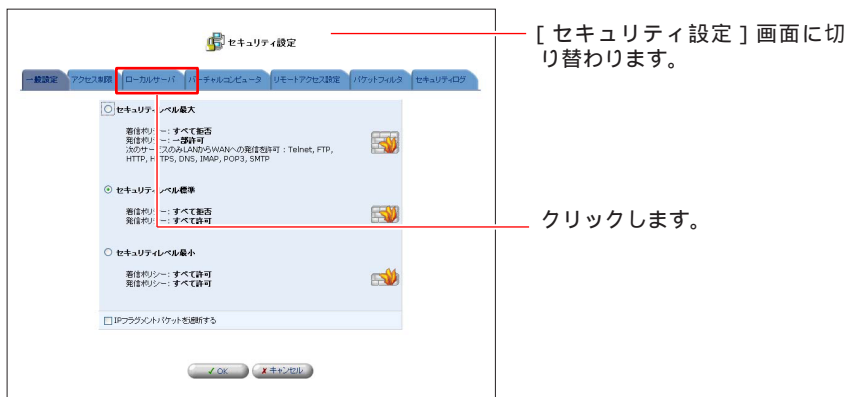
10 以上で設定は終了です。

ユーザ定義サービスの削除

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ローカルサーバ]タブをクリックします。



3 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

ローカルホスト	ローカルIP	サービス名	操作
192.168.1.10	192.168.1.10	Application	追加 削除

4 [ユーザ定義サービス]をクリックします。

[ローカルサーバの追加]画面に切り替わります。

クリックします。

ローカルホスト	サービス名	プロトコル / ポート
	ユーザ定義サービス	UDP
	デフォルト定義サービス	プロトコル すべて
	All Traffic	プロトコル すべて

5 [ユーザ定義サービス]の画面が表示されます。削除したいサービスの削除ボタンをクリックします。

[ユーザ定義サービス]画面に切り替わります。

削除 ボタンをクリックします。

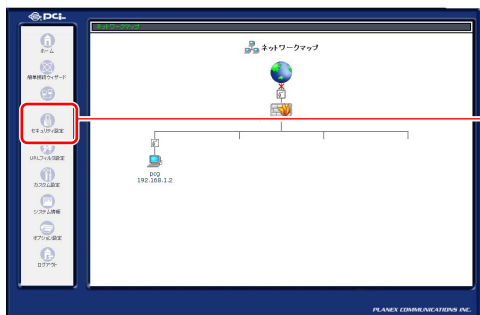
サービス名	プロトコル / ポート	操作
Application	UDP すべて ~ すべて	追加 削除

6 [戻る]ボタンをクリックします。

7 以上で設定は終了です。

設定したローカルサーバの修正

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ローカルサーバ]タブをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 設定を変更したいパソコンの修正ボタンをクリックします。

[ローカルサーバ] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

4 [ローカルサーバの編集] 画面が表示されます。
使用するサービスまたはパソコンの IP アドレスを変更できます。

[ローカルサーバの編集] 画面に切り替わります。

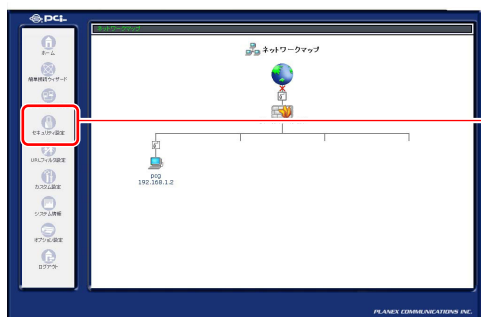
変更します。

5 [OK]ボタンをクリックします。

6 以上で設定は終了です。

ローカルサーバの有効/無効の切替

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [ローカルサーバ]タブをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 [ローカルホスト]欄からサービスを無効にしたいIPアドレスのチェックを外します。



[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

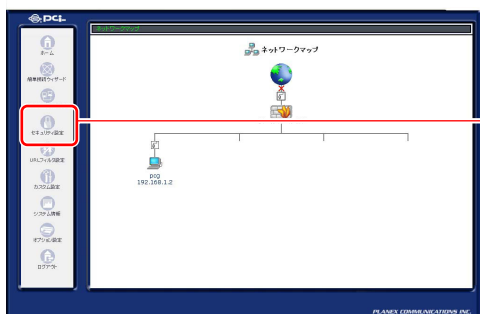
チェックを外します。

4 [OK] ボタンをクリックします。

5 以上で設定は終了です。

設定したローカルサーバの削除

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [ローカルサーバ]タブをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 設定を削除したいサービスの削除ボタンをクリックします。

[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

ローカルサーバID	ローカルIP	サービス名	操作
192.168.1.10	192.168.1.10	Application	削除

削除ボタンをクリックします。

4 [OK]ボタンをクリックします。

5 以上で設定は終了です。

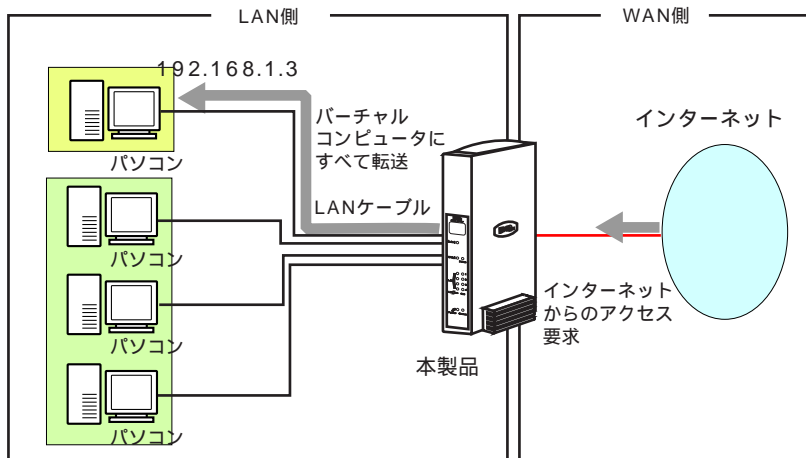
バーチャルコンピュータの設定

バーチャルコンピュータ機能を使用すると、LAN側にある1台のパソコンをインターネット上に公開できます。次のようなときに、バーチャルコンピュータを指定します。

- ・[ローカルサーバ]機能のリストにはないオンラインゲームやビデオ会議用のソフトウェアで、使用するポートなどの情報が公開されていない場合。
- ・セキュリティの制限無しに、1台のパソコンで全てのサービスをインターネットに公開する場合。

! ご注意

- ・バーチャルコンピュータとして、複数のパソコンを設定することはできません。
- ・バーチャルコンピュータとして設定したパソコンは、ファイアウォールで保護されていないため、外部から攻撃を受ける恐れがあります。
- ・ローカルサーバ機能とバーチャルコンピュータ機能を同時に設定しているときは、ローカルサーバの設定が優先されます。
- ・DMZ（ポート）機能とバーチャルコンピュータ機能を同時に設定することはできません。



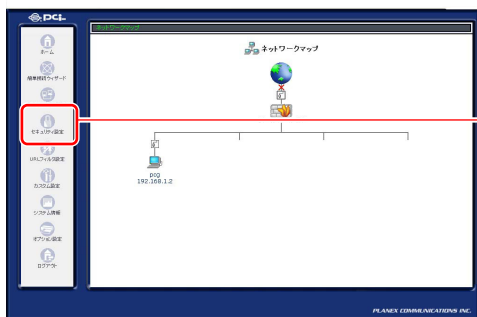
インターネットからLAN側へのアクセス要求を受け取ると、本製品は[ローカルサーバ]機能で登録されてる宛先を除き、すべてバーチャルコンピュータへその要求を転送します。

LAN 側のパソコンをバーチャルコンピュータに設定する

ここでは、LAN 側のパソコンをインターネットに公開するためのバーチャルコンピュータの設定について説明します。

バーチャルコンピュータ設定

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

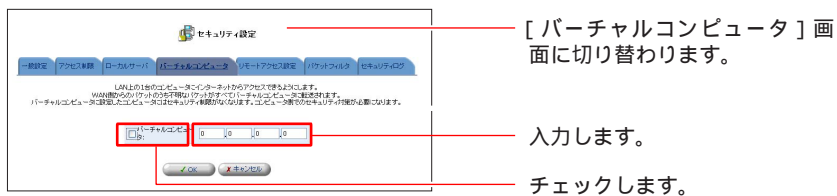
- 2 [バーチャルコンピュータ]タブをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 [バーチャルコンピュータ IP アドレス]欄にチェックを付け、バーチャルコンピュータにするパソコンのIP アドレスを入力します。

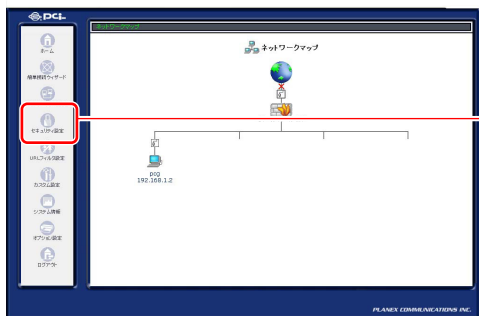


- 4 [OK]ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了です。

バーチャルコンピュータの有効/無効の切替

1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

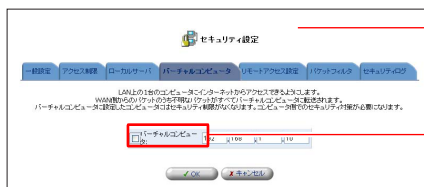
2 [バーチャルコンピュータ]タブをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 [バーチャルコンピュータIPアドレス]欄からチェックを外します。



[バーチャルコンピュータ]画面に切り替わります。

チェックを外します。

4 [OK]ボタンをクリックします。

5 以上で設定は終了です。

ダイナミック DNS の設定

WEB サーバなどをインターネットに公開するときは、固定のグローバルIPアドレスが本製品に割り当てられている必要があります。しかし、インターネットに常時接続していても切断、再接続の際に動的にIPアドレスが変わってしまう場合があります。

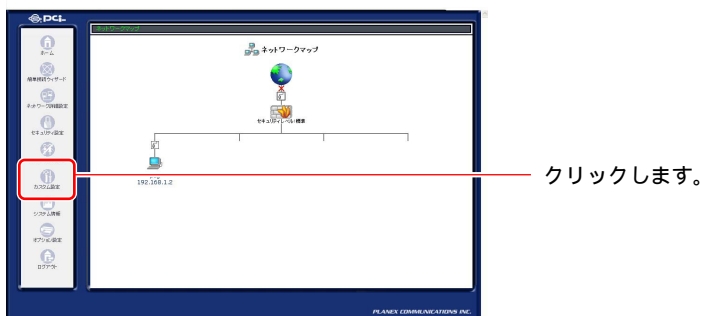
ダイナミック DNS を使用すると、本製品のIPアドレスをダイナミック DNS サーバに一定間隔で通知することで、IP アドレスが変わった場合でも固定のホスト名が使用できます。

! ご注意

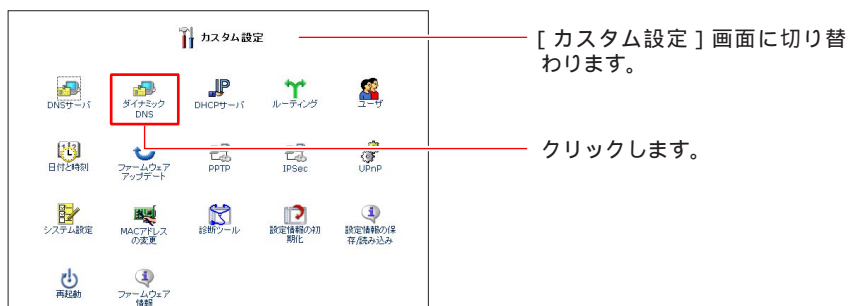
- ・ 本製品は「www.dyndns.org」ダイナミック DNS サービスに対応していません。本製品のダイナミック DNS の設定を行う前に、「www.dyndns.org」にアクセスし、ユーザ名、パスワード、ホスト名の登録を行ってください。
- ・ 「www.dyndns.org」は、無償のサービスです（2003年11月現在）。また、プロバイダによっては本設定を使わなくても、ダイナミック DNS を実現することが出来る場合があります。詳しくは、プロバイダにお問い合わせ下さい。

ダイナミック DNS の設定

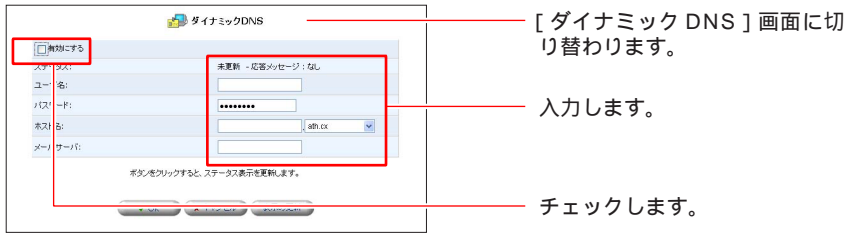
- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ダイナミック DNS]アイコンをクリックします。



- 3 [ダイナミック DNS]の画面が表示されます。
[有効にする]欄にチェックを付け、ダイナミック DNS サービスに登録した内容をもとに各項目を入力します。



[ステータス]

現在の更新情報が表示されます。

[ユーザ名]

ダイナミック DNS サービスに登録されているユーザ名を入力します。

[パスワード]

ダイナミック DNS サービスに登録されているユーザパスワードを入力します。

[ホスト名]

テキスト欄に登録したホスト名とドメイン名を入力してください。

[メールサーバ]

メールサーバを登録したい場合は、メールサーバのホスト名を入力します。

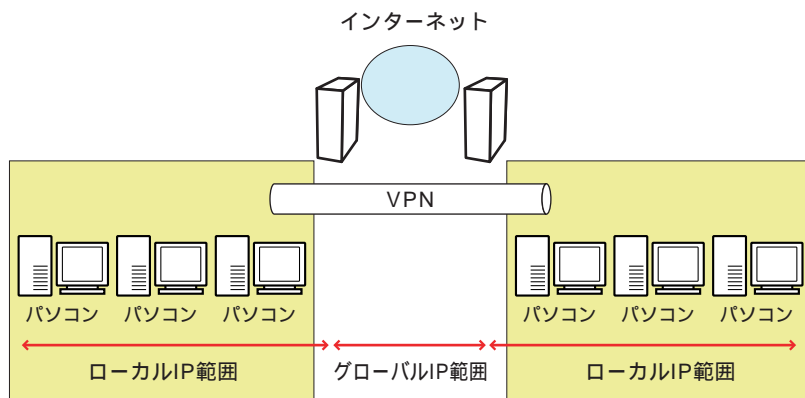
- 4 [OK]ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了です。
設定が完了するとダイナミック DNS サーバへ本製品が取得している IP アドレスを定期的に通知するようになります。

VPN の設定

VPN (Virtual Private Network) は、データのカプセル化や暗号化などのセキュリティ技術を使って、インターネットを仮想的に、専用線で接続したWANのように利用する技術です。VPNを構築するためには、PPTP (Point to Point Tunneling Protocol) やIPSec (IP Security) などのプロトコルが用いられます。ここでは、PPTPとIPSecによるVPN接続の方法について説明します。

本製品は、PPTPサーバとPPTPクライアントおよびIPSecの機能を搭載しているため、パソコンにVPN用のソフトウェアを導入する必要もなく、強固なセキュリティ機能をもつVPNを構築することができます。



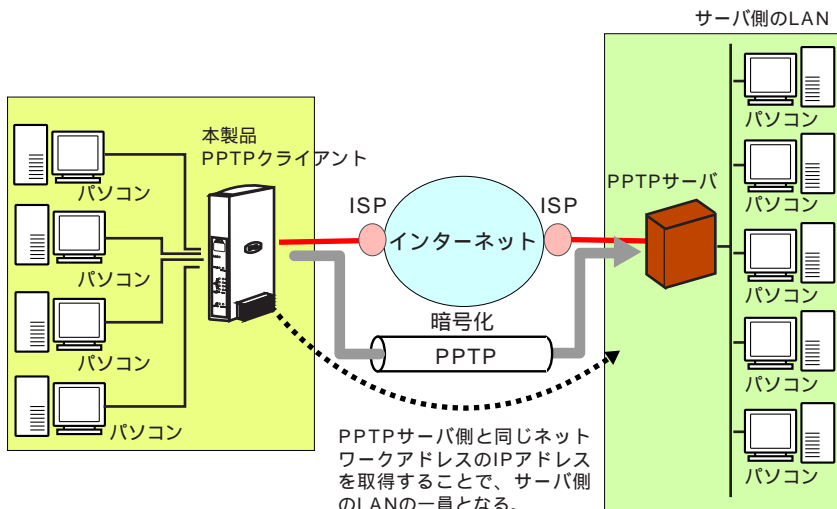
VPNを構築するには、簡単接続ウィザードによる設定をした後、ネットワーク詳細設定によって、詳細な設定が可能です。次ページの簡単接続ウィザードから設定を進めてください。なお、すでに簡単接続ウィザードによるVPN接続設定が終わっている場合は、「ネットワーク詳細設定による設定」に進んでください。

簡単接続ウィザードによる設定

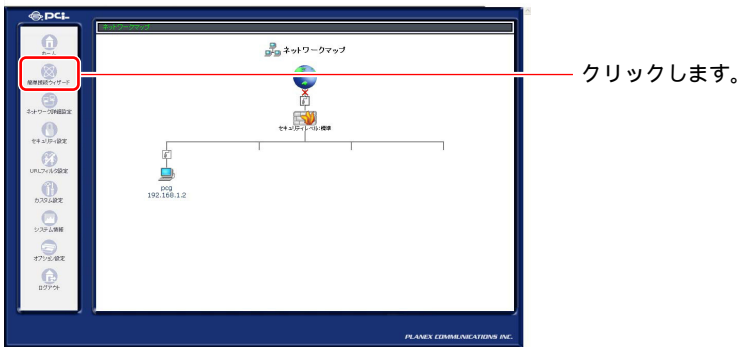
ここでは、簡単接続ウィザードを使いVPNを構築する方法について説明します。本製品はPPTPサーバ、PPTPクライアント、IPSecに対応しています。ご利用する環境に合わせて設定を進めてください。

PPTPクライアントの設定

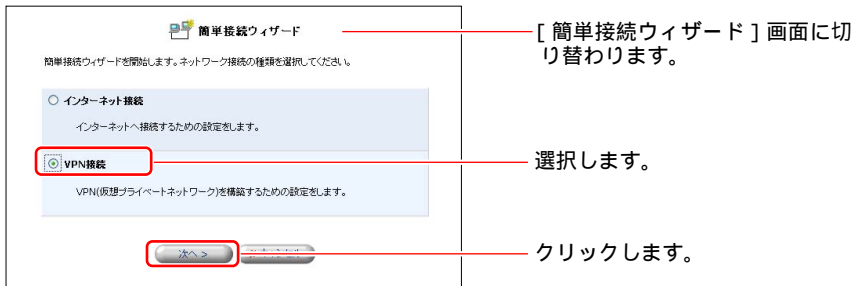
本製品をPPTPクライアントとして使用する場合の設定について説明します。



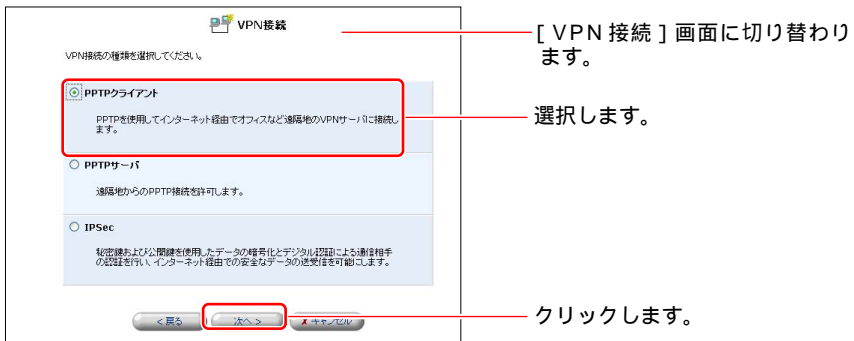
1 サイドバーから[簡単接続ウィザード]アイコンをクリックします。



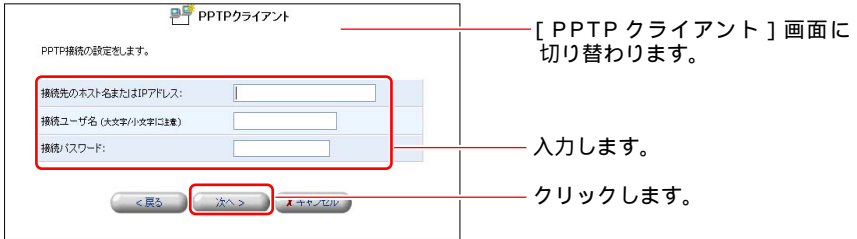
2 [VPN接続]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



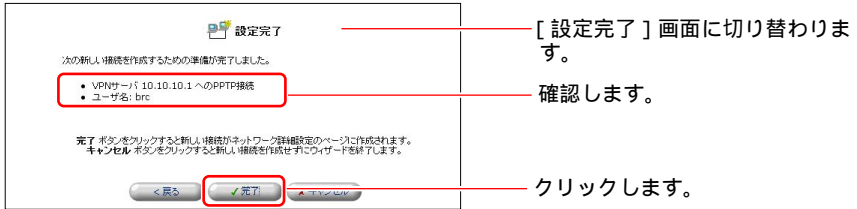
3 [PPTPクライアント]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします



- 4 リモートアクセスするサーバの設定に従い、PPTP 接続の設定を行います。
[接続先のホスト名またはIP アドレス]に接続する PPTP サーバの IP アドレスを入力し、[接続ユーザ名]、[接続パスワード]に接続する時のユーザ名とパスワードを入力します。
[次へ]ボタンをクリックします。

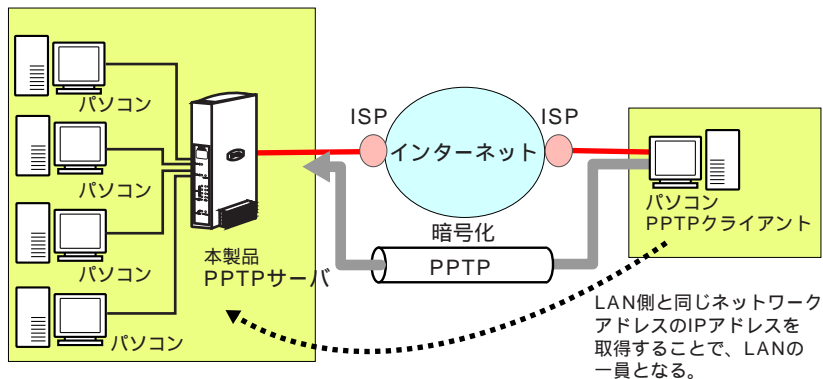


- 5 [接続完了]画面が表示されます。
PPTP 接続するサーバ名またはIP アドレスを確認し、[完了]ボタンをクリックします。

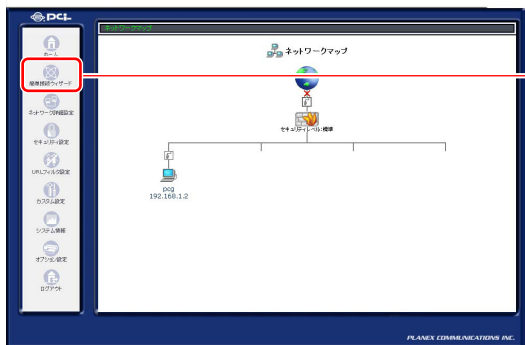


PPTP サーバの設定

本製品をPPTPサーバとして使用する場合の設定について説明します。



- 1 サイドバーから[簡単接続ウィザード]アイコンをクリックします。



2 [VPN 接続]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

簡単接続ウィザード

簡単接続ウィザードを開始します。ネットワーク接続の種類を選択してください。

インターネット接続
インターネットへ接続するための設定をします。

VPN 接続
VPN(仮想プライベートネットワーク)を構築するための設定をします。

次へ >

[簡単接続ウィザード]画面に切り替わります。

選択します。

クリックします。

3 [PPTP サーバ]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

VPN 接続

VPN 接続の種類を選択してください。

PPTPクライアント
PPTPを使用してインターネット経由でオフィスなど遠隔地のVPNサーバに接続します。

PPTPサーバ
遠隔地からのPPTP接続を許可します。

IPSec
秘鍵および公開鍵を使用したデータの暗号化とデジタル署名による通信相手の認証を行い、インターネット経由での安全なデータの送受信を可能にします。

<戻る 次へ > キャンセル

VPN 接続画面に切り替わります。

選択します。

クリックします。

4 PPTPサーバにアクセスを許可する為のユーザ設定を行います。

ユーザ

PPTP接続を許可するユーザを作成してください。

フルネーム	ユーザ名	権限	操作
Administrator	admin	管理者権限 ファイルサーバ)からのファイルの読み込み ファイルサーバへのファイルの書き込み	修正
ユーザの追加			追加

<戻る 次へ > キャンセル

[ユーザ]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

- 5 [一般設定]欄のフルネーム、ユーザ名、新しいパスワード、新しいパスワードの確認に登録するユーザの設定を入力し、[権限]欄からPPTPリモートアクセスにチェックをつけます。

[ユーザ設定]画面に切り替わります。

入力します。

チェックします。

クリックします。

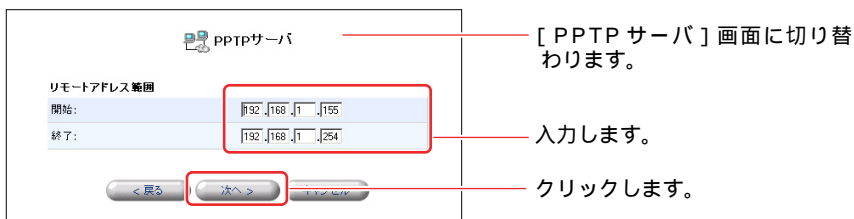
- 6 ユーザの追加または修正、削除が終わると[ユーザ]画面に戻りますので、[次へ]ボタンをクリックします。

[ユーザ]画面に戻ります。

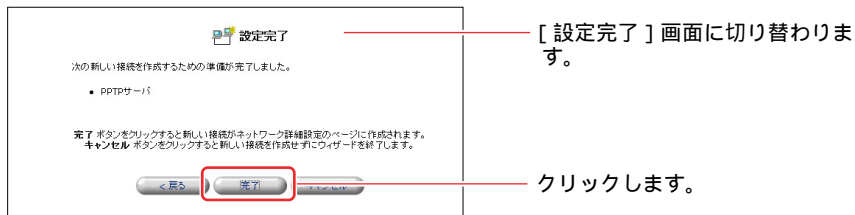
クリックします。

フルネーム	ユーザ名	権限	操作
Administrator	admin	管理者権限	削除
user	user	PPTP リモートアクセス	削除
ユーザの追加			追加

- 7 PPTPクライアントのリモートアドレスを入力します。
PPTPサーバにリモートアクセスするユーザに割り当てるIPアドレスの範囲を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



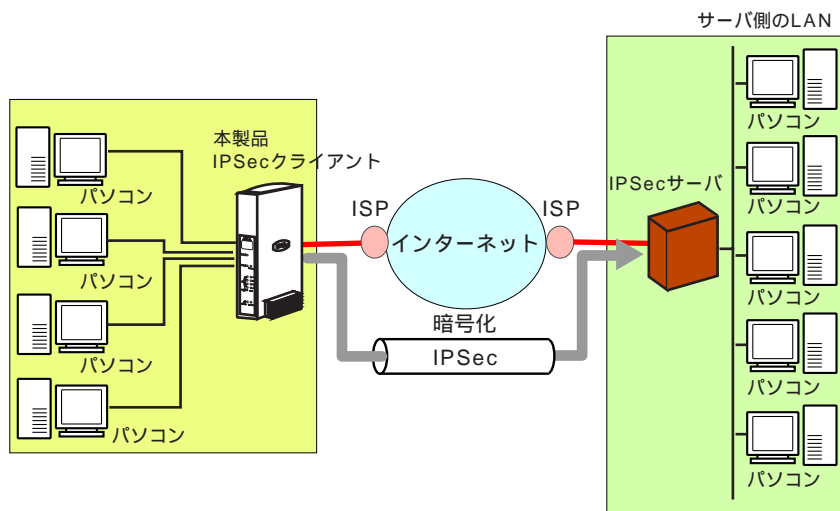
- 8 [設定完了]画面が表示されます。
[完了]ボタンをクリックします。



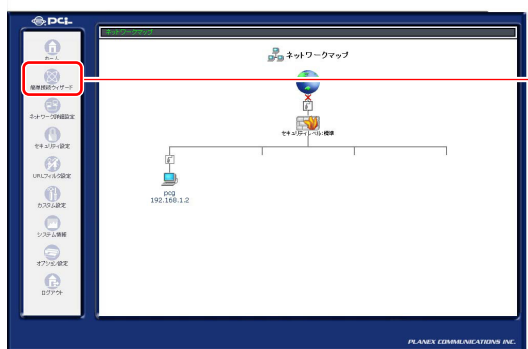
インターネットに接続されている場合、PPTPクライアントの設定が完了すると、自動的にPPTPサーバへ接続を行います。

IPSecの設定

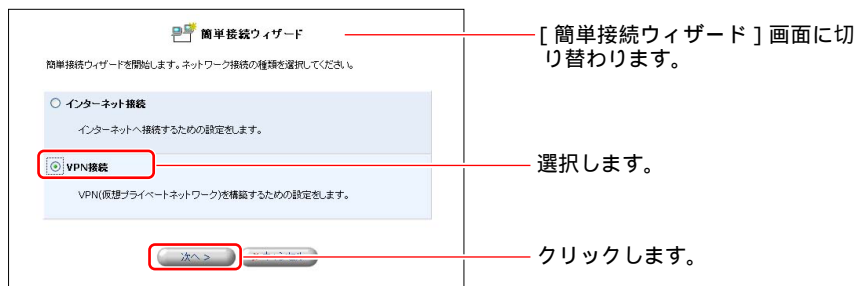
本製品を使いIPSecによるVPN接続を行う場合の設定について説明します。



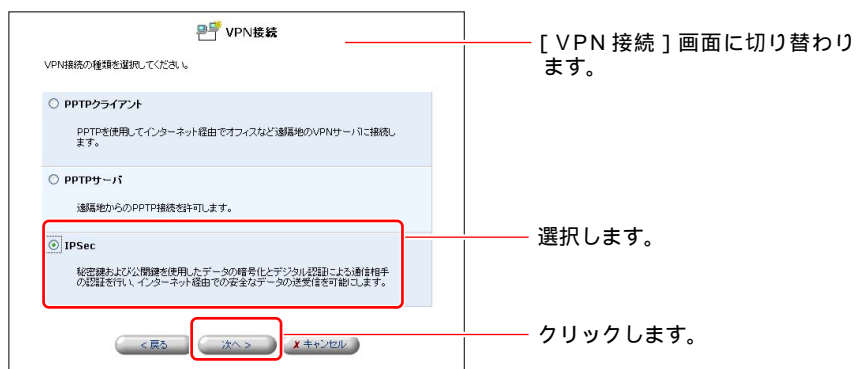
- 1 サイドバーから[簡単接続ウィザード]アイコンをクリックします。



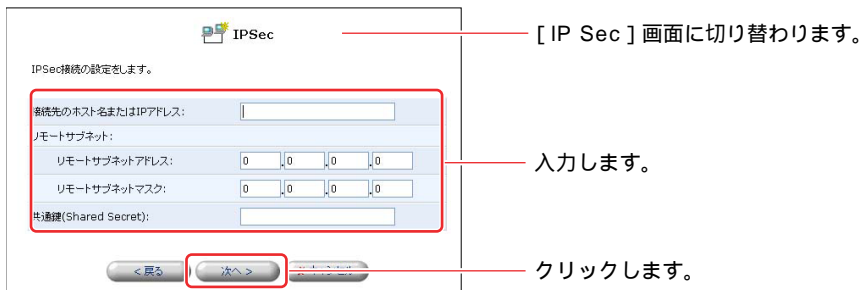
2 [VPN 接続]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



3 [IPSec]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



4 接続するIPSecの情報を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



[接続先のホスト名またはIP アドレス]

IPSec で接続する相手側の IP アドレスを入力します。

[リモートサブネットアドレス]

IPSec で接続する相手側のネットワークアドレスを入力します。

[リモートサブネットマスク]

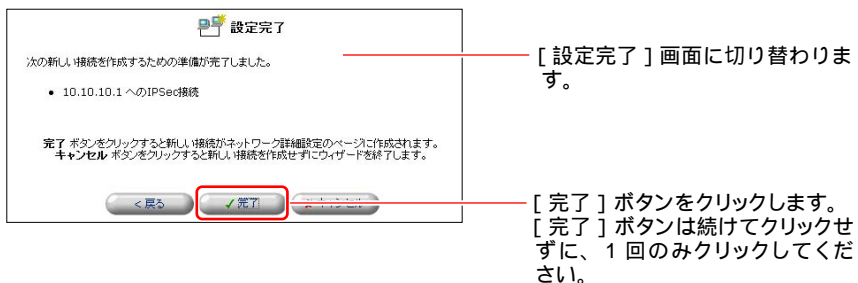
IPSec で接続する相手側のサブネットマスクを入力します。

[共通鍵]

IPSec 間で認証を行うときに使う事前共有鍵を入力します。

鍵の値は両方のルータで同じ値を入力します。

5 [設定完了]画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックします。



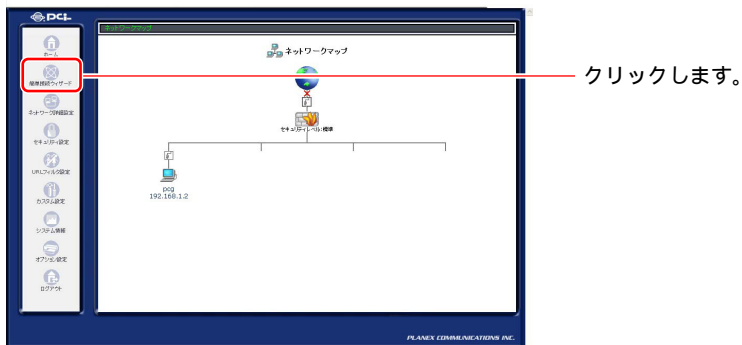
ネットワーク詳細設定による設定

PPTPクライアントやサーバに関する詳細な設定と、IPSecの詳細設定について説明します。

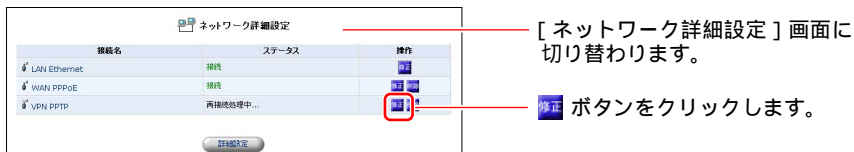
VPNの詳細な設定をするためには、あらかじめ「簡単接続ウィザード」による設定を終了しておく必要があります。

PPTPクライアントの詳細設定

- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



- 2 [ネットワーク詳細設定] 画面が表示されます。詳細な設定を行う VPN PPTP 接続の修正ボタンをクリックします。



- 3 [ネットワーク詳細設定 VPN PPTP] 画面が表示されます。接続名、ステータス、ユーザ名等が表示されていますので、確認して [詳細設定] ボタンをクリックします。



- 4 [詳細設定 VPN PPTP] 画面が表示されます。PPTP サーバ管理者の通知に従って、基本設定、PPP、PPP 認証、PPP 暗号化、IP の設定方法などを設定します。

基本設定、PPP、PPP 認証の設定

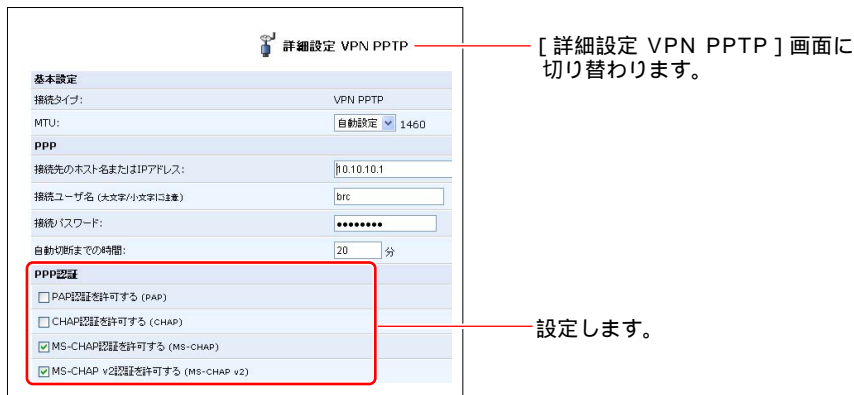
[PPP]

接続先のホスト名または IP アドレス、接続ユーザ名、接続パスワードには、簡単接続ウィザードで設定した内容が表示されています。変更する必要がある項目を修正します。

自動切断までの時間は、PPTP による通信が中断したときに接続を切断するまでの時間を分単位で入力します。

[PPP 認証設定]

ユーザ認証のためのプロトコルを選択します。PPP 暗号化で「暗号化を許可する」場合は、MS-CHAP または MS-CHAP v2 を選択します。



PPP 暗号化、IP 設定

パケットの暗号化に関する設定を行います。

[PPP 暗号化]

- ・暗号化を必ず要求する：
暗号化通信を要求するときにチェックします。サーバが拒否すると PPTP 通信は確立されません。
- ・暗号化を許可する：
暗号化に MPPE (Microsoft Point-to-Point Encrypeion) を使用します。
40bit のキーで暗号化するか、128bit のキーを使うかで、MPPE-40 が MPPE-128 を選択します。
- ・MPPE 暗号化モード：
暗号化のモード (Stateless または Stateful) を選択します。Stateless はパケットごとに暗号化キーを変更するので、通信の安全性は高くなります。Stateful は複数のパケット単位で暗号化キーを変更します。
暗号化を許可する場合は、上の PPP 認証で、MS-CHAP または、MS-CHAP v2 が選択されていることを確認してください。

[IP 設定]

IP アドレスを固定にするか、自動取得するかを選択します。

[サブネットマスクを置き換える] は、固定のサブネットマスクを利用するときにチェックし、そのときのサブネットマスクを指定します。

[DNS サーバ]

DNS サーバアドレスを自動取得するのか、固定設定にするのかを選択します。固定にする場合は、プライマリとセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを指定します。なお、[DNS サーバ] をクリックすると、[カスタム設定] で [DNS サーバ] を選んだ状態になります。

[デバイスメトリック]

メトリックの値を入力します。

! ご注意

必ず [NAPT] は有効の状態でお使いください。

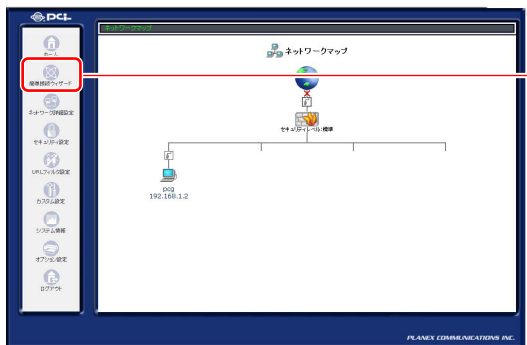
設定します。

- 5 [OK] ボタンをクリックすると設定が有効になり、[ネットワーク接続 VPN PPTP] 画面に戻ります。

PPTP クライアントの削除

ここでは、既に登録してある PPTP クライアント接続を削除する場合について説明します。

- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします



クリックします。

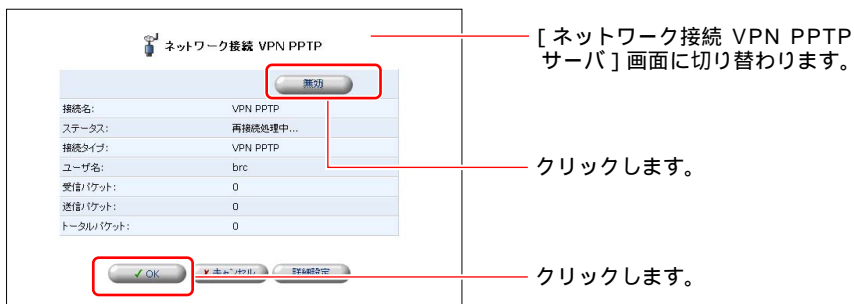
- 2 [接続名]欄から削除するVPN PPTP接続の[修正]ボタンをクリックします。



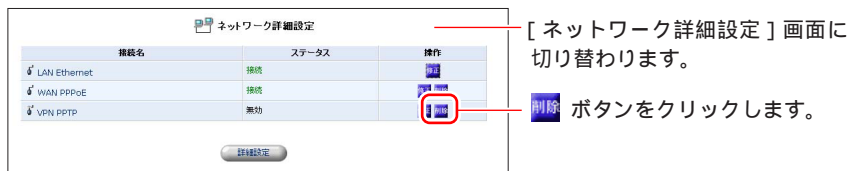
[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

- 3 回線が接続されてる場合は、[無効]ボタンをクリックし、回線をいったん切断します。[OK]ボタンをクリックします。



- 4 [接続名]欄から削除するVPN PPTP接続の[削除]ボタンをクリックします。

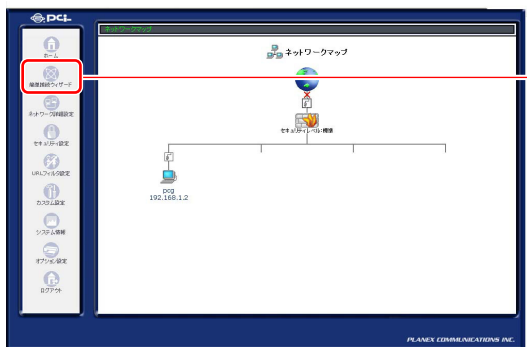


- 5 [戻る]ボタンをクリックします。

- 6 以上で設定は終了です。

PPTP サーバの詳細設定

- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします



クリックします。

- 2 [ネットワーク詳細設定] 画面が表示されます。詳細な設定を行う VPN PPTP サーバ接続の修正ボタンをクリックします。

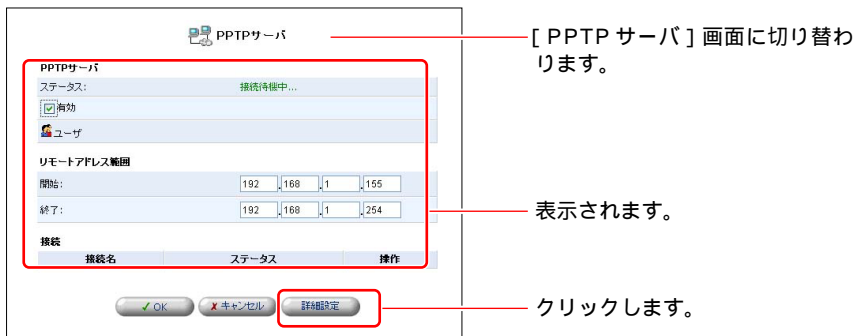


[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

PPTP サーバを削除する場合は、修正ボタンをクリックし、[PPTPサーバ] 画面の [有効] 欄からチェックを外します。

- 3 [PPTPサーバ] 画面が表示されます。
[詳細設定] ボタンをクリックします。
なお、ここでユーザの編集、PPTPクライアントの接続設定も可能です。



[PPTPサーバ] 画面に切り替わります。

表示されます。

クリックします。

- 4 [PPTPサーバ] 画面が表示されます。PPTPサーバの詳細な設定を行います。



設定します。

[ステータス]

PPTPサーバの接続状況を表示します。

[有効]

PPTPサーバを有効にするときにチェックします。このチェックをはずすと、PPTPサーバとして動作しなくなり、接続状況にも反映されなくなり、また詳細設定の画面からも削除されます。

[ユーザ]

クリックすると、ユーザの設定を行うことができます。

[自動切断までの時間]

PPTPによる通信が中断したときに、接続を切断するまでの時間を分単位で入力します。

[ユーザセキュリティ]

PPTPを使用した通信での認証と暗号化について設定します。

- ・ 認証が必要：
PPTPクライアントが接続するときに、ユーザ認証を必要とするときにチェックします。接続テストなど特別な場合を除いて必ずチェックを入れてください。
- ・ 暗号化が必要：
PPTPクライアントが接続するときに、暗号化通信を要求する場合にチェックします。

[許可する認証アルゴリズム]

ユーザセキュリティで認証が必要にチェックをした場合、認証のアルゴリズムをPAP、CHAP、MS-CHAP-v1、MS-CHAP-v2 から選択します。暗号化をする場合は、MS-CHAP-v1かMS-CHAP-v2をチェックしてください

[許可する暗号化アルゴリズム]

ユーザセキュリティで暗号化が必要にチェックをした場合、暗号化アルゴリズムをMPPE-40とMPPE-128から選択します。

[MPPE 暗号化モード]

暗号化のモード (Stateless または Stateful) を選択します。

- ・ Stateless：
パケットごとに暗号化キーを変更するので、通信の安全性は高くなります。
- ・ Stateful：
複数のパケット単位で暗号化キーを変更します。

5 [簡単接続ウィザード] で設定した、リモートアドレス、クライアントとして動作する場合のPPTPクライアントの設定が表示されます。クリックし修正することが可能です。

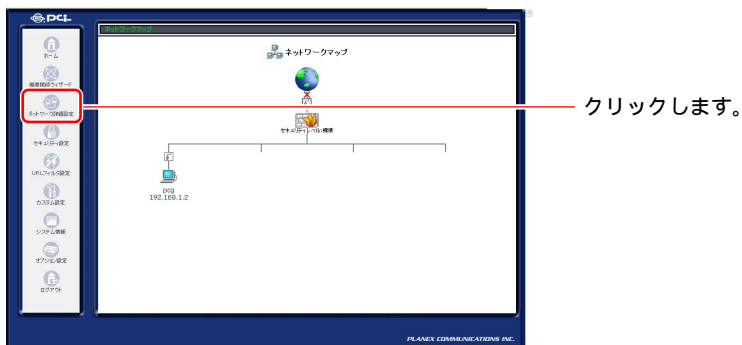


確認します。

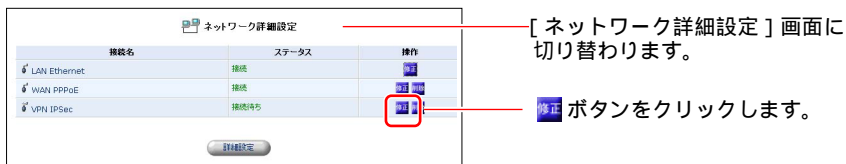
6 [OK] ボタンをクリックすると、設定が有効になりネットワーク詳細設定画面に戻ります。[基本設定] ボタンをクリックすると、PPTPサーバの最初の画面に戻ります。

IPSecの詳細設定

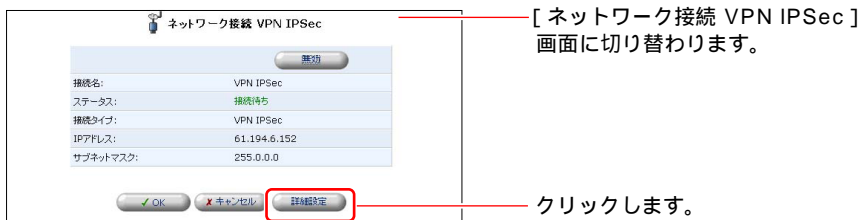
- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします



- 2 [ネットワーク詳細設定] 画面が表示されます。詳細な設定を行う VPN IPSec 接続の修正ボタンをクリックします。



- 3 [ネットワーク接続 VPN IPSec] 画面が表示されます。[詳細設定] ボタンをクリックします。



4 「詳細設定 VPN IPSec」画面が表示されます。

基本設定	
接続先タイプ:	VPN IPSec
IPSec	
接続先のホスト名またはIPアドレス:	10.10.10.1
鍵交換モード:	トンネリング
ローカルサブネット	
ローカルサブネットアドレス:	192.168.1.0
ローカルサブネットマスク:	255.255.255.0
リモートサブネット	
リモートサブネットアドレス:	192.168.10.0
リモートサブネットマスク:	255.255.255.0
<input type="checkbox"/> データ圧縮 (IPCOMPプロトコル)	

[詳細設定 VPN IPSec] 画面に切り替わります。

ここで次の項目を設定します。

基本設定

[MTU]

MTU を設定します。

[接続先のホスト名またはIP アドレス]

簡単接続ウィザードで設定した接続先が表示されています。必要であれば修正します。

[ローカルサブネット]

本製品の LAN 側のサブネットアドレス、サブネットマスクを設定します。

[リモートサブネット]

接続先のサブネットアドレスとサブネットマスクを入力します。

[データ圧縮]

データ圧縮をするときにチェックします。

[鍵交換方式]

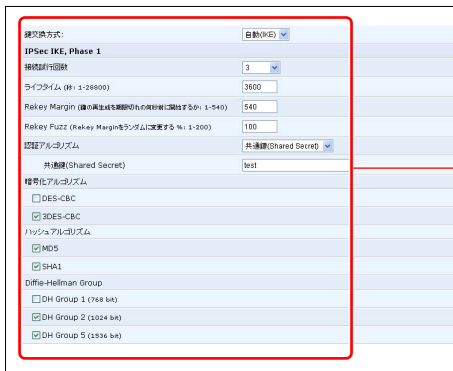
暗号化アルゴリズムや鍵交換のための SA の合意をとる方式を選択します。

- ・自動：
IKE (Internet Key Exchange) を使って、SA の合意を通信時に自動的に行う場合を選択します。通常は、自動に設定しておきます。
- ・手動：
SA の合意をあらかじめ手動で設定しておく場合に選択します。画面が手動用に切り替わります。

! ご注意

必ず手動モードは「トンネリング」の状態でお使いください。

- 5 鍵交換方式を自動的に設定します。
鍵交換方式を [自動] に設定した場合、次の 2 つのフェーズの設定を行います。まず、IPSec IKE, Phase 1 の設定をします。



設定します。

IPSec IKE, Phase 1

[接続試行回数]

ネゴシエーションの試行回数を設定します。

[ライフタイム]

鍵の有効期限を秒単位で設定します。

[Rekey Margin]

Rekey (鍵の再生成) を期限切れの何秒前に開始するかを設定します。

[Rekey Fuzz]

Rekey Margin をランダムに変更するパーセンテージを設定します。

[認証アルゴリズム]

認証の方式を選択します。

- ・ 共通鍵方式 :
共通鍵方式を選択する場合は、事前共有キーの文字列を入力します。
(かんたん設定ウィザードで入力した鍵が表示されます。)
- ・ 公開鍵方式 :
公開鍵方式を使用する場合に、キーの文字列を入力します。

[暗号化アルゴリズム]

使用する暗号化アルゴリズムをチェックします。

[ハッシュアルゴリズム]

使用するハッシュのアルゴリズムをチェックします。

[Diffie-Hellman-Group]

対応するグループをチェックします。

6 次にIPSec IKE, Phase 2の設定をします。

IPSec IKE, Phase 2

ライフタイム (秒: 1-86400) 28000

PFS有効 (Perfect Forward Secrecy)

暗号化アルゴリズム

AH(暗号化なし)

ESP(暗号化なし)

ESP(DES-CBC)

ESP(3DES-CBC)

認証アルゴリズム (ESP)

MD5

SHA1

デバイスメトリック: 10

マルチキャスト - IGMP Proxy Default

RIP - ルーティングプロトコル

OK キャンセル

設定します。

IPSec IKE, Phase 2

[ライフタイム]

鍵の有効期限を秒単位で設定します。

[PFS 有効]

Secrecy(PFS)を使用する場合にチェックします。

[ESP]

暗号ペイロードの設定をします。暗号化アルゴリズムと認証アルゴリズムの設定をします。

[AH]

認証ヘッダの設定をします。ハッシュアルゴリズムを選択します。

[DNS サーバ]

DNS サーバの設定を行います。DNS サーバの IP アドレスを自動的に取得するか、DNS サーバのアドレスを固定設定するかを選択します。固定設定を選択した場合は、プライマリ DNS サーバとセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。

また、[DNS サーバ] をクリックすると、カスタム設定で DNS サーバを選択した場合と同じ処理を行います。

[デバイスメトリック]

メトリックの値を入力します。

- 7 [詳細設定 VPN IPsec]画面の設定内容を確認し、[OK] ボタンをクリックして、設定を有効にします。
- 8 IPsec を利用しVPN を構築する場合は、IP フラグメントパケットを透過させる必要がありますので、セキュリティ設定画面で、[IP フラグメントパケットを遮断する] のチェックをはずしてください。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

チェックをはずしてください。

鍵交換方式を手動に設定する場合

鍵交換方式で手動を選択したときは、接続先の設定にあわせて暗号化アルゴリズム、認証アルゴリズムを設定する必要があります。

ローカル: 0
リモート: 0

ローカル/リモートで異なる暗号化キーを使用する

IPSecプロトコル: ESP

暗号化アルゴリズム: 3DES-CBC

キー:

認証アルゴリズム: SHA1

ポート: 10

マルチキャスト - IGMP Proxy Default
 RIP - ルーティングプロトコル

OK キャンセル

入力します。

暗号化アルゴリズム、認証アルゴリズムのキーは、16進数8桁ずつに区切って入力してください。

VPNの接続、切断

サーバ側、クライアント側でインターネットに接続すると、自動的にLAN同士が接続されます。

- 1 IPsecによる通信を切断したい場合は、[ネットワーク詳細設定] 画面で、[VPN IPsec] の修正ボタンをクリックします。



[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックしてください。

- 2 [ネットワーク接続 VPN IPsec] 画面になりますので、[無効] ボタンをクリックします。



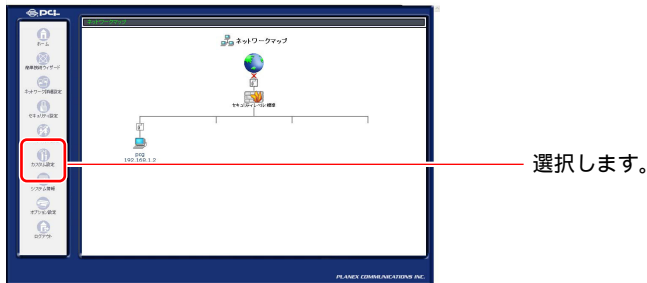
[ネットワーク接続 VPN IPsec] 画面に切り替わります。

クリックします。

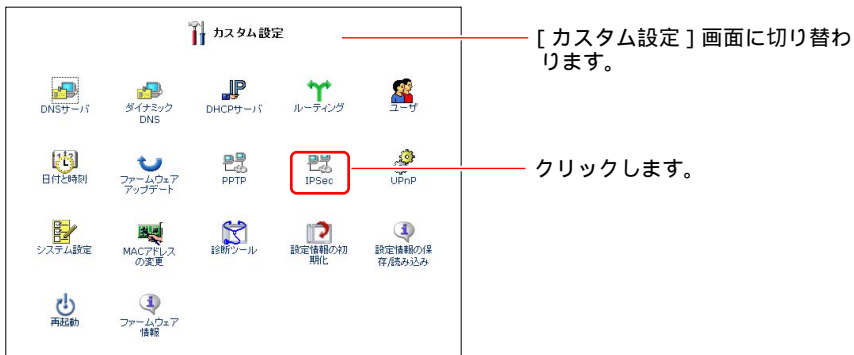
IPSec 接続に関してその他次の設定が可能です。

鍵の再生成

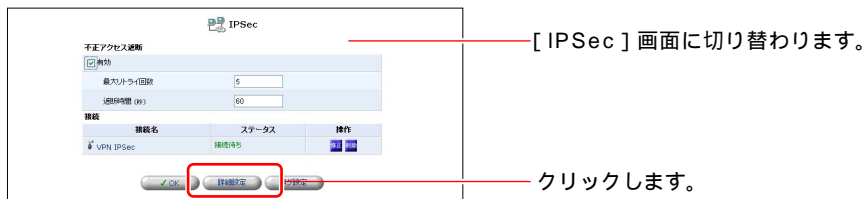
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンを選択します。



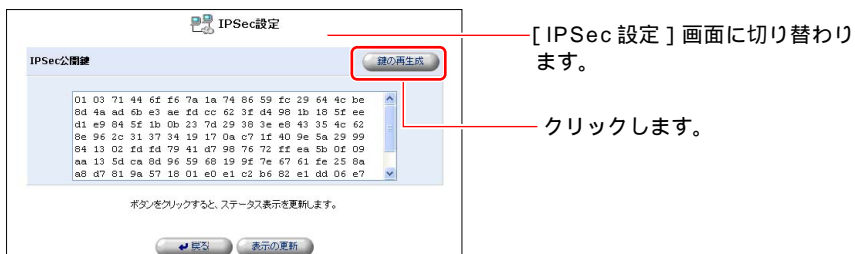
- 2 [IPSec] アイコンをクリックします。



- 3 [IPSec] 画面が表示されます。[詳細設定ボタン] をクリックします。



- 4 [IPSec設定]画面が表示されます。[鍵の再生成]ボタンをクリックし、再生成を行います。



- 5 表示の更新ボタンをクリックすると、再生成されたキーが表示されます。[戻る]ボタンをクリックすると[IPSec]画面に戻ります。

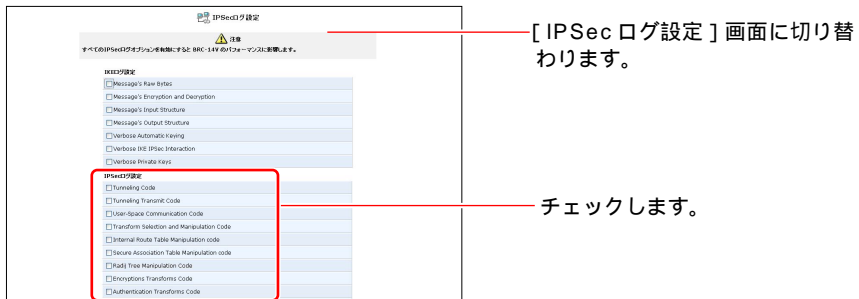
IPSec ログの設定

IPSec通信のログに関する設定を変更することができます。

- 1 カスタム設定で [IPSec] アイコンをクリックし、IPSec 画面で [ログ設定] ボタンをクリックします。



- 2 [IPSec ログ設定] 画面が表示されます。記録したい内容にチェックをつけます。

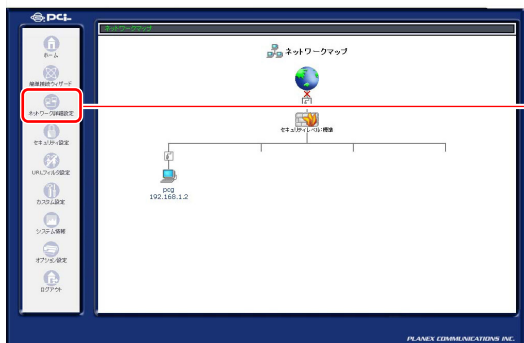


- 3 [OK] ボタンをクリックすると設定が有効になり、[IPSec] 画面に戻ります。

IPSec の削除

ここでは、既に登録してある IPSec 接続を削除する場合について説明します。

- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします



クリックします。

- 2 [接続名] 欄から削除する VPN IPSec 接続の [修正] ボタンをクリックします。



[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

- 3 回線が接続されてる場合は、[無効] ボタンをクリックし、回線をいったん切断します。[OK] ボタンをクリックします。




[ネットワーク接続 VPN IPSec] 画面に切り替わります。

クリックします。

クリックします。

- 4 [接続名]欄から削除するVPN IPsec接続の[削除]ボタンをクリックします。



[ネットワーク詳細設定]画面に切り替わります。

接続名	ステータス	操作
LAN Ethernet	接続	詳細設定 削除
WAN PPPoE	接続	詳細設定 削除
VPN IPsec	接続待ち	詳細設定 削除

削除 ボタンをクリックします。

- 5 [戻る]ボタンをクリックします。

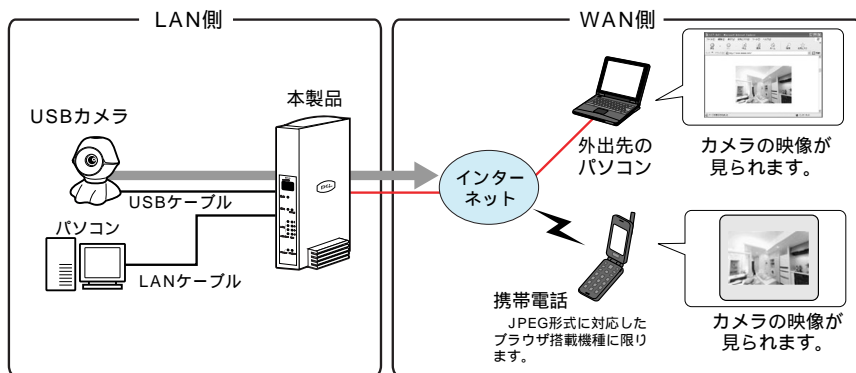
- 6 以上で設定は終了です。

オプション設定

ここでは、本製品を利用してオプション機能を設定します。

USB カメラの設定

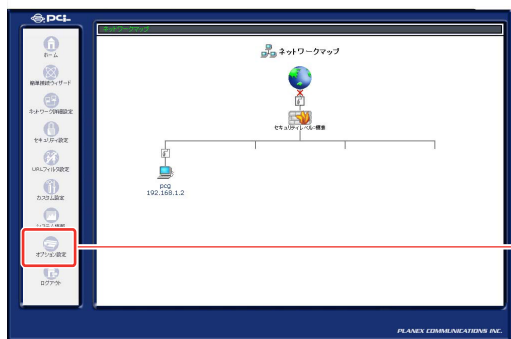
本製品のUSB インタフェースに接続したUSBカメラ（別売）で撮影した静止画や動画を、リモートアクセスしたPCや携帯電話で見ることができます。ここでは、USBカメラを有効にする設定と画像を見る方法について説明します。本体に接続できるUSBカメラは1台のみです。



本製品へのUSBカメラ接続方法は、USBカメラ「BRC-EE260」の取扱説明書をご参考ください。

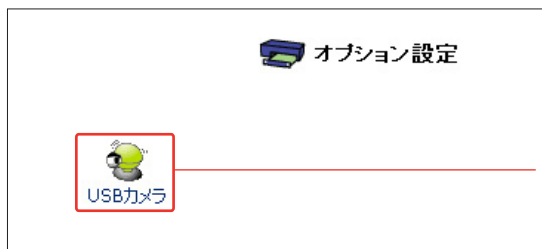
USB カメラ設定

- 1 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [オプション設定] 画面が表示されます。[USB カメラ] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [USBカメラ] 設定画面が表示されます。本製品に USB カメラ接続後、「オン」にチェックをつけます。



チェックします。

! ご注意

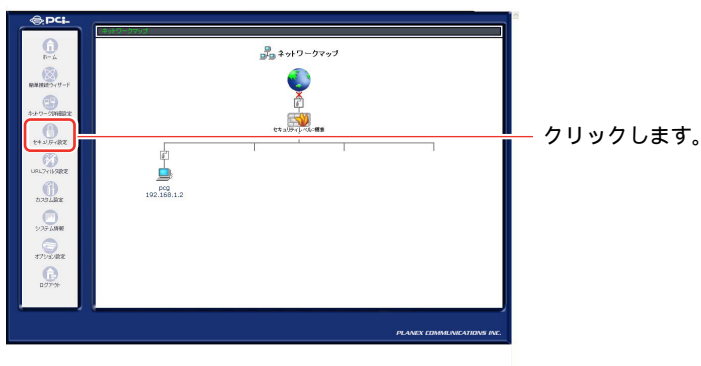
- ・[USB カメラ] 設定画面の「オン / オフ」は、デフォルトの設定が「オフ」になっています。
- ・USB カメラが「オン」の状態でカメラを取り外すと、自動的に「オフ」に切り替わります。

- 4 [画像ビットレート] から [高 (512Kbps)] または [低 (128Kbps)] のいずれかを選択します。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。
USB カメラの撮影とストリーミングの画像の配信が自動的に始まります。

インターネットからカメラ画像を見る場合

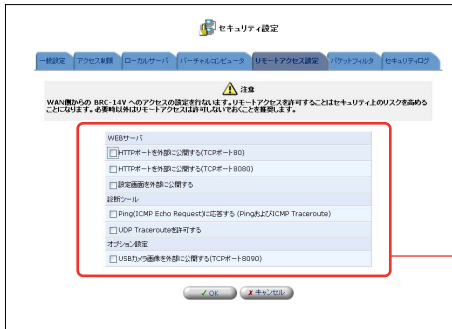
- 1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



- 2 [セキュリティ設定] 画面が表示されます。[リモートアクセスボタン] をクリックします。



- 3 [リモートアクセス設定] 画面が表示されます。
[WEB サーバを外部に公開する (TCP ポート 80)] または [WEB サーバを外部に公開する (TCP8080)] から使用していないポート番号の方にチェックし、[USB カメラ画像を外部に公開する (TCP8090)] にチェックをつけます。



選択します。

- 4 [OK] ボタンをクリックします。
- 5 以上で設定は終了です。

画像を見るための条件

USBカメラで取り込んだ画像をPCや携帯電話で見る場合、PCや携帯電話の種類によって以下のソフトウェアや条件が必要となります。

端末	静止画サイズ	動画サイズ	必要なソフトウェア・条件
Windows [®]	320×240	320×240	Microsoft [®] Internet Explorer4.0以上 Netscape Navigator [®] 6.0以上 Microsoft [®] Windows [®] Media Player7.0以上
Macintosh [®]	320×240	320×240	Microsoft [®] Internet Explorer4.0以上 Netscape Navigator [®] 6.0以上 Microsoft [®] Windows [®] Media Player Mac板 (Windows [®] Media Player for Mac OS [®] X, Windows [®] Media Player 7.1 for Mac OS [®] 8-9
Linux	320×240	320×240	Netscape Navigator [®] 6.0以上 Mplayerなど
携帯電話	112×96	なし	JPEG画像をサポートしている機種のみ。 機種によっては利用できない場合があります。

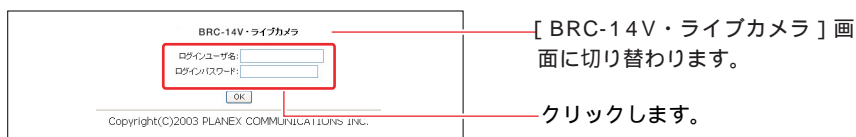
PCで画像を見る

本製品にパソコンからリモートアクセスして、画像を見る方法について説明します。

1 ブラウザから、URLを指定してリモートアクセスします。

- ・インターネットからアクセスする場合
「http://(WAN側アドレス)/cam/」
- ・LANからアクセスする場合
「http://(LAN側アドレス)/cam/」

2 本製品にリモートアクセスすると、ログイン認証を行ないます。すでに登録してあるユーザ名とパスワードを入力してください。



なお、この認証機能は、撮影された画像・動画を特定の相手にのみ公開することを完全に保証するものではありません。

3 ログイン認証終了後、[BRC-14V・ライブカメラ] 画面が表示されます。画面にあるメニューから、観覧するカメラ画像の種類を選択します。



[カメラ画像・静止画]

クリックすると静止画のページを表示します。

[カメラ画像・動画]

クリックすると動画のページを表示します。

[カメラページトップ]

このメインページを表示します。

メニュー項目を選択することで、どの画面からでも随時切り替えることができます。

- 4 [カメラ画像・静止画] を選択した場合、「ライブカメラ静止画像」画面が表示されます。[更新] ボタンをクリックすると、現在の画像を更新します。



[BRC-14V・ライブカメラ静止画像] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 5 [カメラ画像・動画] を選択した場合、「ライブカメラ動画」画面が表示されます。



[BRC-14V・ライブカメラ動画] 画面に切り替わります。

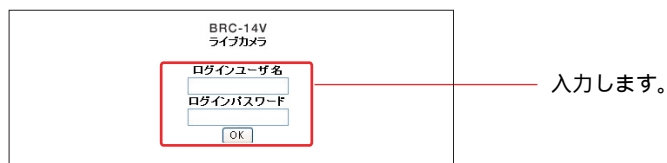
! ご注意

- ・動画配信の場合、ネットワークの状況やWindows® Media Playerのバッファリング処理等のため、画像が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- ・動画、静止画ともに画像の輝度、コントラストなどの調整を行うことはできません。

携帯電話で画像を見る

本製品に携帯電話からリモートアクセスして、画像を見る方法について説明します。

- 1 携帯電話のブラウザから、URLを指定してリモートアクセスします。
 - ・携帯電話用アドレス：http://(WAN側アドレス)/i/
- 2 本製品にリモートアクセスすると、ログイン認証を行ないます。すでに登録してあるユーザ名とパスワードを入力してください。



- 3 ログイン認証終了後、画像表示用のメインページが表示されます。[更新]ボタンをクリックすると、現在の画像を更新します。



保守・管理

本製品の運用開始後にネットワークの接続状態の確認や、管理者のログイン名やパスワードの変更方法などを説明します。


機器状況の確認

接続状態の確認

各接続ポートごとに通信状態やアドレス情報等が確認できます。

- 1 サイドバーから [システム情報] アイコンをクリックします。

[システム情報] 画面に切り替わります。



接続名	WAN Ethernet	LAN Ethernet	WAN PPPoE
ステータス	接続	接続	接続
物理ポート			WAN Ethernet
接続タイプ	Ethernet	Ethernet	PPPoE
MACアドレス	00:90:cc:00:90:22	00:90:cc:00:00:11	
IPアドレス	192.168.1.1	61.194.6.152	
サブネットマスク	255.255.255.0	255.0.0.0	
デフォルトゲートウェイ		230.153.246.3	
DHCPサーバ		202.239.113.18 202.239.113.26	
DNSサーバ	無効	無効	
ユーザ名			is7840020@fb22.sphere.ne.jp
変更/リセット	25396	7841	15495
送信/受信	10453	11156	525
トータル/ワイヤ	35849	18997	16020

[接続状況] 画面には、接続名ごとに、通信の状態やIPアドレス、サブネットマスク、DHCPサーバ機能の使用の有無、DNSサーバのアドレスなどの情報が表示されます。

このボタンをクリックすると、最新の情報に更新されます。

[WAN Ehternet]

PPPoE以外の方法でインターネットに接続している場合の、WAN側の通信の状況が確認できます。

[WAN PPPoE]

PPPoEでインターネットに接続している場合のWAN側の通信の状況が確認できます。

[LAN Ehternet]

LAN側の通信の状況が確認できます。

[VPN PPTP]

本製品がPPTPクライアントである場合の通信の状況が確認できます。

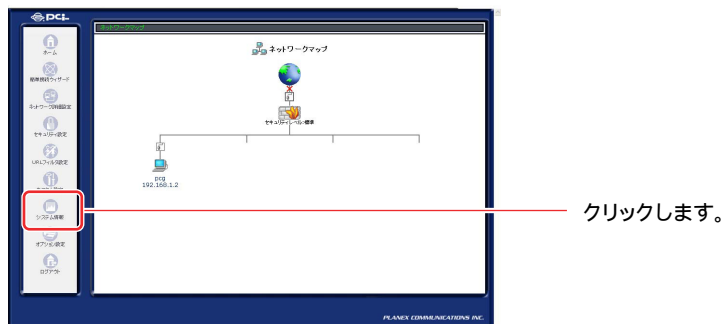
[VPN IPsec]

IPsecで通信している状況が確認できます。

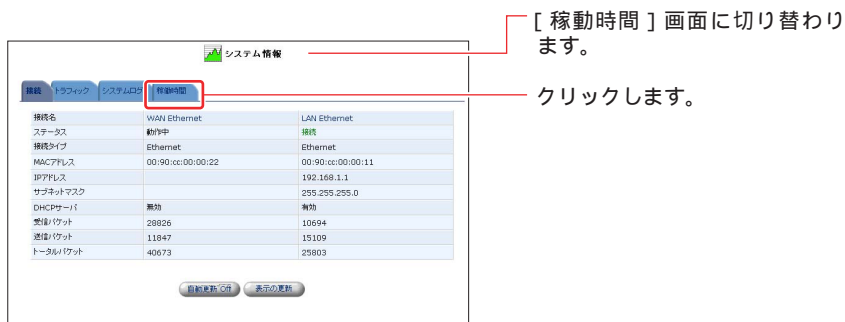
稼働時間の確認

ここでは本製品が稼働してからの現在までの時間を確認できます。

- 1 サイドバーから [システム情報] アイコンをクリックします。



- 2 [稼働時間] タブをクリックします。



画面表示の自動更新を停止する

[カスタム設定]画面 - [システム設定]画面で [システム情報ページの表示の自動更新を行う] をチェックしているときは、[システム情報]の各画面は一定間隔で自動更新されます。このとき、[システム情報]の各画面の [自動更新 Off] ボタンをクリックすると、[今すぐ更新] ボタンをクリックした時のみ、[システム情報]の各画面の内容が更新されるようになります。

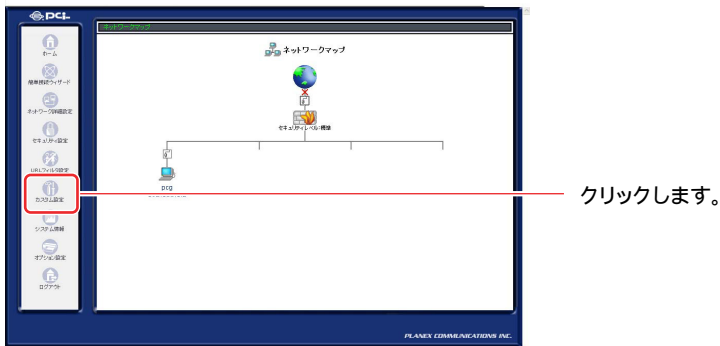
ログインユーザ名・ログインパスワード設定

本製品のログインユーザ名とパスワードの登録、変更、または削除ができます。

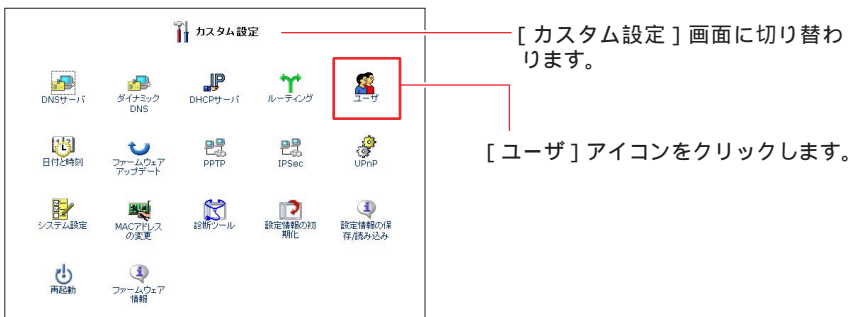
ログインユーザ名とログインパスワードの設定

ユーザの新規作成

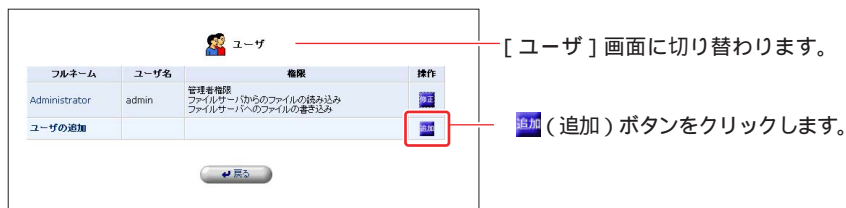
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。





- 2 [ユーザ] アイコンをクリックします。



3 [ユーザの追加] 欄から「追加」ボタンをクリックします。

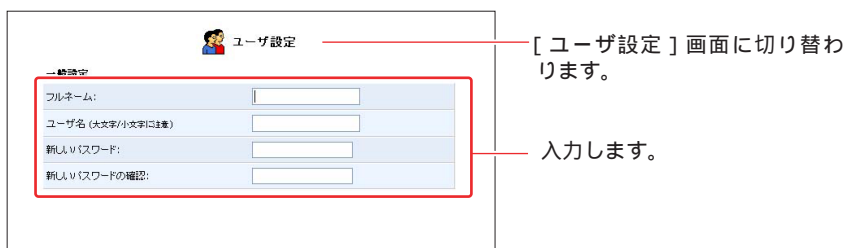


[ユーザ] 画面に切り替わります。

フルネーム	ユーザ名	権限	操作
Administrator	admin	管理者権限 ファイルサーバからのファイルの読み込み ファイルサーバへのファイルの書き込み	
ユーザの追加			

[追加] ボタンをクリックします。

4 [ユーザ設定] 画面が表示されます。 フルネーム、ユーザ名、新しいパスワードを入力します。



[ユーザ設定] 画面に切り替わります。

入力します。

[フルネーム]

登録するユーザのフルネームを入力します。半角英数字で128桁まで入力できます。

[ユーザ名]

新しく登録するユーザのログイン名を入力します。半角英数字で64桁まで入力できます。

[新しいパスワード]

ユーザがログイン時に使用するパスワードを入力します。半角英数字で64桁まで入力できます。

大文字と小文字は区別されますのでご注意ください。

[新しいパスワードの確認]

「新しいパスワード」と同じパスワードを再度入力します。

5 本製品での権限を設定します。

権限:	<input type="checkbox"/> 管理者権限 <input type="checkbox"/> PPTP リモートアクセス <input type="checkbox"/> ファイルサーバからのファイルの読み込み <input type="checkbox"/> ファイルサーバへのファイルの書き込み <input type="checkbox"/> USBカメラ
-----	--

[管理者権限]

ユーザを管理者として登録する場合は、チェックします。

[PPTP リモートアクセス]

PPTP による VPN 接続を許可する場合は、チェックします。

[ファイルサーバからのファイルの読み込み]

USB ハードディスク接続時に、ディスク内のファイルの読み込みを許可する場合は、チェックします。

[ファイルサーバからのファイルの書き込み]

USB ハードディスク接続時に、ディスク内のファイルの書き込みを許可する場合は、チェックします。

[USB カメラ]

USB カメラ接続機能に、カメラ画像の閲覧を許可する場合は、チェックします。

6 E-mail 通知を利用する場合は、E-mail アドレス、システム通知レベル、セキュリティ通知レベルを設定します。

E-Mail通知設定		SMTPメールサーバの設定
E-Mailアドレス:	<input type="text"/>	
システム通知レベル:	なし ▼	
セキュリティ通知レベル:	なし ▼	

設定します。

E-mail 通知機能に関してはE-mail通知機能をご参照ください

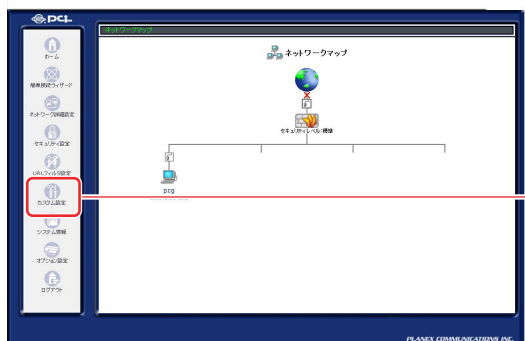
7 [OK] ボタンをクリックします。

<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	クリックします。
--	----------

8 以上で設定は終了です。

ユーザの修正

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [ユーザ] アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

[ユーザ] アイコンをクリックします。

- 3 設定を変更したいユーザの「修正」ボタンをクリックします。



[ユーザ] 画面に切り替わります。

修正 (修正) ボタンをクリックします。

- 4 [ユーザ設定] 画面が表示されます。修正したい項目の変更を行い、[OK] ボタンをクリックします。

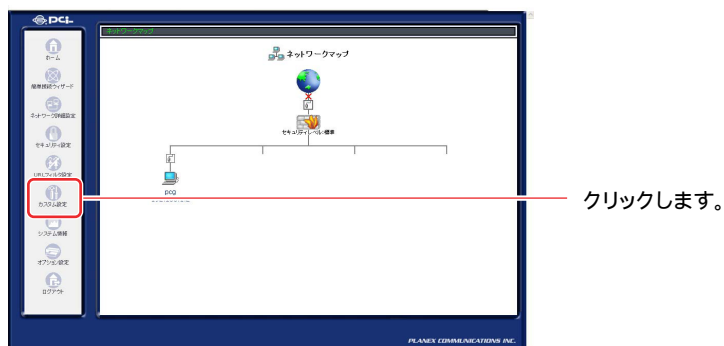
[ユーザ設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

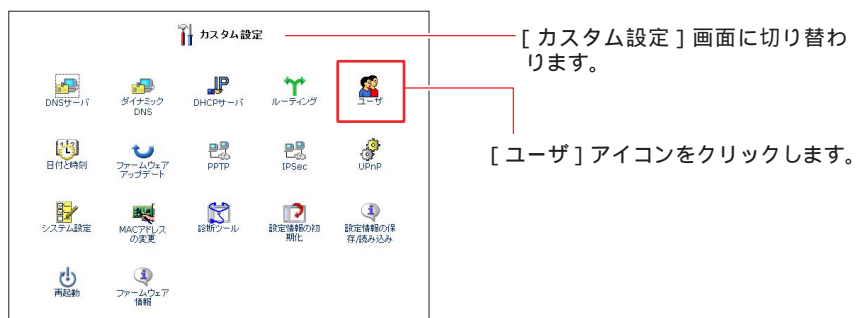
- 5 以上で設定は終了です。

ユーザの削除

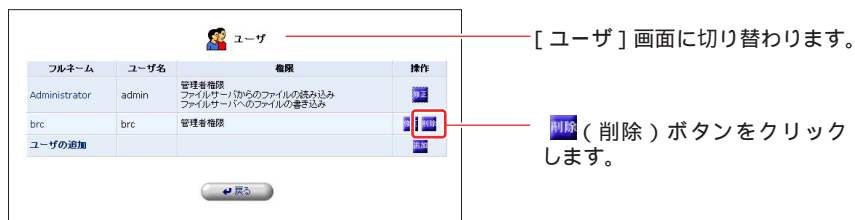
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [ユーザ] アイコンをクリックします。



- 3 設定を削除したいユーザの「削除」ボタンをクリックします。



! **ご注意**

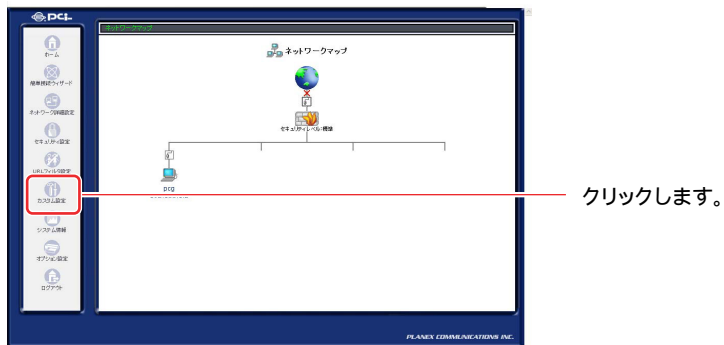
購入時に登録されてる Administrator は削除することができません。

4 以上で設定は終了です。

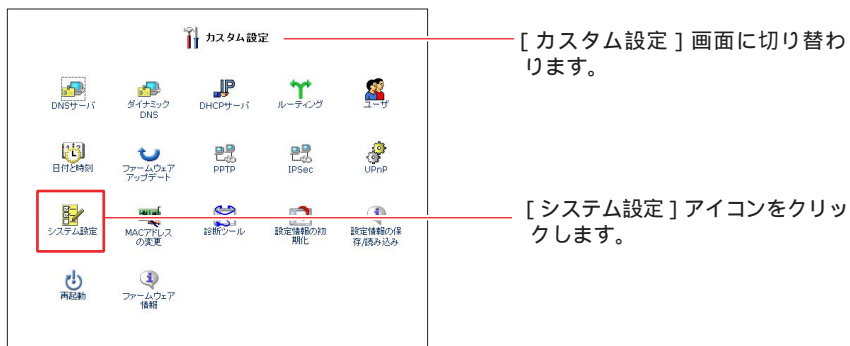
システム設定

本製品のホスト名やLAN側のドメイン名などを設定できます。

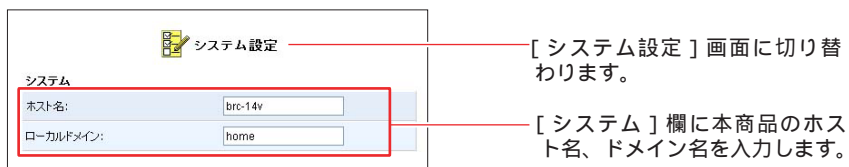
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [システム設定] アイコンをクリックします。



3 [システム] 欄に本製品のホスト名、ドメイン名を入力します。



[ホスト名]

本製品のホスト名を入力します。

[ローカルドメイン]

LAN 内で使用したいドメイン名を入力します。

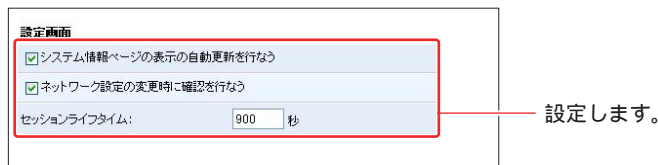
4 USB ハードディスクを接続している場合、[ファイルサーバ] 欄から [NetBIOS ワークグループ名] を入力します。



[NetBIOS ワークグループ名]

LAN 内で使用するワークグループ名を入力します。

5 [設定画面] 欄から [システム情報ページの表示の自動更新を行う] [ネットワーク設定の変更時に確認を行う] を設定します。



[システム情報ページの表示の自動更新を行う]

[システム情報] 画面の表示を自動的に更新させたい場合は、チェックします。

[ネットワーク設定の変更時に確認を行う]

ネットワークに関する変更をしたときに、確認メッセージを表示させたい場合は、チェックします。

- 6 [システムリモートログ設定] [セキュリティリモートログ設定]を利用する場合は設定をします。

システムリモートログ設定

システム通知レベル: なし

セキュリティリモートログ設定

セキュリティ通知レベル: なし

設定をします。

リモートログ設定に関しては、Syslogの設定をご参照ください。

- 7 ユーザ設定でE-mail通知機能を利用している場合は、[SMTPメールサーバ]欄にメールサーバのアドレスを入力します。

SMTPメールサーバ

SMTPメールサーバ:

送信元メールアドレス:

入力します。

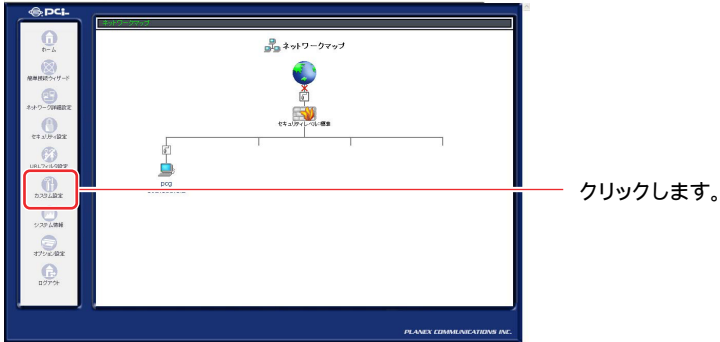
- 8 [OK] ボタンをクリックします。

- 9 以上で設定は終了です。

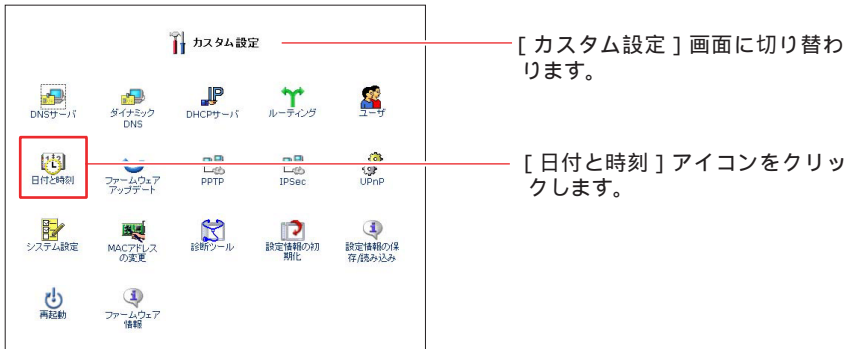
日付と時刻の設定

本製品の日付や時刻の設定を変更できます。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [日付と時刻] アイコンをクリックします。



3 手動設定する場合は、新しい日付と時刻を入力します。



[日付と時刻] 画面に切り替わります。

設定します。

4 自動設定する場合は、[自動設定] 欄から [有効] にチェックします。



チェックします。

5 [NTPサーバアドレス] [ステータス] [プロトコル] [更新時間] を入力します。

[NTPサーバアドレス]

指定したアドレスから時刻を指定します。

[プロトコル]

プロトコルの種類。通常はNTPを指定してください。

[更新時間]

時刻を更新する間隔を指定します。

6 [OK] ボタンをクリックします。

7 以上で設定は終了です。

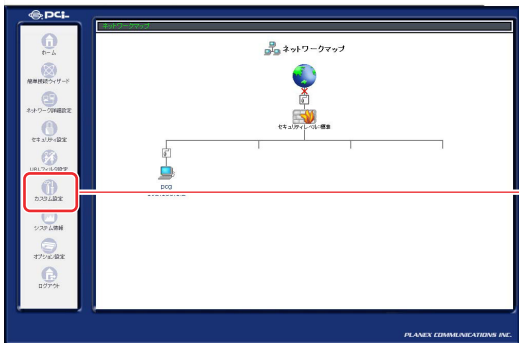
ファームウェアの更新

本製品の購入後、当社のホームページからダウンロードしたファイルを使って、最新のファームウェアにアップデートすることができます。

！ ご注意

- ・インターネットに接続している場合は、アップデートを行う前に全ての通信を切断してください。また、LAN内のパソコンはアップデート作業を行うパソコンを除いて全て電源をOFFにしてください。
- ・ファイアウォールやウイルススキャンソフトがインストールされてるパソコンでアップデート作業を行う場合は、事前にソフトウェアを終了してください。
- ・このアップデートは当社が独自に提供するサービスです。新機能の追加や性能の増強を保証するものではありません。

- 1 当社のホームページから最新のファームウェアをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルは、アップデート作業を行うパソコンのハードディスクなどに保存してください。
- 2 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

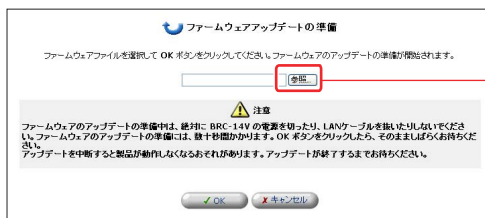
3 [ファームウェアアップデート]アイコンをクリックします。



[カスタム設定]画面に切り替わります。

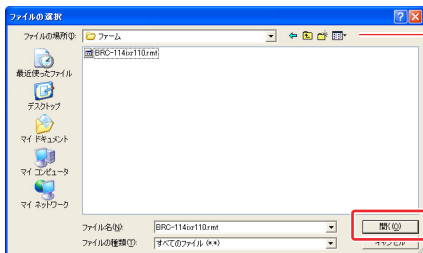
[ファームウェアアップデート]アイコンをクリックします。

4 [ファームウェアアップデートの準備]の画面が表示されます。 [参照]ボタンをクリックし、ダウンロードしたファームウェアのファイルを指定します。



クリックします。

5 [開く]ボタンをクリックします。



Windows® XPのダイアログです。ご使用のOSにより、ダイアログは異なります。

クリックします。

- 6 [OK] ボタンをクリックすると、ファームウェアアップデートの準備が開始されます。

! ご注意

ファームウェアアップデートの準備中は、絶対に本製品の電源を切ったり、LAN ケーブルを抜いたりしないでください。ファームウェアアップデートの準備には、数十秒間かかります。[OK] ボタンをクリックしたら、そのまましばらくお待ちください。

- 7 ファームウェアアップデートの準備が終了すると、[ファームウェアアップデート]の画面が表示されます。
[現在のバージョン]と[新しいバージョン]に表示されるバージョン番号に間違いが無いか確認してください。
[OK] ボタンをクリックすると、ファームウェアのアップデートが開始されます。

! ご注意

ファームウェアのアップデート中は、絶対に本製品の電源を切ったり、LAN ケーブルを抜いたりしないでください。ファームウェアアップデートには、数十秒間かかります。[OK] ボタンをクリックしたら、そのまましばらくお待ちください。

- 8 アップデートが終了すると、本製品は自動的に再起動します。新しいバージョンのファームウェアは再起動後に有効になります。
- 9 再起動が完了すると、ログイン画面に戻ります。以上でファームウェアの更新は終了です。

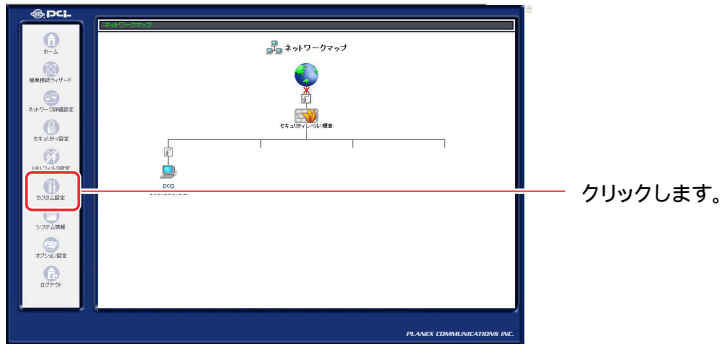
! ご注意

本商品以外のファームウェアを使ってアップデートを行うことはできません。無理にアップデートを行うと本製品が動作しなくなりますので、ご注意ください。

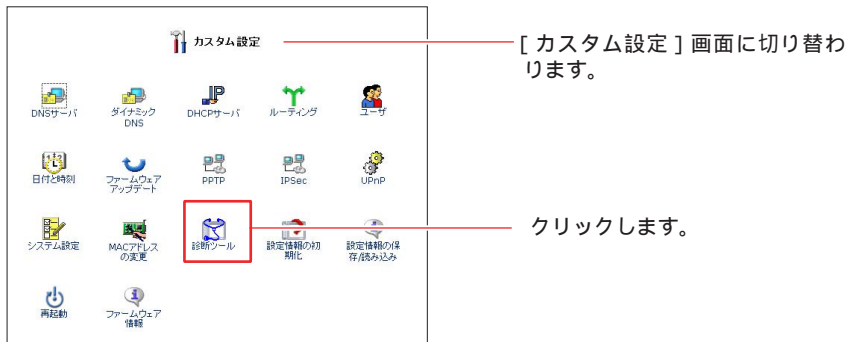
診断ツール

本製品からパソコンなどのネットワーク端末に対して Ping を送信することができます。

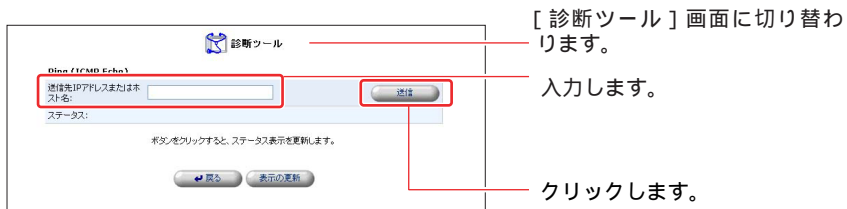
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



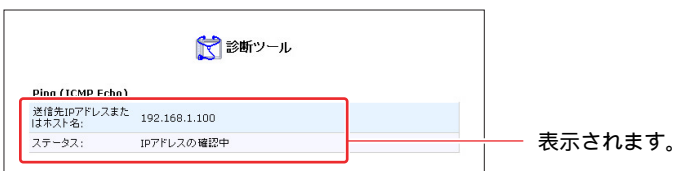
- 2 [診断ツール] アイコンをクリックします。



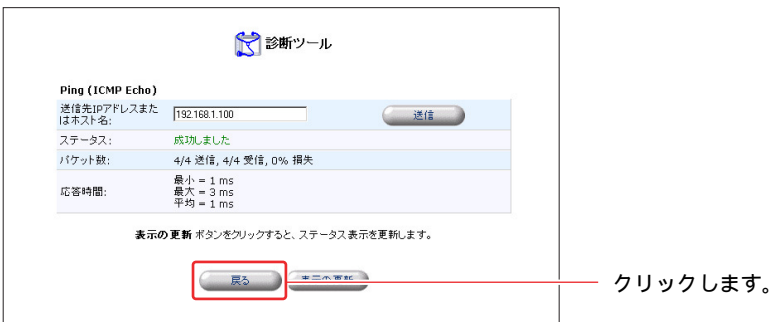
- 3 [送信先IPアドレスまたはホスト名] 欄に Ping を送信したいIPアドレスまたはホスト名を入力します。



- 4 [送信] ボタンをクリックすると、~~画面~~から宛先に Ping が送信されます。



- 5 [ステータス] 欄に送信結果が表示されます。



- 6 [戻る] ボタンをクリックします。

- 7 以上で設定は終了です。

本製品の初期化

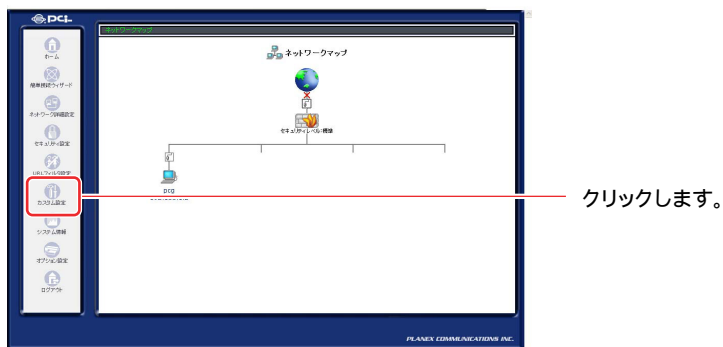
設定ページから本製品の設定内容を消去して、購入時の状態に戻すことができます。

本体にあるリセットスイッチを使って、設定を消去することもできます。

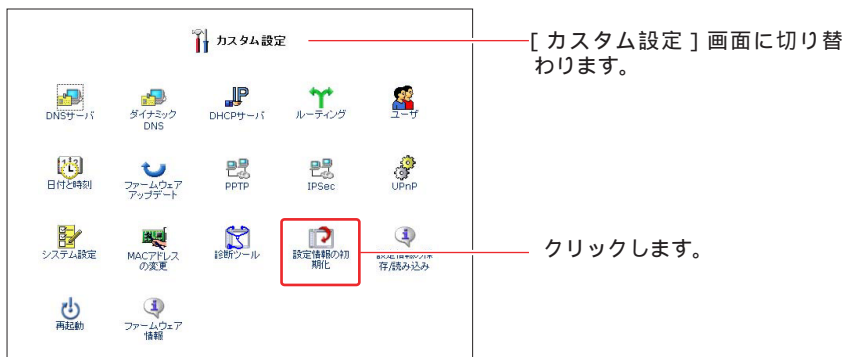
！ ご注意

この機能を使うと、設定ページにアクセスするためのパスワードを含め、変更した設定内容がすべて消去されます。また、本製品のLAN側ポートのIPアドレスを変更していた場合は、購入時の「192.168.1.1」に戻ります。ご注意ください。

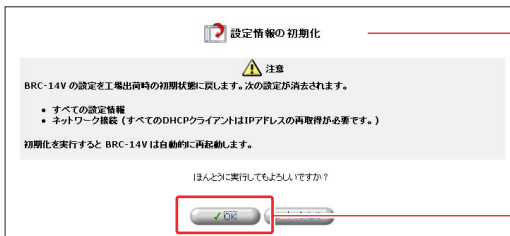
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [設定情報の初期化] アイコンをクリックします。



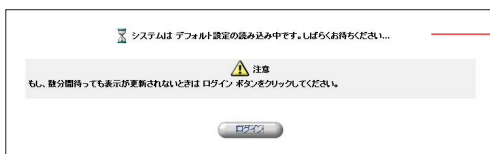
3 [OK] ボタンをクリックします。



[設定情報の初期化] 画面に切り替わります。

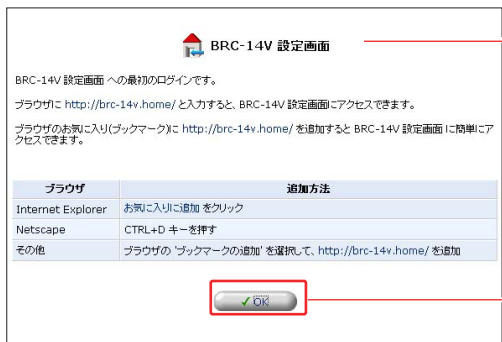
[OK] ボタンをクリックします。

4 初期化が始まります。



設定内容の消去が始まります。消去中は、この画面が表示されます。

5 設定内容の消去が終わると、設定ページに初めてログインするときの画面に切り替わります。



[BRC-14V 設定画面] に切り替わります。

ブラウザ	追加方法
Internet Explorer	お気に入りへ追加 をクリック
Netscape	CTRL+D キーを押す
その他	ブラウザの「ブックマークの追加」を選択して、 http://brc-14v.home/ を追加

[OK] ボタンをクリックします。

画面が切り替わらないときは、[ログイン] ボタンをクリックしてください。

- 6 ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。
[ネットワークマップ設定画面] に切り替わります。

ログイン設定

BRC-14V のログインユーザ名とログインパスワードを設定してください。

ログインユーザ名: jadmin

新しいログインパスワード:

新しいログインパスワードの確認:

OK

[ログイン設定] 画面に切り替わります。

入力します。

クリックします。

[ログインユーザ名]

設定ページにログインするユーザ名を入力します。

[新しいログインパスワード]

パスワードを入力します。

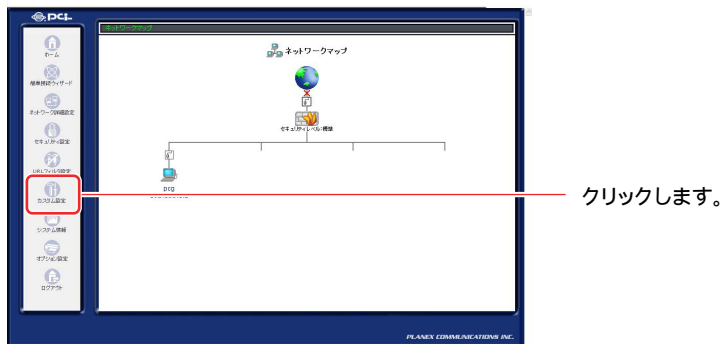
[新しいログインパスワードの確認]

[新しいログインパスワード] の内容をもう一度入力します。

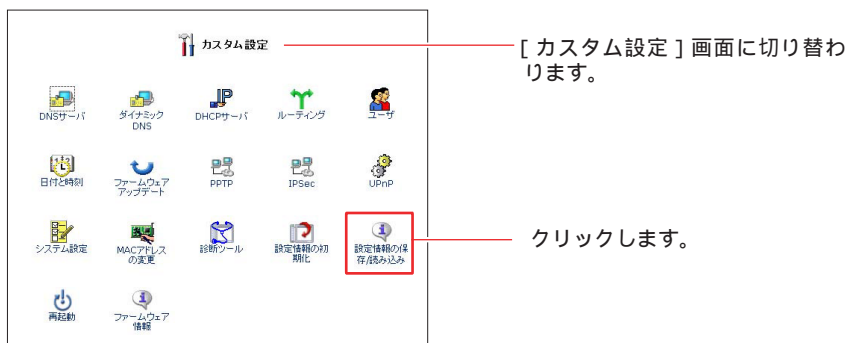
- 7 [OK] ボタンをクリックすると、設定ページの [ネットワークマップ設定画面] に切り替わります。

設定情報の読み込み

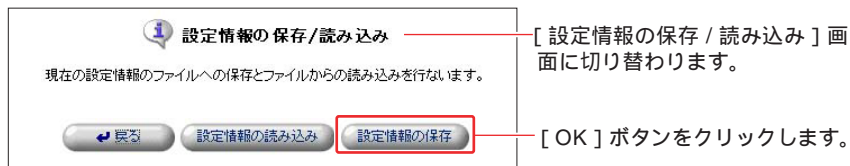
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



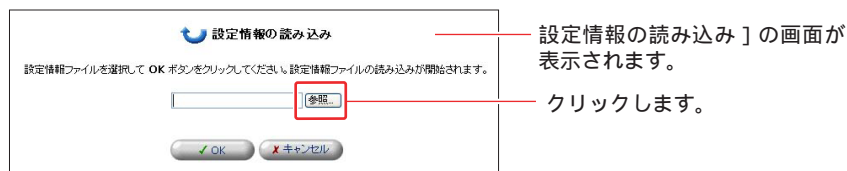
- 2 カスタム設定の [設定情報の保存/読み込み] アイコンをクリックします。



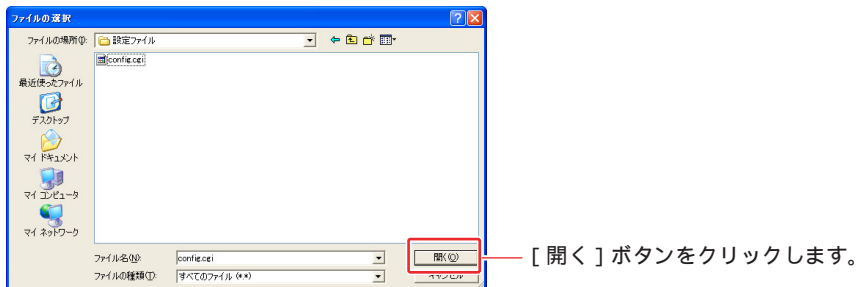
3 [設定情報の読み込み] ボタンをクリックします。



4 [設定情報の読み込み] の画面が表示されます。
[参照] ボタンをクリックし、設定ファイルを指定します。



5 [開く] ボタンをクリックします。

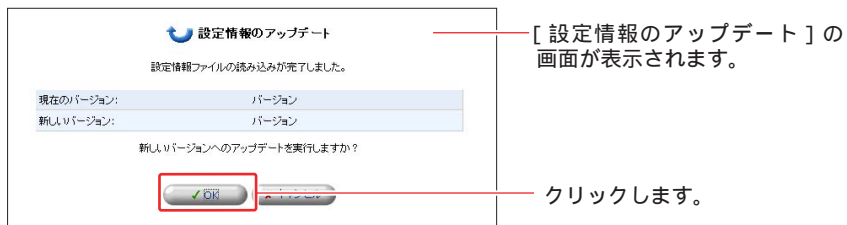


6 [OK] ボタンをクリックすると、設定情報の読み込みの準備が開始されます。

- 7 設定情報の読み込みの準備が終了すると、[設定情報のアップデート] の画面が表示されます。

[現在のバージョン] と [新しいバージョン] にはファームウェアのバージョンが表示されます。

バージョンが同じことをご確認の上、[OK] ボタンをクリックしてください。

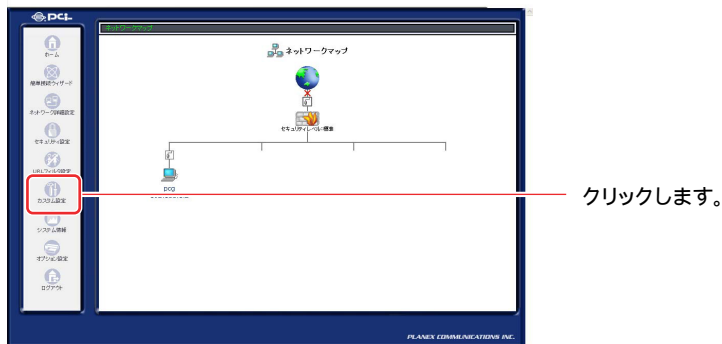


! ご注意

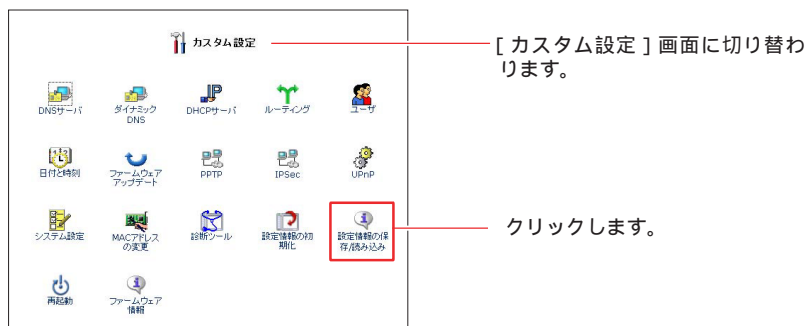
- ・ [現在のバージョン] と [新しいバージョン] にはファームウェアのバージョンが表示されます。
 - ・ ファームウェアのバージョンが異なると設定情報のアップデートができない場合がありますのでご注意ください。
- 8 アップデートが終了すると、本製品は自動的に再起動します。新しい設定情報は再起動後に有効になります。
- 9 再起動が完了すると、ログイン画面に戻ります。以上で設定情報の読み込みは終了です。

設定情報の保存

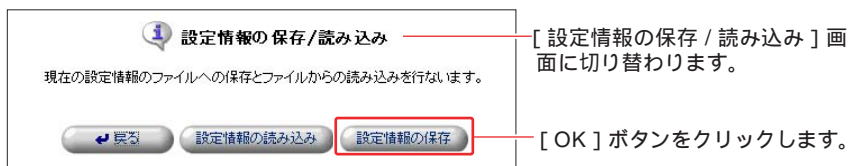
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 カスタム設定の [設定情報の保存/読み込み] アイコンをクリックします。



- 3 [設定情報の読み込み] ボタンをクリックします。



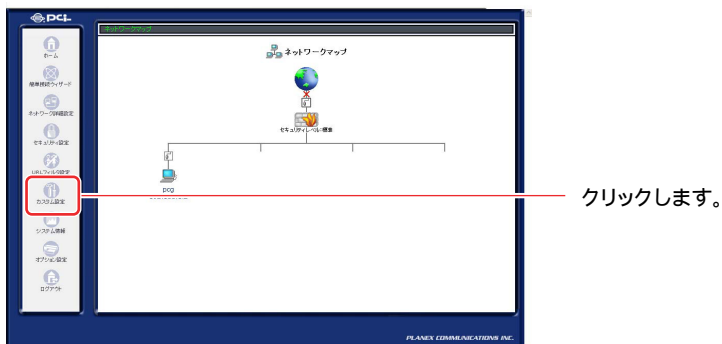
- 4 [ファイルのダウンロード] の画面が表示されます。[保存] ボタンをクリックしてコンピュータに保存します。

- 5 以上で設定情報の保存は終了です。

再起動

本製品の再起動を行います。

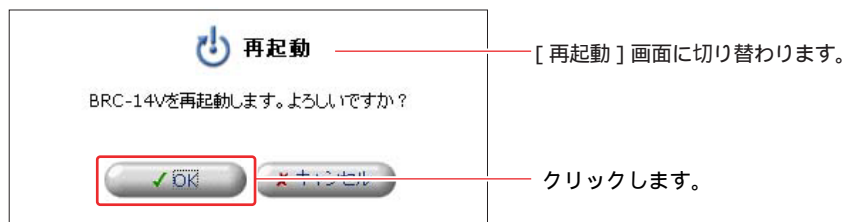
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [再起動] アイコンをクリックします。



3 [OK] ボタンをクリックします。

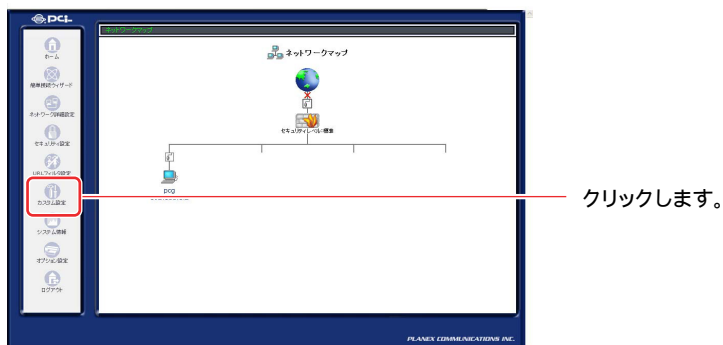


4 再起動が完了すると、ログイン画面に切り替わります。

ファームウェア情報

本製品のファームウェアのバージョンを確認できます。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [ファームウェア情報] アイコンをクリックします。



3 本製品のファームウェアのバージョンが表示されます。



[ファームウェア情報]画面に切り替わります。

USB ストレージ編

ファイルサーバの設定 1

ファイルサーバの設定

USB ストレージデバイスを使用した利用例

本製品はUSBストレージデバイスを接続することでファイルサーバとして使用することが出来ます。また、接続したUSBストレージデバイスをHTTPサーバとしてインターネットに公開することも出来ます。

ここでは本製品にUSBストレージデバイスを接続して使用方法について説明します。

USB ストレージデバイスを使用する

本製品にUSBストレージデバイスを接続するとファイルサーバとして機能します。

ここではUSBストレージデバイスを利用するための概要をまとめます。

本製品にUSBストレージデバイスを接続します。

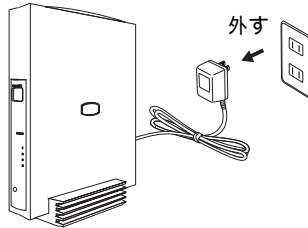
USBストレージデバイスのパーティションを作成し、フォーマットします。

ワークグループの設定をします。

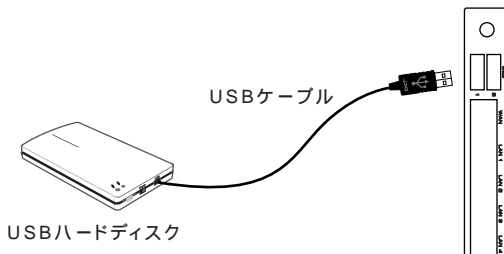
ユーザーアカウントの作成をします。

BRC-14VへのUSBストレージデバイスの取り付け

- 1 BRC-14V電源アダプタを取り外し、BRC-14Vの電源を完全に切ります。USBストレージデバイスの電源が切れていることを確認します。



- 2 USBストレージデバイスを本製品に接続します。USBストレージデバイスに付属のUSBケーブルを使用して、本製品のUSBポートにハードディスクを接続します。



- 3 USBストレージデバイスの電源を入れます。

! ご注意

本製品はUSBストレージデバイスのバスパワー動作はサポートしておりませんので、USBストレージデバイスは付属のACアダプタを使用するなどしてセルフパワーで動作させてください。

- 4 本製品の電源を入れてください。

次にBRC-14VからUSBストレージデバイスのパーティションの設定を行います。

パーティションの作成とフォーマット

USBストレージデバイスを接続したら、パーティションの作成とフォーマットを行う必要があります。ここではパーティションの作成とフォーマットの手順を説明します。

パーティションの種類

パーティションの種類には「プライマリパーティション」、「拡張パーティション」、「論理パーティション」があります。

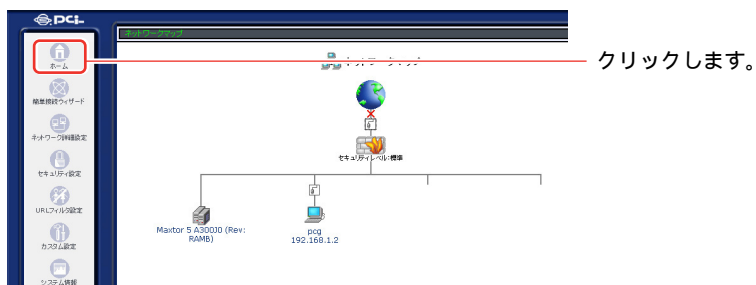
「プライマリパーティション」は、1つのハードディスクに最大4個まで作成可能です。「拡張パーティション」はそれ自体ではドライブとして認識されません。ただし「拡張パーティション」内に「論理ドライブ」を複数作成することができます。（作成できる論理ドライブ数は最大11個までです。）

! ご注意

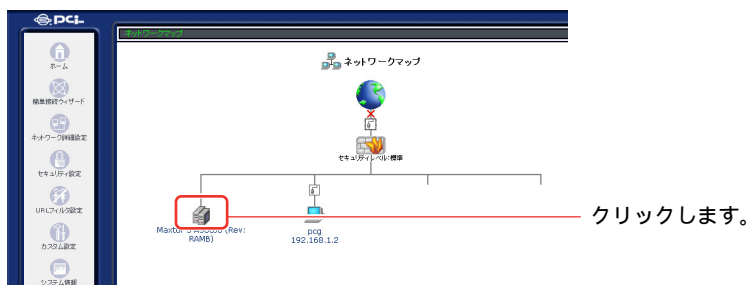
- ・本製品のフォーマット方法でEXT2を選択する場合は、パーティションサイズを137438MB（137GB）以下でご使用ください。137GB以上のパーティションをご利用の場合は、FAT32形式でフォーマットをご使用ください。
- ・ドライブ文字はUSBストレージデバイスをマウント時（接続したまま本商品を再起動した場合も含む）に自動的に基本領域、拡張領域の順に割り振られます。そのため、基本領域で割り当てられたドライブ番号（A,B など）を先に削除した場合や、先頭または途中にある未領域にドライブを割り当てた場合、ドライブ文字が入れ替わることがあります。領域を削除する場合は最後の領域から削除するようにして下さい。
- ・12個以上の論理パーティションがあるUSBストレージデバイスを接続した場合、12個目以降の論理パーティションをファイルサーバ機能で使用することはできません。

パーティションの作成

- 1 サイドバーから [ホーム] アイコンをクリックします。



- 2 接続されたデバイスが [ネットワークマップ] 画面に表示されます。デバイスのアイコンをクリックします。



- 3 [ディスク情報]画面が表示されます。[パーティション]欄に接続されているハードディスクのパーティション情報が表示されます。

 ディスク情報

ディスク情報

サイズ:	279.4G
タイプ:	usb-storage
詳細:	Maxtor 5 A30000 (Rev: RAMB)
ステータス:	使用中

パーティション

共有名	タイプ	ステータス	容量	空き容量	操作
未使用の領域			279.4G	---	詳細

ボタンをクリックすると、ステータス表示を更新します。

[戻る](#) [表示の更新](#) [アンマウント](#)

ご注意

[詳細]に表示されるハードディスク名はご使用になられているハードディスクによって変わります。マニュアルと同じ表記になるとは限りませんのでご注意ください。

4 [パーティション] 欄には以下の情報が表示されます。

共有名

ネットワーク上で表示される共有ドライブ名です。共有名はBRC-14Vホスト名とパーティション作成時に割り当てられたドライブ文字から自動的に作成されます。

タイプ

パーティションのフォーマット形式です。Windows FAT32、FAT16またはLinuxのいずれかが表示されます。

ステータス

パーティションの現在の状態が表示されます。フォーマット中はフォーマット状況が表示されます。[使用可]と表示されているパーティションがアクセス可能です。

容量

パーティションに割り当てられている容量です。

空き容量

パーティションの空き容量です。[容量] から [空き容量] を引いた分がパーティションの使用されている容量です。

操作

パーティションの操作を行います。

ご注意

[共有名] に [未使用の領域] と表示されている部分はパーティションが作成されていないハードディスク領域です。

5 [未使用の領域] 欄から [追加] ボタンをクリックします。



ディスク情報

ディスク情報

サイズ: 279.4G
タイプ: usb-storage
詳細: Maxtor 5 A30010 (Rev: RAMB)
ステータス: 使用可

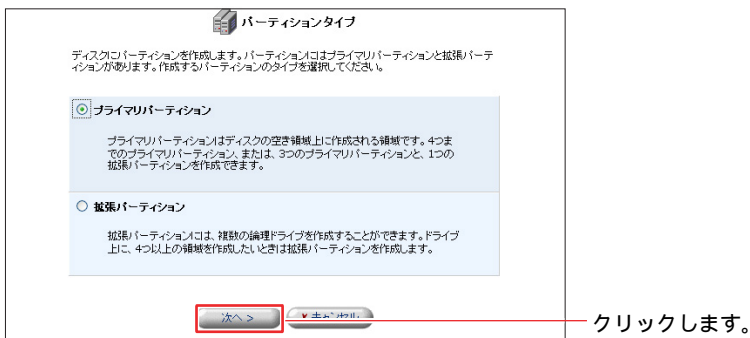
共有名	タイプ	ステータス	容量	空き容量	操作
未使用の領域			279.4G	---	追加

ボタンをクリックすると、ステータス表示を更新します。

戻る 表示の更新 アップデート

追加 をクリックします。

6 [パーティションタイプ] 画面が表示されます。作成するパーティションタイプを選択して [次へ] ボタンをクリックします。



パーティションタイプ

ディスクパーティションを作成します。パーティションにはプライマリパーティションと拡張パーティションがあります。作成するパーティションのタイプを選択してください。

プライマリパーティション

プライマリパーティションはディスクの空き領域上に作成される領域です。4つまでのプライマリパーティション、または、3つのプライマリパーティションと、1つの拡張パーティションを作成できます。

拡張パーティション

拡張パーティションは、複数の論理ドライブを作成することができます。ドライブ上に、4つ以上の領域を作成したいときは拡張パーティションを作成します。

次へ > 戻る

クリックします。

[プライマリパーティション] を選択した場合は、[プライマリパーティションの作成] に進みます。[拡張パーティション] を選択した場合は [拡張パーティションと論理パーティションの作成] に進みます。

プライマリパーティションの作成

- 1 [パーティションタイプ] 画面で [プライマリパーティション] を選択して [次へ] ボタンをクリックします。

パーティションタイプ

ディスクにパーティションを作成します。パーティションはプライマリパーティションと拡張パーティションがあります。作成するパーティションのタイプを選択してください。

プライマリパーティション

プライマリパーティションはディスクの空き領域上に作成される領域です。4つまでのプライマリパーティション、または、3つのプライマリパーティションと、1つの拡張パーティションを作成できます。

拡張パーティション

拡張パーティションは、複数の論理ドライブを作成することができます。ドライブ上に、4つ以上の領域を作成したいときは拡張パーティションを作成します。

次へ > < 戻る

- 2 [パーティションサイズ] 画面が表示されます。[パーティションサイズ] に作成したいパーティションのサイズを入力して [次へ] ボタンをクリックします。パーティションサイズは最小サイズ～最大サイズの範囲で設定できます。

パーティションサイズ

パーティションのサイズを設定します。最小サイズ - 最大サイズの範囲でサイズを設定してください。

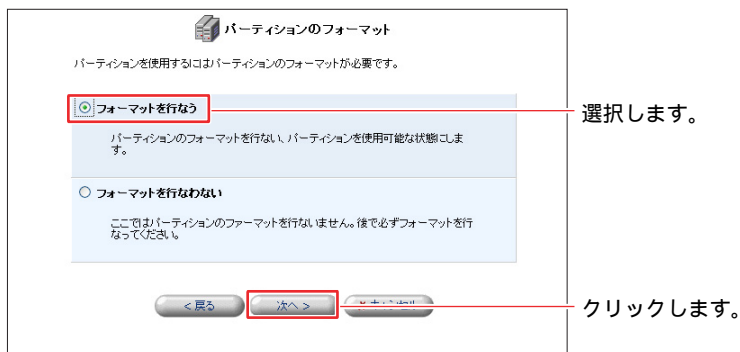
最大サイズ:	286103 MB
最小サイズ:	9 MB
パーティションサイズ:	286103 MB

< 戻る 次へ > < 戻る

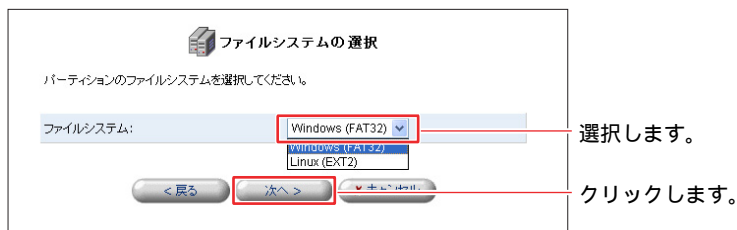
! ご注意

本商品は 1GB=1024MB で計算します。

- 3 [パーティションのフォーマット]画面が表示されます。[フォーマットを行う]を選択して[次へ]ボタンをクリックします。



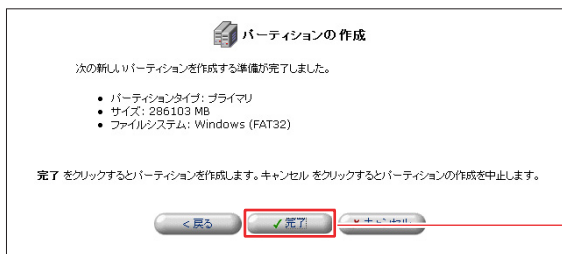
- 4 [ファイルシステムの選択]画面が表示されます。[ファイルシステム]からフォーマットに使用するファイルシステムを選択して[次へ]ボタンをクリックします。



! ご注意

本商品のフォーマット方法でEXT2を選択する場合は、パーティションサイズを137438MB(137GB)以下でご使用ください。137GB以上のパーティションをご利用の場合は、FAT32形式でフォーマットをご使用ください。

- 5 [パーティションの作成]画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックします。



クリックします。

- 6 パーティションが作成され [ディスク情報]画面に戻ります。作成したパーティションの [ステータス]が [フォーマット中]と表示されているときはパーティションのフォーマットを行っていますので、ディスクにアクセスできません。 [ステータス]が [使用可]になるまでお待ちください。



[使用可]になるまで待ちます。

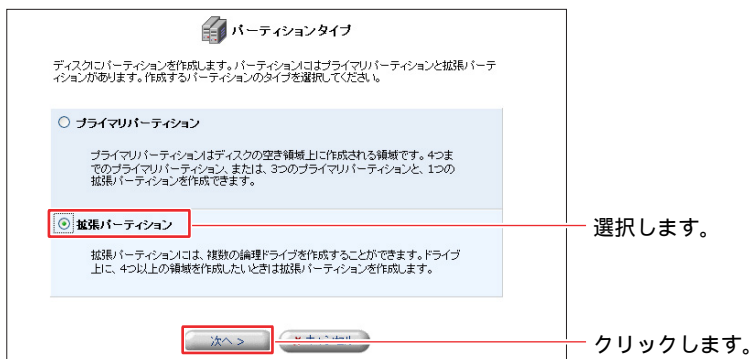
! ご注意

[ステータス]がフォーマットのまま変わらないときは、しばらく待ってから [表示の更新] ボタンを押してください。

- 7 [未使用の領域]が残っている場合は、同様の手順でさらに追加のパーティションを作成する事ができます。

拡張パーティションと論理パーティションの作成

- 1 [パーティションタイプ]画面で[拡張パーティション]を選択して[次へ]ボタンをクリックします。



- 2 [パーティションサイズ]画面が表示されます。[パーティションサイズ]に作成したいパーティションのサイズを入力して[次へ]ボタンをクリックします。パーティションサイズは最小サイズ~最大サイズの範囲で設定できます。



! ご注意

本商品は 1GB=1024MB で計算します。

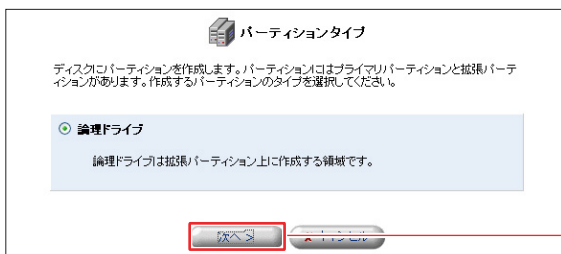
- 3 [パーティションの作成]画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックします。



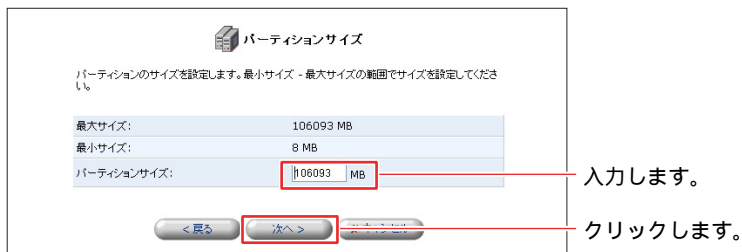
- 4 パーティションが作成され [ディスク情報]画面に戻ります。作成された [拡張パーティション]の [未使用の領域]欄から [追加]ボタンをクリックします。



- 5 [パーティションタイプ]画面が表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。



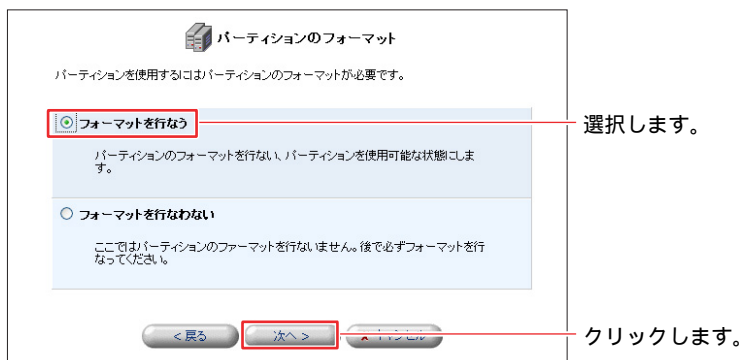
- 6 [パーティションサイズ]画面が表示されます。[パーティションサイズ]に作成したいパーティションのサイズを入力して[次へ]ボタンをクリックします。パーティションサイズは最小サイズ~最大サイズの範囲で設定できます。



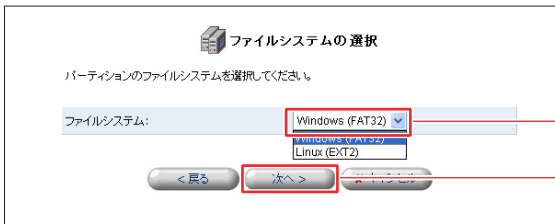
! ご注意

本商品は 1GB=1024MB で計算します。

- 7 [パーティションのフォーマット]画面が表示されます。[フォーマットを行う]を選択して[次へ]ボタンをクリックします。



- 8 [ファイルシステムの選択]画面が表示されます。[ファイルシステム]からフォーマットに使用するファイルシステムを選択して[次へ]ボタンをクリックします。



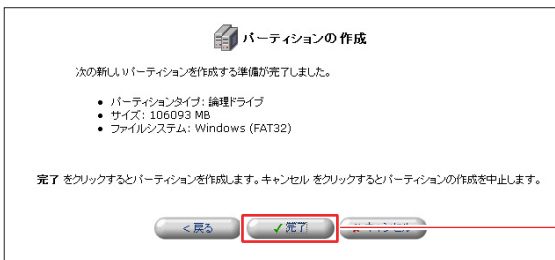
選択します。

クリックします。

! ご注意

本商品のフォーマット方法でEXT2を選択する場合は、パーティションサイズを137438MB(137GB)以下でご使用ください。137GB以上のパーティションをご利用の場合は、FAT32形式でフォーマットをご使用ください。

- 9 [パーティションの作成]画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックします。



クリックします。

- 10 パーティションが作成され [ディスク情報] 画面に戻ります。作成したパーティションの [ステータス] が [フォーマット中] と表示されているときはパーティションのフォーマットを行っていますので、ディスクにアクセスできません。 [ステータス] が [使用可] になるまでお待ちください。



[使用可] になるまで待ちます。

! ご注意

[ステータス] がフォーマットのまま変わらないときは、しばらく待ってから [表示の更新] ボタンを押してください。

- 11 [拡張パーティション] の [未使用の領域] が残っている場合は、同様の手順でさらに追加の論理パーティションを作成することができます。

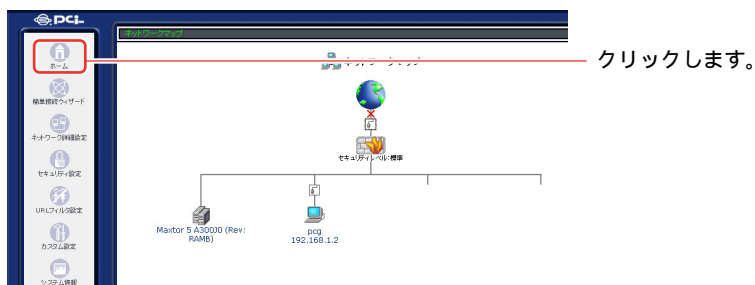
フォーマット済みのUSBストレージデバイスを接続する場合

本製品にフォーマット済みのハードディスクを接続する場合は以下の点にご注意ください。

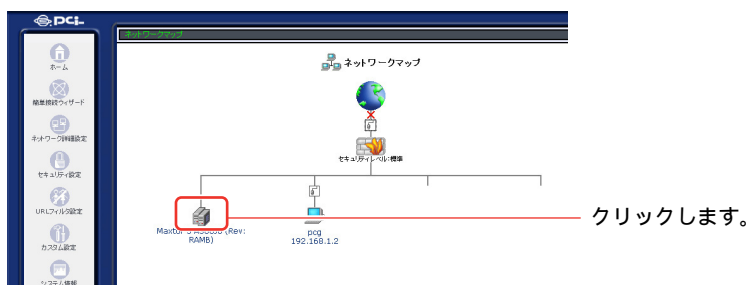
本製品がサポートしているハードディスクのフォーマットはFAT16,FAT32,EXT2のみです。それ以外のフォーマットは使用できませんのでコンピュータに接続してフォーマットしなすか、BRC-14V上でフォーマットしてください。

ここではNTFSでフォーマット済みのUSBストレージデバイスをBRC-14Vに接続してフォーマットするときの手順について説明します。

- 1 P2の手順でUSBストレージデバイスをBRC-14Vに接続します。
- 2 サイドバーから [ホーム] アイコンをクリックします。



- 3 接続されたデバイスが [ネットワークマップ] 画面に表示されます。デバイスのアイコンをクリックします。



- 4 [ディスク情報]画面が表示されます。[パーティション]に接続されているハードディスクのパーティション情報が表示されます。NTFSでフォーマットされているパーティションは「共有名」が「未サポート」と表示されます。



「未サポート」と表示されます。

! ご注意

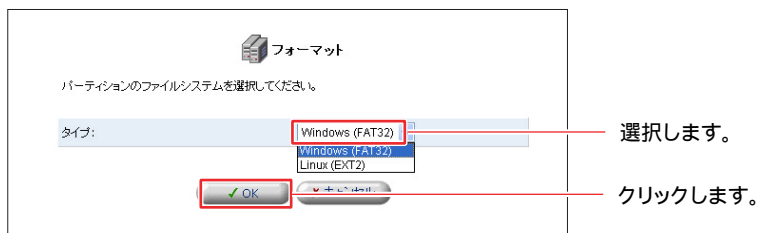
[詳細]に表示されるハードディスク名はご使用になられているハードディスクによって変わります。マニュアルと同じ表記になるとは限りませんのでご注意ください。

- 5 「未サポート」と表示されているパーティションの「操作」欄から「フォーマット」アイコンをクリックします。



「フォーマット」アイコンをクリックします。

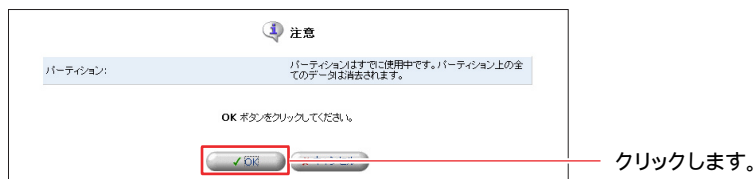
- 6 [ファイルシステムの選択]設定画面が表示されます。[ファイルシステム]からフォーマットに使用するファイルシステムを選択して[次へ]ボタンをクリックします。



! ご注意

本商品のフォーマット方法でEXT2を選択する場合は、パーティションサイズを137438MB(137GB)以下でご使用ください。137GB以上のパーティションをご利用の場合は、FAT32形式でフォーマットをご使用ください。

- 7 「注意」画面が表示されます。フォーマットを実行するとパーティション内のデータはすべて消去されます。フォーマットを実行する場合は[OK]をクリックします。



- 8 パーティションのフォーマットが開始され、[ディスク情報]画面に戻ります。パーティションの[ステータス]が[フォーマット中]と表示されているときはパーティションのフォーマットを行っていますので、ディスクにアクセスできません。[ステータス]が[使用可]になるまでお待ちください。

The screenshot shows the 'Disk Information' (ディスク情報) window. Under 'Disk Information' (ディスク情報), the status is 'Useable' (使用可). Under 'Partitions' (パーティション), a table lists a partition with the status 'Formatting' (フォーマット中). A red box highlights this status, and a red arrow points to it from the text on the right. Below the table are buttons for 'Back' (戻る), 'Refresh Display' (表示の更新), and 'Mount' (アプライ).

共有名	タイプ	ステータス	容量	空き容量	操作
\\brc-14\VA	Windows FAT32 (LBA)	フォーマット中	48.7G	48.7G	🔍 🗑️
未使用の領域			230.6G	---	🗑️

[ステータス]が[使用可]になるまでお待ちください。

! ご注意

[ステータス]がフォーマットのまま変わらないときは、しばらく待ってから[表示の更新]ボタンを押してください。

- 9 パーティションのステータスが「使用可」と表示されればフォーマットは完了です。パーティションはファイルサーバやWebサーバとして使用できるようになります。

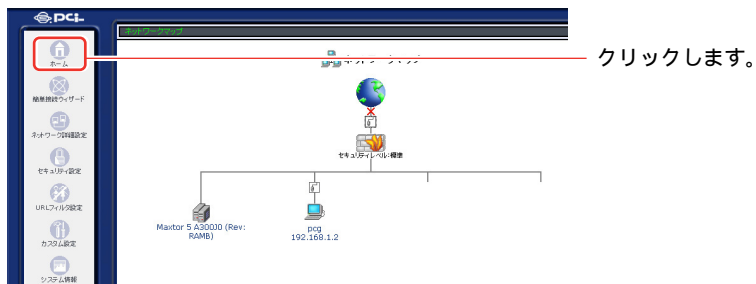
The screenshot shows the 'Disk Information' (ディスク情報) window. Under 'Disk Information' (ディスク情報), the status is 'Useable' (使用可). Under 'Partitions' (パーティション), a table lists a partition with the status 'Useable' (使用可). Below the table are buttons for 'Back' (戻る), 'Refresh Display' (表示の更新), and 'Mount' (アプライ).

共有名	タイプ	ステータス	容量	空き容量	操作
\\brc-14\VA	Windows FAT32 (LBA)	使用可	48.7G	48.7G	🔍 🗑️
未使用の領域			230.6G	---	🗑️

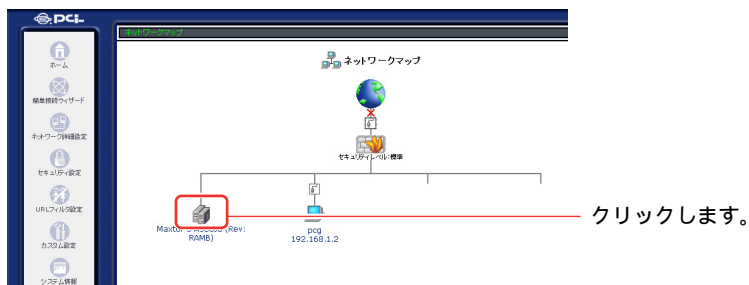
作成済みのパーティションの削除

ここではUSBストレージデバイスにあるパーティションの削除手順を説明します。

- 1 サイドバーから [ホーム] アイコンをクリックします。



- 2 接続されたデバイスが [ネットワークマップ] 画面に表示されます。デバイスのアイコンをクリックします。



- 3 [ディスク情報]画面が表示されます。削除したいパーティションの[操作]欄から[削除]アイコンをクリックします。

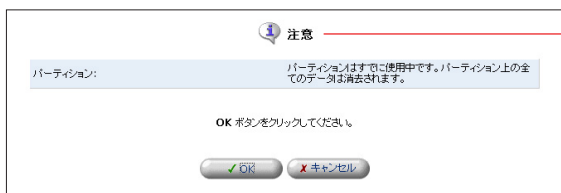


削除 クリックします。

! ご注意

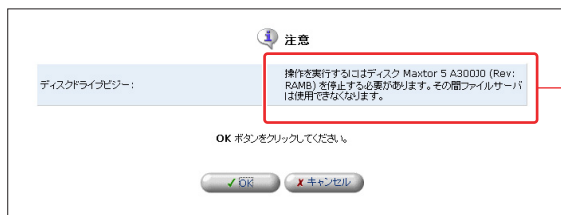
[詳細]に表示されるハードディスク名はご使用になられているハードディスクによって変わります。マニュアルと同じ表記になるとは限りませんのでご注意ください。

- 4 [注意]画面が表示されます。



[注意]画面が表示されます。

この時にパーティションにアクセスしているユーザがいるときは下記のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたときは、ユーザのアクセスが終了するのを待ってからパーティションの削除をしてください。



メッセージが表示されます。

5 パーティションの削除を続ける場合は [OK] ボタンをクリックします。

! ご注意

パーティションの削除を行うとパーティション内のデータはすべて失われます。パーティションの削除をするときは大事なデータが入っていないことを確認してください。

6 [ディスク情報] 画面に戻ります。パーティションが削除されて、未使用の領域が増えている事を確認します。

ディスク情報

ディスク情報

サイズ: 279.4G
タイプ: usb-storage
詳細: Maxtor S A300J0 (Rev: RAMB)
ステータス: 使用可

パーティション

共有名	タイプ	ステータス	容量	空き容量	操作
未使用の領域			279.4G		

ポインタをクリックすると、ステータス表示を更新します。

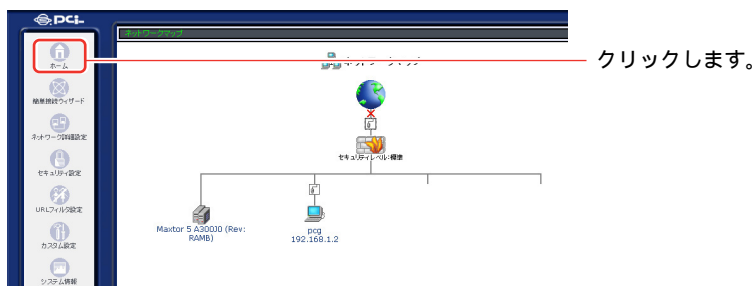
戻る 表示の更新 アマウント

未使用の領域が増えている事を確認します。

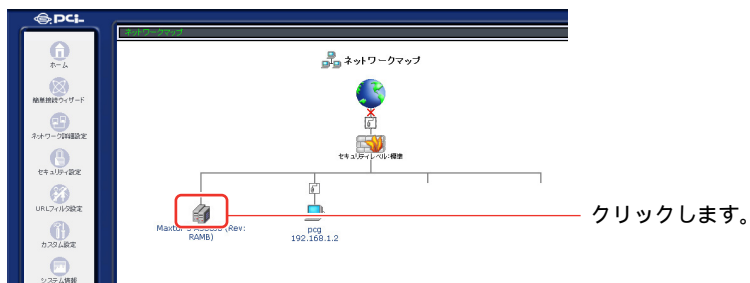
ハードディスクの取り外し

ここではUSBストレージデバイスをBRC-14Vから取り外すときの手順について説明します。BRC-14VからUSBストレージデバイスを取り外すときは必ずアンマウントをしてから取り外します。

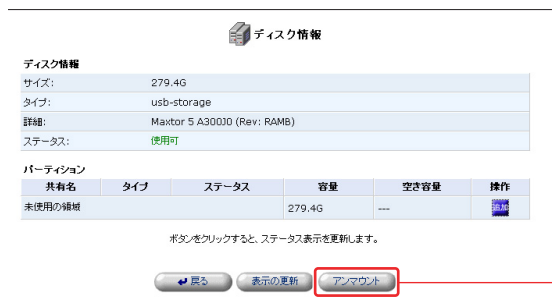
- 1 サイドバーから [ホーム] アイコンをクリックします。



- 2 接続されたデバイスが [ネットワークマップ] 画面に表示されます。デバイスのアイコンをクリックします。



- 3 [ディスク情報] 設定画面が表示されます。[アンマウント] ボタンをクリックします。



クリックします。

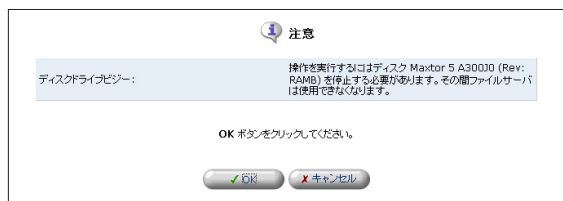
! ご注意

[詳細] に表示されるハードディスク名はご使用になられているハードディスクによって変わります。マニュアルと同じ表記になるとは限りませんのでご注意ください。

- 4 ディスク情報の [ステータス] が [マウントされていません] になっていることを確認します。

! ご注意

[アンマウント] ボタンをクリックしたときに [注意] 画面が表示されるときは、USB ストレージデバイスにユーザがアクセスしています。ユーザのアクセスを終了させてからアンマウントをしてください。ユーザのアクセスがないにもかかわらず [注意] が表示される場合はセッションが残っている場合があります。この場合は 10 分経過するとセッションが切れますので、10 分ほどお待ちになってからアンマウントしてください。



- 5 USB ストレージデバイスの電源を落とし、USB ケーブルを BRC-14V から取り外します。

アクセス設定

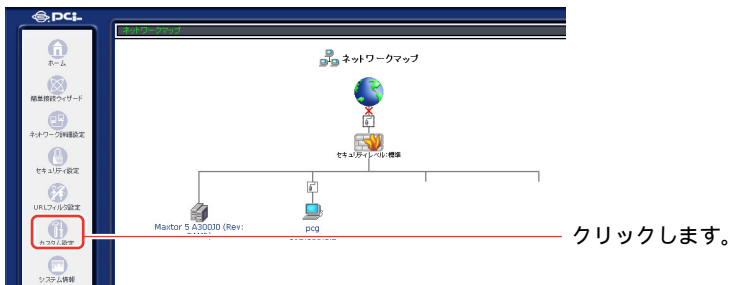
本製品にUSBストレージデバイスを接続した時点でファイルサーバとして動作しますが、作成したパーティションにアクセスする為にはワークグループの設定とユーザアカウントの作成が必要になります。

ここではワークグループ名の設定とユーザアカウントの作成について説明します。

ワークグループ名の設定

コンピュータがファイルサーバにアクセスする為には、コンピュータとBRC-14Vのワークグループ名が同じである必要があります。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [カスタム設定] 画面が表示されます。[システム設定] アイコンをクリックします。



- 3 [ファイルサーバ] 欄から [NetBIOS ワークグループ名] にコンピュータに設定してあるワークグループ名を入力します。[OK] ボタンをクリックします

システム設定

システム

ホスト名: brc-14v

ローカルドメイン: home

ファイルサーバ

NetBIOSワークグループ名: home

入力します。

クリックします。

! ご注意

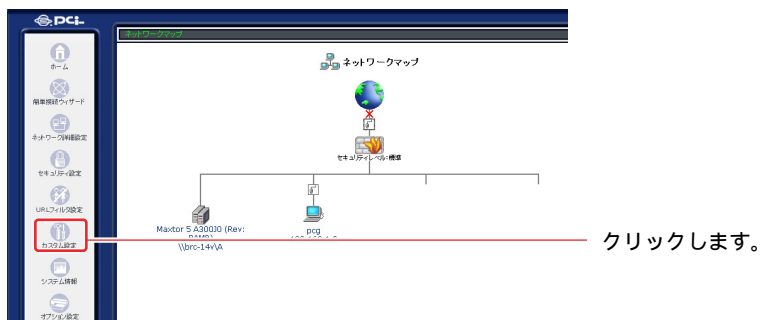
ファイルサーバにアクセスするコンピュータのワークグループはすべて同じにしておいてください。ワークグループが違う場合にはコンピュータのマイネットワークにファイルサーバが表示されません。

- 4 [カスタム設定] 画面に戻ります。

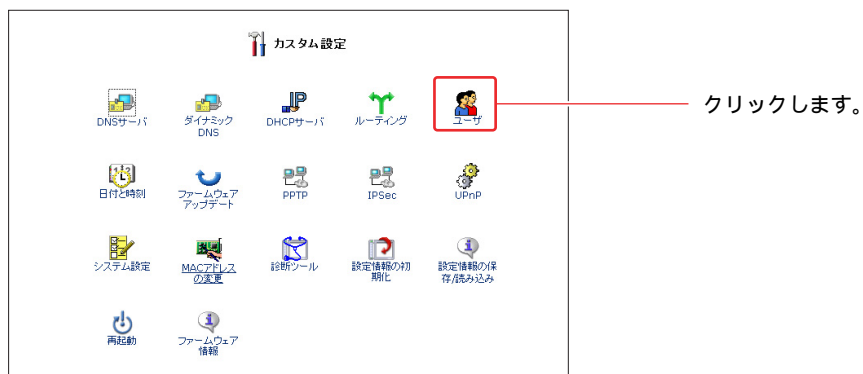
つづいてユーザアカウントの作成を行います。

ユーザアカウントの作成

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [カスタム設定] 画面が表示されます。[ユーザ] アイコンをクリックします。



- 3 [ユーザ] 画面が表示されます。[ユーザの追加] 欄から [追加] ボタンをクリックします。



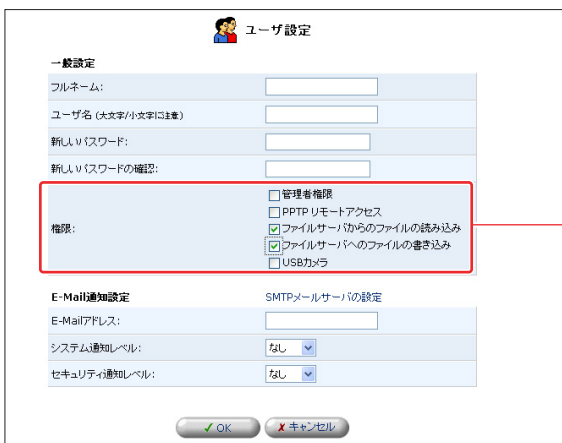
追加 クリックします。

- 4 [ユーザ設定] 画面が表示されます。フルネーム、ユーザ名、パスワードを入力します。

! ご注意

ユーザの使用するOSがWindows® の場合はユーザ名とパスワードはユーザのWindows® へのログインネームとログインパスワードと同じに設定します。

- 5 [権限] からユーザのファイルサーバへのアクセス権限を選択します。



選択します。

ファイルサーバからのファイルの読み込み

この権限にチェックの入っているユーザはファイルサーバのデータを読み出す事が出来ます。

ファイルサーバへのファイルの書き込み

この権限にチェックの入っているユーザはファイルサーバにデータを書き込む事が出来ます。またこの権限ではファイルサーバのデータの消去をする事も出来ます。

ご注意

書き込みの権限があるユーザには必ず読み込みの権限も付けてください。読み込みの権限のみか読み込みと書き込みの両方の権限のいずれかに設定してください。

- 6 [OK] ボタンをクリックします。アカウントが作成され [ユーザ] 画面に戻ります。

ファイルサーバへのアクセス

ここでは各 OS 毎のファイルサーバへのアクセス手順について説明します。Windows[®] では BRC-14V の [NetBIOS ワークグループ名] と Windows[®] のワークグループを同じに設定します。

ワークグループの設定

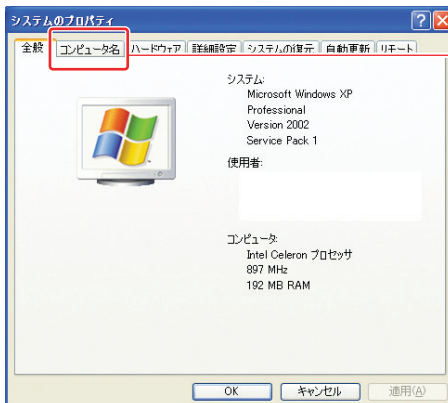
Windows[®] XP

- 1 [スタート] メニューから [マイ コンピュータ] アイコンを右クリックします。表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。



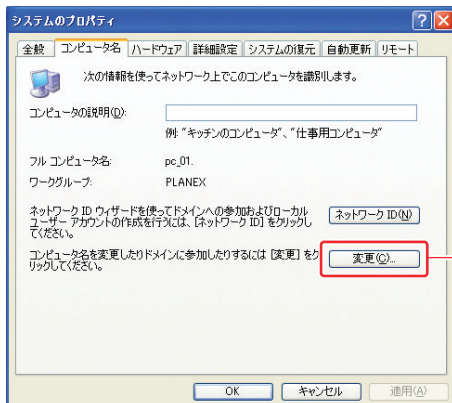
クリックします。

- 2 [システムのプロパティ] ウィンドウが表示されます。[コンピュータ名] タブをクリックします。



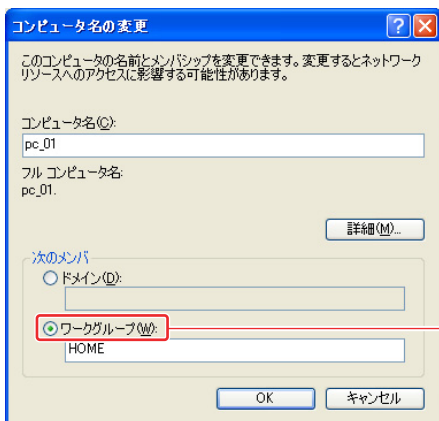
クリックします。

3 [コンピュータ名] タブから [変更] ボタンをクリックします。



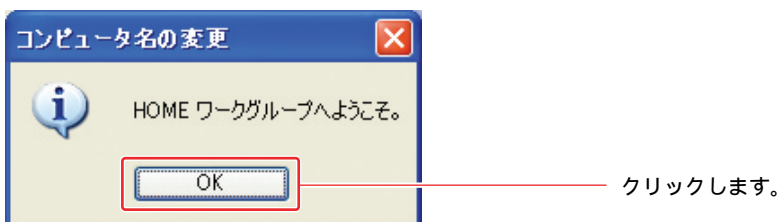
クリックします。

4 [コンピュータ名の変更] ウィンドウが表示されます。[次のメンバ] から [ワークグループ] を選択します。[ワークグループ] に BRC-14V の [NetBIOS ワークグループ名] と同じ値を入力します。



選択します。

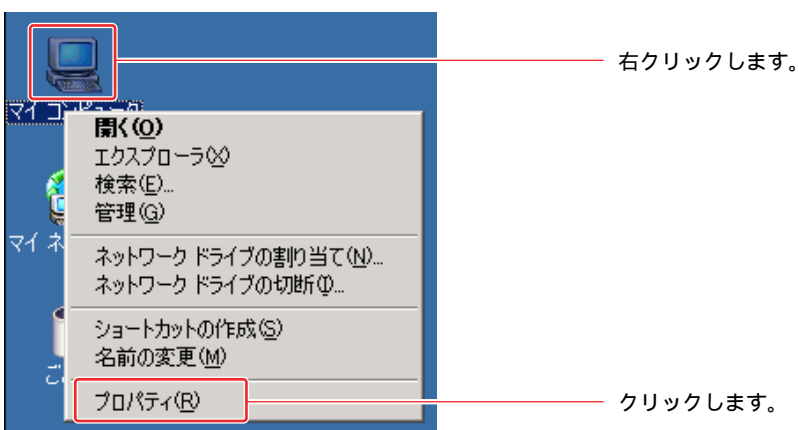
- 5 [OK] ボタンをクリックします。[コンピュータ名の変更] ウィンドウが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



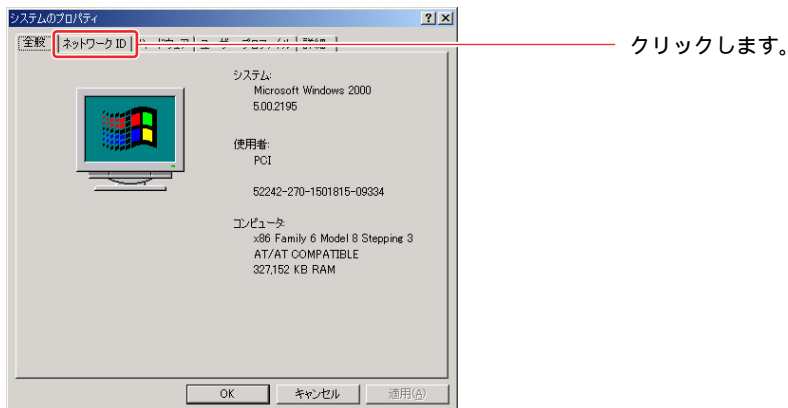
- 6 [システムのプロパティ] ウィンドウに戻ります。[OK] ボタンをクリックします。再度、[コンピュータ名の変更] ウィンドウが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてコンピュータを再起動します。

Windows® 2000

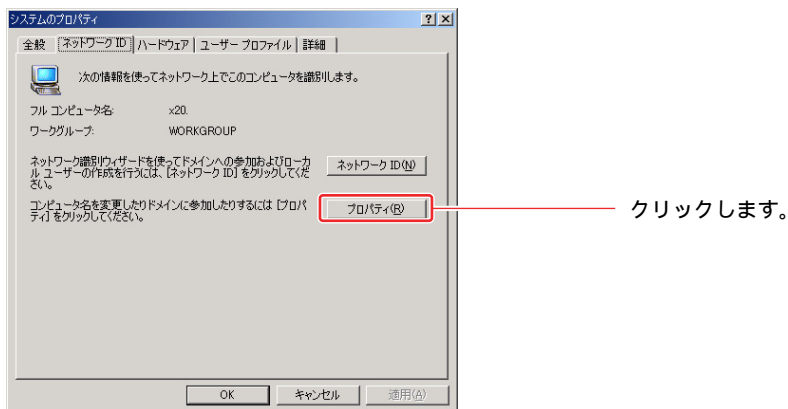
- 1 デスクトップ上の [マイ コンピュータ] アイコンを右クリックします。表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。



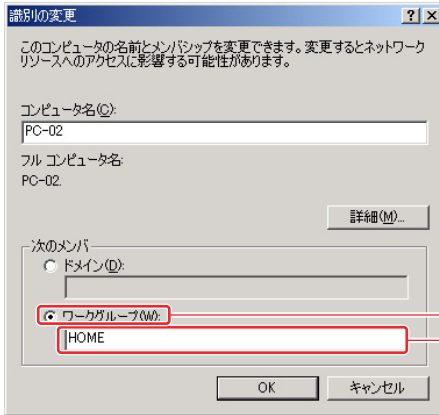
- 2 [システムのプロパティ] ウィンドウが表示されます。[ネットワーク ID] タブをクリックします。



- 3 [ネットワーク ID] タブから [プロパティ] ボタンをクリックします。



- 4 [識別の変更] ウィンドウが表示されます。[次のメンバ] から [ワークグループ] を選択します。[ワークグループ] に BRC-14V の [NetBIOS ワークグループ名] と同じ値を入力します。



選択します。
入力します。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。[ネットワーク ID] ウィンドウが表示されるので [OK] ボタンをクリックします。



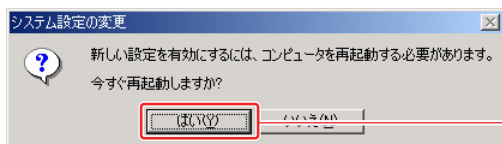
クリックします。

- 6 再度、[ネットワーク ID] ウィンドウが表示されるので [OK] ボタンをクリックします。。 [OK] ボタンをクリックします。



クリックします。

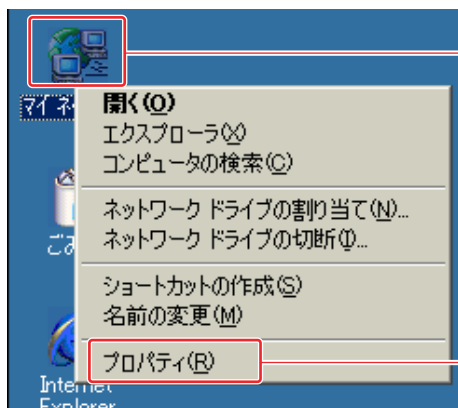
- 7 [システムのプロパティ] ウィンドウに戻ります。[OK] ボタンをクリックします。[システム設定の変更] ウィンドウが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてコンピュータを再起動します。



クリックします。

Windows® Me

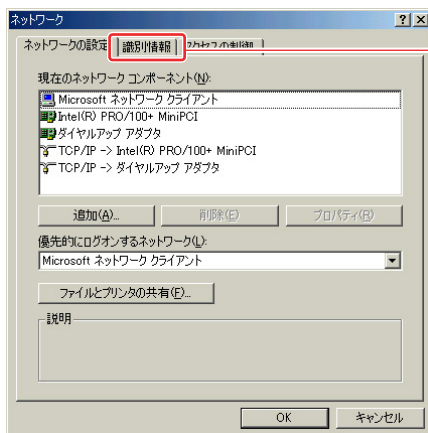
- 1 デスクトップ上の [マイ ネットワーク] アイコンを右クリックします。表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。



右クリックします。

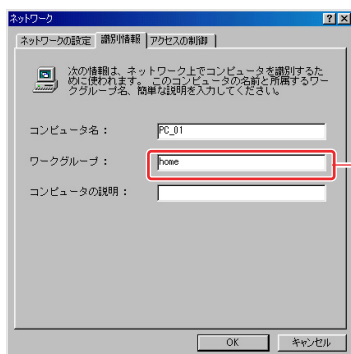
クリックします。

- 2 [ネットワーク] ウィンドウが表示されます。[識別情報] タブをクリックします。



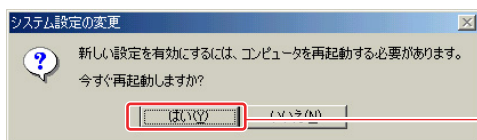
クリックします。

- 3 [識別情報] タブの [ワークグループ] に P.10-42 で入力した BRC-14V の [NetBIOS ワークグループ名] と同じ値を入力します。



入力します。

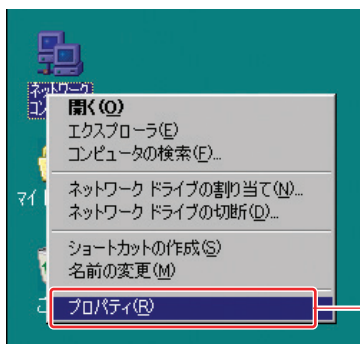
- 4 [OK] ボタンをクリックします。[システムの設定変更] ウィンドウが表示されます。[はい] ボタンをクリックしてコンピュータを再起動します。



クリックします。

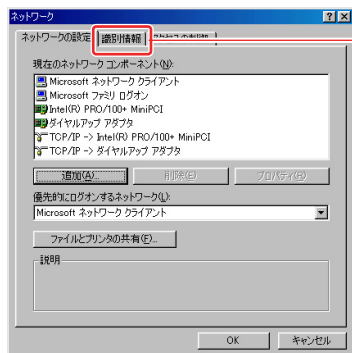
Windows® 98/98Second Edition

- 1 デスクトップ上の [マイ ネットワーク] アイコンを右クリックします。表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。



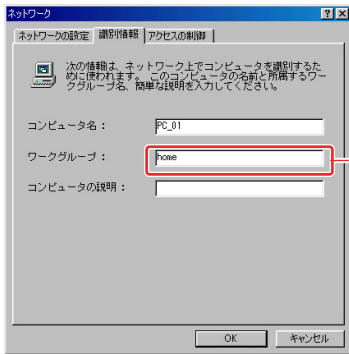
クリックします。

- 2 [ネットワーク] ウィンドウが表示されます。[識別情報] タブをクリックします。



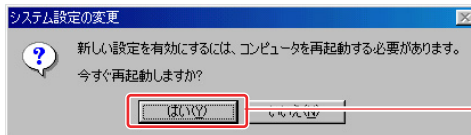
クリックします。

3 [識別情報] タブの [ワークグループ] に BRC-14V の [NetBIOS ワークグループ名] と同じ値を入力します。



入力します。

4 [OK] ボタンをクリックします。[システムの設定変更] ウィンドウが表示されます。[はい] ボタンをクリックしてコンピュータを再起動します。



入力します。

ファイルサーバへのアクセス

Windows® XP

- 1 [スタート]メニューから[マイ コンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



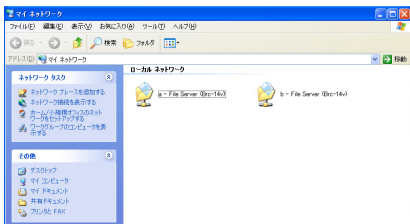
ダブルクリックします。

- 2 [マイ コンピュータ]ウィンドウが表示されます。ウィンドウ左側から[マイ ネットワーク]アイコンをクリックします。



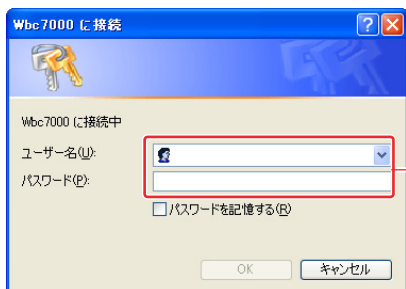
クリックします。

- 3 [マイ ネットワーク] ウィンドウが表示され、ファイルサーバの各パーティションのアイコンが表示されます。アクセスしたいパーティションのアイコンをダブルクリックします。



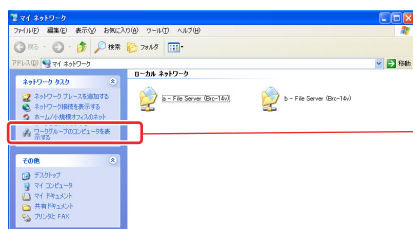
! ご注意

ユーザ名とパスワードを求められる場合はBRC-14Vにユーザが登録されていません。Windows®XPに登録してあるユーザ名とパスワードを登録してください。



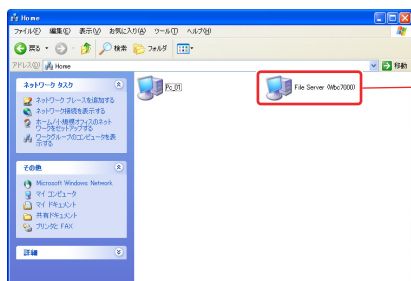
登録します。

- 4 [マイ ネットワーク] ウィンドウにファイルサーバの各パーティションのアイコンが表示されない場合は、[マイ ネットワーク] ウィンドウ左側の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックします。



クリックします。

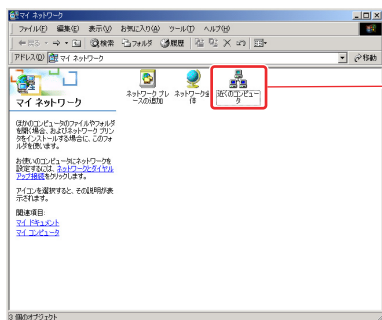
- 5 同じワークグループのコンピュータの一覧が表示されます。[File Server] アイコンが BRC-14V のファイルサーバです。[File Server] アイコンをダブルクリックすると各パーティションのアイコンが表示されますのでアクセスするパーティションのアイコンをダブルクリックします。



ダブルクリックします。

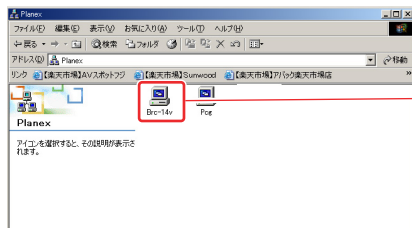
Windows® 2000

- 1 デスクトップ上の[マイ ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
[マイ ネットワーク]ウィンドウが表示されます。[近くのコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



ダブルクリックします。

- 2 [近くのコンピュータ]ウィンドウが表示されます。コンピュータの一覧が表示されます。BRC-14Vのホスト名に設定した名前のアイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックすると各パーティションのアイコンが表示されますのでアクセスするパーティションのアイコンをダブルクリックします。



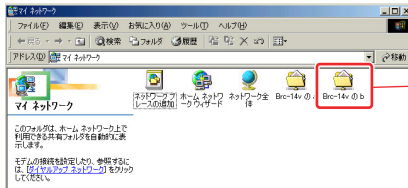
ダブルクリックします。

! ご注意

ユーザ名とパスワードを求められる場合はBRC-14Vにユーザが登録されていません。「ユーザアカウントの作成」の手順でBRC-14VにWindows® 2000に登録してあるユーザ名とパスワードを登録してください。

Windows® Me

- 1 デスクトップ上の [マイ ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。[マイ ネットワーク] ウィンドウが表示され、ファイルサーバの各パーティションのアイコンが表示されます。アクセスしたいパーティションのアイコンをダブルクリックします。

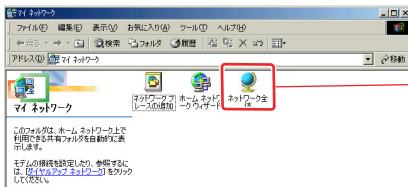


ダブルクリックします。

! ご注意

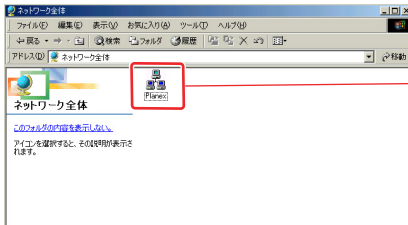
ユーザ名とパスワードを求められる場合はBRC-14Vにユーザが登録されていません。「ユーザアカウントの作成」の手順でBRC-14VにWindows® Meに登録してあるユーザ名とパスワードを登録してください。

- 2 [マイ ネットワーク] ウィンドウにファイルサーバの各パーティションのアイコンが表示されない場合は、[ネットワーク全体] アイコンをダブルクリックします。



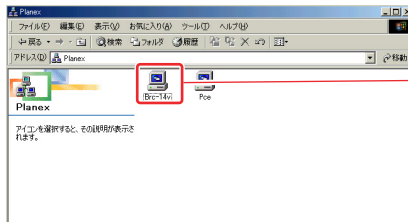
ダブルクリックします。

- 3 [ネットワーク全体] ウィンドウが表示されます。ワークグループと同じ名前のアイコンをダブルクリックします。



ダブルクリックします。

- 4 同じワークグループのコンピュータの一覧が表示されます。BRC-14Vのホスト名に設定した名前のアイコンがBRC-14Vのファイルサーバです。アイコンをダブルクリックすると各パーティションのアイコンが表示されますのでアクセスするパーティションのアイコンをダブルクリックします。



ダブルクリックします。

Windows® 98/98Second Edition

- 1 デスクトップ上の[マイ ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
[ネットワークコンピュータ]ウィンドウが表示され、同じワークグループのコンピュータの一覧が表示されます。BRC-14Vのホスト名に設定した名前のアイコンがBRC-14Vのファイルサーバです。アイコンをダブルクリックすると各パーティションのアイコンが表示されますのでアクセスするパーティションのアイコンをダブルクリックします。



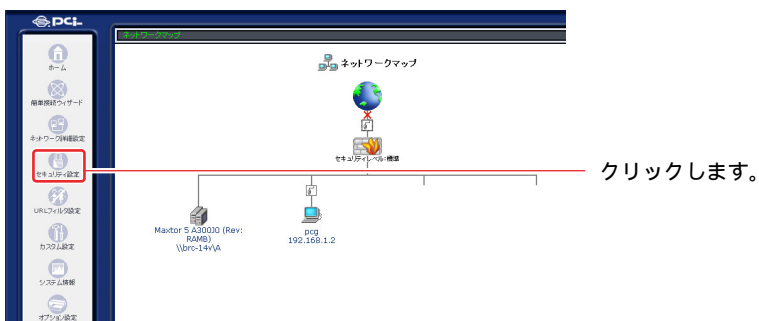
アイコンが表示されます。

WEB サーバの設定

USB ストレージデバイスに作成した各パーティションはWEB サーバとしても使用できます。WEB サーバとして使用する場合は各パーティションにHTML ファイルをコピーすることでインターネット上にWEB ページを公開できるようになります。

リモートアクセスの設定

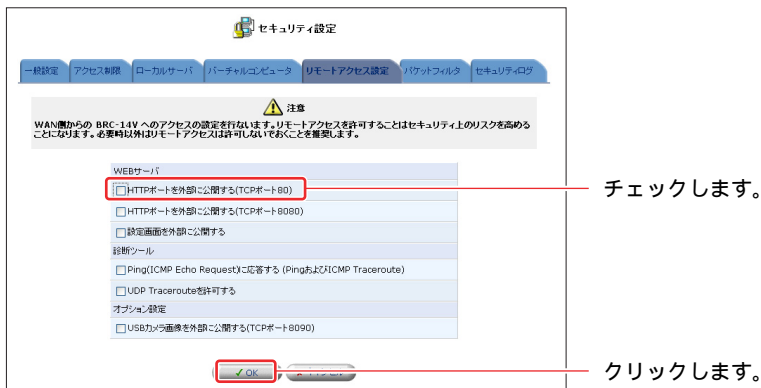
- 1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



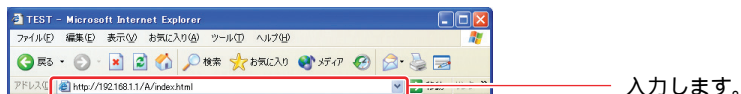
- 2 [セキュリティ設定] 画面が表示されます。[リモートアクセス] ボタンをクリックします。



- 3 [リモートアクセス設定]画面が表示されます。[HTTPポートを外部に公開する(TCPポート80)]にチェックを入れ、[OK]ボタンをクリックします。



- 4 WEBサーバがインターネット上に公開されます。Webブラウザでアクセスするときは、「http://BRC-14Vのアドレス/ドライブ番号(A～Z)/ファイル名」をWebブラウザのアドレスまたは場所に入力してください。



！ ご注意

[BRC-14Vのアドレス]はBRC-14VのWAN側のIPアドレスまたはダイナミックDNSに登録しているアドレス(ダイナミックDNS使用時)を入力します。

[ドライブ番号(A～Z)]はアクセスしたいパーティションのドライブ番号です。
[ファイル名]はWEBブラウザに表示させたいHTMLファイルです。パーティションにインデックスファイル(index.htmまたはindex.html)がある場合はファイル名の入力を省略できます。

無線 LAN 編

無線 LAN 設定	1
-----------------	---

無線 LAN 設定

ここでは、本製品を利用して 802.11g の無線 LAN を構築する例を紹介します。

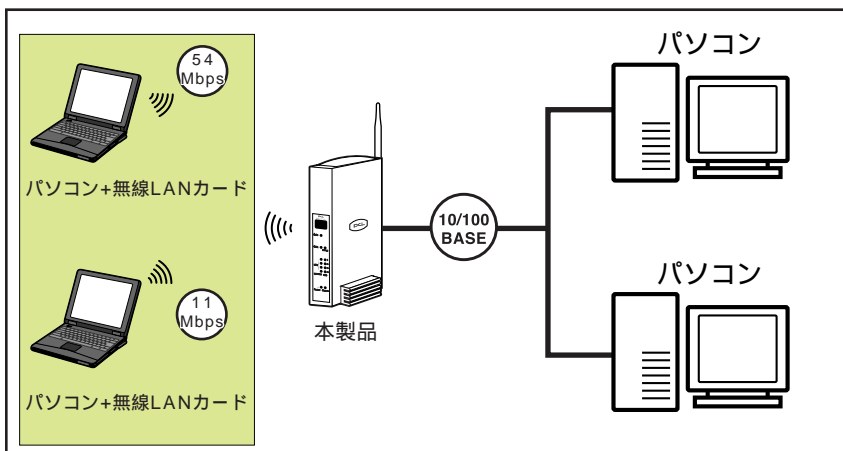
無線 LAN の設定

ここでは、本製品を利用した 802.11g の無線 LAN を構築する例を紹介します。

本製品は 802.11g 規格に準拠した無線 LAN を有しています。

802.11g は従来の 802.11b と同じ 2.4GHz を利用しながら、最大 54Mbps の高速な無線 LAN 環境を構築することが可能です。また、普及率 No.1 の 802.11b との通信も行えるため、既存の無線 LAN 資産を有効に活用することができます。

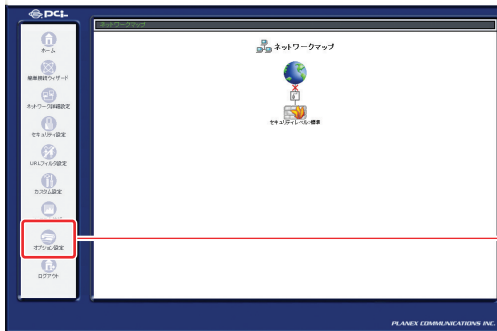
BRC シリーズを利用した無線 LAN の例



無線LAN 設定の設定ページを開く

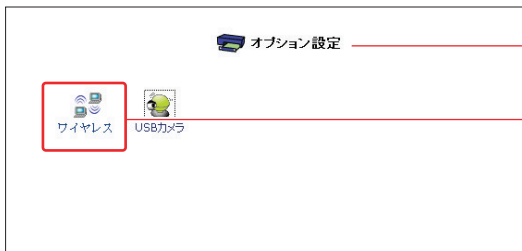
ここでは、本製品を利用した 802.11g の無線LAN を設定するための方法について説明します。

- 1 本製品にパソコンを接続し、設定画面を開きます。
- 2 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [ワイヤレス] アイコンをクリックします。



[オプション設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 無線LANアクセスポイントの設定画面が表示されます。

 **ワイヤレス設定**

基本設定

SSID :	<input type="text" value="brc-wi44"/>
チャンネル:	1
送信速度:	自動

暗号化

暗号化する	<input type="checkbox"/>
-------	--------------------------

セキュリティ

ANY拒否/SSID隠す	<input type="checkbox"/>
--------------	--------------------------

MACアドレスフィルタリング

MACアドレスフィルタリング有効	<input type="checkbox"/>
------------------	--------------------------

基本設定

ここでは、本製品で使うSSID、チャンネル、送信速度の設定を行います。

基本設定	
SSID :	<input type="text" value="brc-w14v"/>
チャンネル:	<input type="text" value="1"/>
送信速度:	<input type="text" value="自動"/>

「SSID」

SSIDはワイヤレスネットワークのアクセス制御用の識別名です。SSIDを設定すると、同じSSIDを設定したクライアントのみ接続ができます。半角英数字で最大32文字になります。

「チャンネル」

ワイヤレスネットワークで使用するチャンネルを1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13から選択します。チャンネルは隣接するアクセスポイントと重ならないチャンネルを設定します。本製品の802.11gでのデフォルト値は1になります。

「送信速度」

本製品の送信速度を設定します。IEEE802.11gの送信速度を固定で設定する場合は、54/48/36/24/18/12/9/6から選択します。

IEEE802.11bの送信速度を固定で設定する場合は、11/5.5/2/1Mbpsから選択します。

自動に設定すると電波状況に応じて、常に最適な通信速度に自動的に設定されます。本製品のデフォルト値は自動になります。

- 5 [OK] ボタンをクリックすると、設定が保存されます。暗号化を行う場合は、「暗号化の設定」へお進みください。セキュリティの設定を行う場合は「セキュリティ設定」へお進みください。

暗号化の設定

暗号化はワイヤレスネットワークで通信を行う際に、転送データを暗号化する機能です。

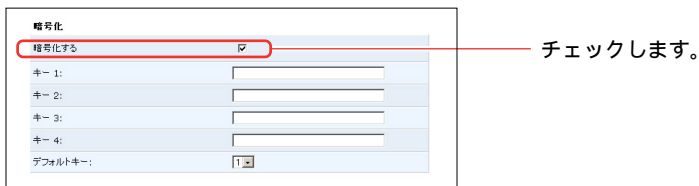
本製品には64bit、128bitのWEP機能が搭載されています。

暗号化を設定することにより、より高いセキュリティを使用したワイヤレスネットワークを構築できます。

! ご注意

暗号化を行う場合は、本製品とクライアントの両方に同じ暗号化の設定を行う必要があります。

- 1 [暗号化] 欄から [暗号化をする] にチェックをつけます。



- 2 [キー 1 ~ キー 4] に暗号キーを入力します。
16進数で入力する場合は、64bitWEP使用時には10文字、128bitWEP使用時には26文字を入力します。
ASCIIで入力する場合は、64bitWEP使用時には任意の英数字5文字、128bitWEP使用時には任意の英数字13文字を入力します。
- 3 [デフォルトキー] 欄から暗号化の際に使用するデフォルトキーを選択します。

セキュリティ設定

本製品にはワイヤレスネットワークで、セキュリティの高いワイヤレス通信を行うための機能が付いています。第三者から本製品に無断アクセスさせないための機能や登録したクライアントだけ通信を許可したり、拒否したりすることができます。

- 1 [ANY 拒否/SSID を隠す] にチェックします。
[ANY 拒否/SSID を隠す] にチェックをつけることで、ANY に設定されたクライアントを拒否することができ、また、AP 検索や Windows XP のゼロ・コンフィグレーション機能等で SSID を表示させることが出来なくなります。これにより、第三者からの無断アクセスを防ぐことができます。

セキュリティ	
ANY 拒否/SSID を隠す	<input checked="" type="checkbox"/>
MAC アドレスフィルタリング	
MAC アドレスフィルタリング有効	<input type="checkbox"/>

チェックします。

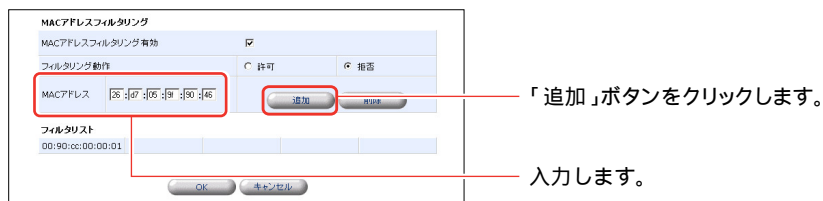
- 2 「MAC アドレスフィルタリング」にチェックします。

MAC アドレスフィルタリング	
MAC アドレスフィルタリング有効	<input checked="" type="checkbox"/>
フィルタリング動作	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 拒否
MAC アドレス	<input type="text" value="26 :d7 :05 :19 :90 :46"/> <input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="削除"/>
フィルタリスト	
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

チェックします。

- 3 [フィルタリング動作] 欄から [許可] または [拒否] を選択します。
許可を選択した場合は本製品に登録された MAC アドレスの機器のみがアクセス可能になります。拒否を選択した場合は本製品に登録された MAC アドレスの機器はアクセス不可能になります。MAC アドレスを登録することでアクセス権の無いクライアントを排除することができます。

- 4 [MACアドレス] 欄に登録する MAC アドレスを入力し、[追加] ボタンをクリックします。既に登録されてる MAC アドレスを削除する場合は、削除したい MAC アドレスを入力し、[削除] ボタンをクリックします。登録した MAC アドレスは [フィルタリスト] 欄に表示されます。



- 5 [OK] ボタンをクリックすると、設定が保存されます。

これらの設定は、セキュリティを保持することを完全に保証するものではありません。

BRC-14V/BRC-W14Vマニュアル およびパッケージ写真の訂正

User's Manual Version 1.0 No.PMN-04-01-09-YT-BRC-14V/W14V

このたびは、本製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
本製品付属のユーザズマニュアルに、以下の訂正がございます。

15ページ「LED表示」

誤:

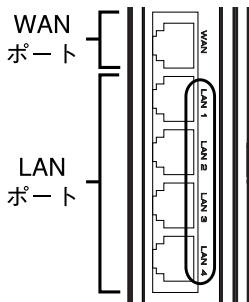
Power LED	黄 緑	点滅 点灯 消灯	起動準備中です。 正常に起動している状態です。 電源が投入されています。 電源が切れています。
Status LED	緑	点灯 消灯	電源が投入されています。 電源が切れています。
LAN 100 LED	緑	点灯 消灯	LANポートが100Mで確立して LANポートが10Mで確立して
Link/Act LED	緑	点灯 点滅	LANポートでの接続が確立さ LANポートでデータを送受信し

正:

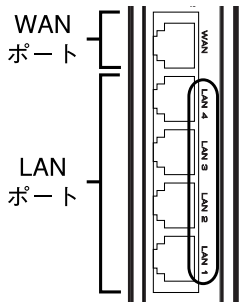
Power LED	緑	点灯 消灯	電源が投入されています。 電源が切れています。
Status LED	黄 緑	点滅 点灯	起動準備中です。 正常に起動している状態です。
LAN 100 LED	緑	点灯 消灯	LANポートが100Mで確立して LANポートが10Mで確立して
Link/Act LED	緑	点灯 点滅	LANポートでの接続が確立さ LANポートでデータを送受信し

16ページ「本体背面」、「パッケージ写真」

誤:



正:



今後ともPCI製品をご愛顧いただけますよう、お願い申し上げます。